

**令和元年度**  
**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**  
**調査報告書**

長野市



# 目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計	
	報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて	43
	仕事と生活の調和に関することについて	85
	地域社会に関することについて	119
	男女の人権に関することについて	127
	男女共同参画施策に関することについて	135
	資 料	139
	単純集計	141
	調 査 票	163



# I 調査の概要



## 1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

## 2 調査の対象

令和元年9月17日現在で長野市に在住する20歳以上75歳未満の男女各1,000人  
(計:2,000人)

## 3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

## 4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

## 5 調査時期

令和元年10月10日(木) ~ 令和元年10月24日(木)

## 6 送付・回収状況

送付数:2,000票

回収数:692票 (回収率:34.6%)

【男性票:289票、女性票:401票 性別無回答:2票】

## 7 調査事項

### ● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無

F配偶者またはパートナーの就業の有無 G子の有無

(1) 一般的な質問

(2) 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関する質問

(3) 仕事と生活の調和に関する質問

(4) 地域社会に関する質問

(5) 男女の人権に関する質問

(6) 男女共同参画施策に関する質問

(7) 自由記入

## 8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

### 報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。



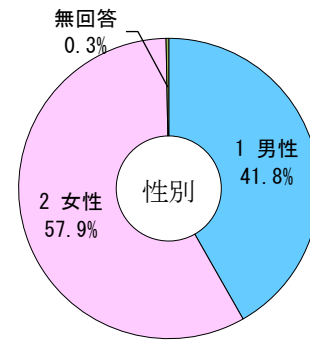


## II 回答者の属性



### A 性別

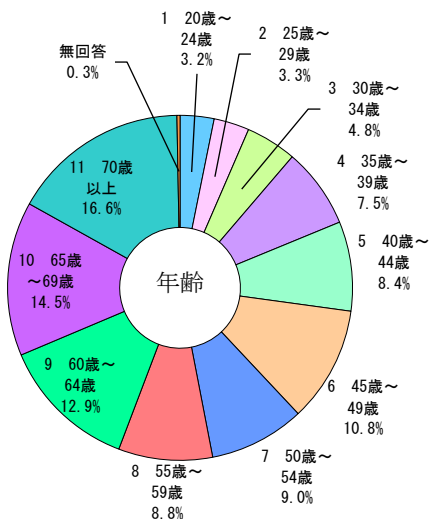
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	289	41.8
2 女性	401	57.9
無回答	2	0.3
合計	692	100.0



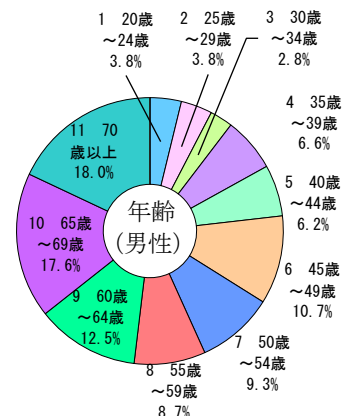
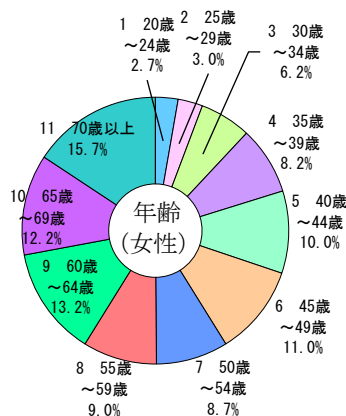
### B 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳～24歳	22	11	11	0	3.2	2.7	3.8	0.0
2 25歳～29歳	23	12	11	0	3.3	3.0	3.8	0.0
3 30歳～34歳	33	25	8	0	4.8	6.2	2.8	0.0
4 35歳～39歳	52	33	19	0	7.5	8.2	6.6	0.0
5 40歳～44歳	58	40	18	0	8.4	10.0	6.2	0.0
6 45歳～49歳	75	44	31	0	10.8	11.0	10.7	0.0
7 50歳～54歳	62	35	27	0	9.0	8.7	9.3	0.0
8 55歳～59歳	61	36	25	0	8.8	9.0	8.7	0.0
9 60歳～64歳	89	53	36	0	12.9	13.2	12.5	0.0
10 65歳～69歳	100	49	51	0	14.5	12.2	17.6	0.0
11 70歳以上	115	63	52	0	16.6	15.7	18.0	0.0
無回答	2	0	0	2	0.3	0.0	0.0	100.0
合計	692	401	289	2	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】

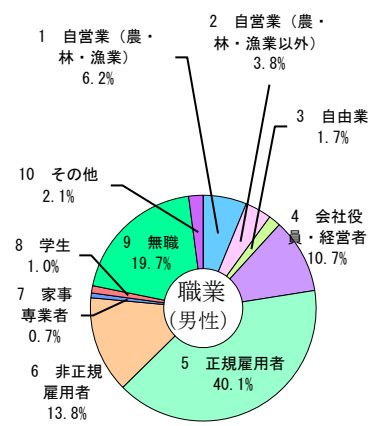
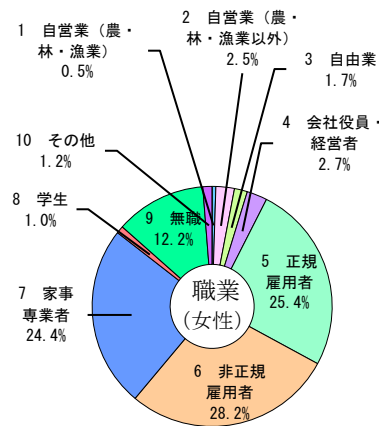
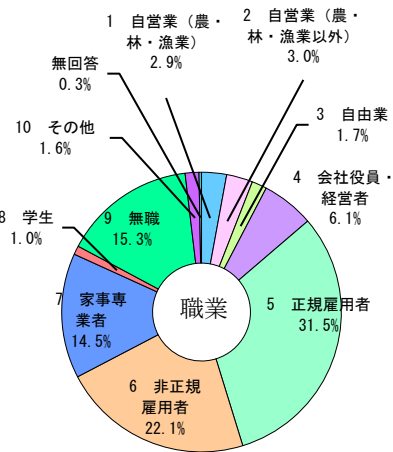


C 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	20	2	18	0	2.9	0.5	6.2	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	21	10	11	0	3.0	2.5	3.8	0.0
3 自由業	12	7	5	0	1.7	1.7	1.7	0.0
4 会社役員・経営者	42	11	31	0	6.1	2.7	10.7	0.0
5 正規雇用者	218	102	116	0	31.5	25.4	40.1	0.0
6 非正規雇用者	153	113	40	0	22.1	28.2	13.8	0.0
7 家事専業者	100	98	2	0	14.5	24.4	0.7	0.0
8 学生	7	4	3	0	1.0	1.0	1.0	0.0
9 無職	106	49	57	0	15.3	12.2	19.7	0.0
10 その他	11	5	6	0	1.6	1.2	2.1	0.0
無回答	2	0	0	2	0.3	0.0	0.0	100.0
合計	692	401	289	2	100.0	100.0	100.0	100.0

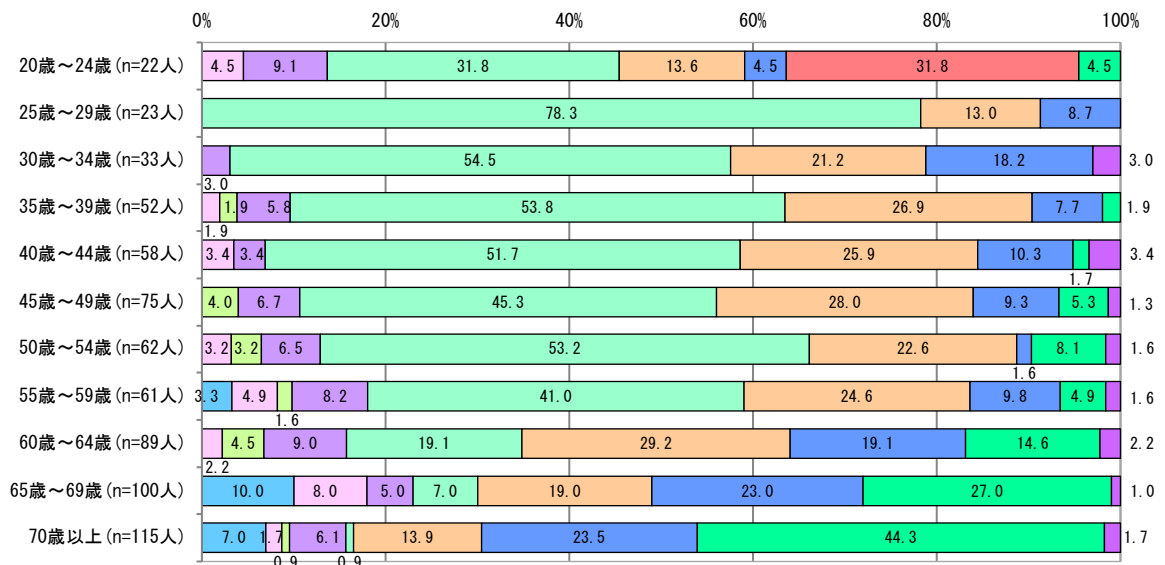
【年代別】

【男女別】



【全体】

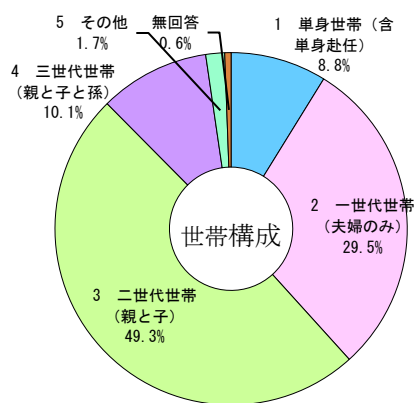
- 自営業 (農・林・漁)
- 自営業 (農・林・漁以外)
- 自由業
- 会社役員・経営者
- 正規雇用者
- 非正規雇用者
- 家事専業者
- 学生
- 無職
- その他
- 無回答



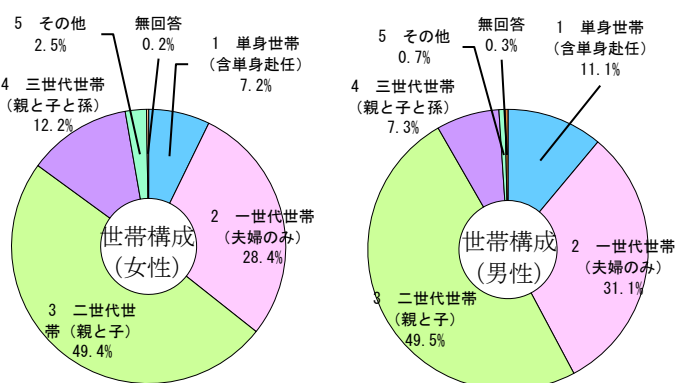
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	61	29	32	0	8.8	7.2	11.1	0.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	204	114	90	0	29.5	28.4	31.1	0.0
3 二世世代世帯（親と子）	341	198	143	0	49.3	49.4	49.5	0.0
4 三世世代世帯（親と子と孫）	70	49	21	0	10.1	12.2	7.3	0.0
5 その他	12	10	2	0	1.7	2.5	0.7	0.0
無回答	4	1	1	2	0.6	0.2	0.3	100.0
合計	692	401	289	2	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

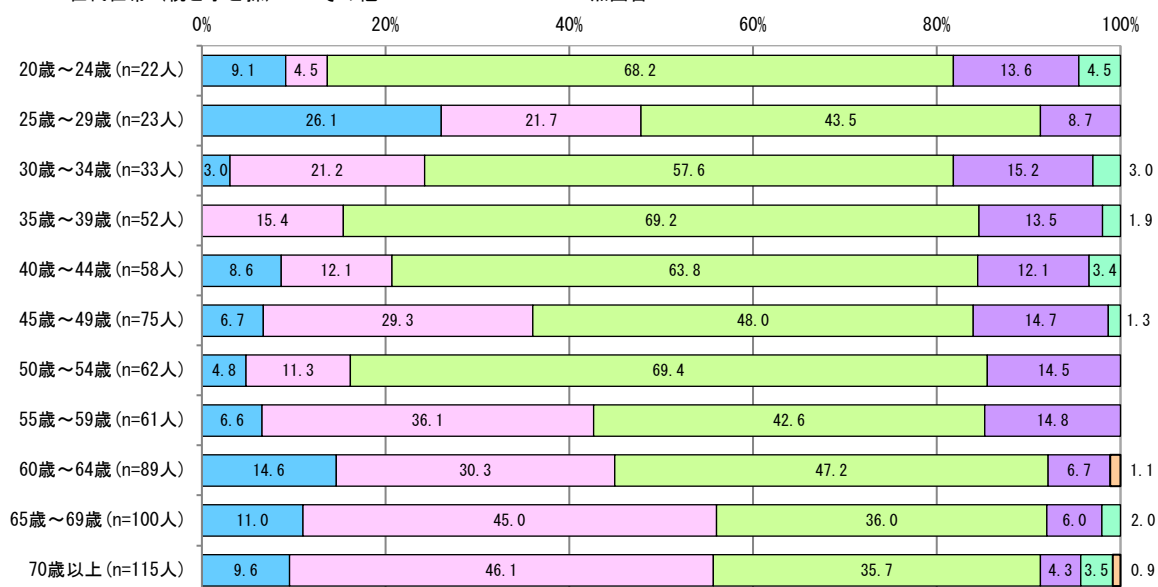


【男女別】



【年代別】

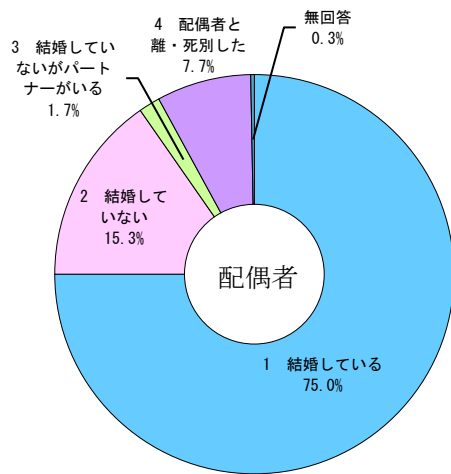
- 単身世帯（含単身赴任）
- 一世代世帯（夫婦のみ）
- 二世世代世帯（親と子）
- 三世世代世帯（親と子と孫）
- その他
- 無回答



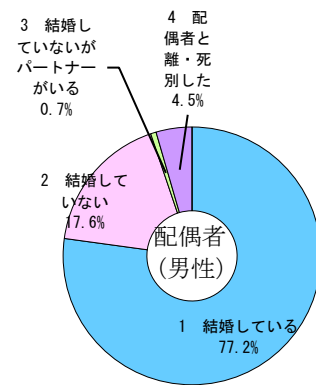
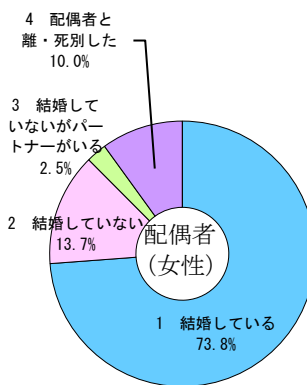
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	519	296	223	0	75.0	73.8	77.2	0.0
2 結婚していない	106	55	51	0	15.3	13.7	17.6	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	12	10	2	0	1.7	2.5	0.7	0.0
4 配偶者と離・死別した	53	40	13	0	7.7	10.0	4.5	0.0
無回答	2	0	0	2	0.3	0.0	0.0	100.0
合計	692	401	289	2	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

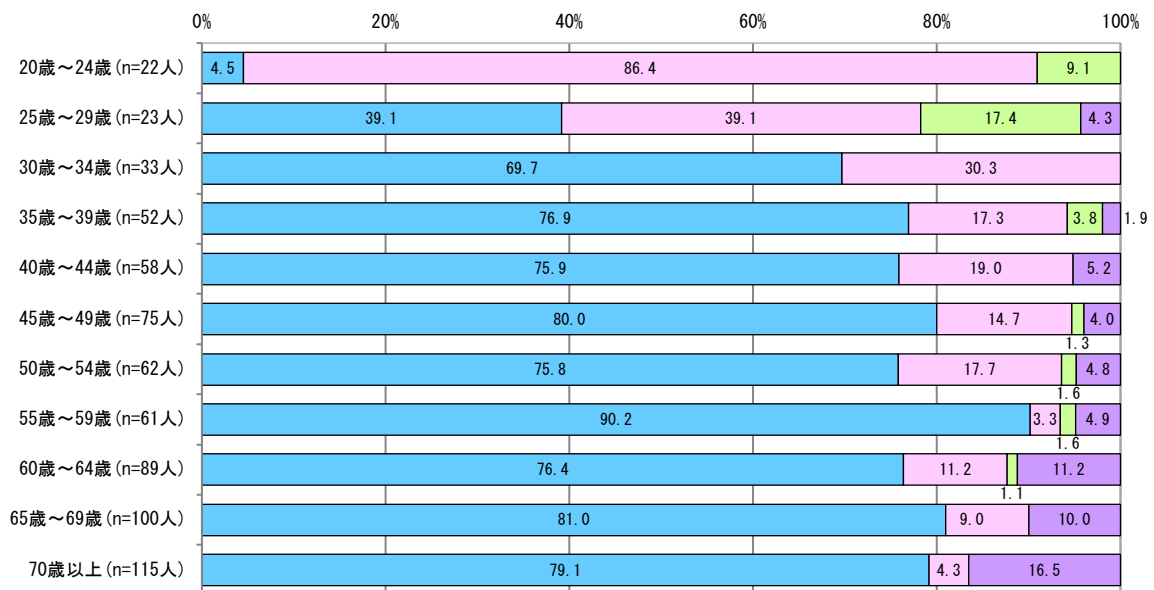


【男女別】



【年代別】

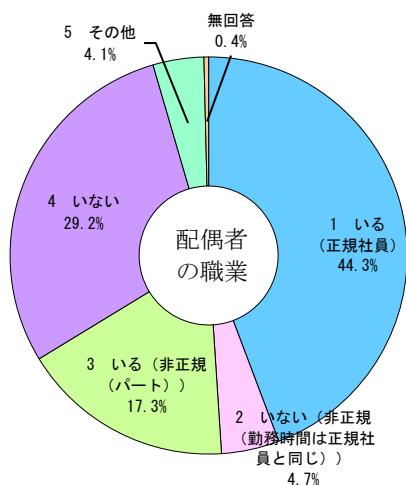
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる ■配偶者と離・死別した ■無回答



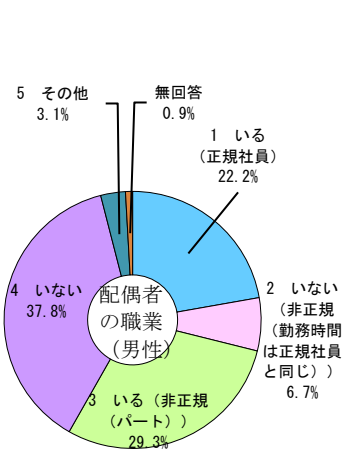
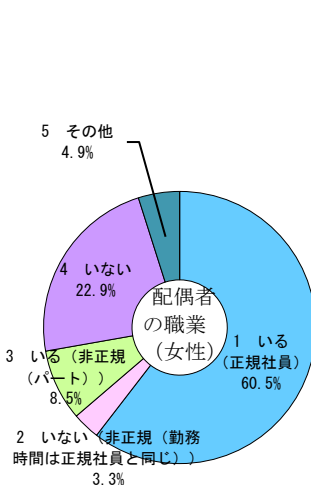
F 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる (正規社員)	235	185	50	0	44.3	60.5	22.2	-
2 いる (非正規 (勤務時間は正規社員と同じ))	25	10	15	0	4.7	3.3	6.7	-
3 いる (非正規 (パート))	92	26	66	0	17.3	8.5	29.3	-
4 いない	155	70	85	0	29.2	22.9	37.8	-
5 その他	22	15	7	0	4.1	4.9	3.1	-
無回答	2	0	2	0	0.4	0.0	0.9	-
合計	531	306	225	0	100.0	100.0	100.0	-

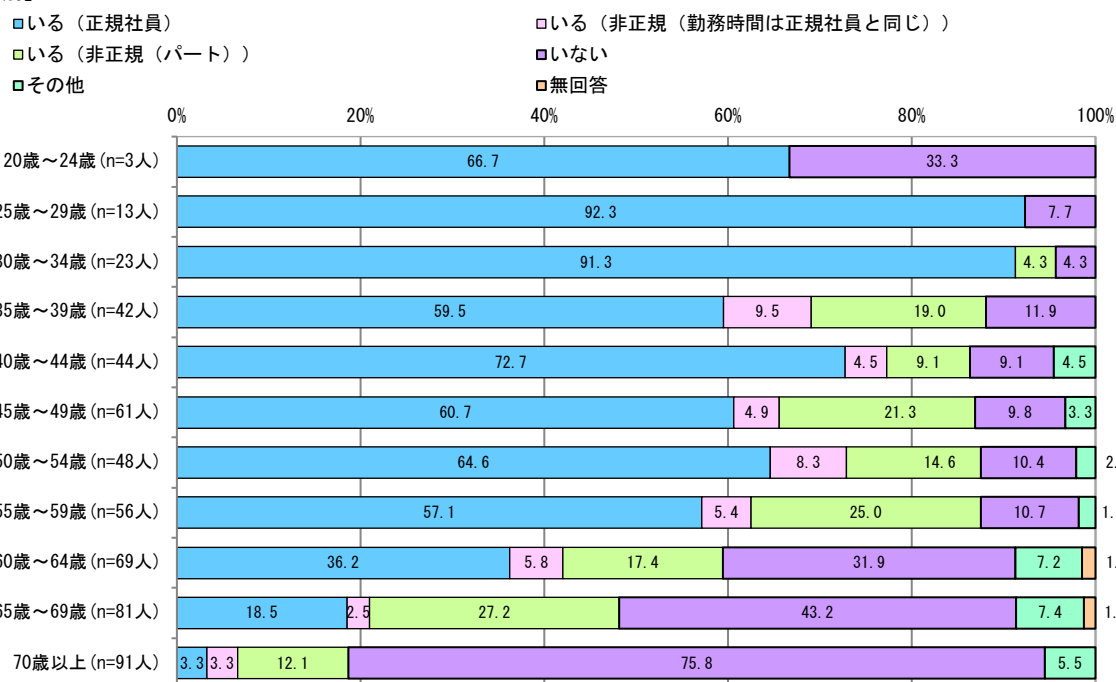
【全体】



【男女別】



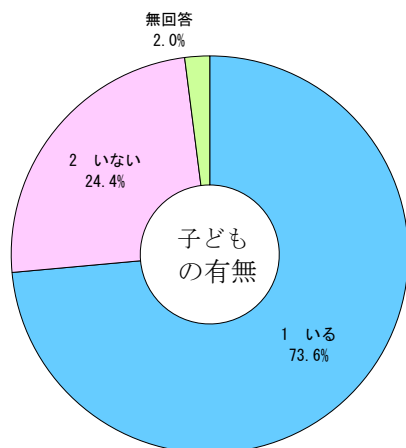
【年代別】



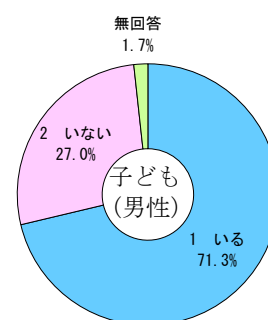
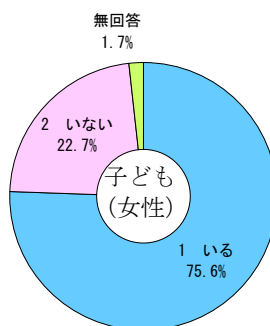
G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	509	303	206	0	73.6	75.6	71.3	0.0
2 いない	169	91	78	0	24.4	22.7	27.0	0.0
無回答	14	7	5	2	2.0	1.7	1.7	100.0
合計	692	401	289	2	100.0	100.0	100.0	100.0

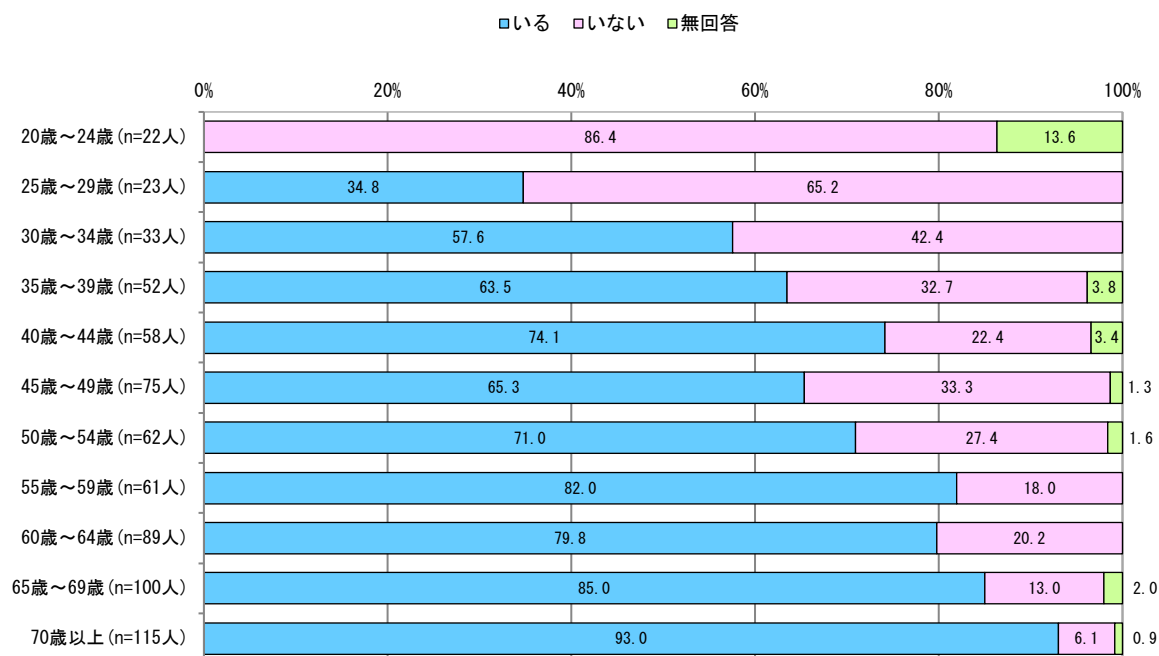
【全体】



【男女別】



【年代別】





### Ⅲ 結果の概要



## 1 一般的なこと

### (1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「家庭」(46.2%)、「学校教育」(46.0%)の2分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」(46.2%)という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が19.4%、女性が40.4%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が28.4%なのに対し、女性は50.6%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

### (2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」、「女性活躍推進法」の4つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女共同参画社会」(78.9%)となっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女共同参画社会」は40歳～44歳の男性を除く全ての年代、性別においても6割以上の認知度となっている。

### (3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は36.6%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は61.5%となっている。前年に比べ、前者は2.2ポイント増加し、後者は2.4ポイント減少した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別でみると、20歳～24歳、30歳～34歳、50歳～64歳の女性と、30歳～34歳、40歳代の男性で「賛成」がない結果となっている。

### (4) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

## 2 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて

### (1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大、女性の活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっている。

### (2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、「仕事の内容」11.1%となっているが、この項目における「男性の方が優遇されている」は22.9%と、「女性の方が優遇されている」が上回っている。

### (3) 職場における女性の活躍推進について

職場において女性の活躍推進について尋ねたところ、男女ともに「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多くなっている。

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(59.7%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(56.8%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(54.3%)、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」(49.3%)の4分野であった。

### (4) 女性の就労意識について

職業についている女性の意識について尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(40.0%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(30.0%)、「あなた自身は活躍したい」(24.8%)の3分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「退職して仕事に就かない」(48.8%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(32.4%)の2分野であった。

### (5) 女性の再就職について

離職されている女性に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」(40.8%)という回答が最も多くなっている。次いで「正規社員」(19.0%)、「非正規社員」(4.1%)となっている。

「非正規社員」、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」を回答した方に理由を尋ねたところ、「仕事より家庭生活を優先したいから」(66.7%)が最も多い回答となっており、次いで「時間外勤務や休日出勤があるから」(36.4%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(27.3%)となっている。

### (6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「結婚・出産」という回答が、全体で51.6%となっているが、男性が7.4%なのに対し、女性は66.8%となり、性別により差がある。

### (7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児との両立が難しい」(80.9%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(57.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.5%)となっている。また、女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」(46.0%)が最も多い回答となっており、次いで「職場の理解や協力」(44.1%)、「家族の理解や協力」(35.1%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(86.7%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(69.4%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(64.7%)と続いている。

### 3 仕事と生活の調和に関することについて

#### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の 33.4%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が 38.1%と女性の 29.9%より多くなっている。

#### (2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『家庭生活』優先」が最も多い回答となっている。しかし、『仕事』優先」では、男性は 33.2%と多く回答しており、女性は 18.0%となっている。全体では『家庭生活』優先」が『仕事』優先」より若干多いが、どちらも男女間での差が大きくなっている。

#### (3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の 6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(39.0%)、女性では、「食事のしたく」(75.3%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「洗濯」(44.1%)で、女性では、「ごみ捨て」(14.1%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が 4割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性 62.3%、女性 9.7%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性 43.9%、女性 5.5%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は 24.4%、女性は 53.4%と差が大きいが、介護に関しては男性が 19.8%、女性が 26.4%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(67.3%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(61.7%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(58.4%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(30.6%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

### 4 地域社会に関することについて

#### 自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、50.9%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」(45.2%)、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」(36.7%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約3割(32.1%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(22.7%)と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(13.2%)と続いている。

## 5 男女の人権に関することについて

### DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が29.1%に対し、女性は44.3%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が21.5%、女性では6.5%、女性では「受けたことがある」という回答が19.7%、男性は4.2%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で約5割（50.7%）となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（23.6%）、「長野市福祉事務所」（22.1%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、5割（54.9%）を超えている。

## 6 男女共同参画施策に関することについて

### （1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（35.5%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（30.2%）が続いており、合わせて65.7%の方が「増えた方がよい」と考えている。

### （2）男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（55.8%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（40.5%）、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」（37.0%）の順が続いている。

## IV 調査の結果





---

## 一般的なこと

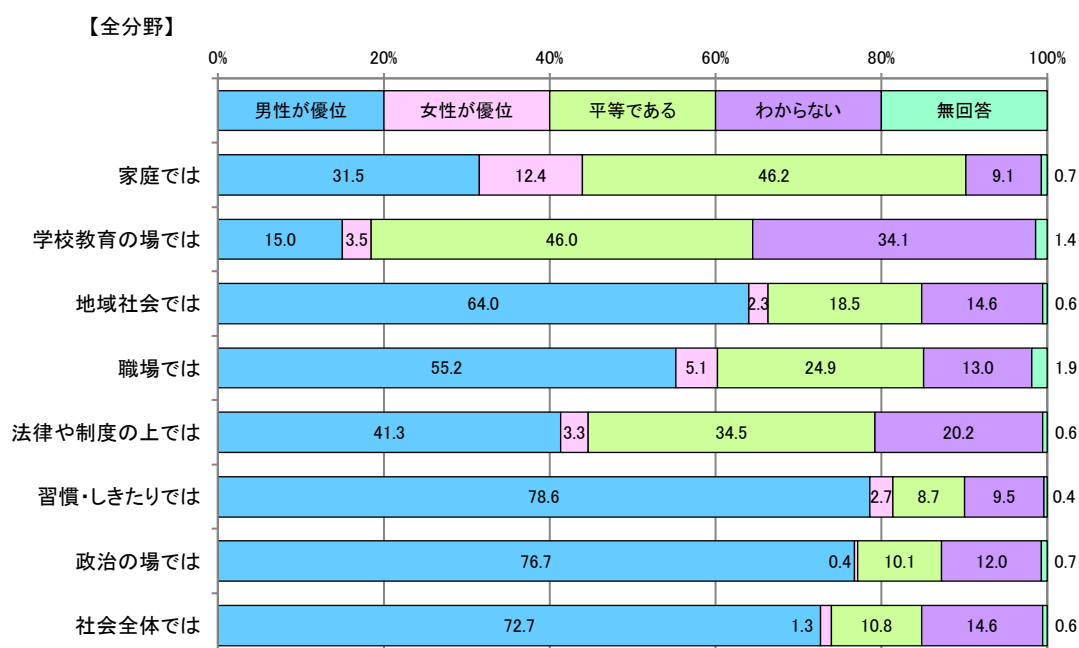
---



問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

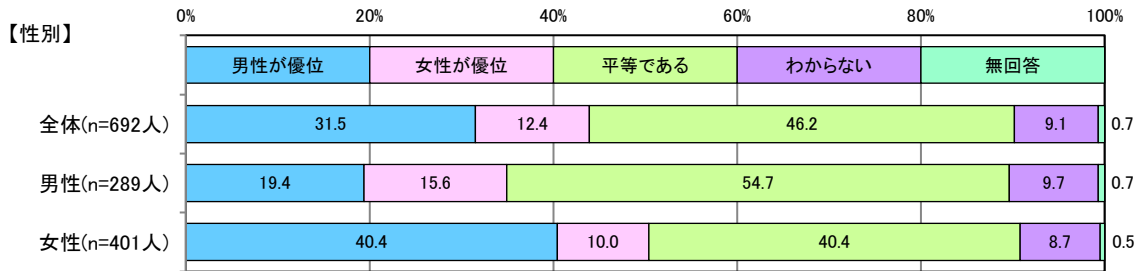
- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「家庭」(46.2%)、「学校教育」(46.0%)の2分野となっている。
- ・一方、「習慣・しきたり」(78.6%)、「政治」(76.7%)、「社会全体」(72.7%)では、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上で最も多い回答となっている。

全体 (n=692人)

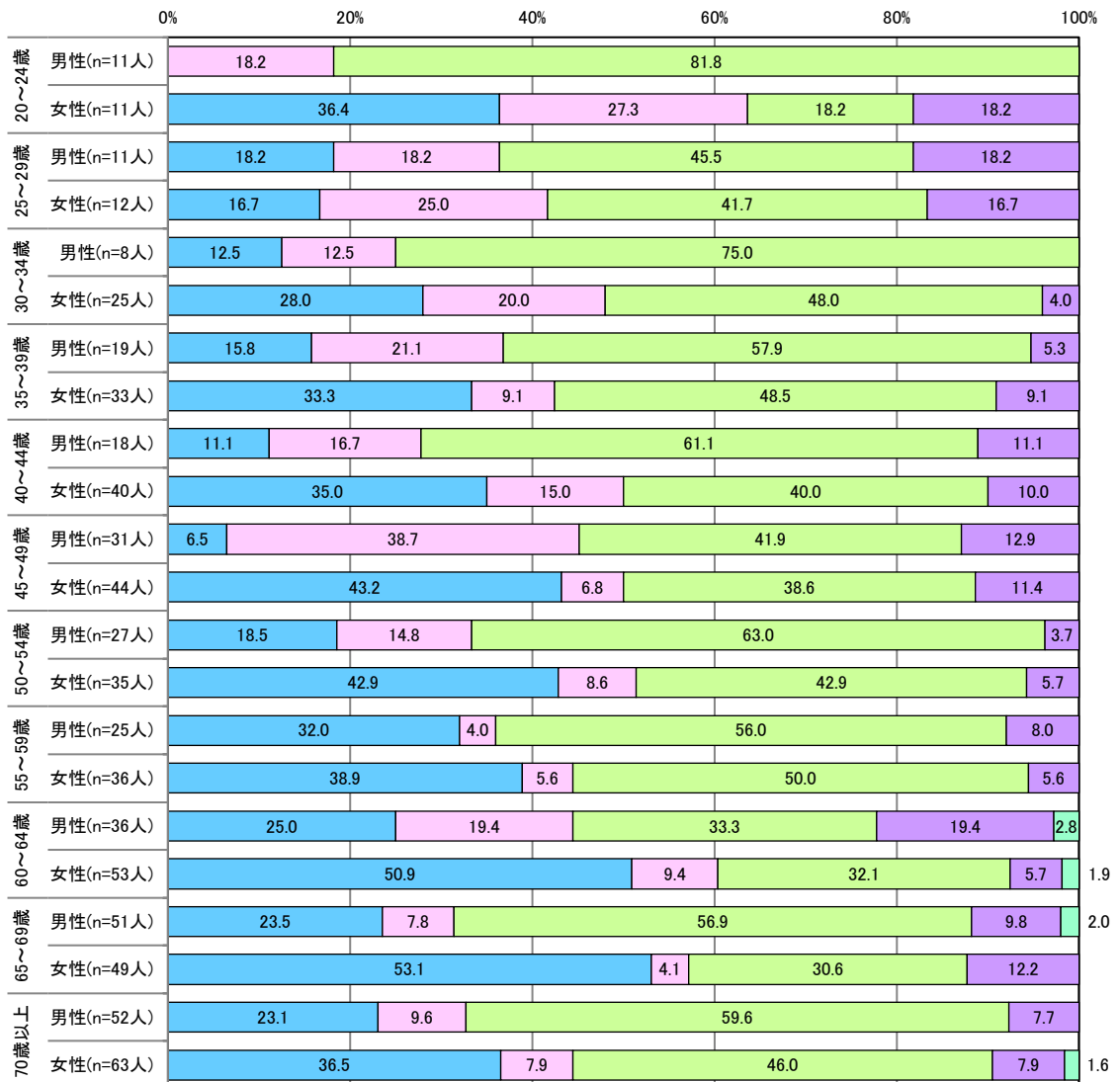


# 1 家庭では

- ・性別で見ると、男性は、「平等である」(54.7%)という回答が最も多く、約5割となっている。女性は「男性が優位」(40.4%)と「平等である」(40.4%)は同率で最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、男性では約2割(19.4%)となっているが、女性では約4割(40.4%)となっている。
- ・世代別性別で見ると、「男性が優位」という回答は、女性では60歳代が最も多く、回答割合が約5割となっている。男性では、全ての年代で「平等である」という回答が最も多い。

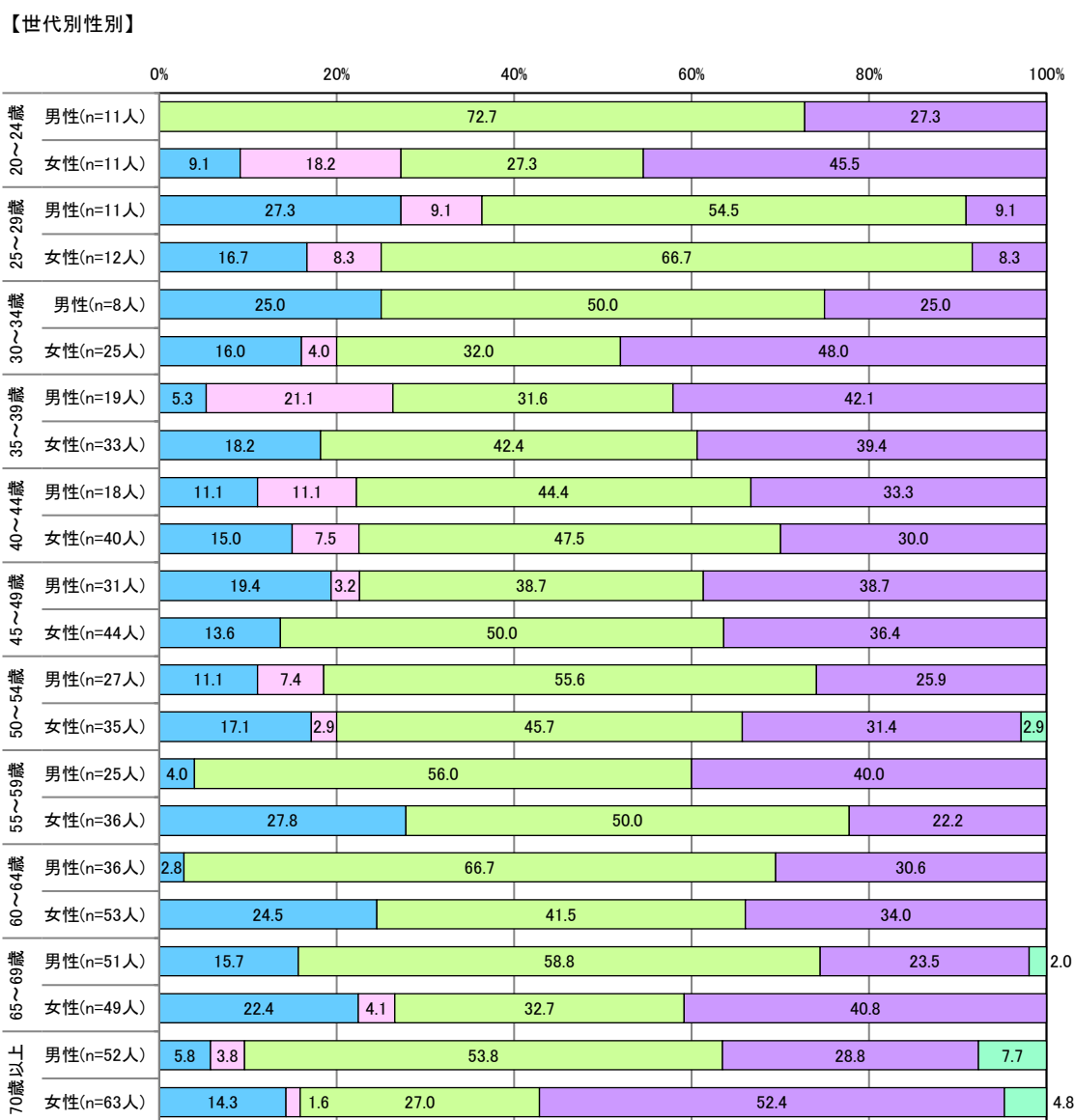
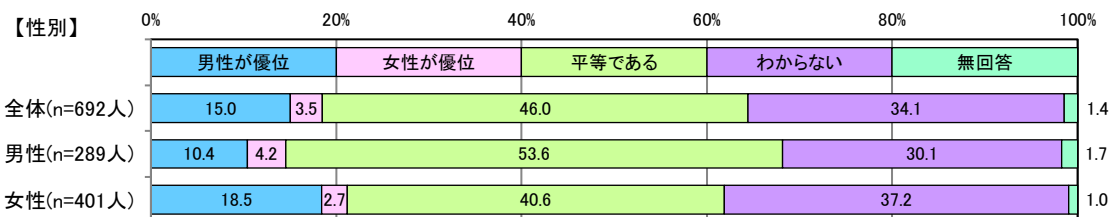


【世代別性別】



## 2 学校教育の場では

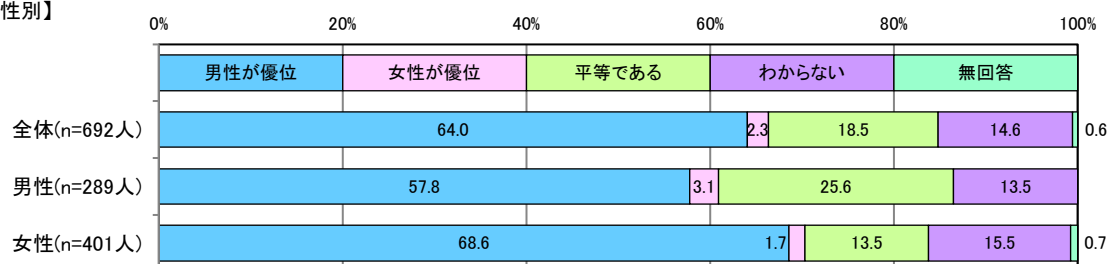
- ・性別で見ると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（53.6%）は約5割、女性（40.6%）は約4割となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～24歳の女性、30歳～34歳の女性、35歳～39歳の男性、65歳～69歳の女性、70歳以上の女性を除いた各世代で「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答が2割を超えている世代は、25歳～29歳の男性、30歳～34歳の男性、55歳～69歳の女性となっている。



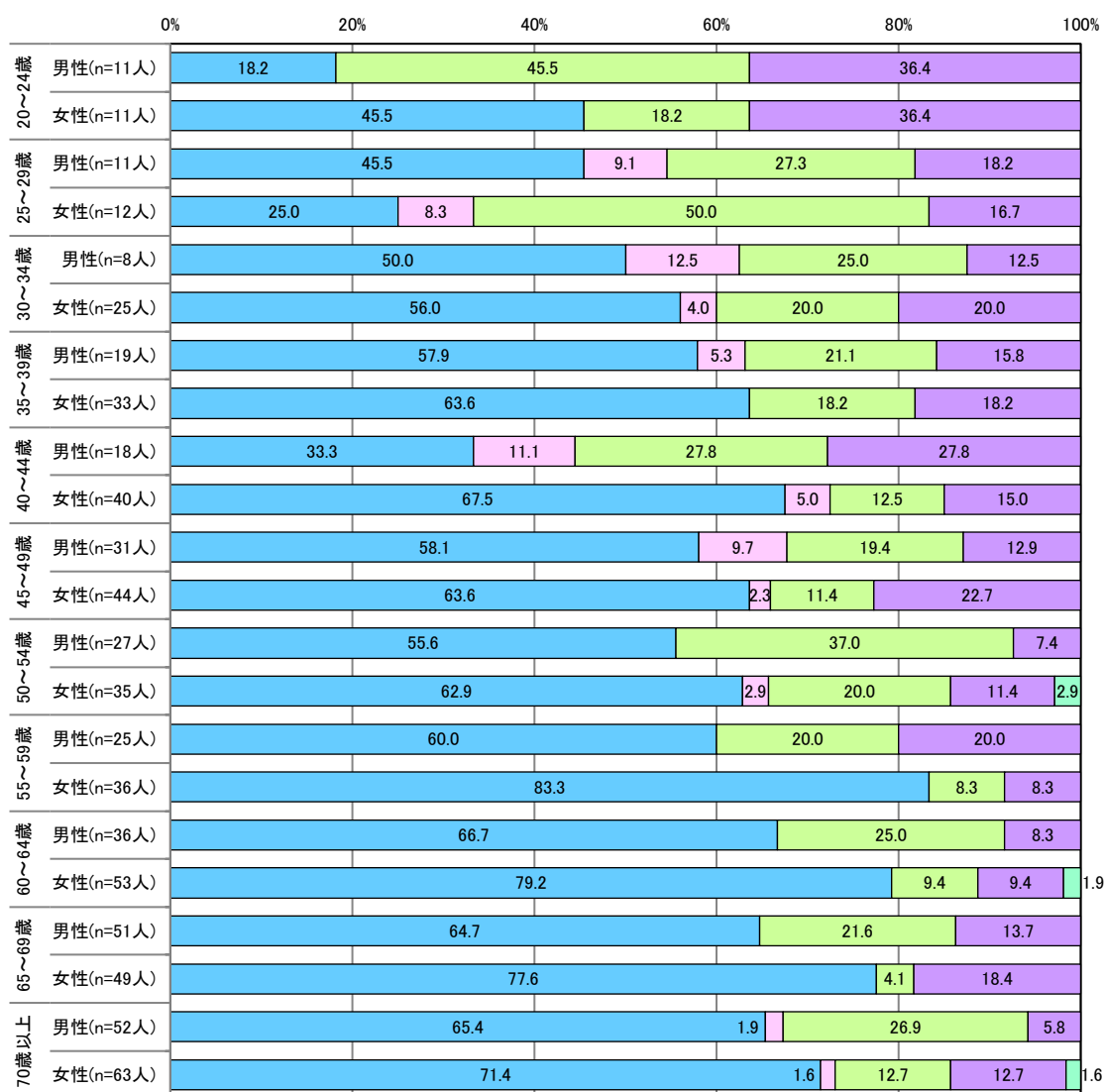
### 3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約6割（57.8%）、女性は約7割（68.6%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（25.6%）であるのに対し、女性は約1割（13.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも55歳～69歳の女性においては「男性が優位」という回答が約8割となっている。

【性別】

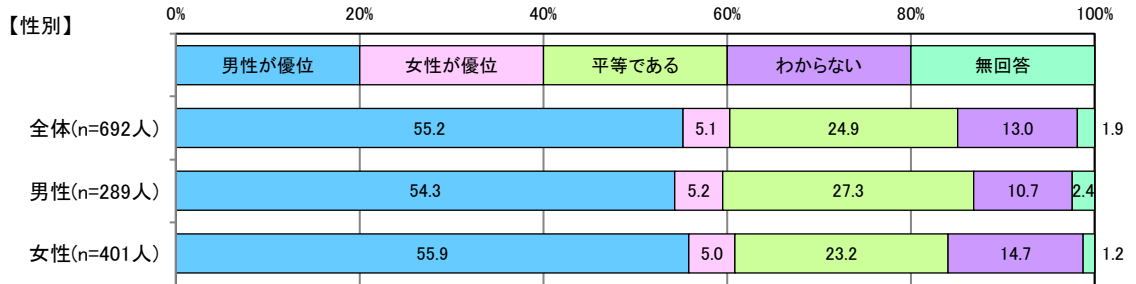


【世代別性別】

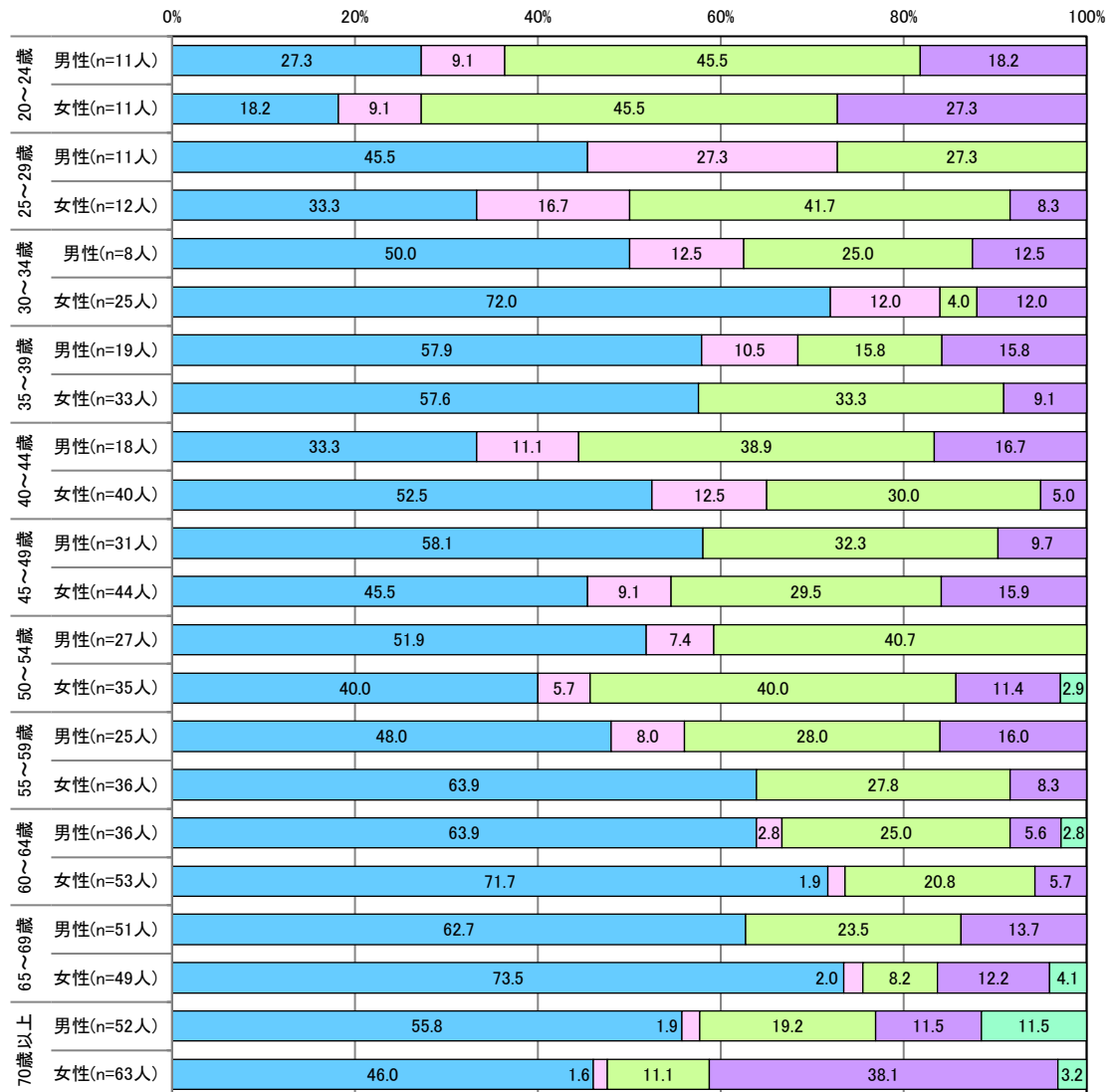


#### 4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性、女性とも5割を超えている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の女性、40歳～44歳の男性を除きいずれも「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に、30歳～34歳の女性、60歳～69歳の女性では、「男性が優位」という回答が最も多く、7割を超えている。

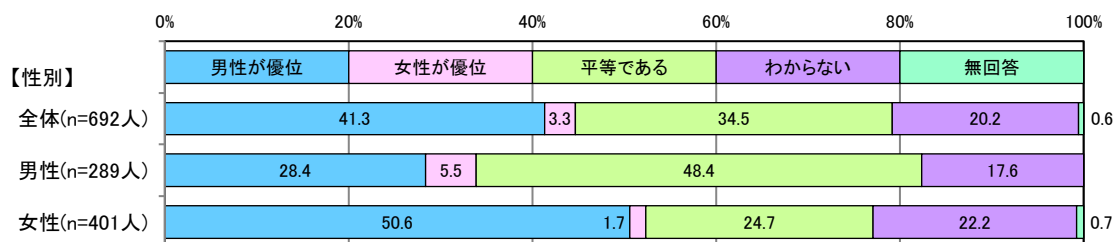


【世代別性別】

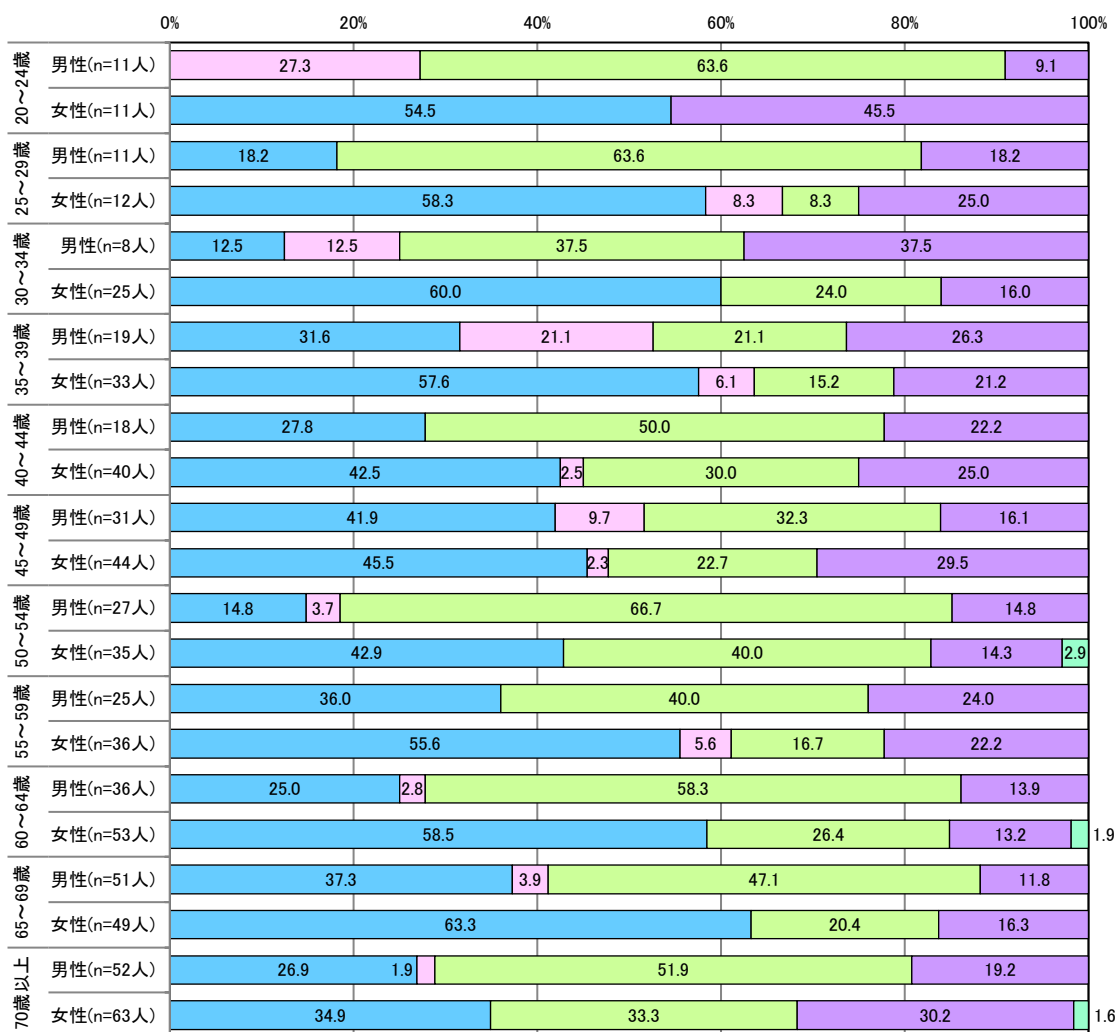


## 5 法律や制度の上では

- ・性別で見ると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（48.4%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（50.6%）という回答が、「平等である」（24.7%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別で見ると、男性では、20歳～34歳、40歳～44歳、50歳～70歳以上の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・女性においては、いずれの年代も「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に、20歳～39歳、55歳～69歳では、「男性が優位」という回答が5割を超えている。



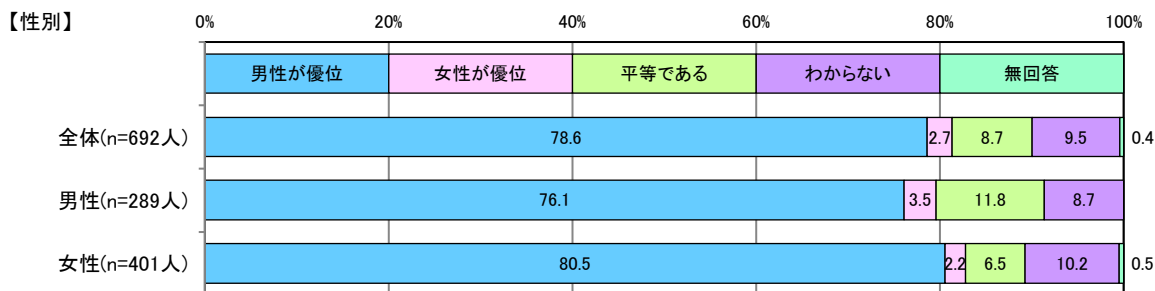
### 【世代別性別】



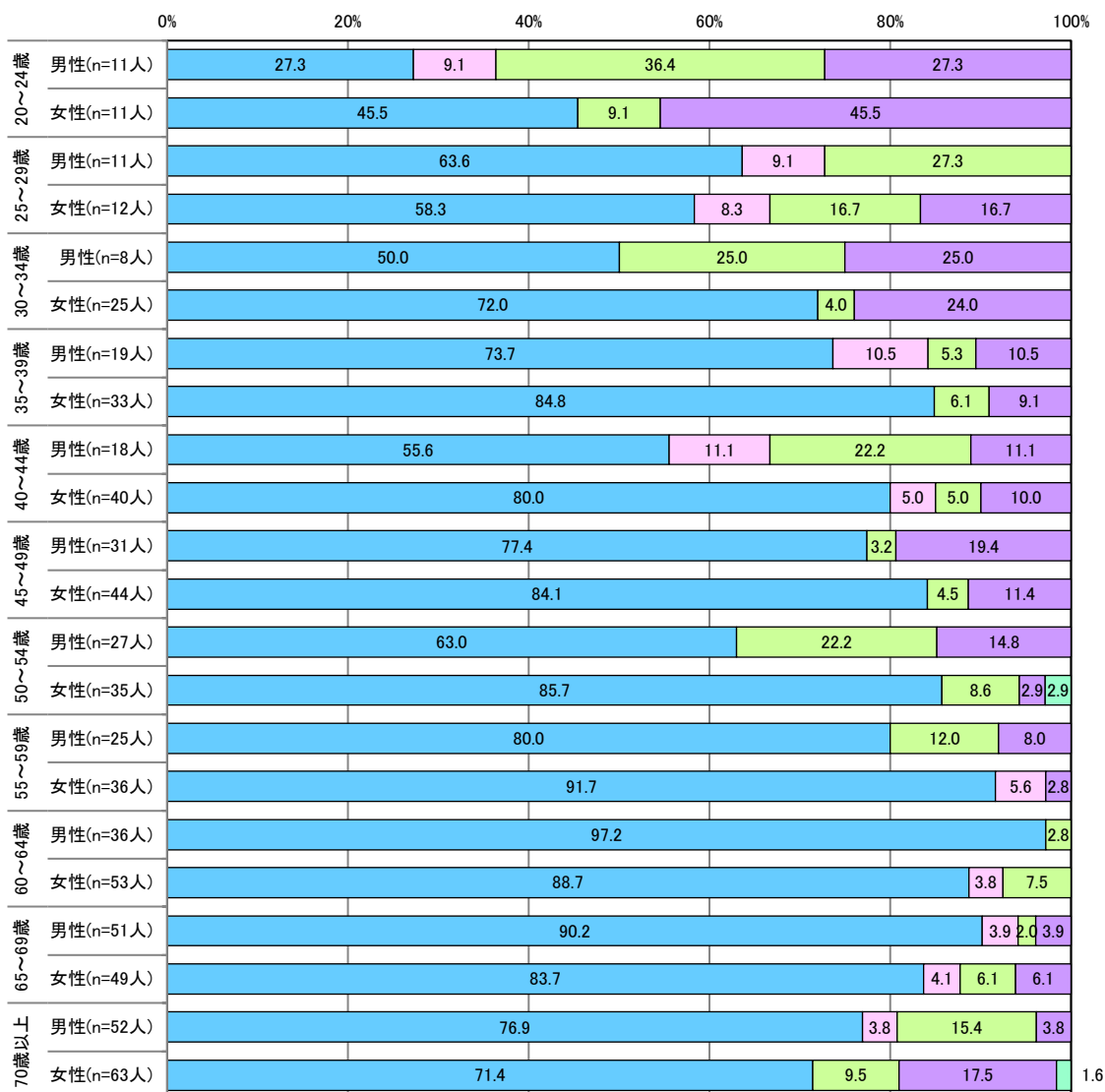


## 6 習慣・しきたりでは

- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（76.1%）、女性（80.5%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、女性では、55歳～59歳で、「男性が優位」という回答が9割（91.7%）を超えている。
- ・男性においては、60歳～69歳で「男性が優位」という回答が9割を超えている。



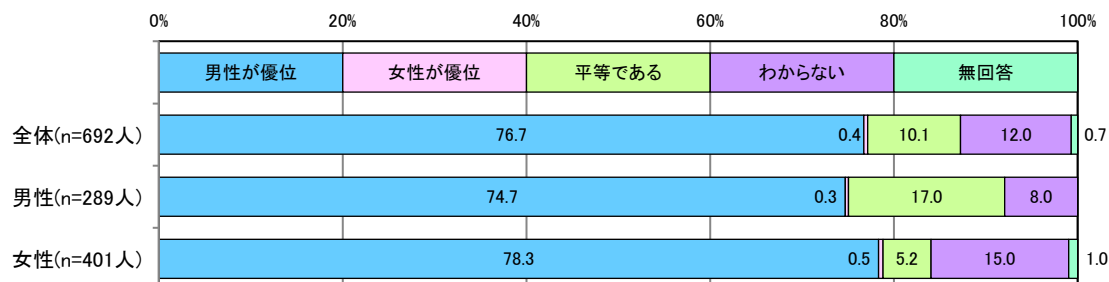
### 【世代別性別】



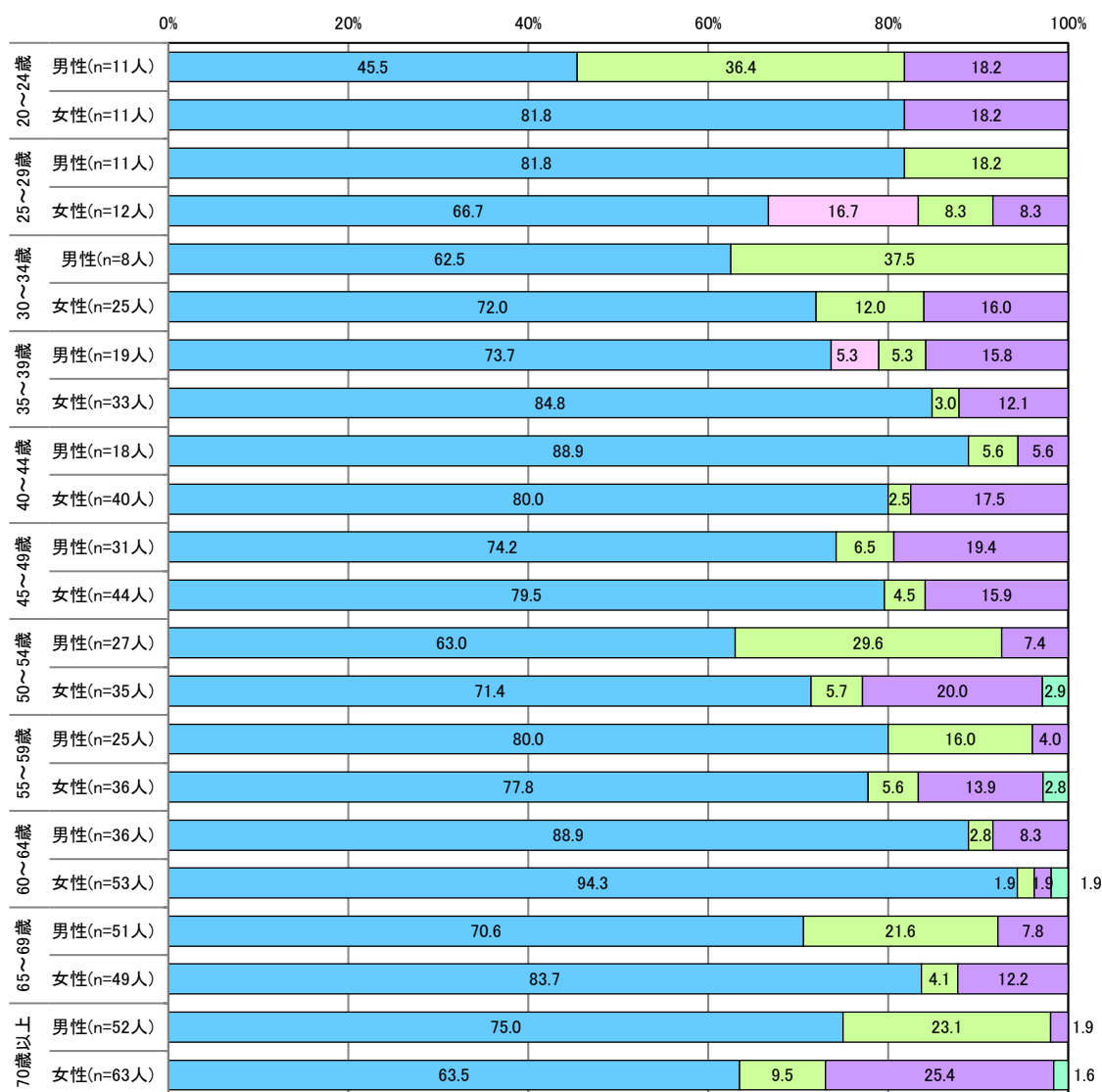
## 7 政治の場では

- 性別でみると、男性は約7割（74.7%）、女性は約8割（78.3%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（17.0%）なのに対して、女性は1割未満（5.2%）となっている。
- 世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

### 【性別】

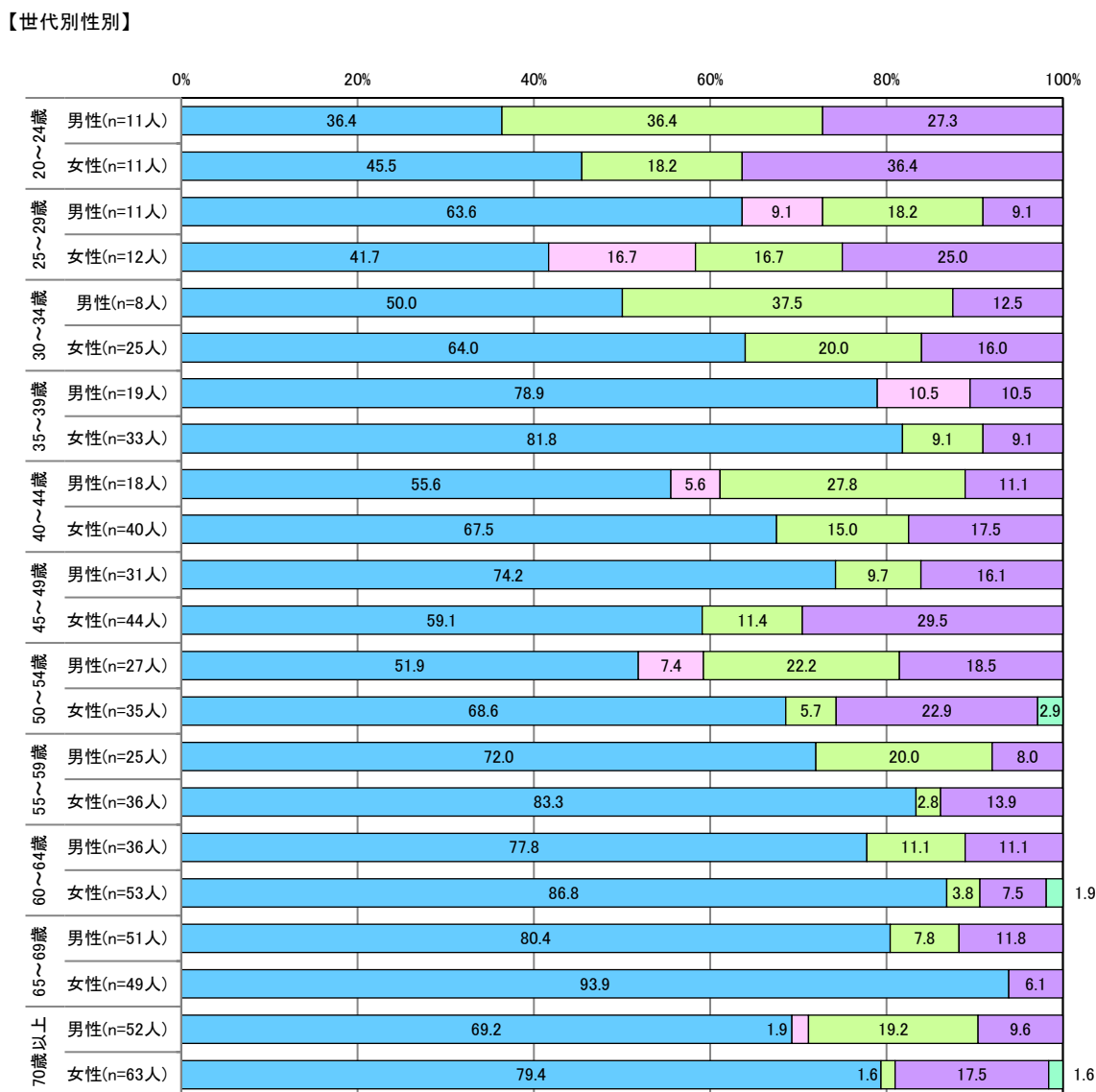
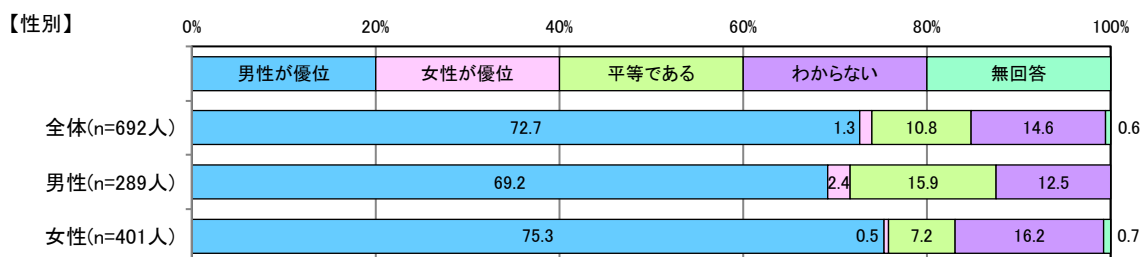


### 【世代別性別】



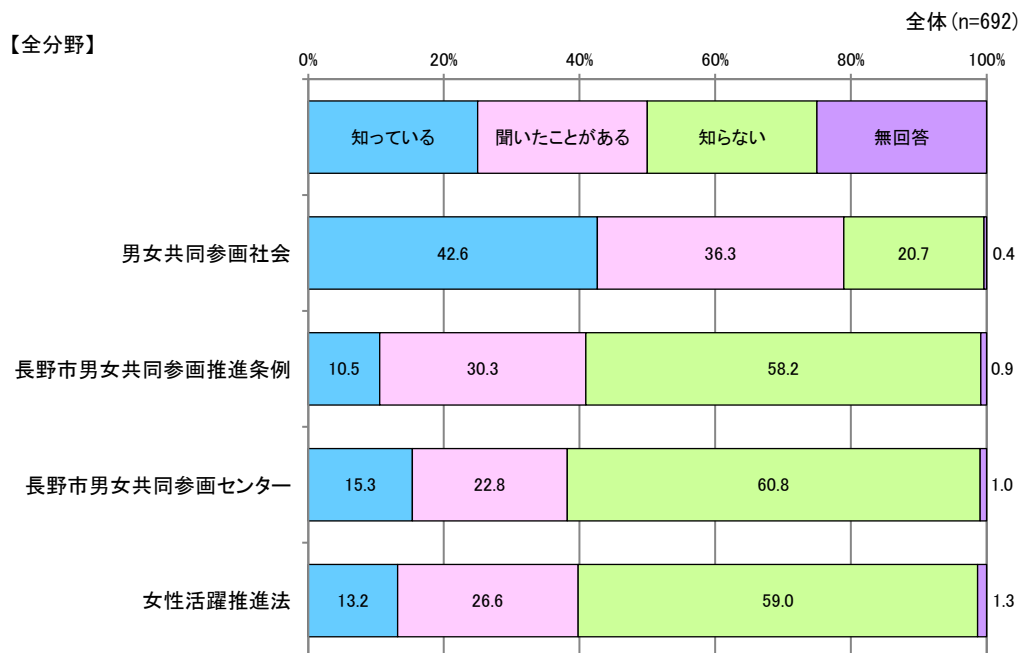
## 8 社会全体では

- ・性別で見ると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多いが、男性が約7割(69.2%)、に対し、女性は約8割(75.3%)となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割(15.9%)、女性が約1割(7.2%)となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20～24歳の男性を除き、全ての年代において「男性が優位」という回答が最も多い。



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

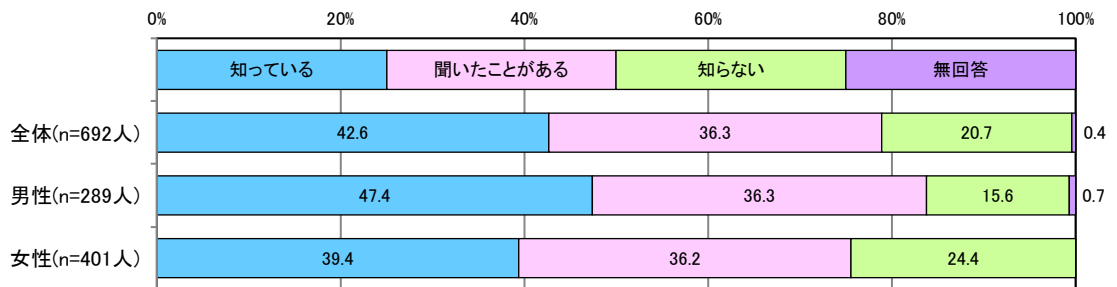
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「男女共同参画社会」が約8割（78.9%）と認知度が高い。「長野市男女共同参画推進条例」（40.8%）、「女性活躍推進法」（39.8%）、「長野市男女共同参画センター」（38.1%）が約4割となっている。



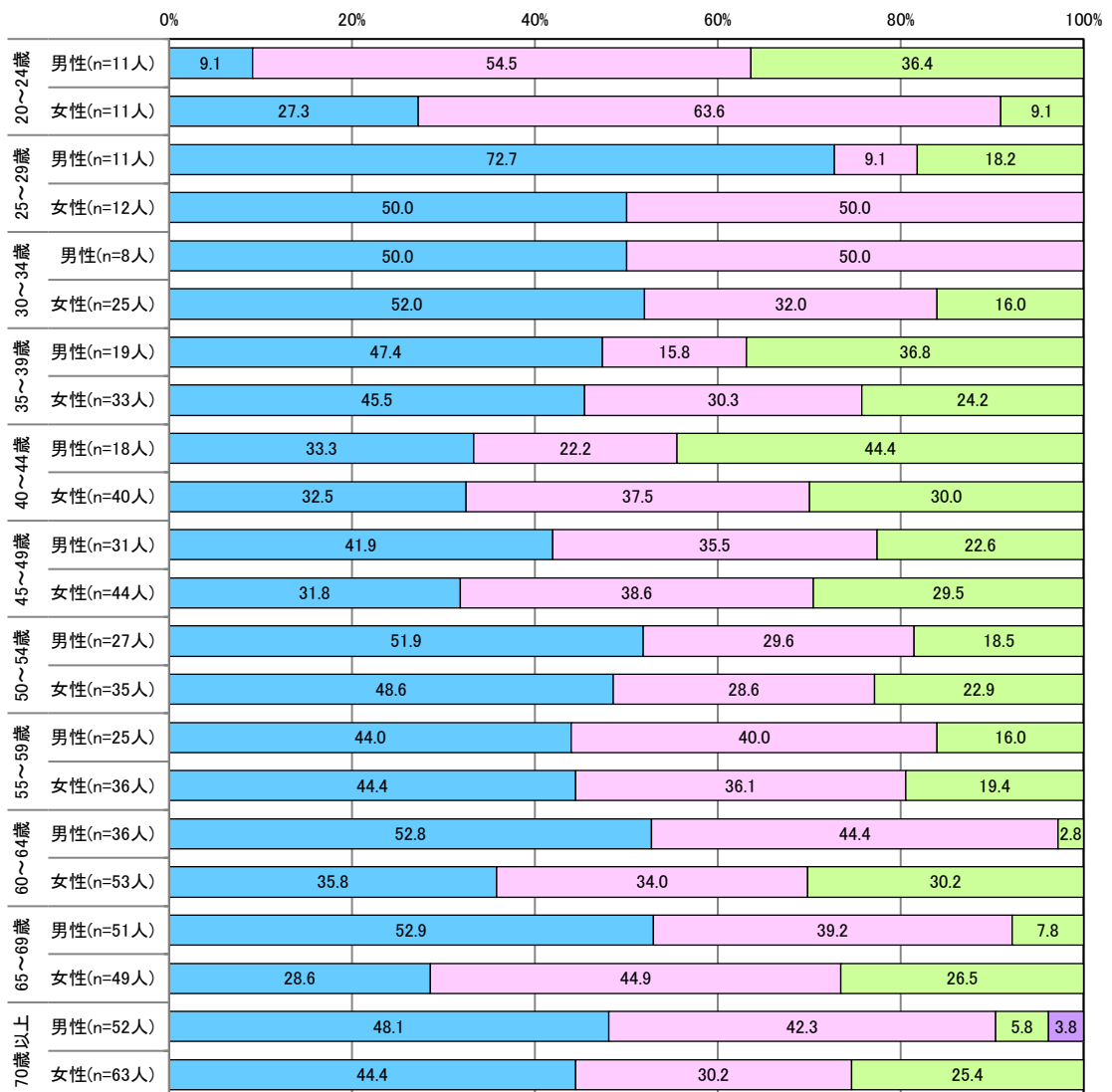
# 1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、約8割となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、20歳～29歳の女性、30歳～34歳の男性、60歳以上の男性となっている。一方、40歳～44歳の男性で、「知らない」という回答が、4割（44.4%）を超えている。

【性別】



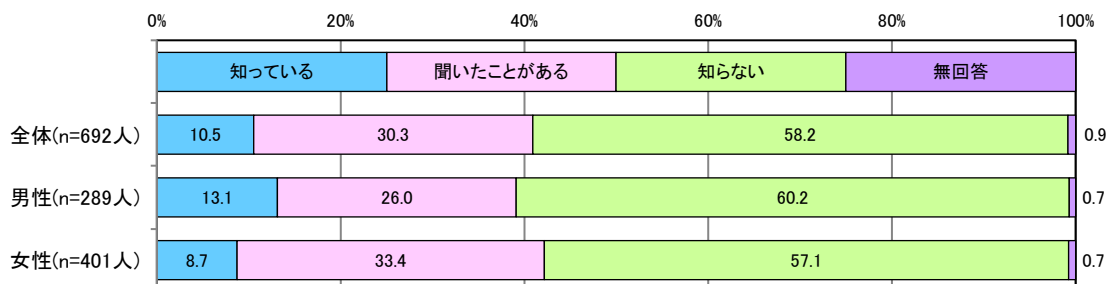
【世代別性別】



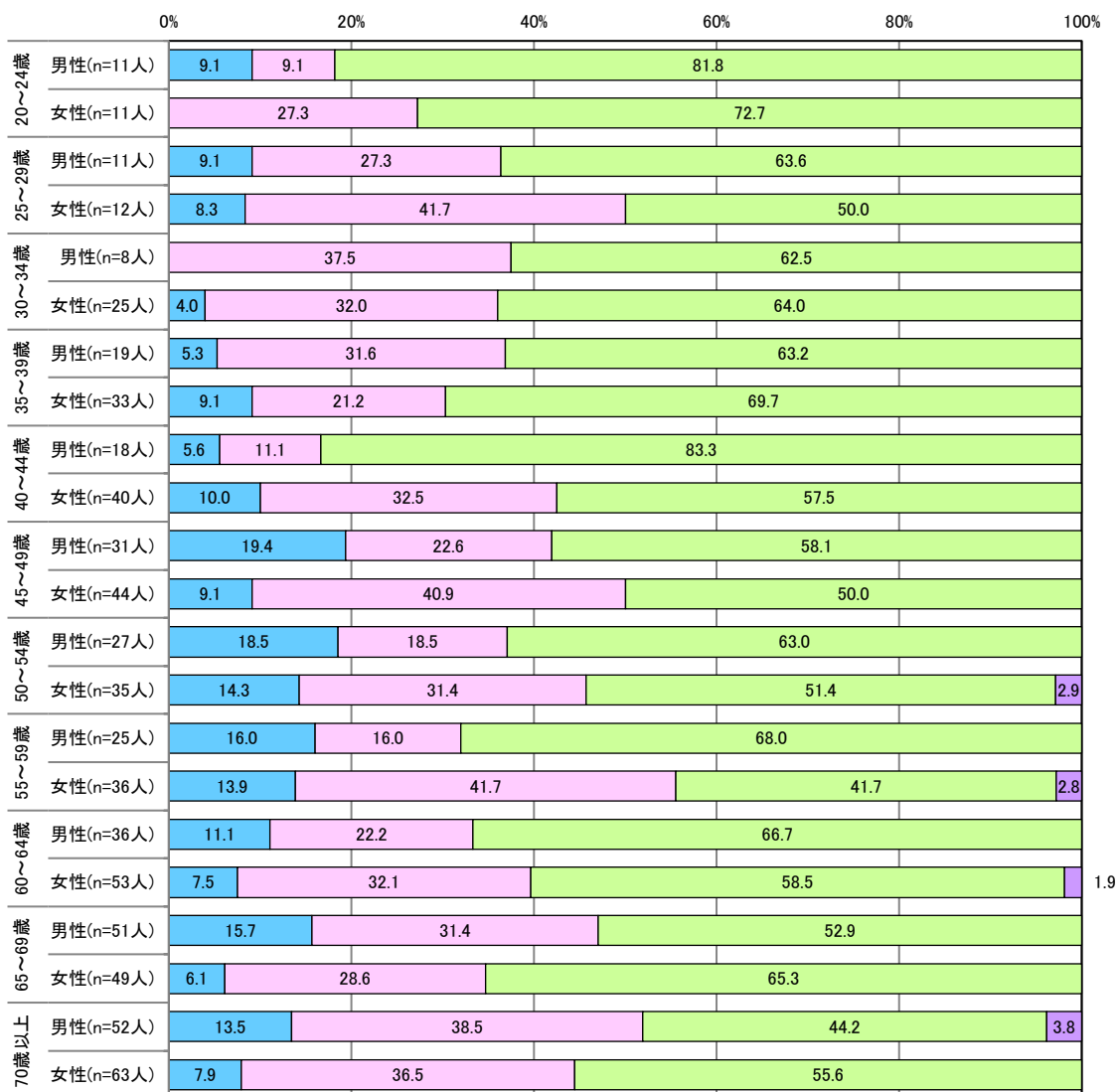
## 2 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は60.2%、女性は57.1%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が39.1%、女性が42.1%となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性では、20歳～24歳、40歳～44歳で、「知らない」という回答が8割を超えている。

### 【性別】



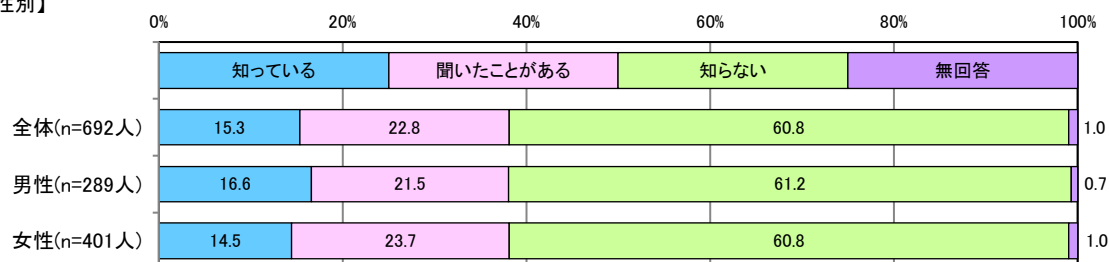
### 【世代別性別】



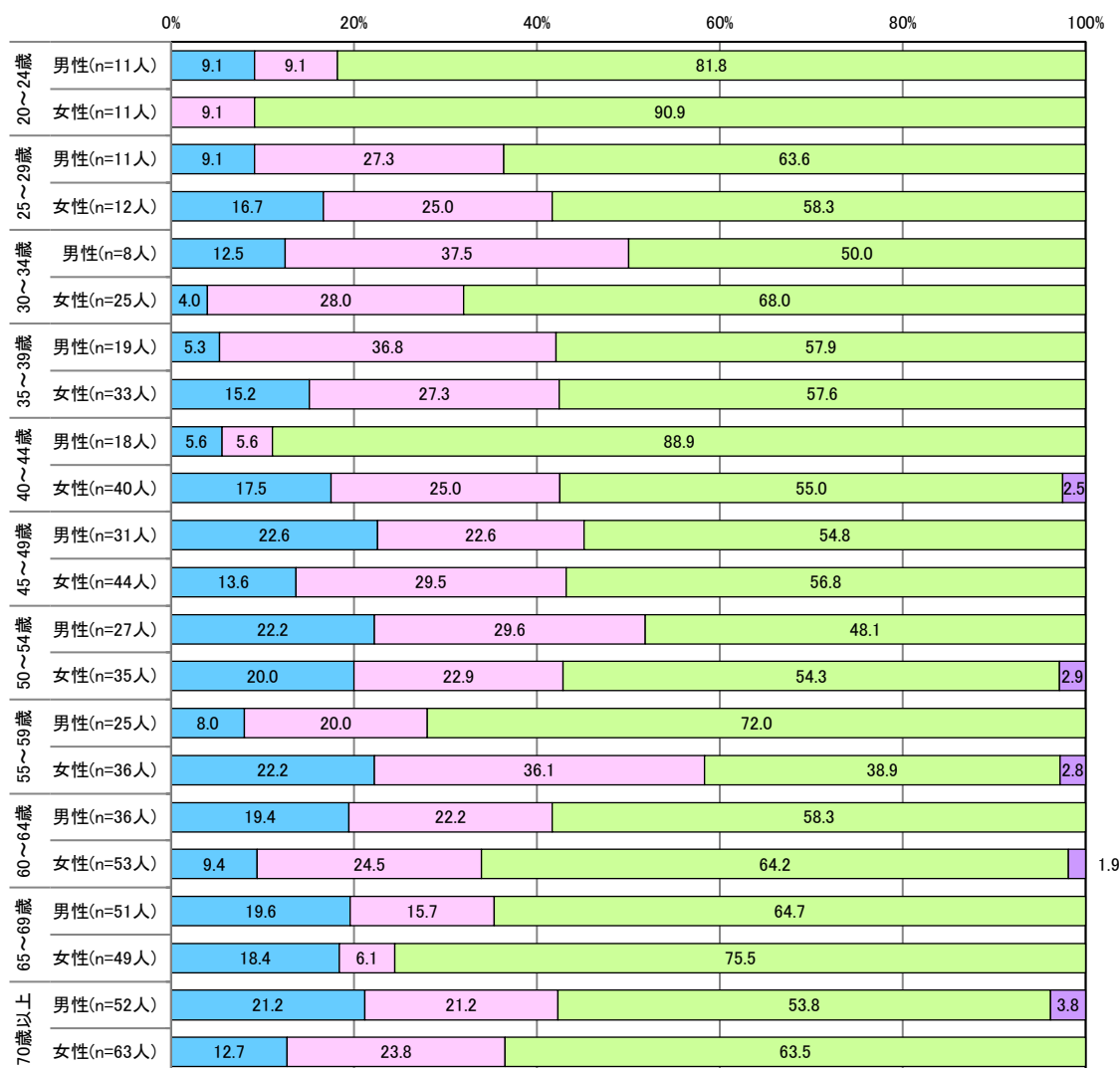
### 3 長野市男女共同参画センター

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が61.2%、女性が60.8%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が38.1%、女性が38.2%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が8割を超えているのは、20歳～24歳の男女、40歳～44歳の男性となっており、「知っている」という回答割合が2割以上は、45歳～54歳の男性、50歳代の女性、70歳以上の男性となっている。

【性別】



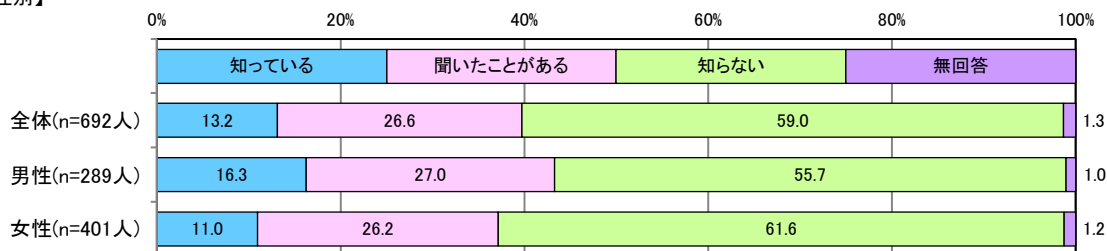
【世代別性別】



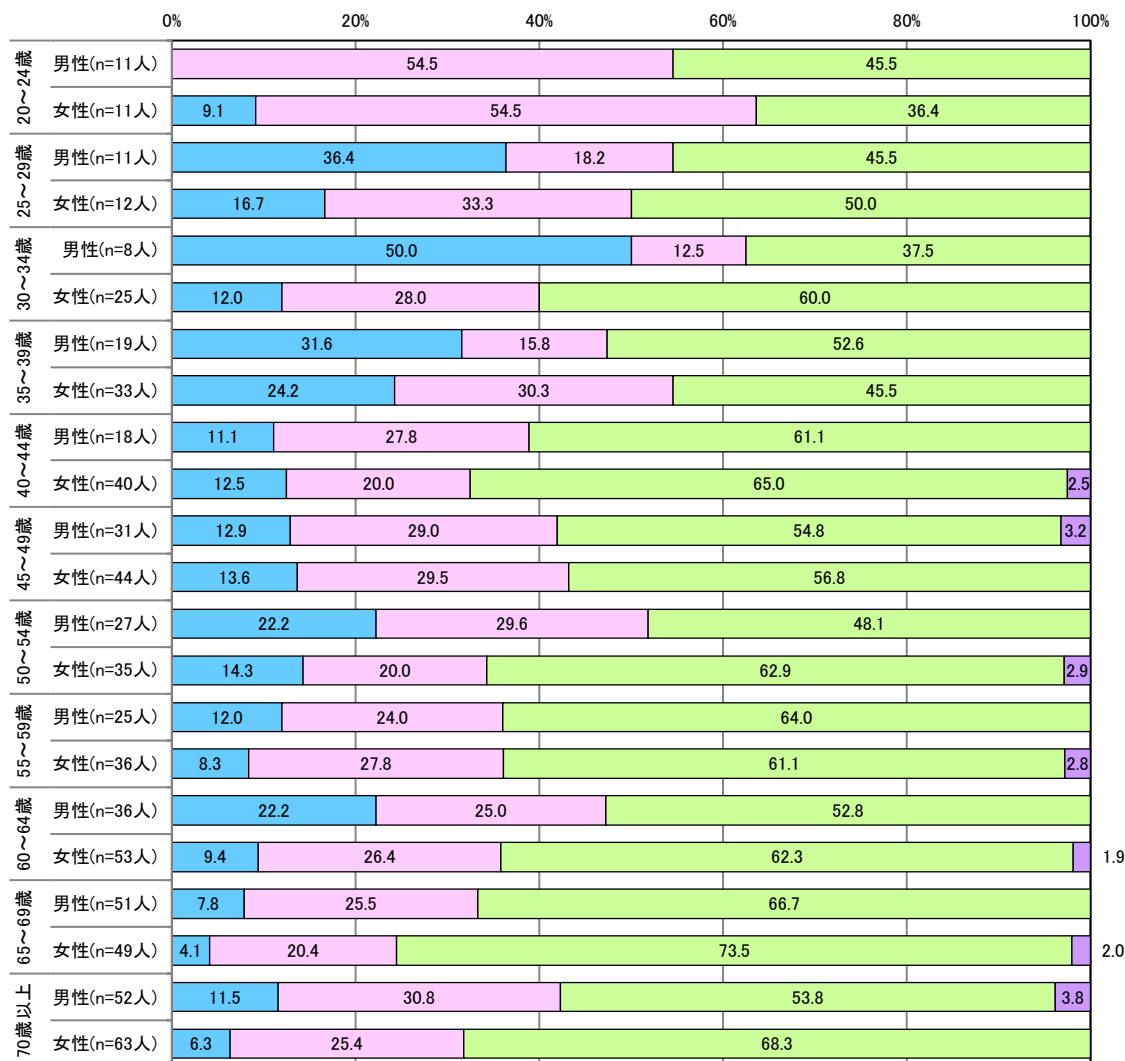
## 4 女性活躍推進法

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 55.7%、女性が 61.6% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 43.3%、女性が 37.2%と、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、65 歳～69 歳の女性で 73.5%となっており、「知っている」という回答割合が最も高いのは、30 歳～34 歳の男性で 50.0%となっている。

### 【性別】



### 【世代別性別】

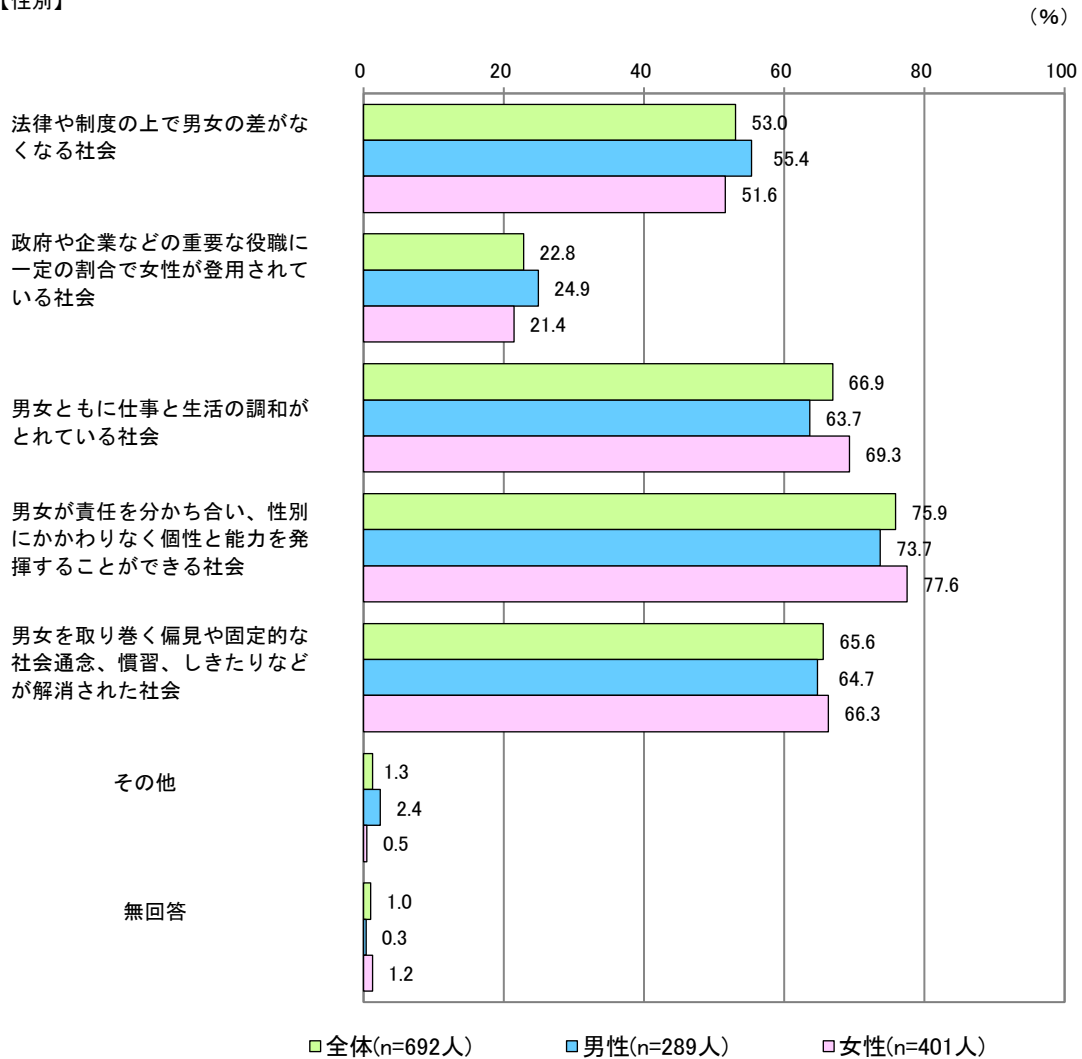




問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

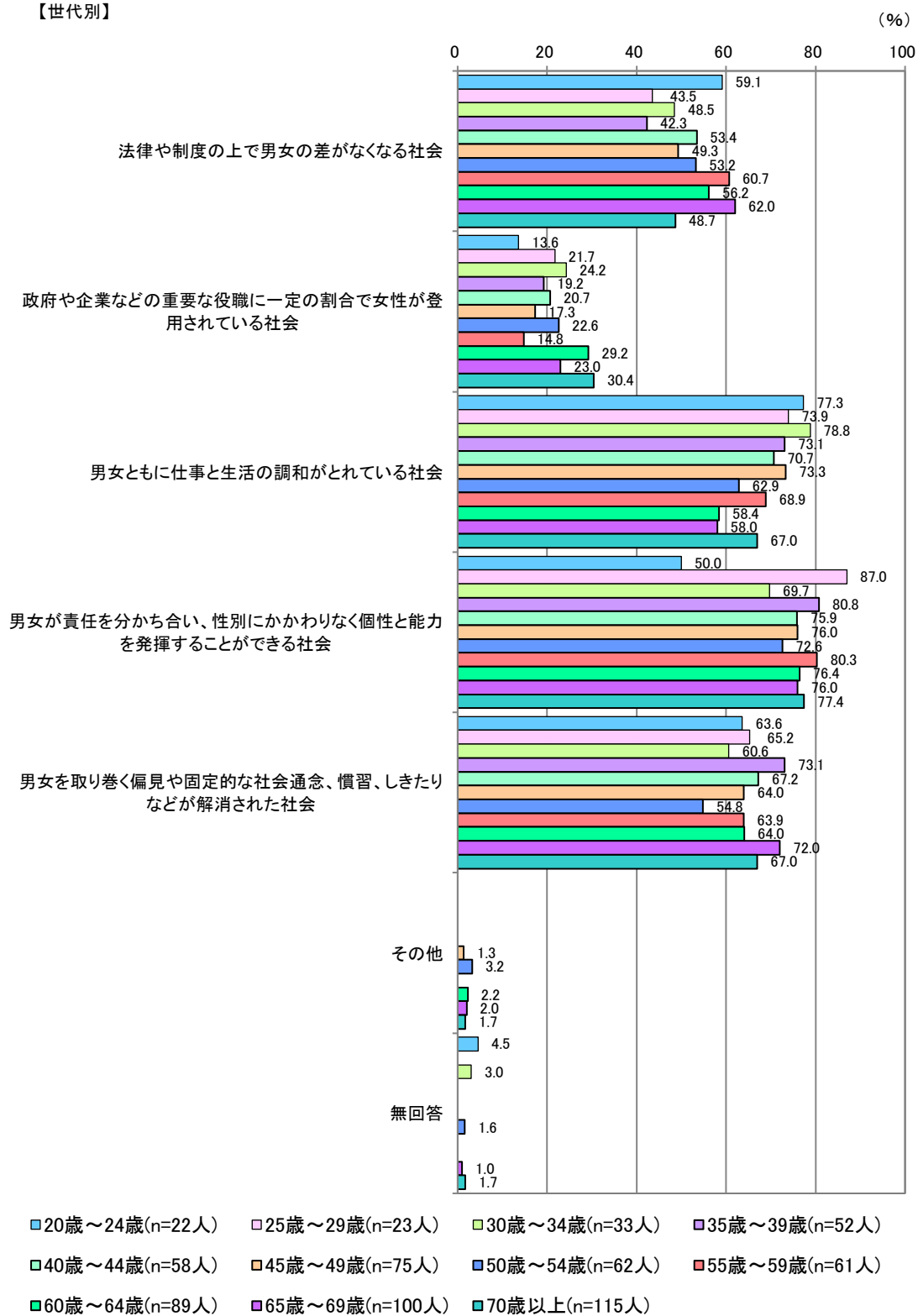
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割(75.9%)で最も多い回答となっている。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」(66.9%)、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」(65.6%)、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」(53.0%)の順となっている。
- ・性別でみると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性で73.7%、女性で77.6%となっている。

【性別】



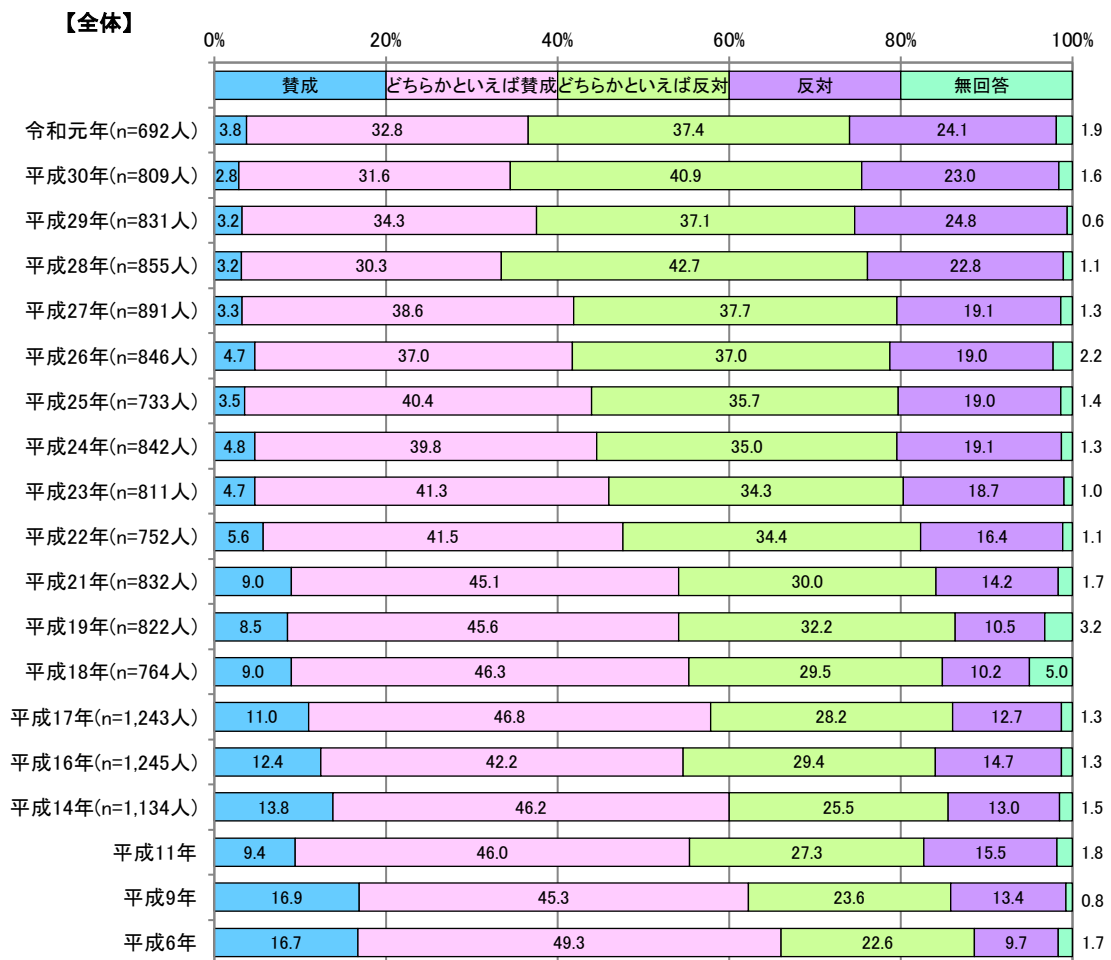
- ・世代別でみると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」は、20歳～24歳を除き全ての年代で約7割以上となっている。「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」という回答は、50歳～54歳では54.8%となっているが、35歳～39歳では73.1%と年代によって差がある。

【世代別】

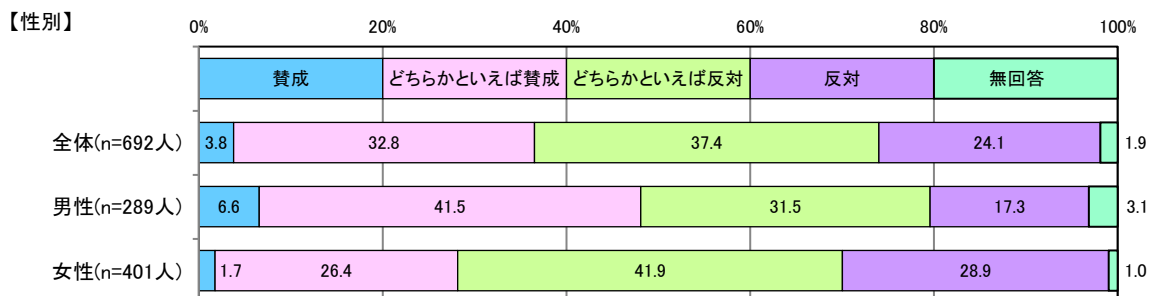


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について  
 どう思いますか。次の中から1つお選びください。

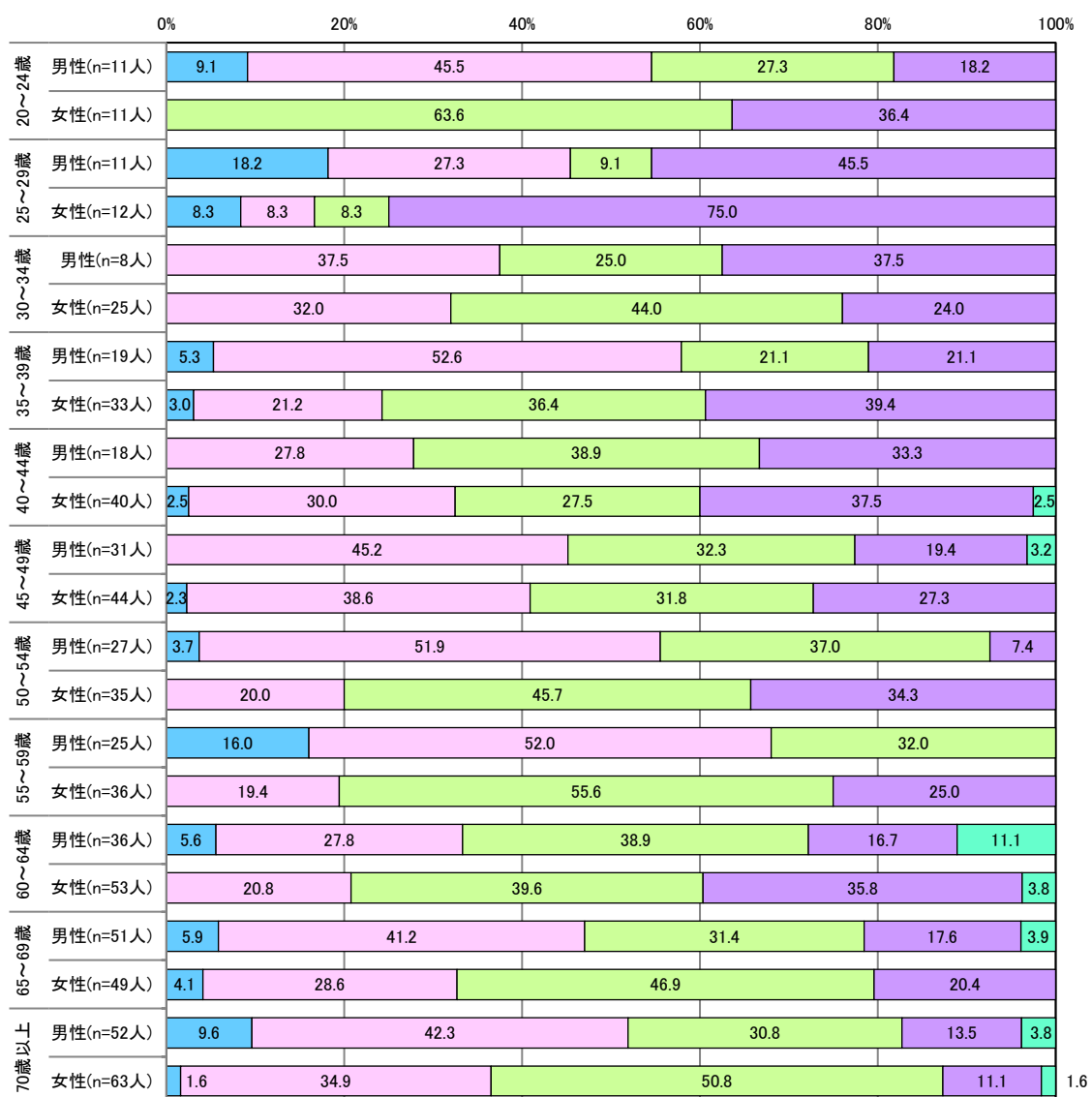
- ・令和元年の調査結果は、「賛成」が3.8%「どちらかといえば賛成」が32.8%、「どちらかといえば反対」が37.4%、「反対」が24.1%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあるものの、平成28年以降は横ばい傾向にある。令和元年は平成30年と比べて、「賛成」が1.0ポイント、「どちらかといえば賛成」は1.2ポイント増加となった。「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は2.4ポイントの減少となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が48.8%、女性が70.8%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は、20歳～24歳、35歳～39歳、50歳代、70歳以上の男性を除いて、5割を超えている。

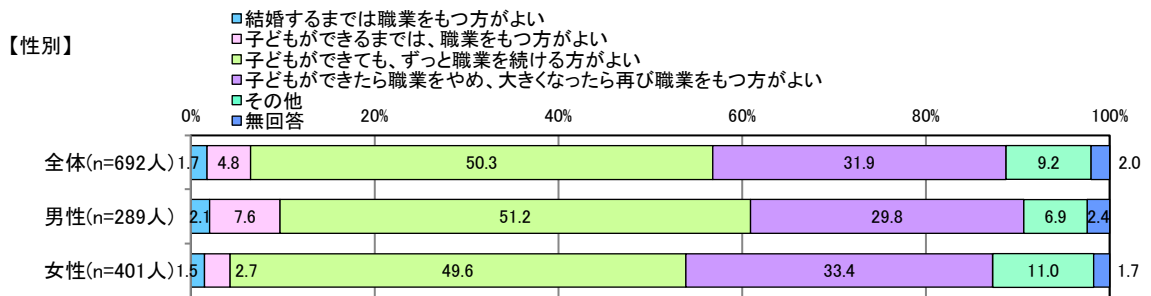


【世代別性別】

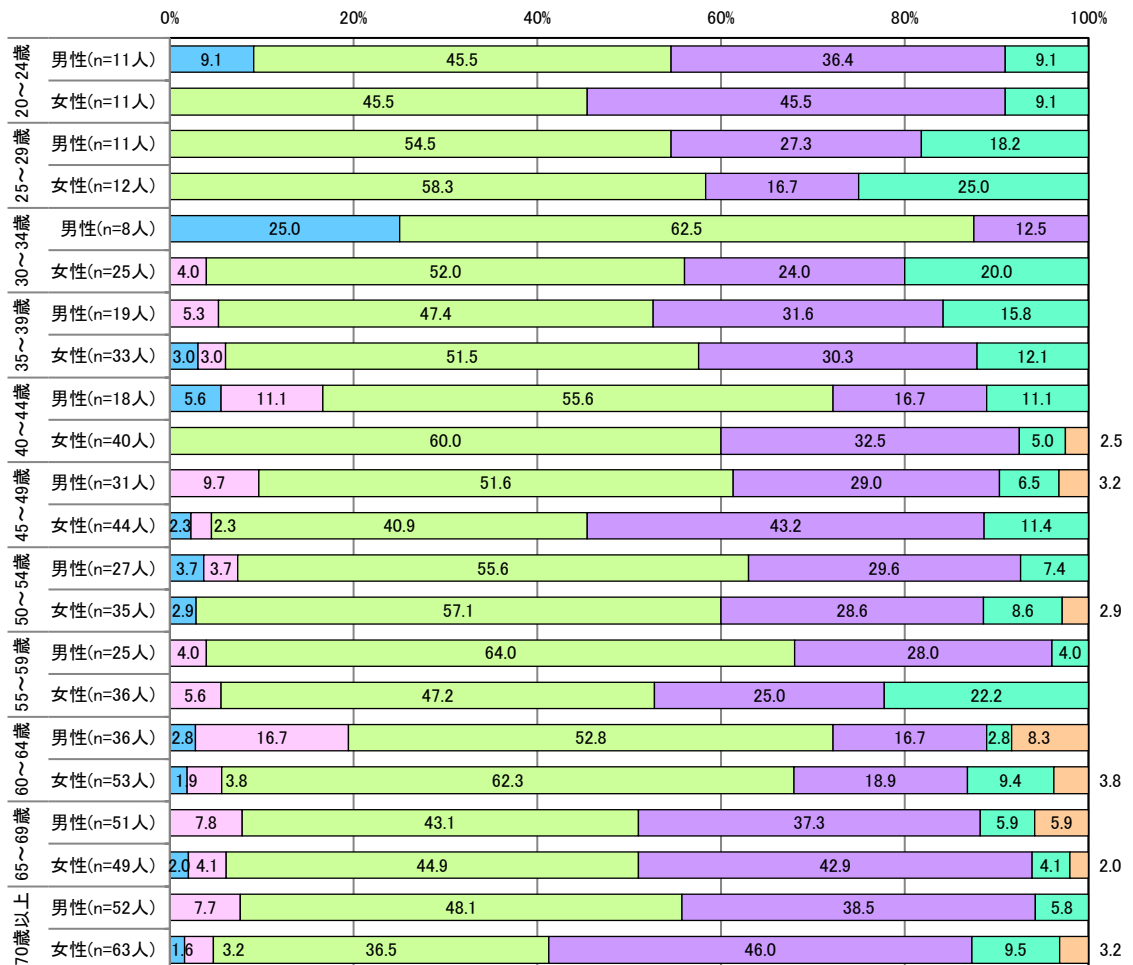


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。  
次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、45歳～49歳の女性、70歳以上の女性を除き、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。一方、45歳～49歳の女性、70歳以上の女性では、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が、20歳～24歳の女性では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が同率で最も多くなっている。



【世代別性別】





---

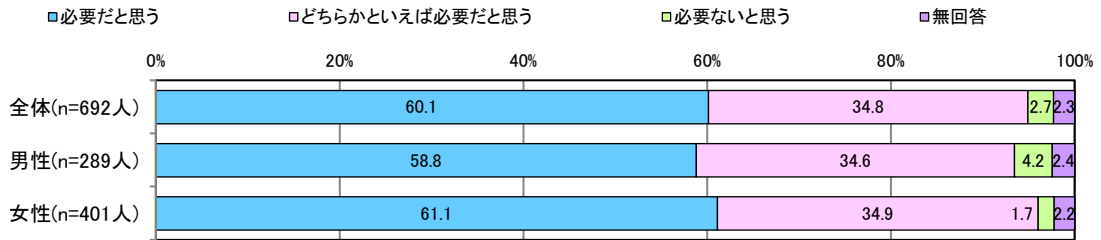
女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて

---

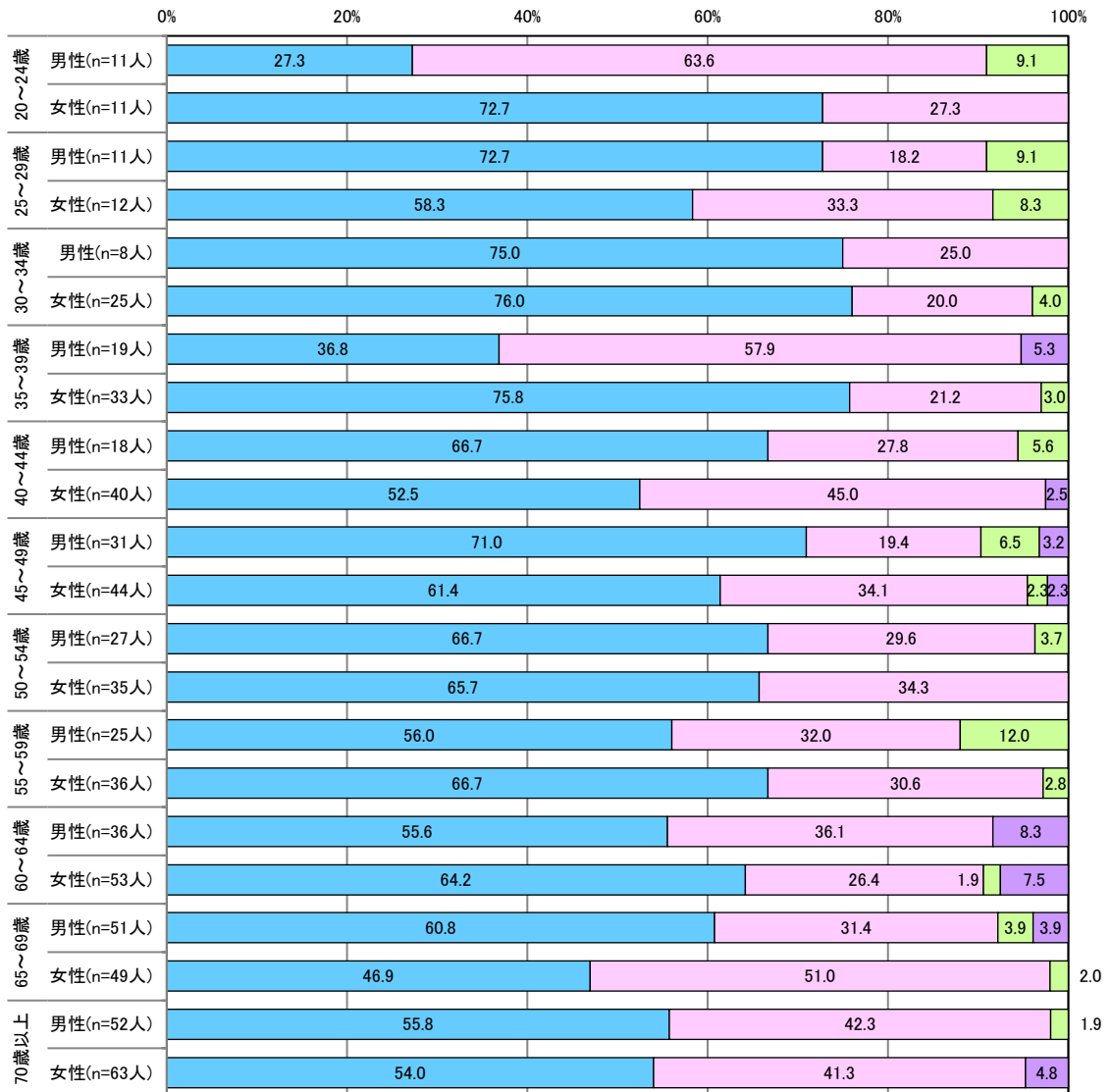
問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、ほとんどの世代別性別で「必要だと思う」が最も多くなっている。一方、20歳～24歳の男性、35歳～39歳の男性、65歳～69歳の女性では、「どちらかといえば必要だと思う」が最も多い回答となり、55歳～59歳の男性を除き、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」という回答合計が9割を超えている。

【性別】



【世代別性別】

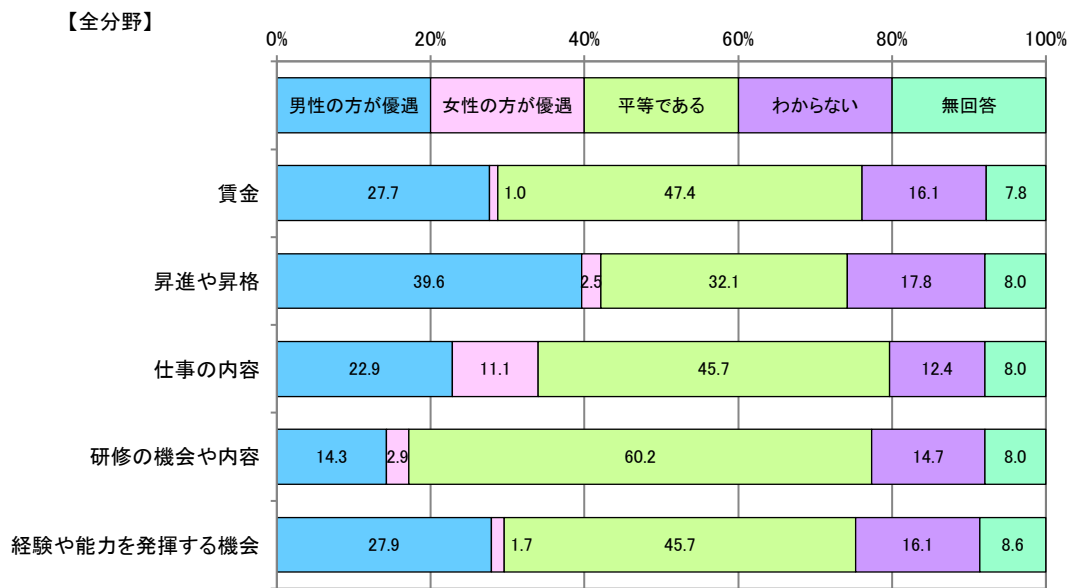




問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。  
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（39.6%）で、最も多くなっている。次いで、「経験や能力を発揮する機会」（27.9%）、「賃金」（27.7%）、「仕事の内容」（22.9%）、「研修の機会や内容」（14.3%）の順に続いている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（11.1%）となっている。それ以外の分野では、3%未満となっている。

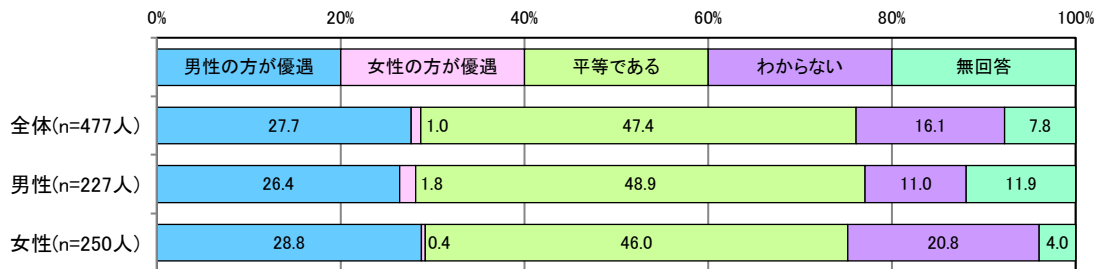


(全体 n=477人)

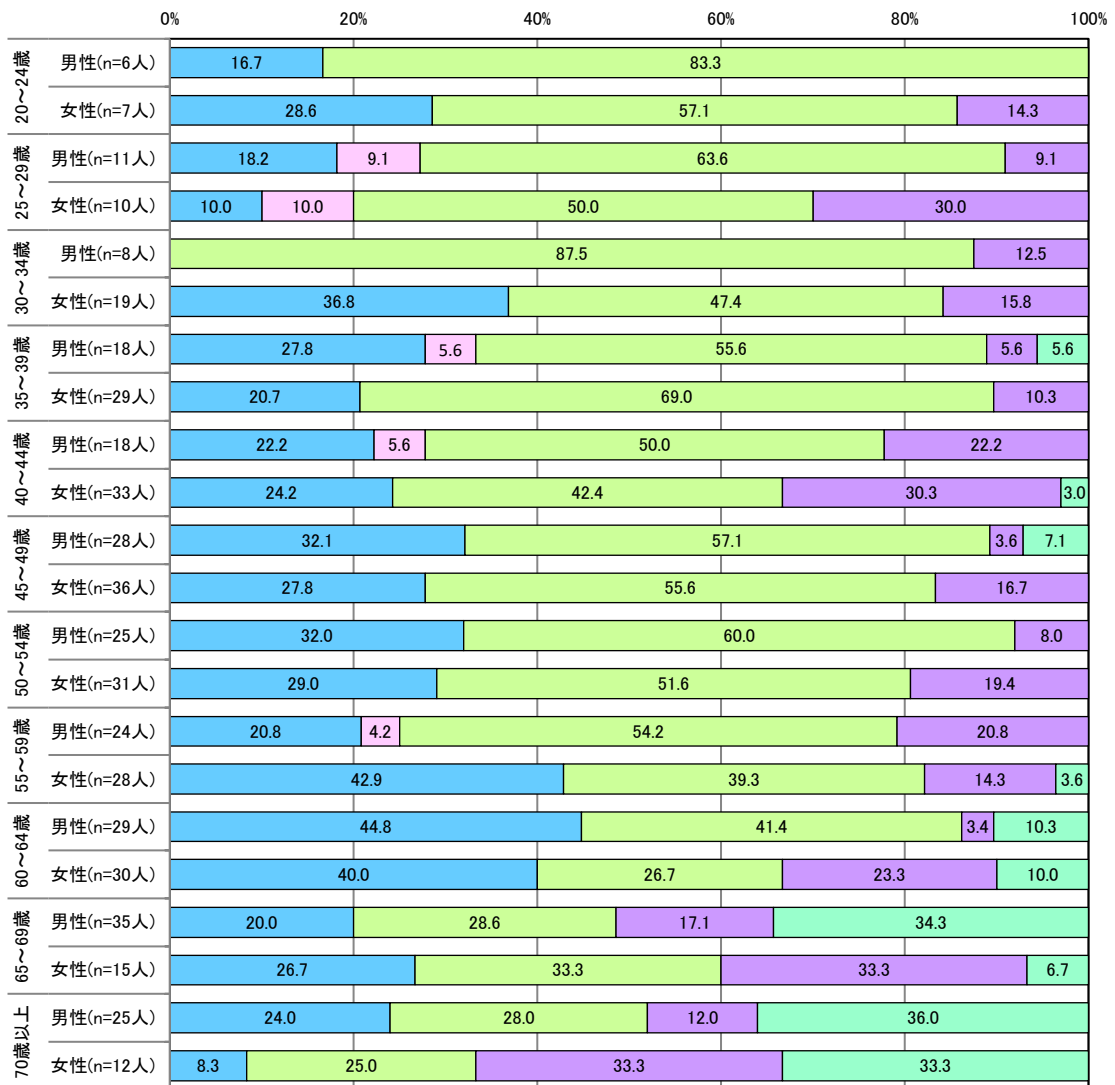
# 1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は 48.9%で、女性は 46.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、ほとんどの世代別性別で「平等である」という回答の割合最も多くなっている。一方、60歳～64歳の男性、55歳～64歳の女性では「男性の方が優遇されている」が、65歳～69歳の女性では「平等である」と「わからない」が同率で、70歳以上の女性では「わからない」が最も多くなっている。

【性別】

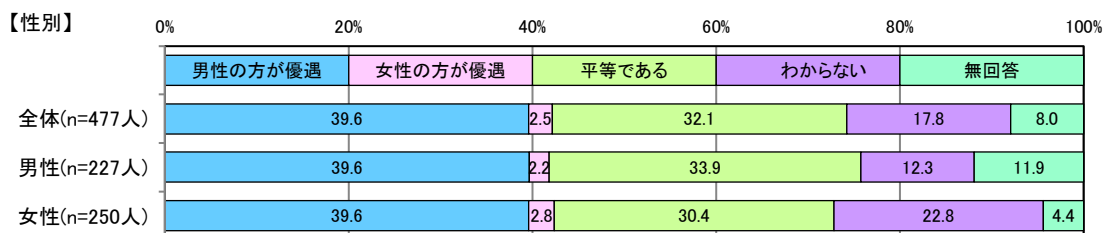


【世代別性別】

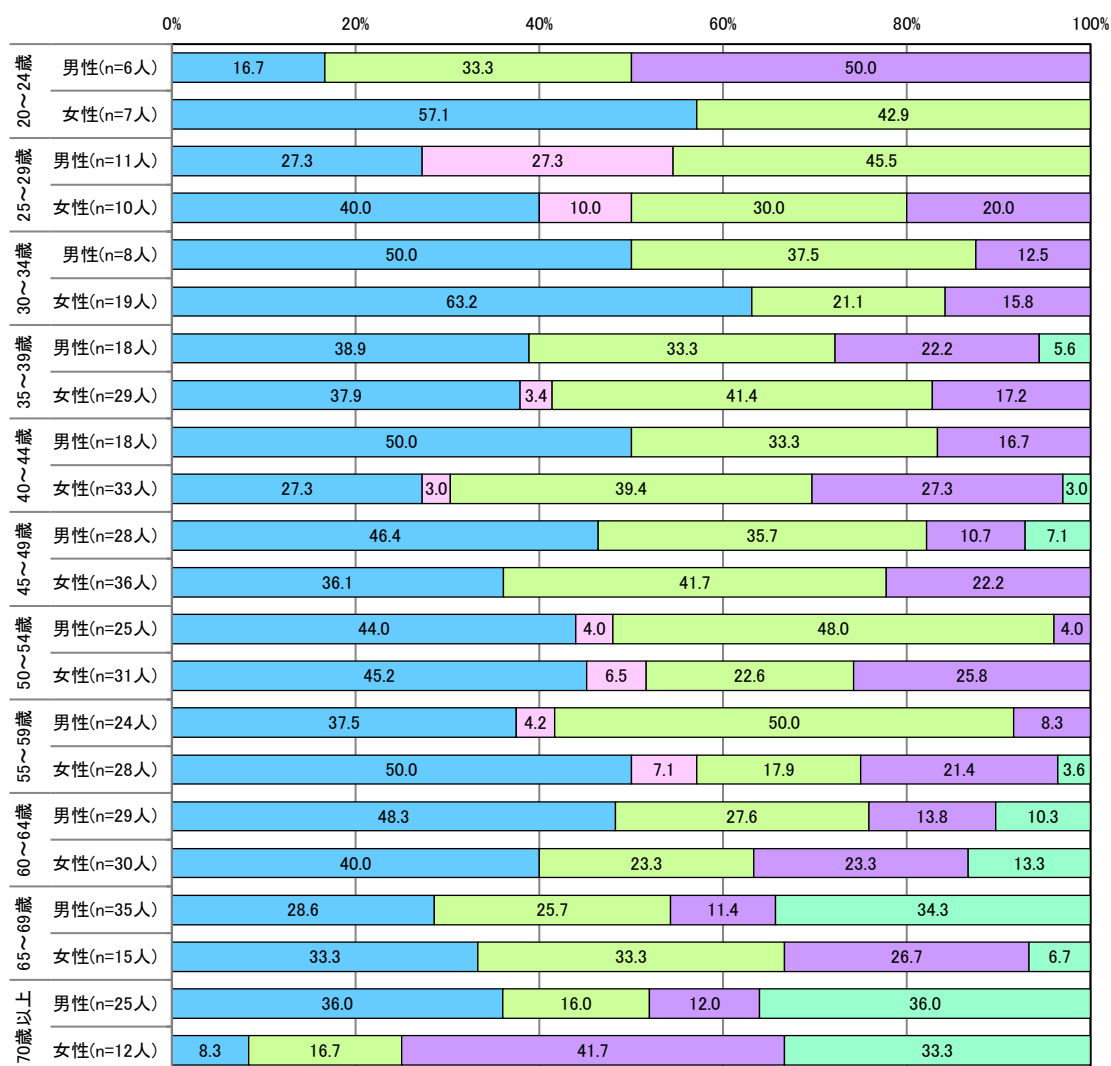


## 2 昇進や昇格

- ・性別で見ると、男女とも、「男性の方が優遇されている」が約4割と最も多くなっている。一方、男女ともに、「平等である」が約3割で続いている。
- ・世代別性別で見ると、ほとんどの世代別性別で「男性の方が優遇されている」が最も多くなっている。特に、20歳～24歳の女性、30歳～34歳の男女、40歳～44歳の男性、55歳～59歳の女性では、「男性の方が優遇されている」が5割以上となっている。一方、25歳～29歳の男性、40歳代の女性、50歳代の男性では、「平等である」が最も多くなっている。

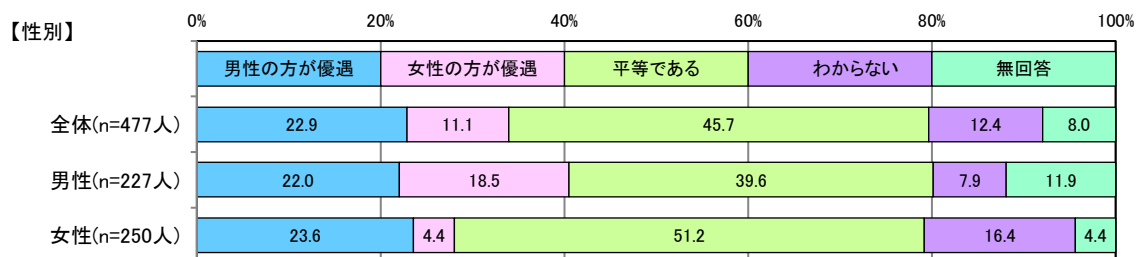


### 【世代別性別】

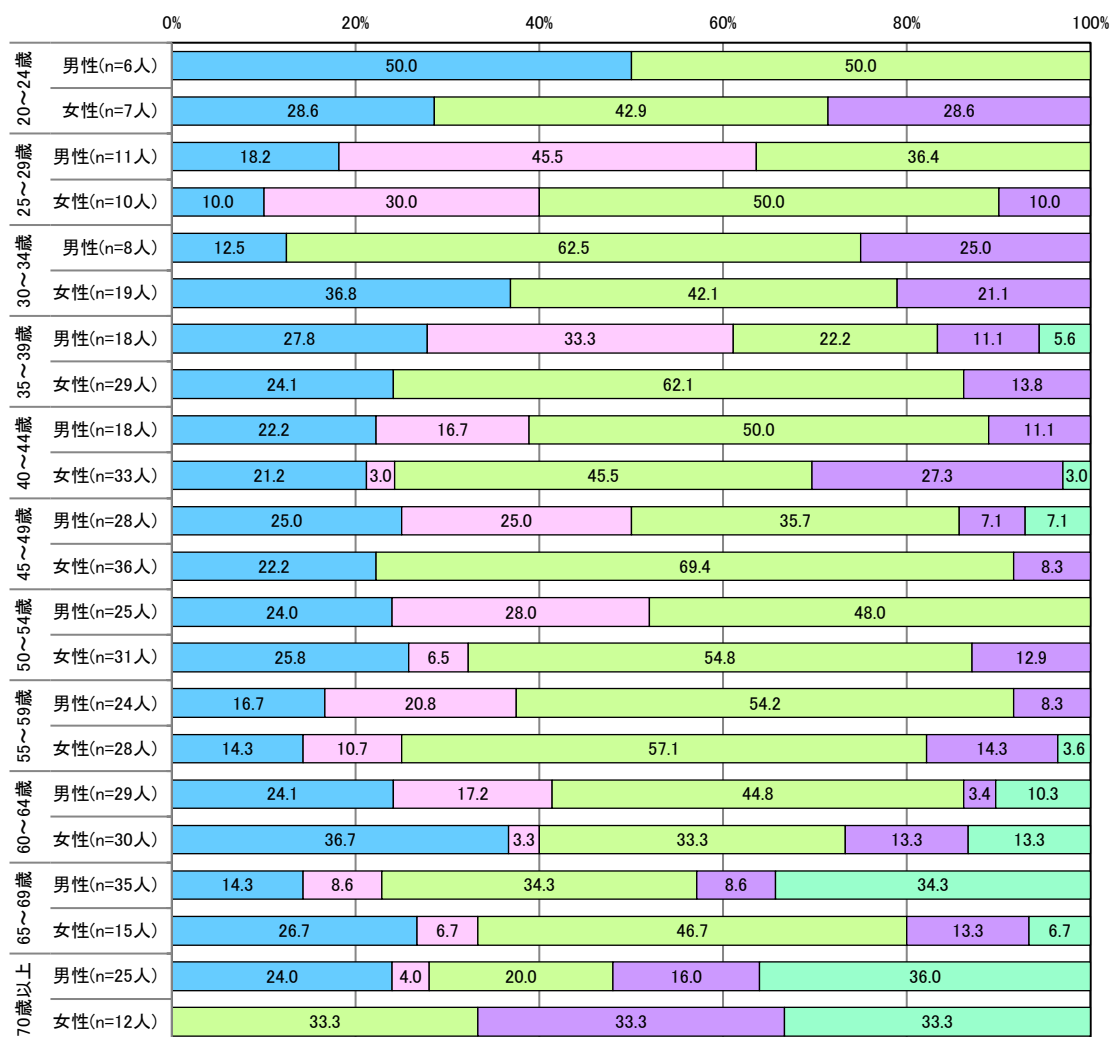


### 3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が 39.6%、女性が 51.2% となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が 18.5%、女性が 4.4%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、20 歳～24 歳の男性、60 歳～64 歳の女性においては、「男性の方が優遇されている」と「平等である」という回答がほぼ同じ割合となっている。また、25 歳～29 歳の男性、35 歳～39 歳の男性では、「女性の方が優遇されている」が最も多くなっている。

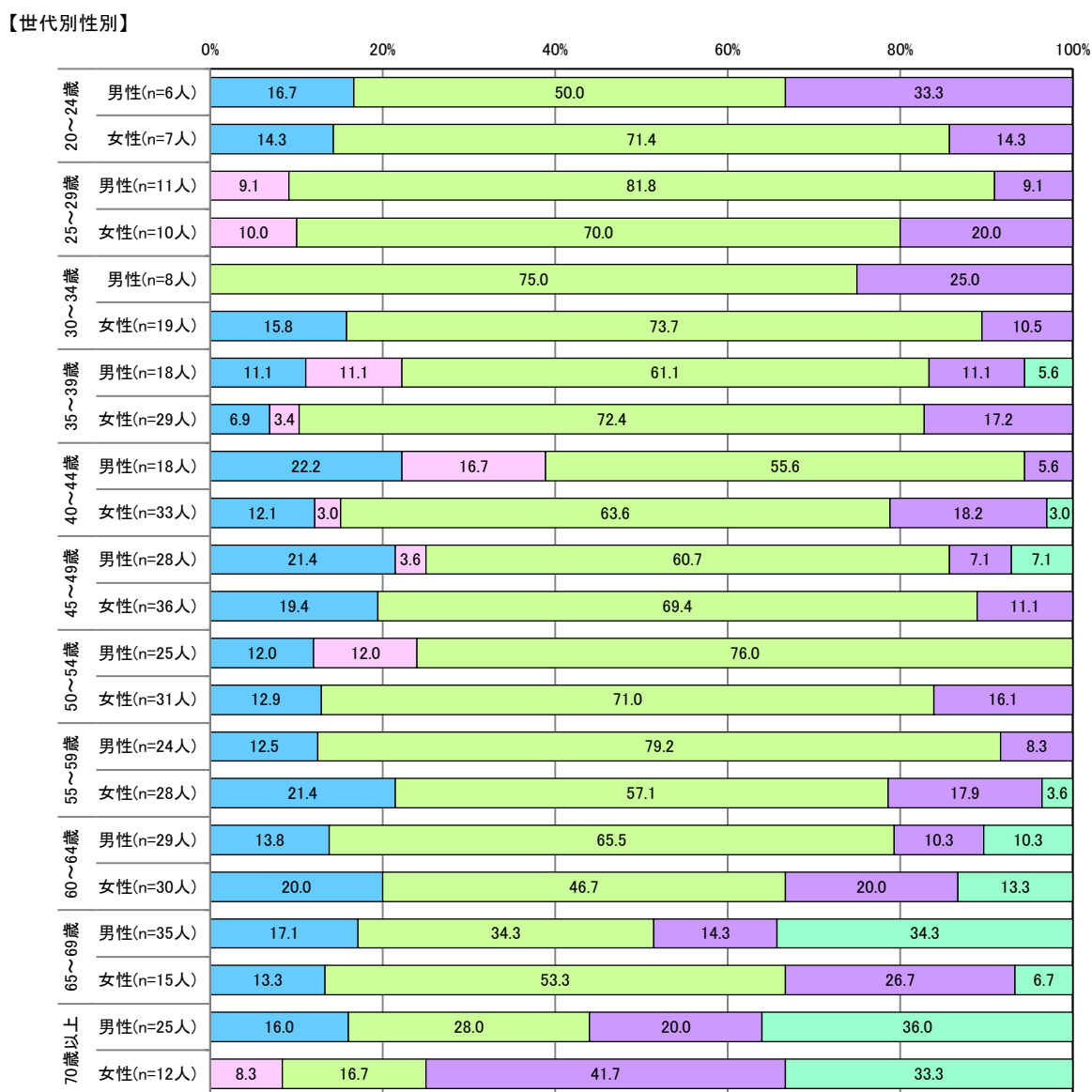
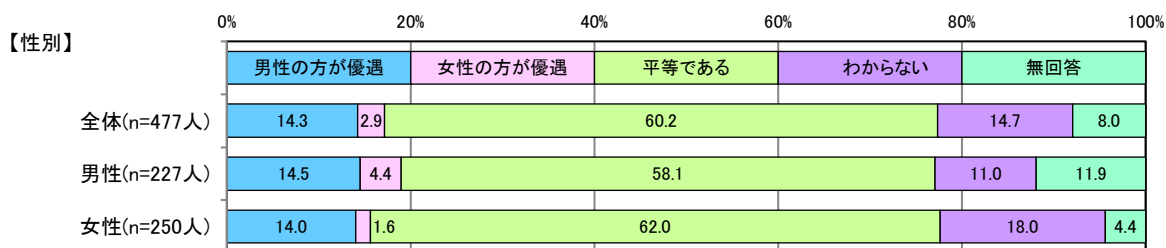


【世代別性別】



#### 4 研修の機会や内容

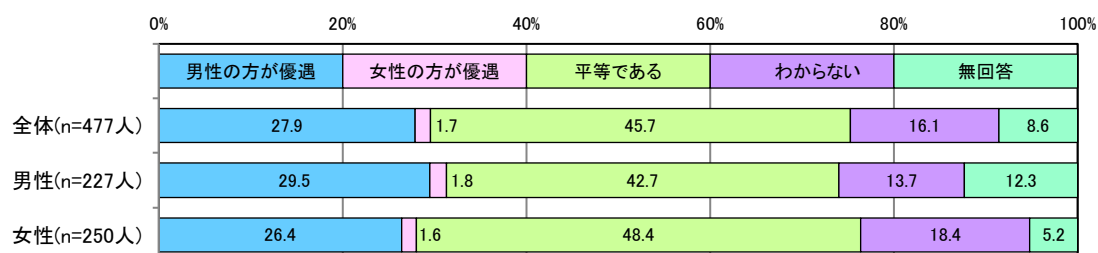
- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が58.1%、女性が62.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



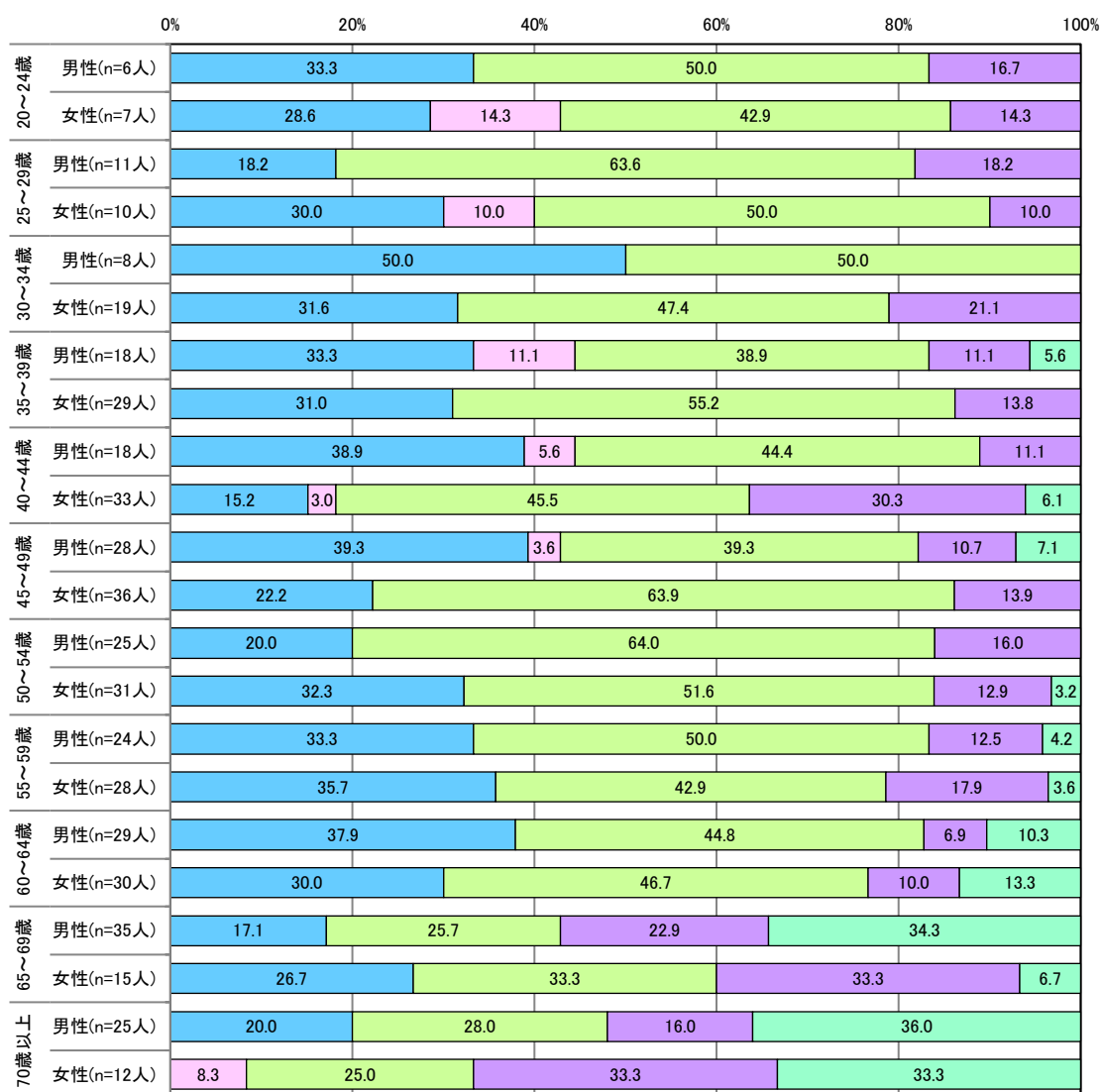
## 5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が42.7%、女性が48.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の男性、45歳～49歳の男性、65歳以上の男女を除く、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。30歳～34歳の男性、45歳～49歳の男性では、「男性の方が優遇されている」と「平等である」が同じ割合で最も多くなっている。

### 【性別】



### 【世代別性別】

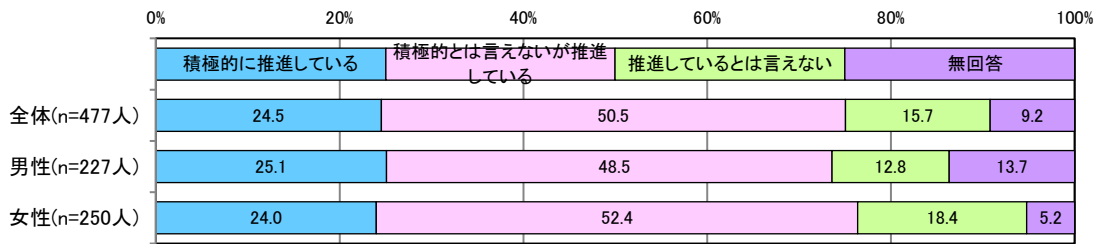


問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

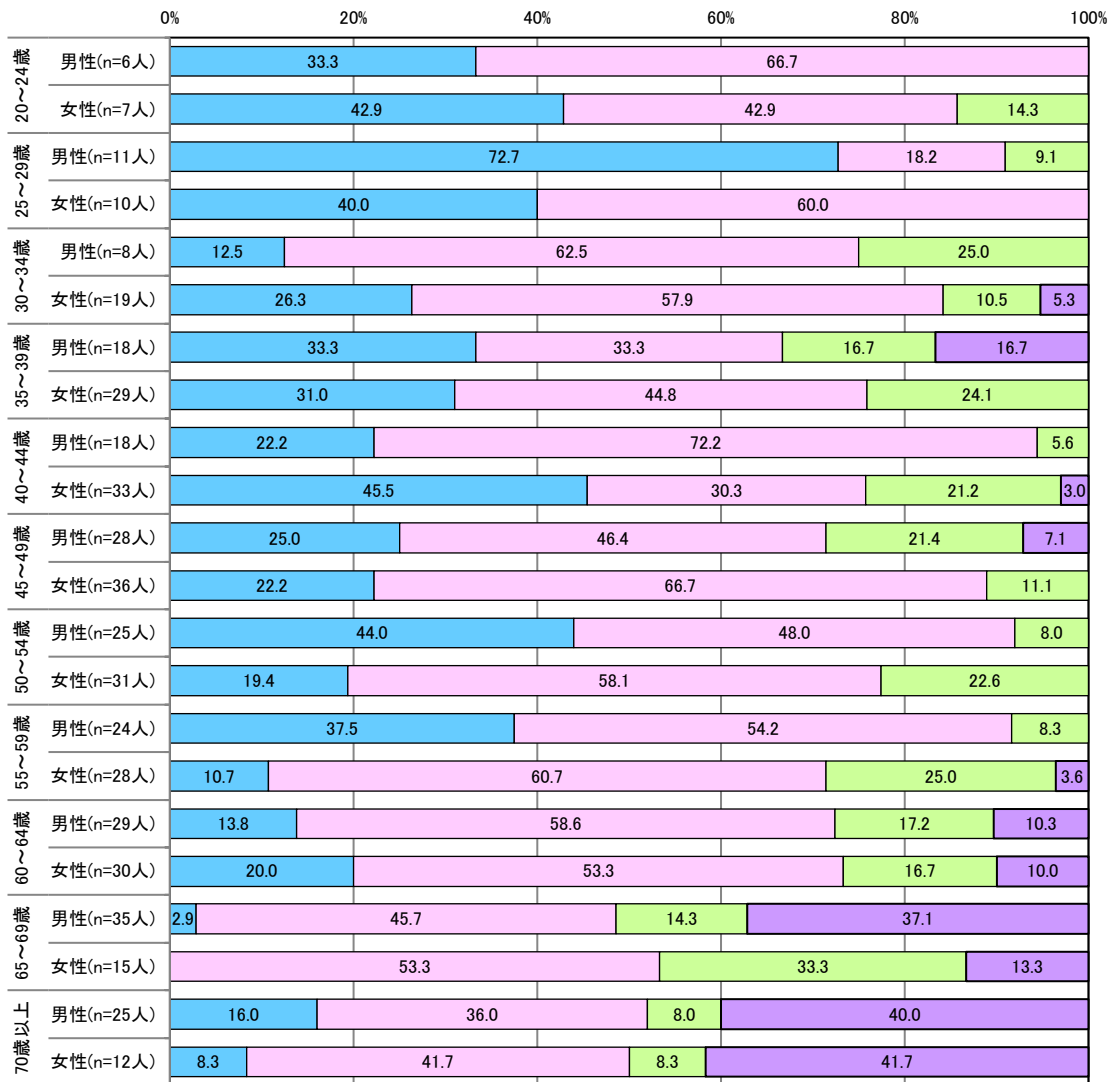
あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。  
次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多く、次いで、「積極的に推進している」となっている。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男性、65歳以上の男女を除き、いずれの世代別年代でも、「積極的に推進している」、「積極的とは言えないが推進している」の回答合計が7割以上となっている。一方、30歳～44歳の女性、45歳～49歳の男性、50歳代の女性では、「推進しているとは言えない」が2割以上となっている。

【性別】



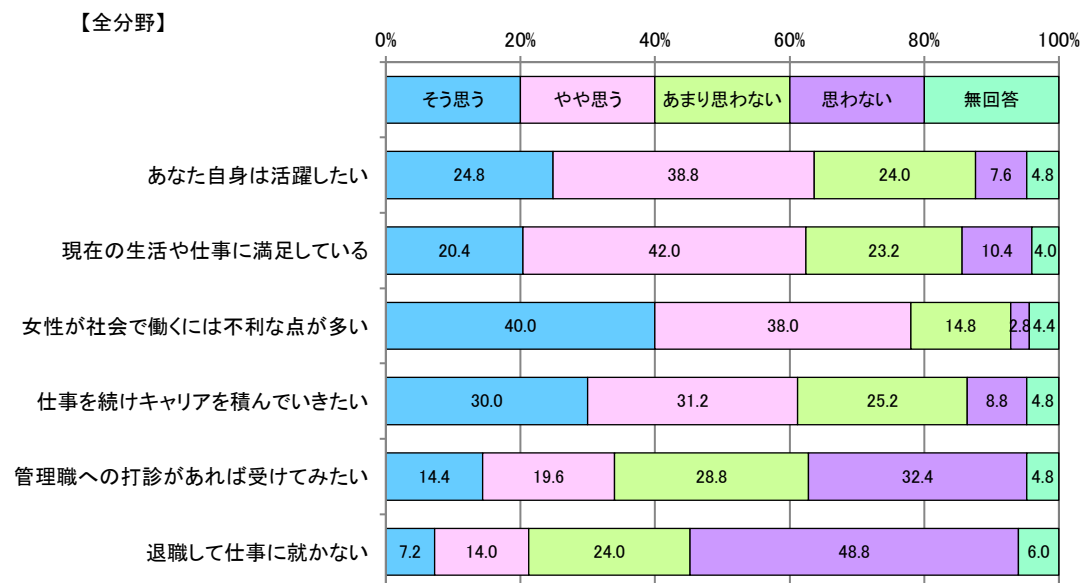
【世代別性別】



問9 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そう思う」という回答でみると、「女性が社会で働くには不利な点が多い」が4割（40.0%）で、最も多くなっている。次いで、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（30.0%）、「あなた自身は活躍したい」（24.8%）、「現在の生活や仕事に満足している」（20.4%）の順が続いている。一方、「思わない」という回答の割合は、「退職して仕事に就かない」が約5割（48.8%）となっている。次いで、「管理職への打診があれば受けてみたい」が約3割（32.4%）となっている。



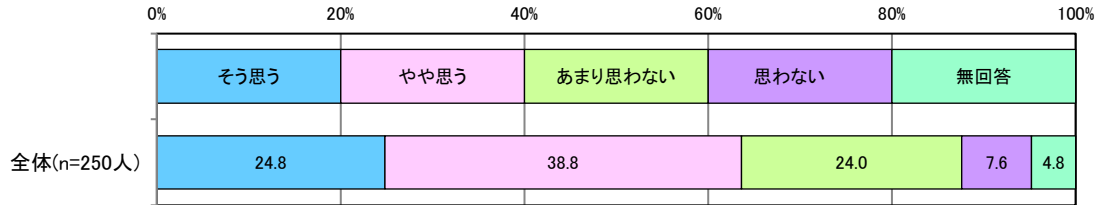
(全体 n=250人)



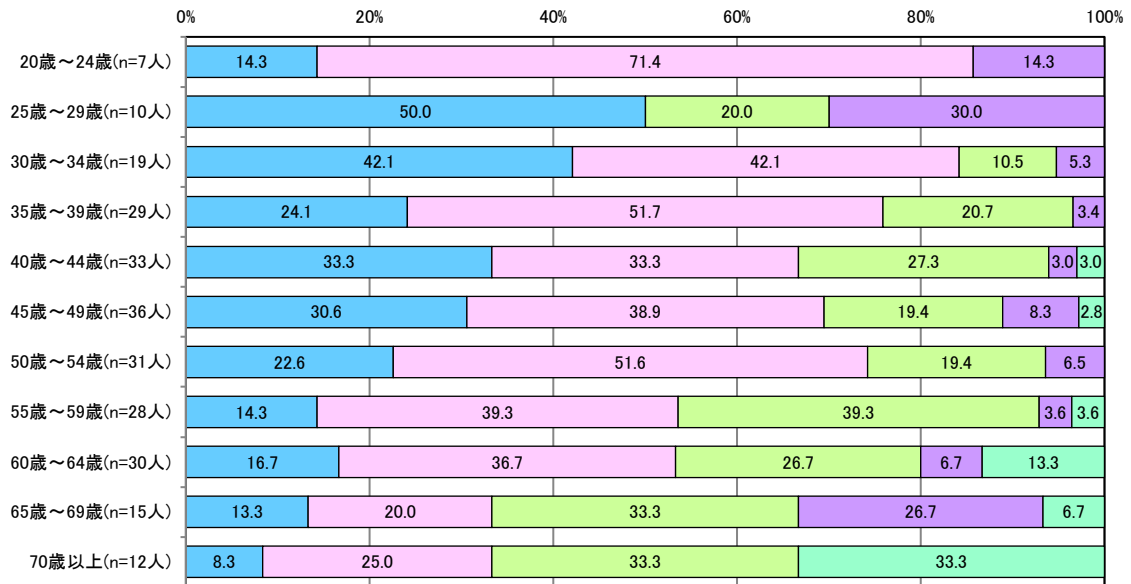
# 1 あなた自身は活躍したい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約4割（38.8%）となっている。
- ・世代別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計でみると、20歳～24歳、30歳～39歳、50歳～54歳で7割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「そう思う」という回答が最も多いのは、「結婚していない」（38.1%）、「配偶者と離・死別した」（36.8%）で約4割となっている。

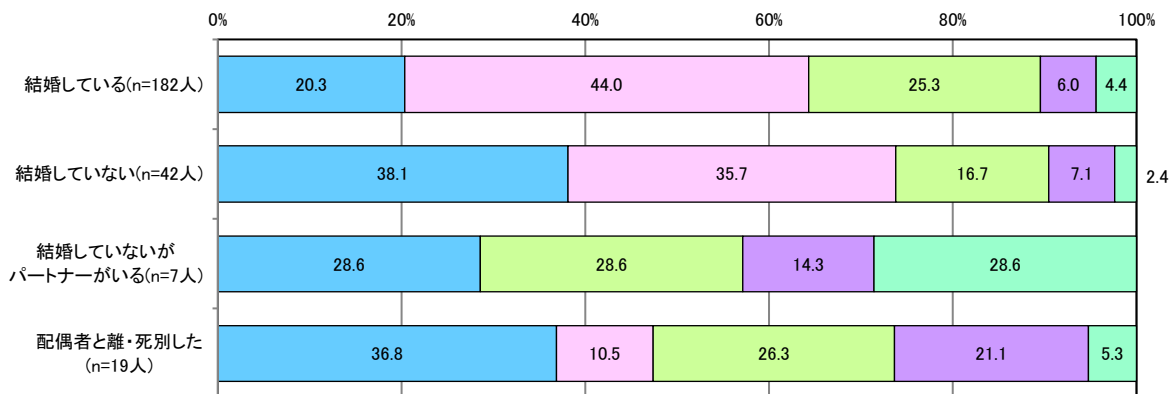
## 【女性】



## 【女性世代別】

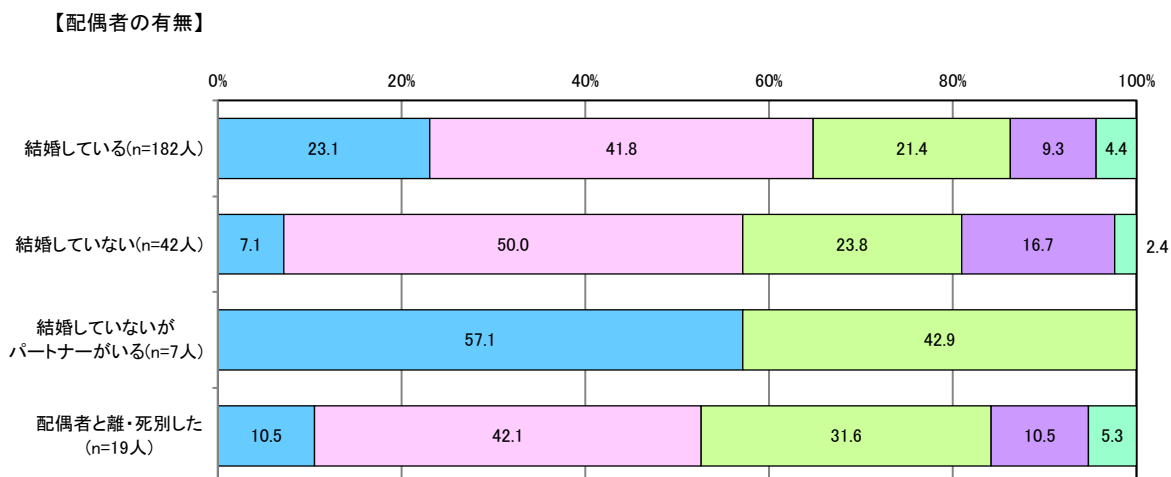
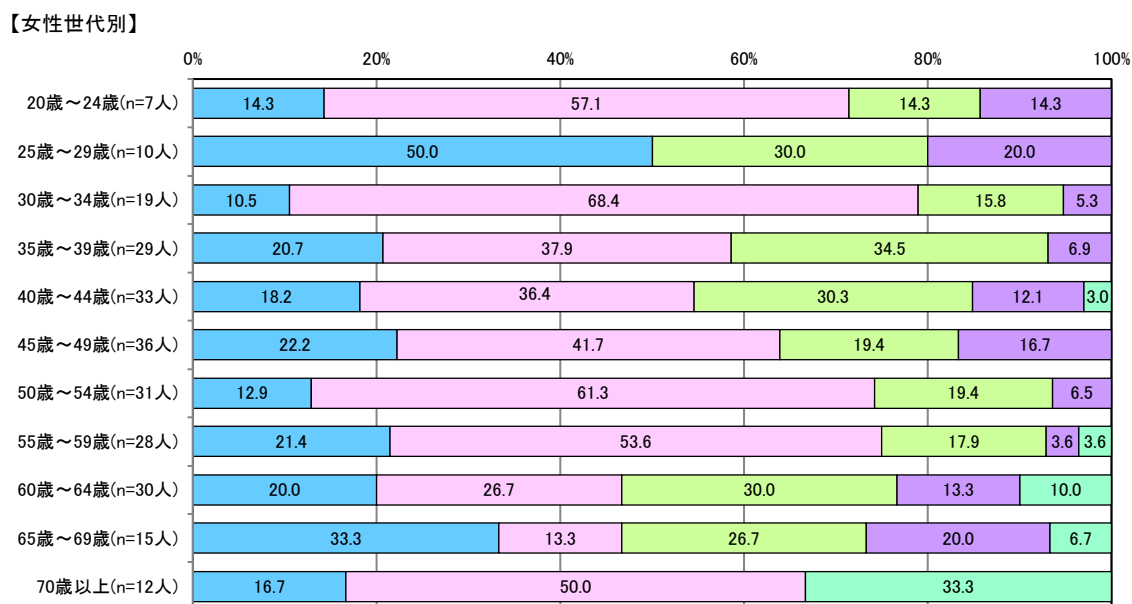
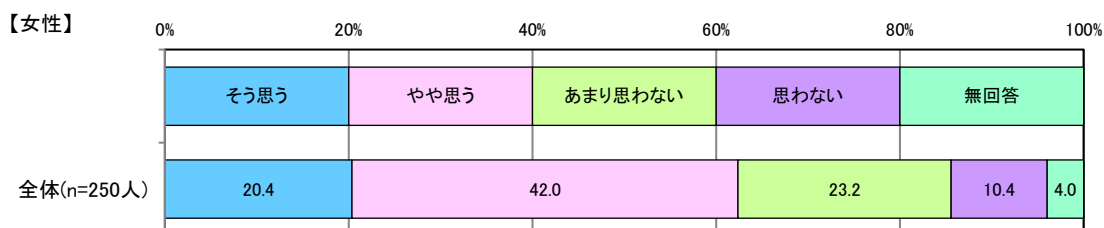


## 【配偶者の有無】



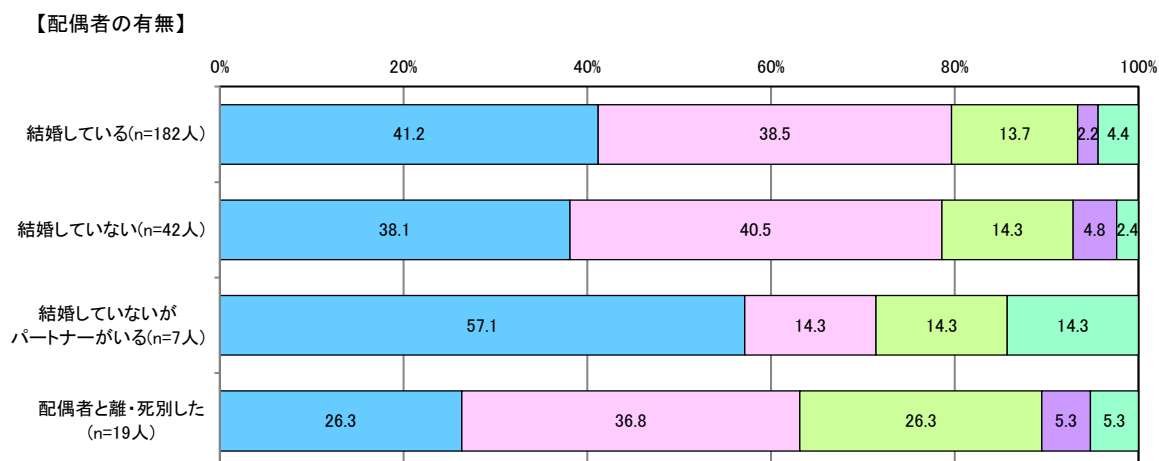
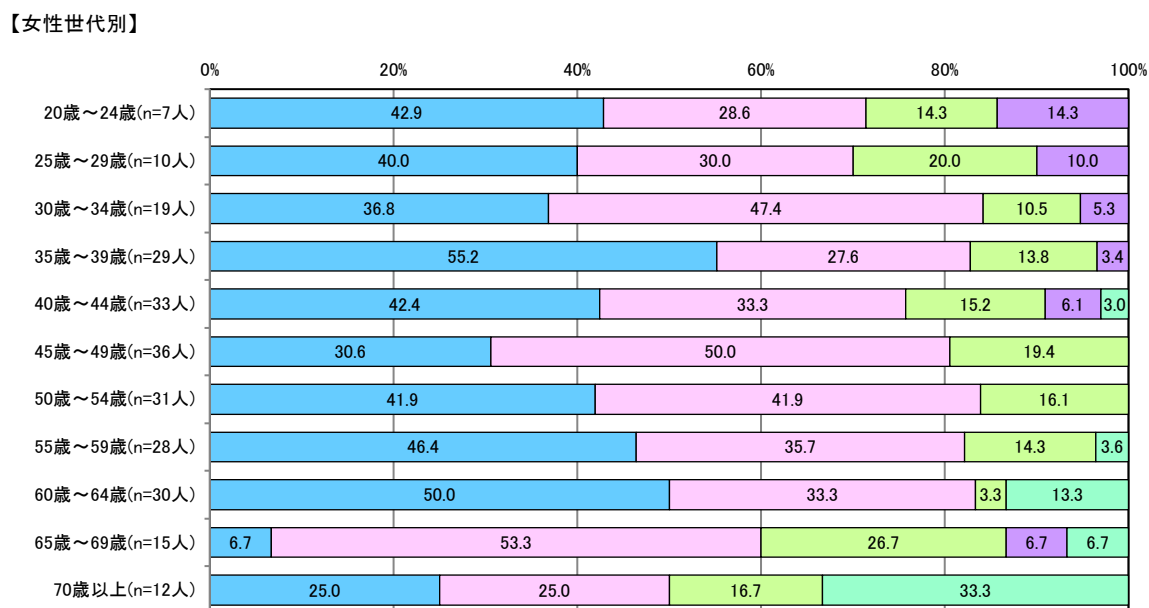
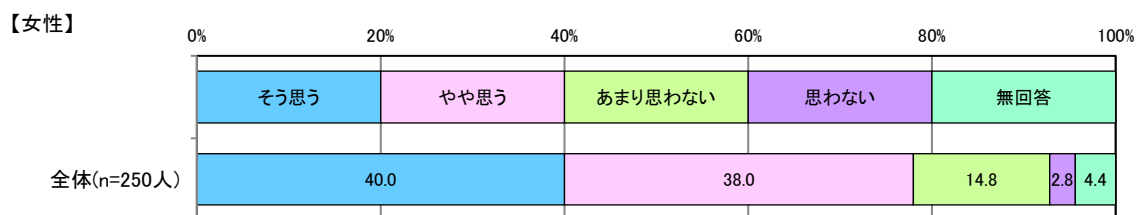
## 2 現在の生活や仕事に満足している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、42.0%となっている。
- ・世代別でみると、20歳～24歳、30歳～34歳、50歳代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が、「結婚していないが、パートナーがいる」、「結婚している」において回答割合が2割を超えているのに対し、「結婚していない」では7.1%、「配偶者と離・死別した」では10.5%と回答割合が約1割となっている。



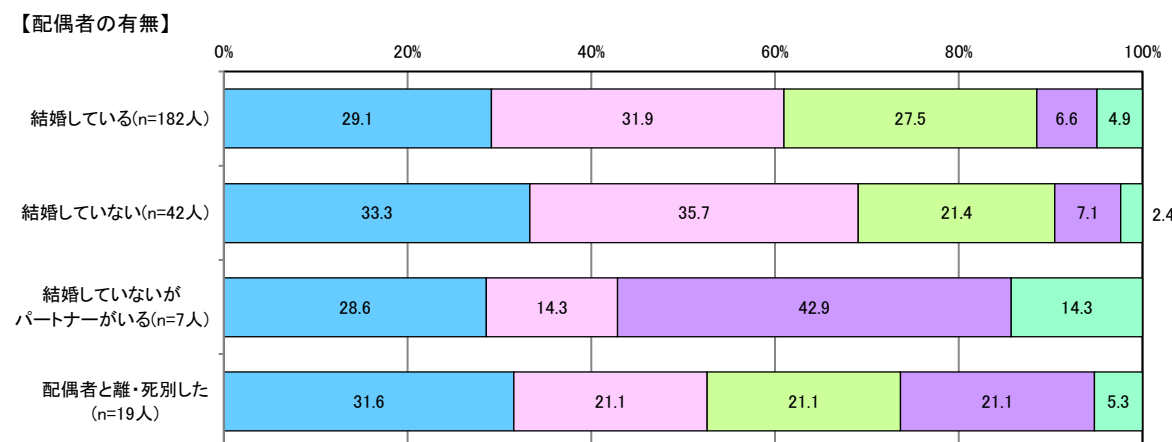
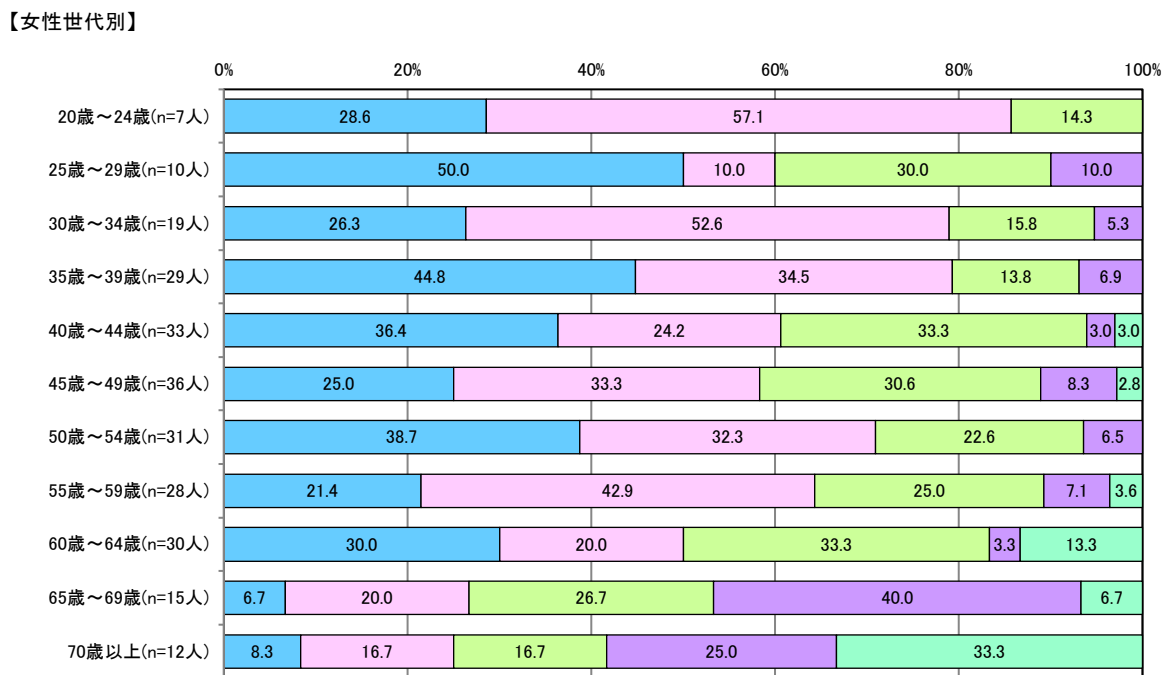
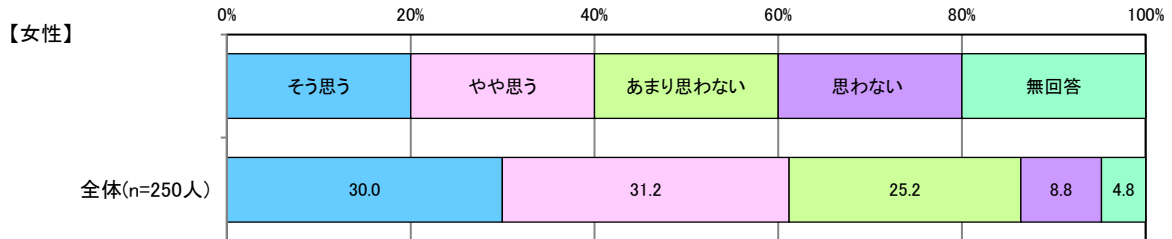
### 3 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「そう思う」という回答が最も多く 40.0%、次いで「ややそう思う」が 38.0%と続いている。
- ・世代別では、65歳以上を除き、いずれの年代でも「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が「結婚していないがパートナーがいる」(57.1%)で最も多い回答となっている。一方、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、いずれも6割以上となっている。



#### 4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

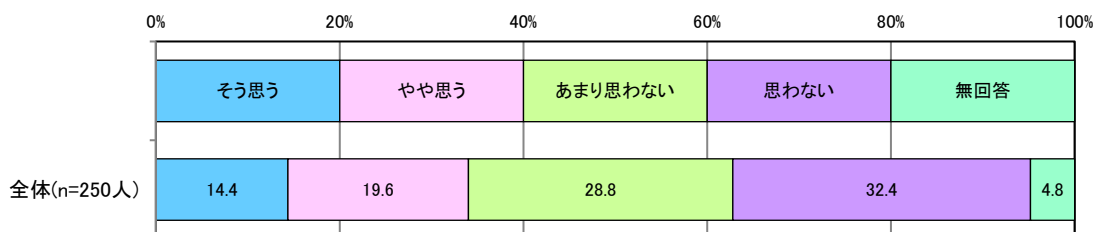
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が31.2%で最も多く、次いで「そう思う」が30.0%となっている。
- ・世代別でみると、65歳以上を除き、いずれの世代においても「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が5割を超えている。特に、20歳～24歳、30歳～39歳、50歳～54歳では、7割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、どの方も同じような回答傾向となっている。



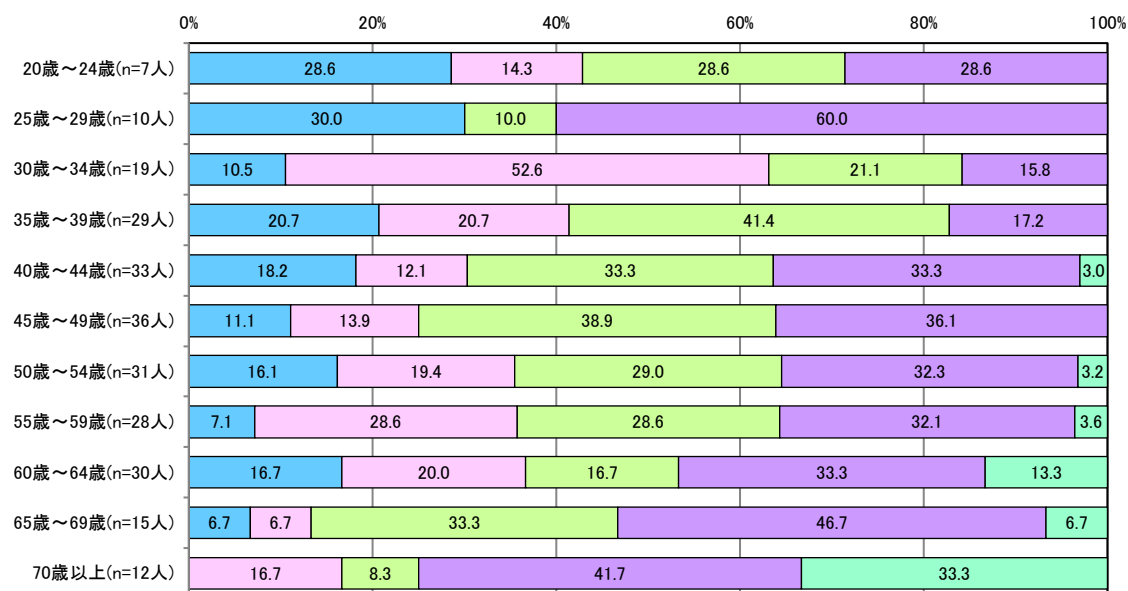
## 5 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が32.4%で最も多くなっている。
- ・世代別でみると、30歳～34歳を除き、「思わない」「あまり思わない」という回答合計が5割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「そう思う」の回答が、「結婚していないがパートナーがいる」(28.6%)、「結婚していない」(23.8%)で2割を超えている。

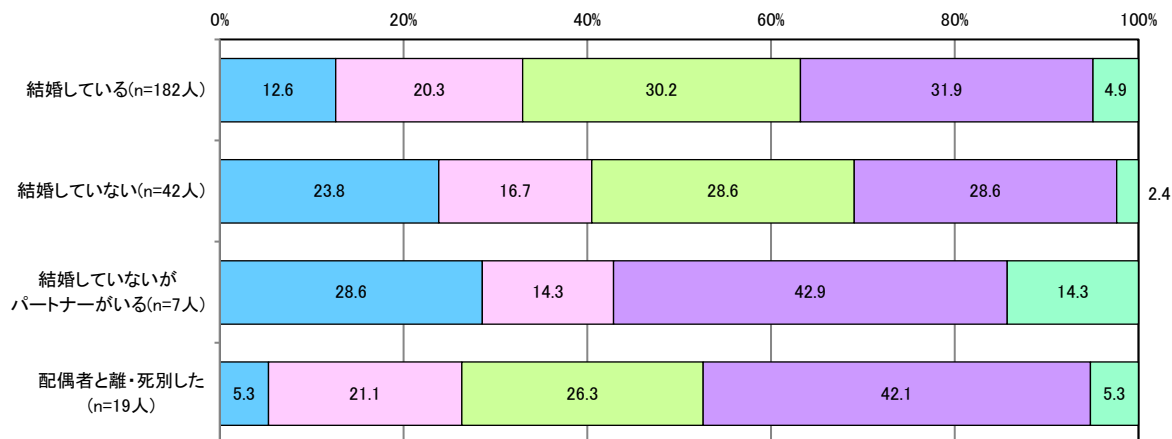
### 【女性】



### 【女性世代別】



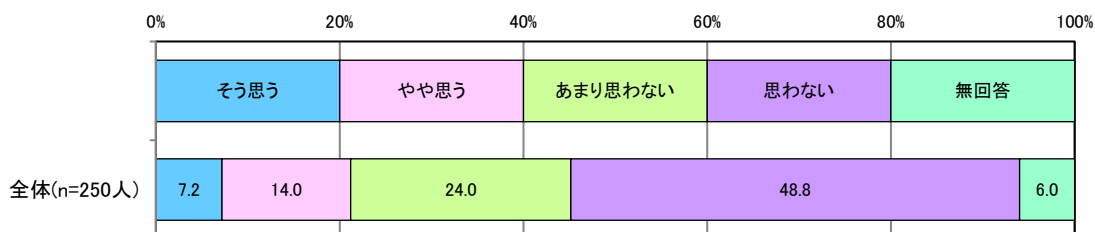
### 【配偶者の有無】



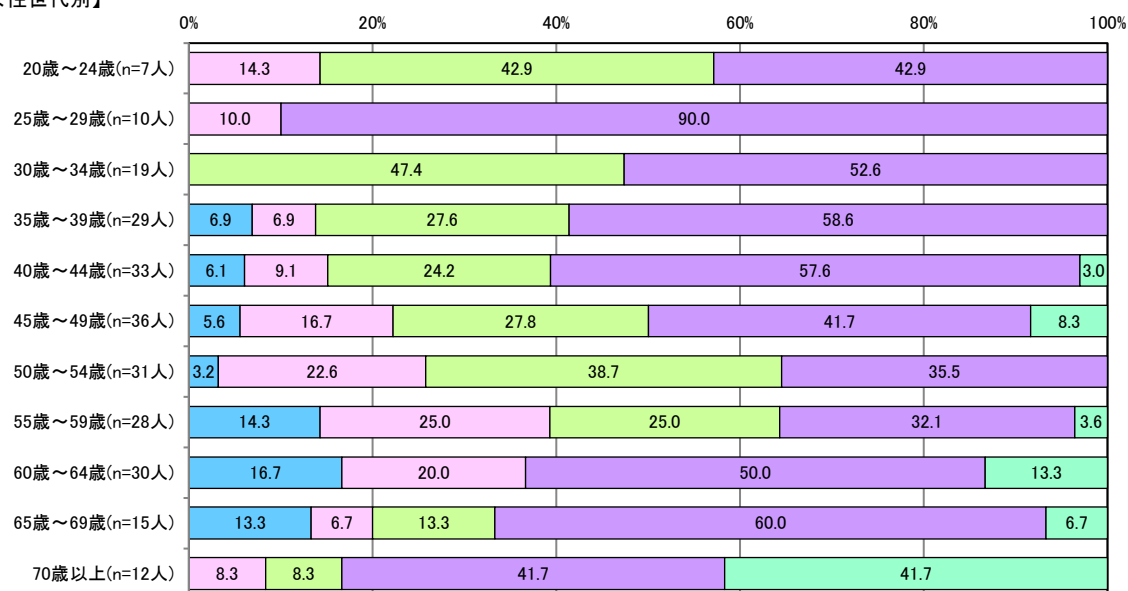
## 6 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が48.8%と約5割となっている。
- ・世代別でみると、20歳～24歳、50歳～54歳の年代を除き、いずれの年代においても「思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・配偶者の有無でみると、「思わない」という回答が、全ての方の最も多い回答割合となっている。

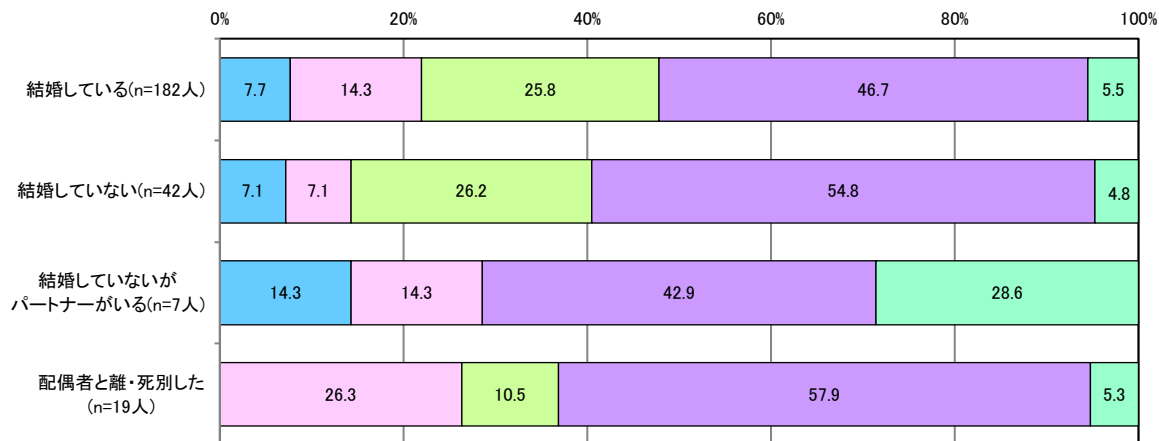
### 【女性】



### 【女性世代別】



### 【配偶者の有無】

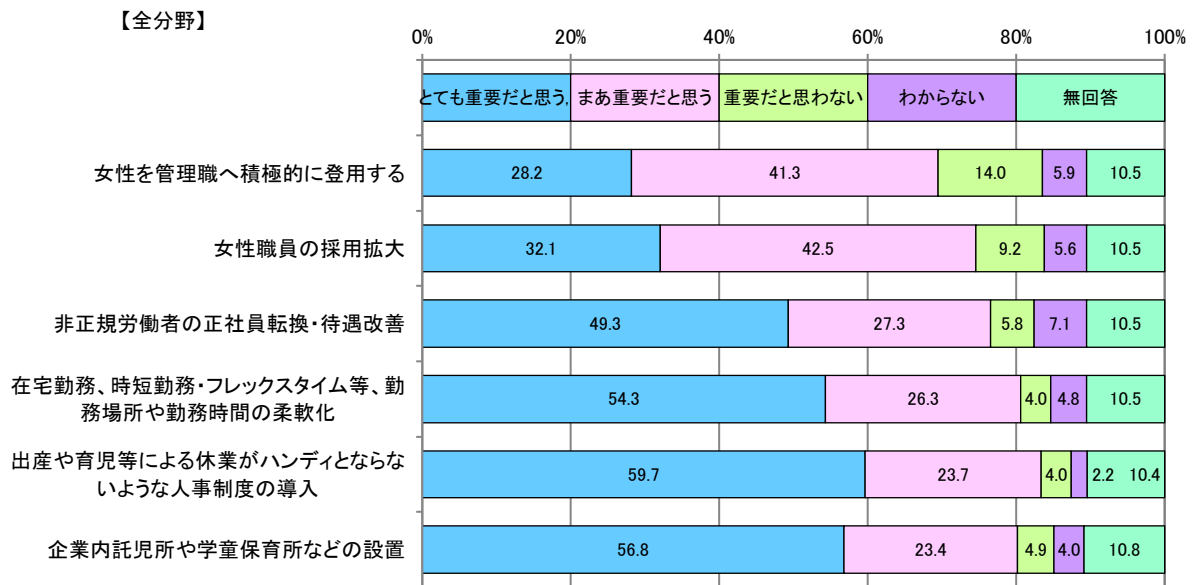


問 10 職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「女性を管理職へ積極的に登用する」、「女性職員の採用拡大」以外で、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」（59.7%）が約6割と最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」（56.8%）、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（54.3%）と続いている。一方、「重要だと思わない」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」が約1割（14.0%）となっている。それ以外の分野では、1割未満となっている。

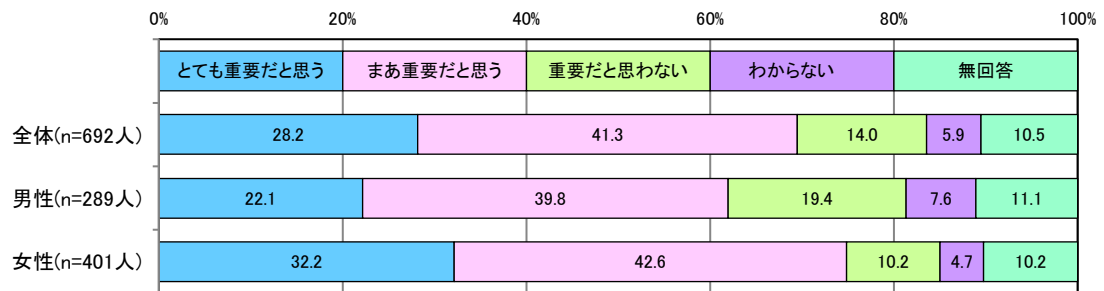


(全体 n=692 人)

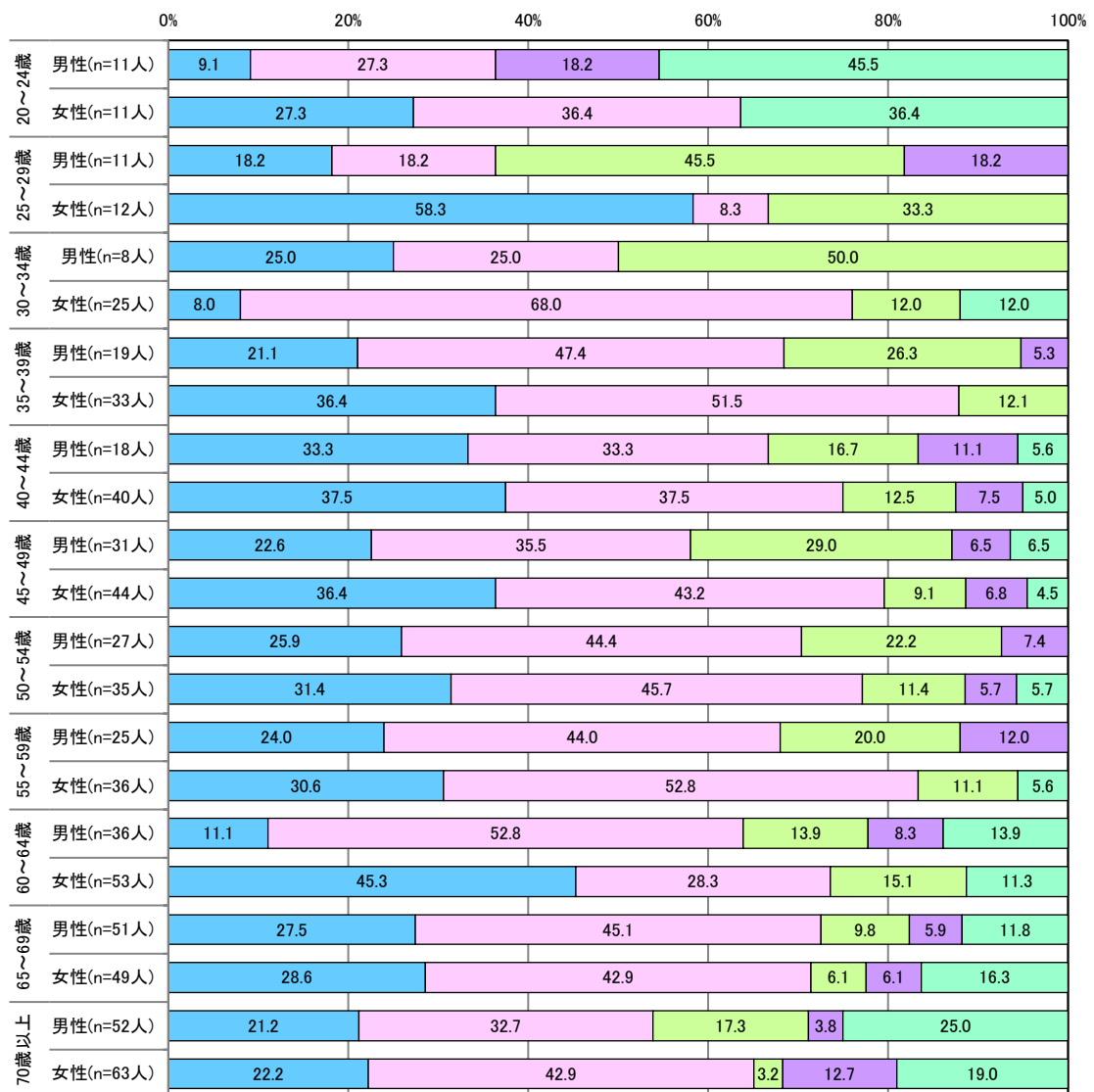
# 1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は 39.8% で、女性は 42.6% となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、35 歳～39 歳の女性、55 歳～59 歳の女性では 8 割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

【性別】



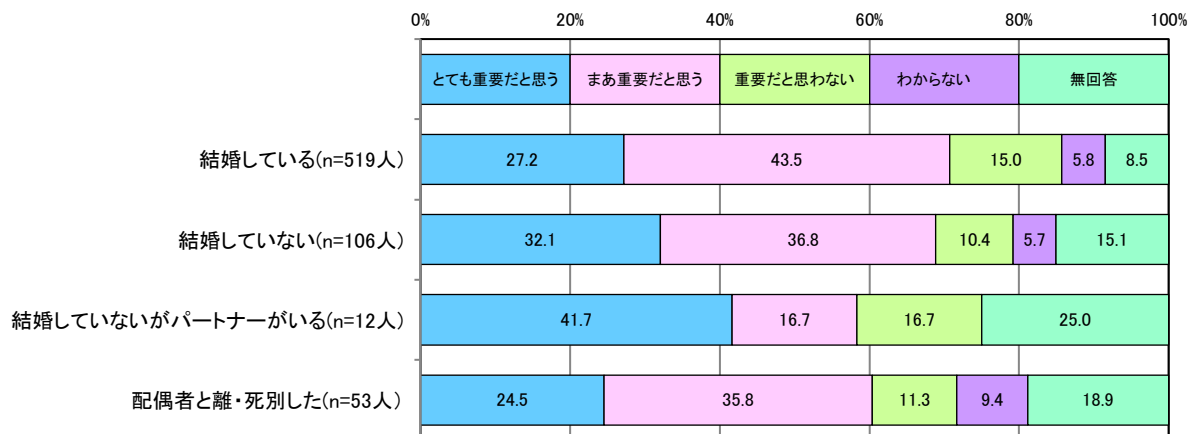
【世代別性別】





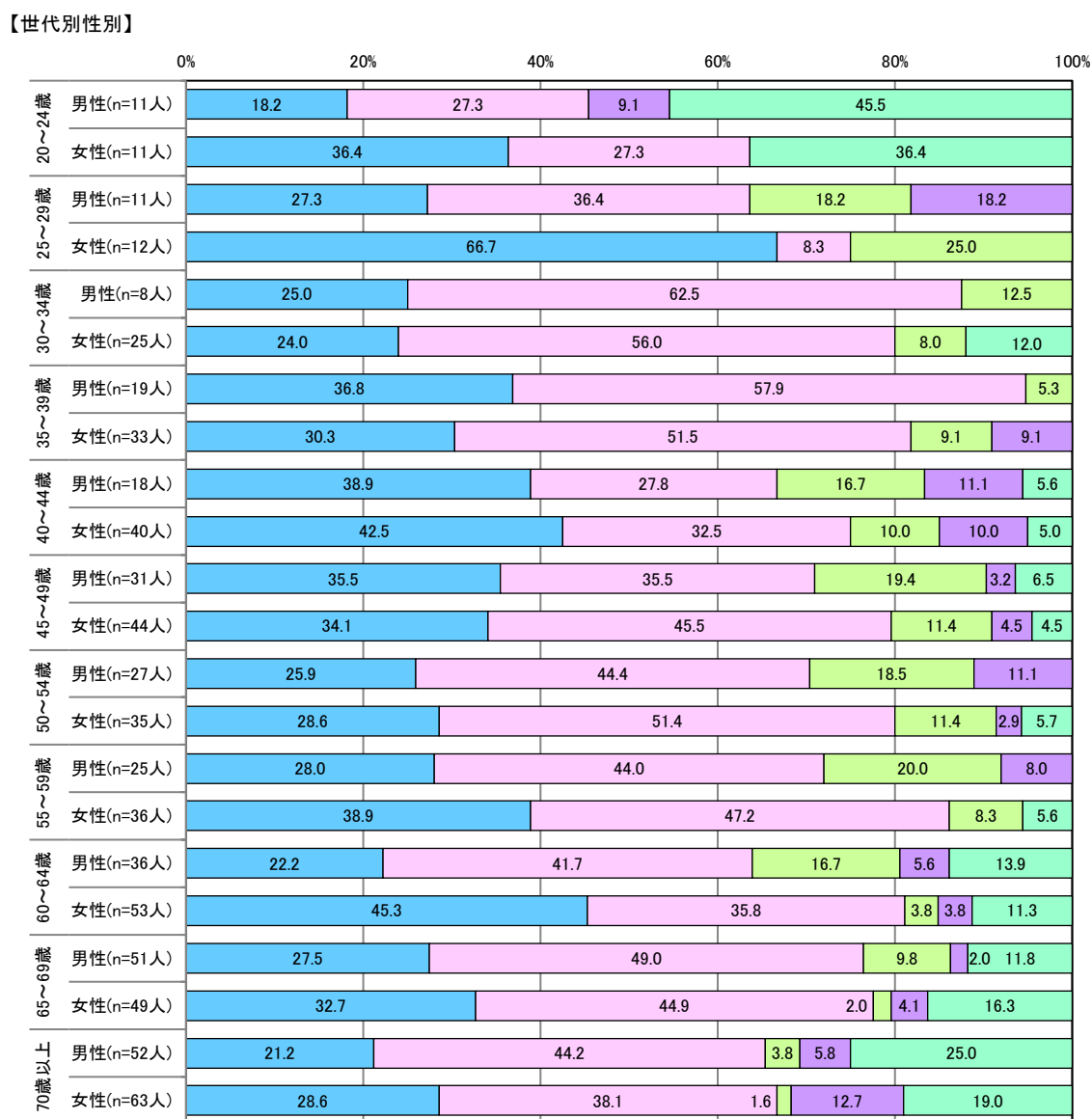
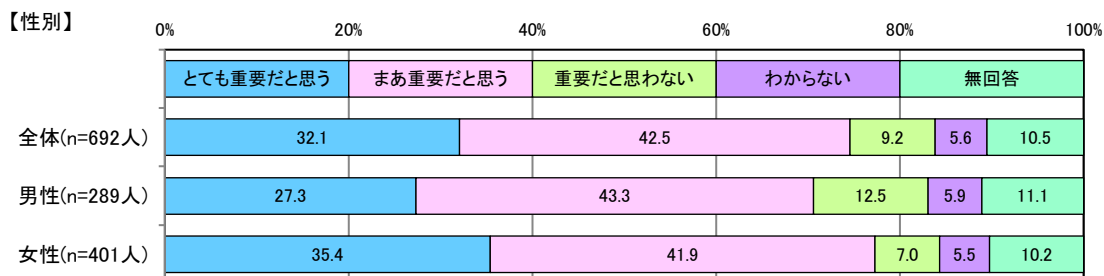
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚している」、「結婚していない」で約7割となっている。一方、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では約6割となっている。

【配偶者の有無】



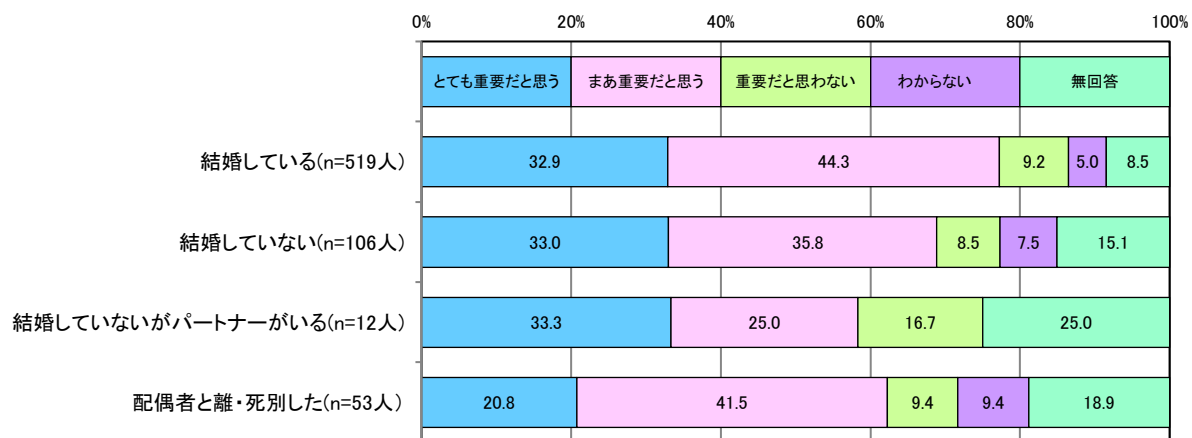
## 2 女性職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は 43.3% で、女性は 41.9% となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性を除き、いずれの世代別性別でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6 割を超えている。



- ・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚している」では7割を超えている。一方、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、約6割となっている。

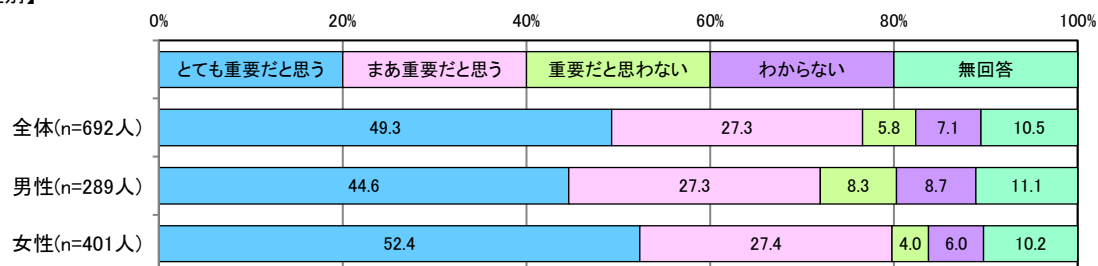
【配偶者の有無】



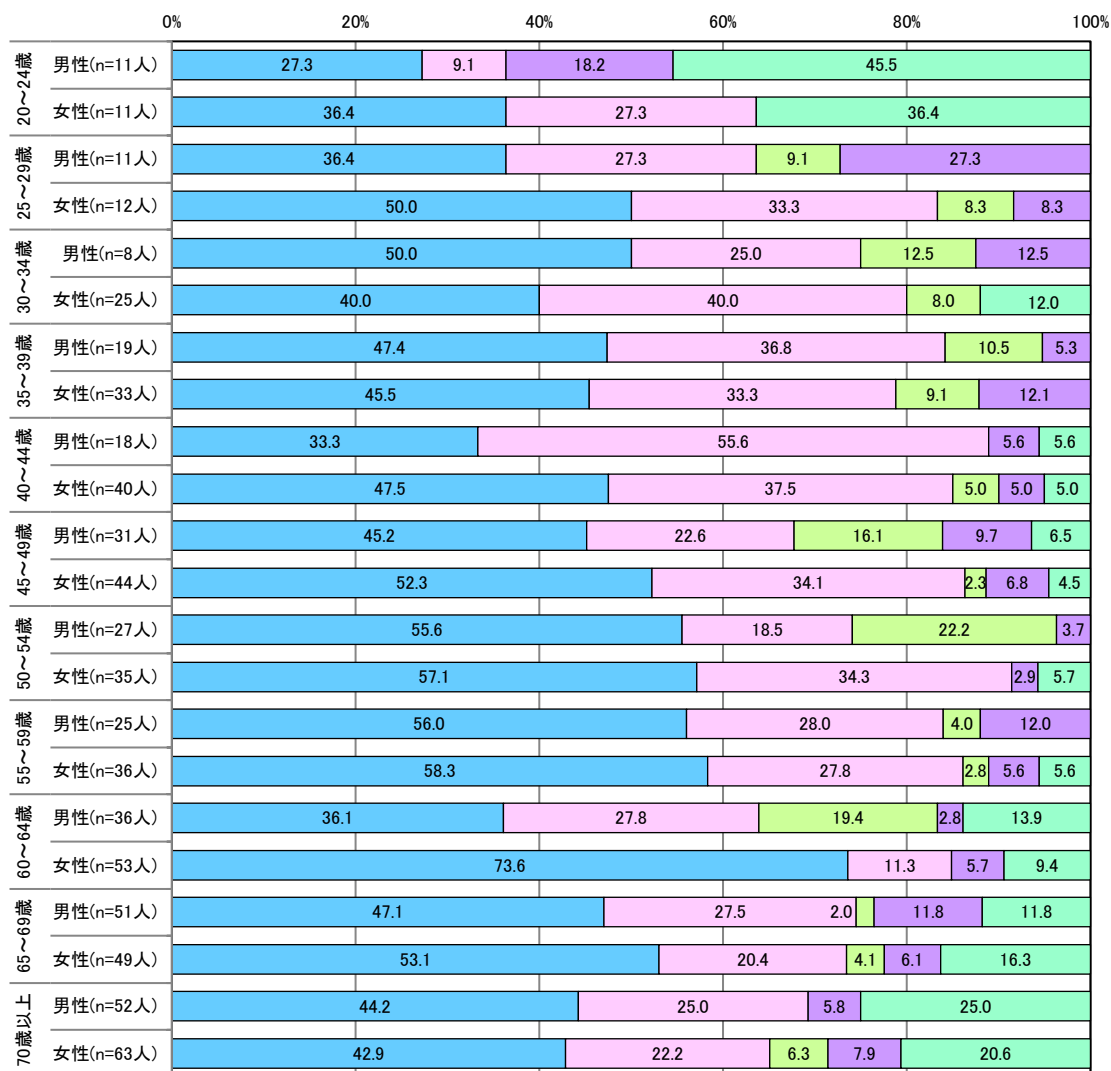
### 3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

- ・性別で見ると、男女とも「とても重要だと思う」という回答が最も多く、男性が 44.6%、女性が 52.4%となっている。
- ・世代別性別では、20 歳～24 歳の男性を除き、いずれの世代別性別でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6 割を超えている。

#### 【性別】

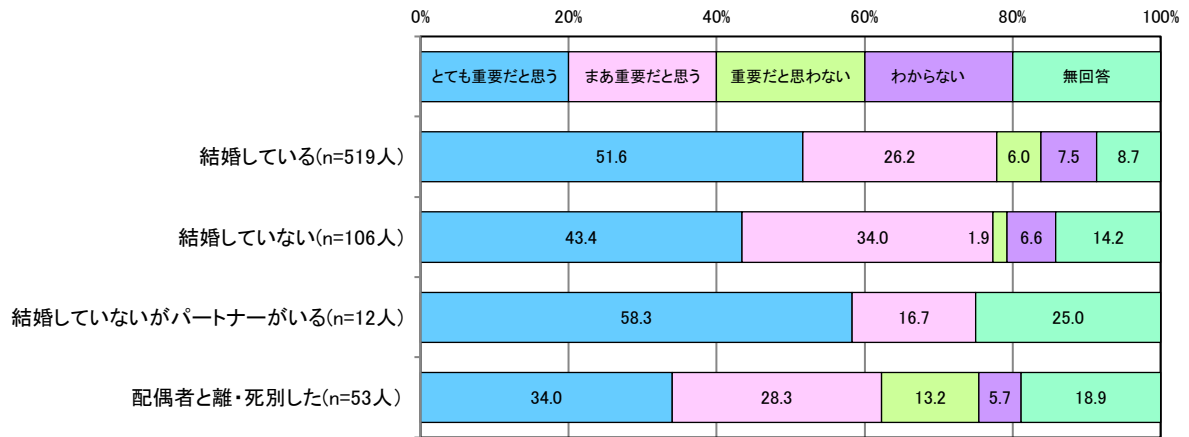


#### 【世代別性別】



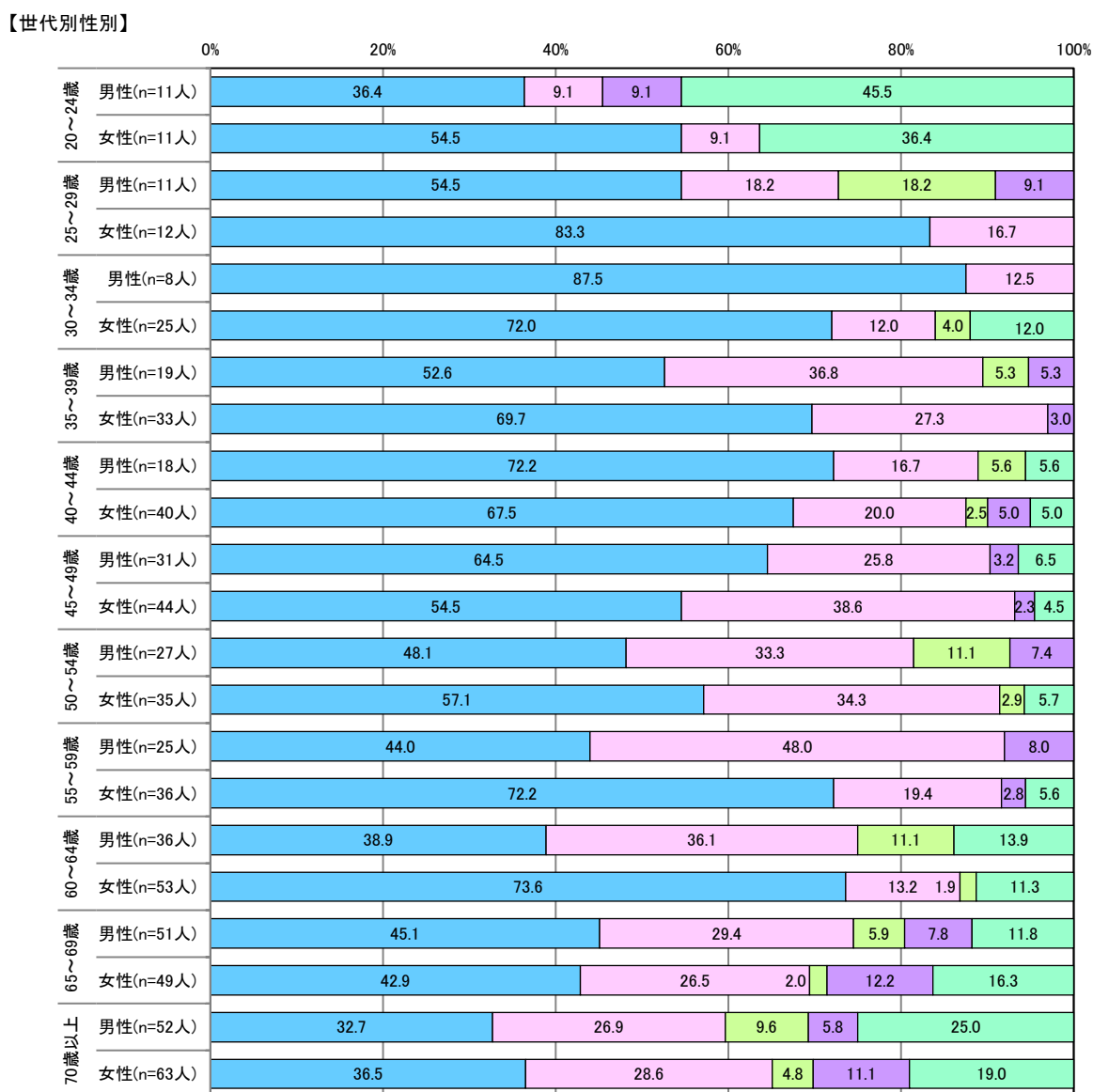
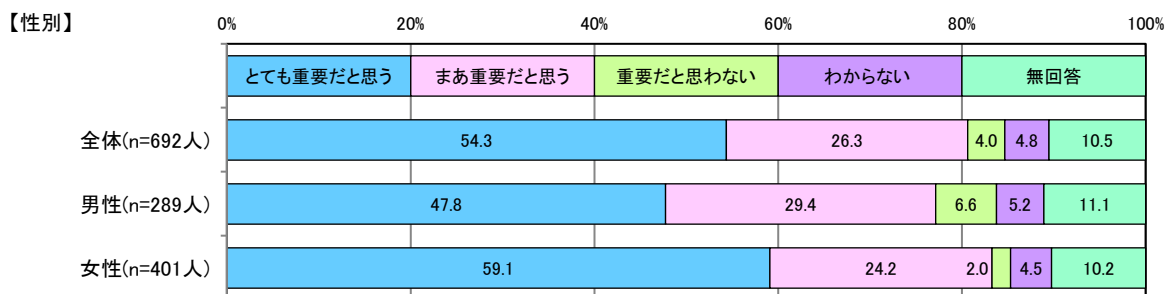
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」という回答は、「結婚している」で51.6%、「結婚していないがパートナーがいる」で58.3%と回答割合が5割を超えている。

【配偶者の有無】



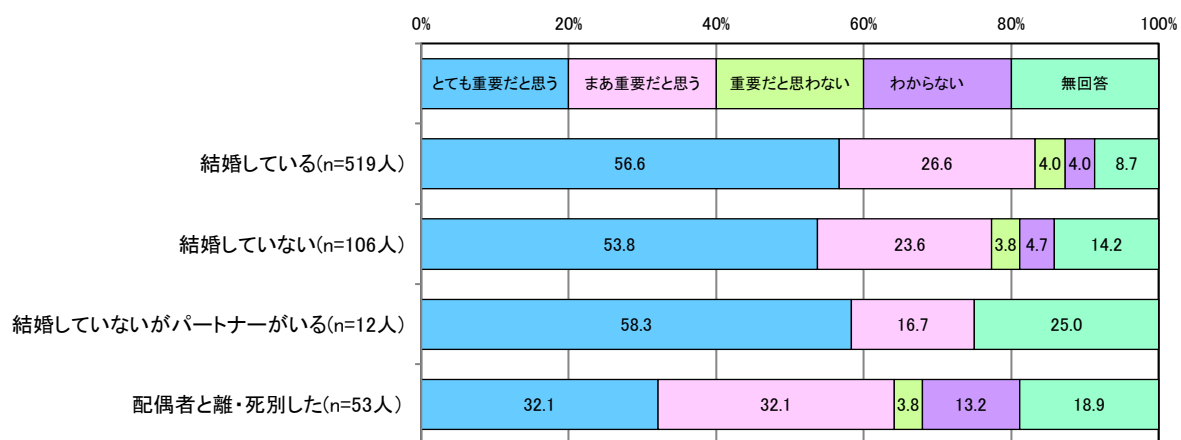
#### 4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別で見ると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が47.8%、女性が59.1%となっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の女性、30歳～34歳の男性では、「とても重要だと思う」という回答が8割を超えており、特に高い回答割合となっている。



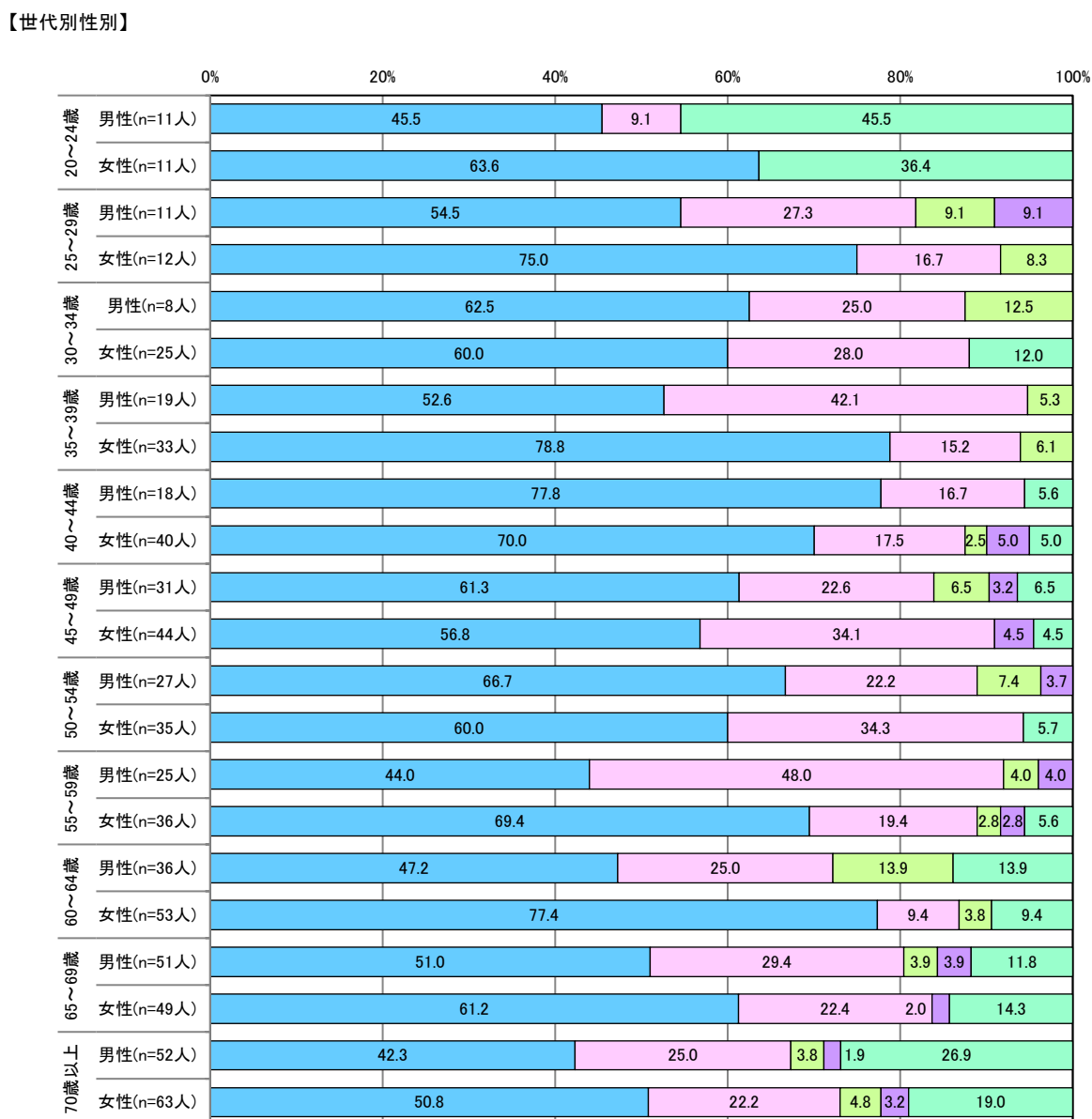
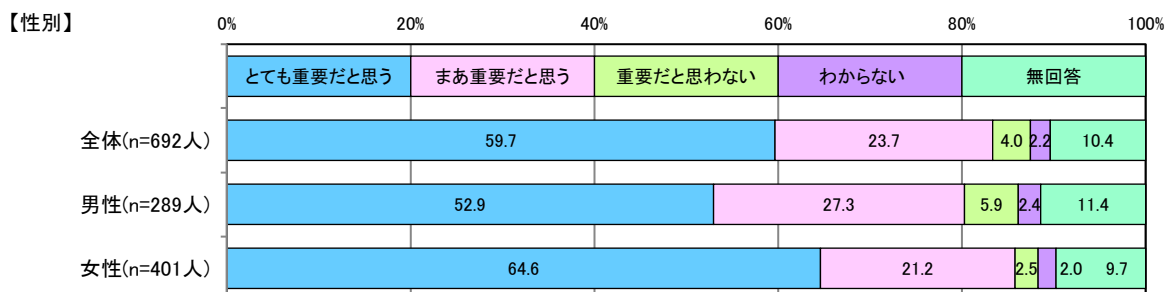
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が「結婚している」で83.2%と8割を超えている。

【配偶者の有無】



## 5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

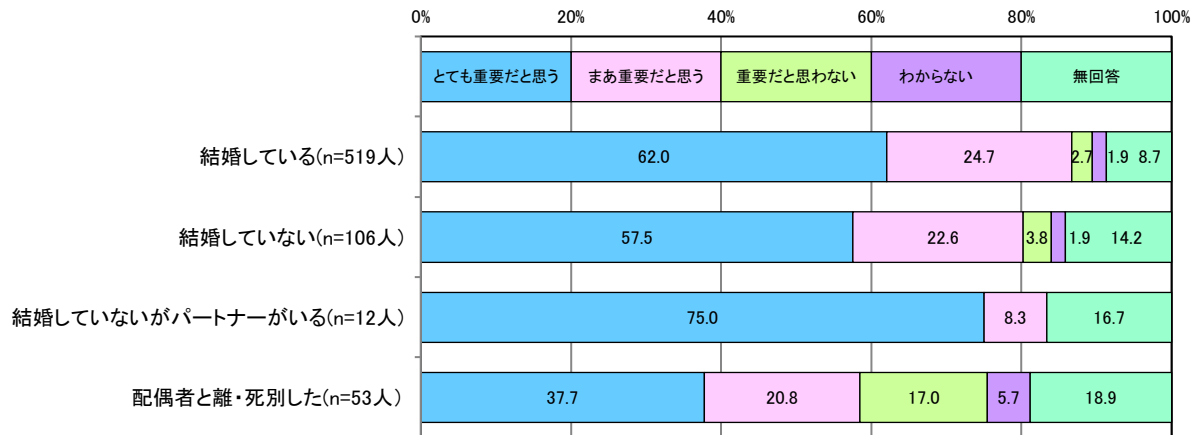
- ・性別で見ると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が52.9%、女性が64.6%となっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の女性、35歳～44歳の女性、40歳～44歳の男性、60歳～64歳の女性では、「とても重要だと思う」が7割以上となっている。





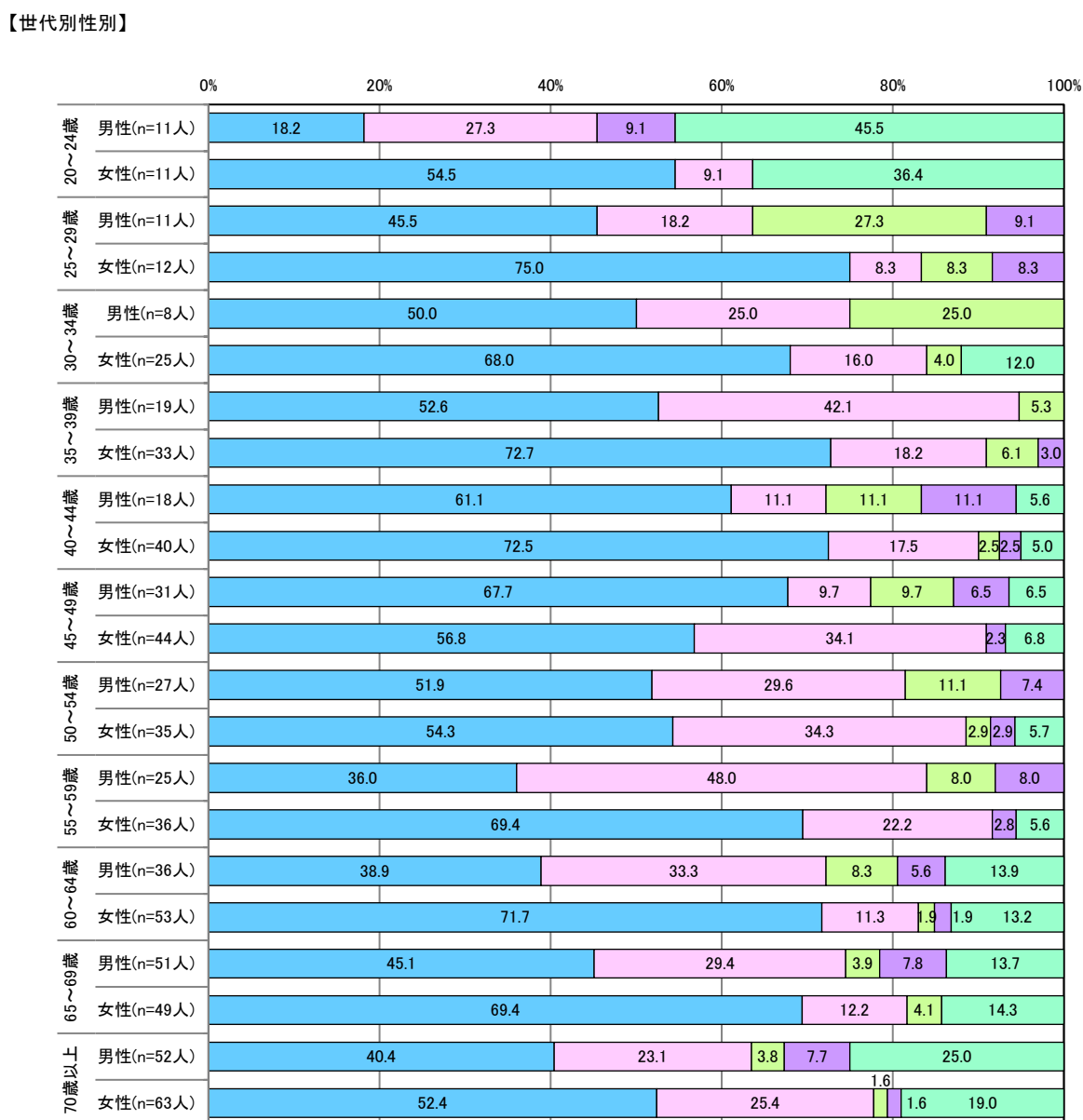
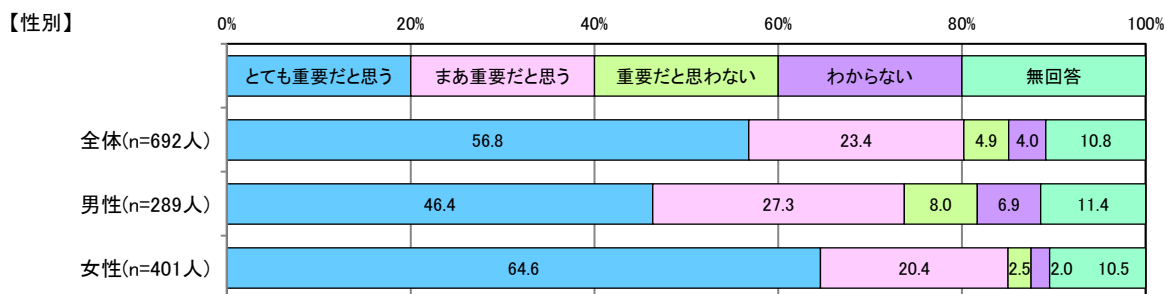
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「配偶者と離・死別した」では6割に満たない。一方、他は8割を超えている。

【配偶者の有無】



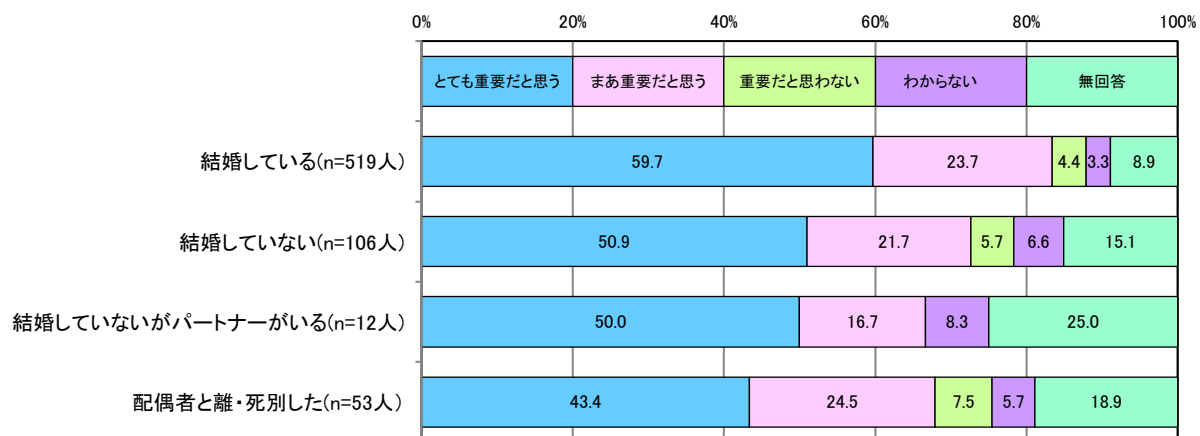
## 6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別で見ると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が46.4%、女性が64.6%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～24歳及び55歳～59歳の男性を除き、いずれの年代においても「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。特に、25歳～29歳の女性、35歳～44歳の女性、60歳～64歳の女性では、7割を超えている。



- ・配偶者の有無でみると、いずれも「とても重要だと思う」という回答が最も多い。特に、「結婚している」では59.7%と約6割となっている。

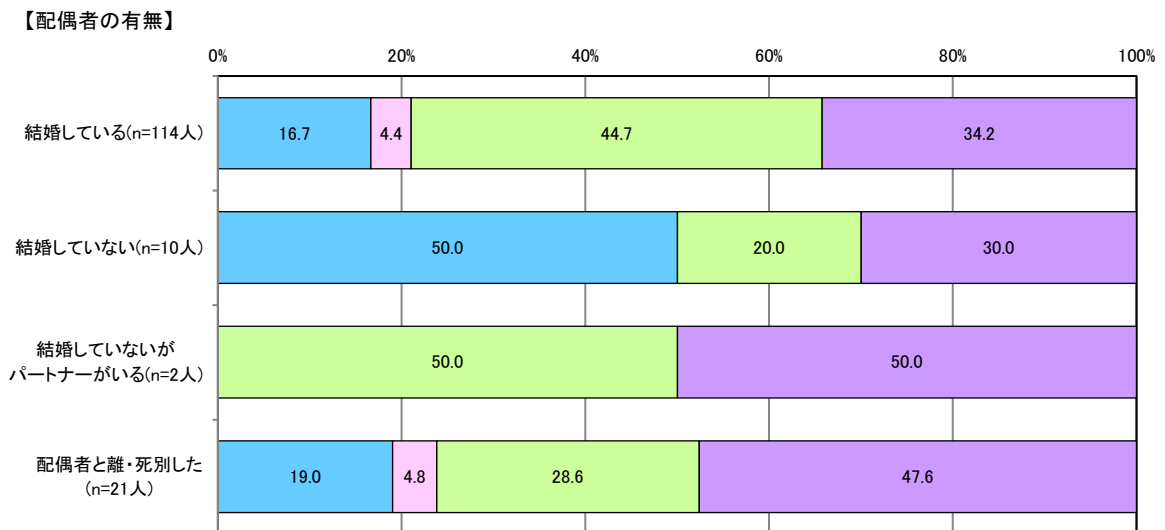
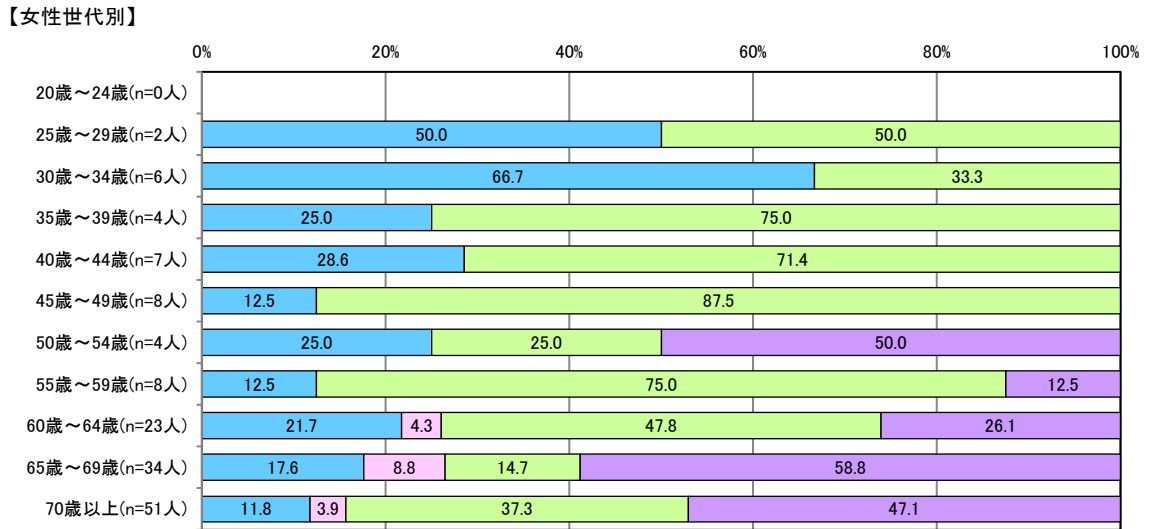
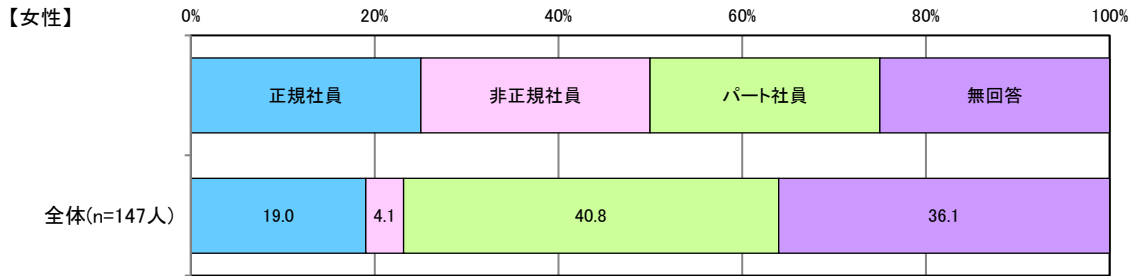
【配偶者の有無】



問 11 離職されている女性の方におたずねします。

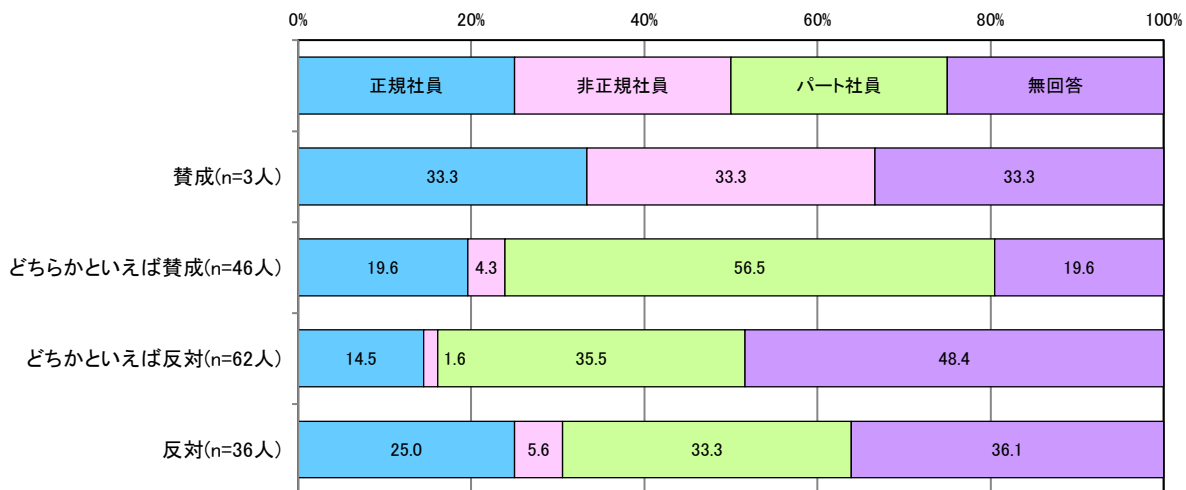
再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」（40.8%）という回答が約4割と最も多く、次いで、「正規社員」（19.0%）となっている。
- ・世代別でみると、35歳～49歳、55歳～59歳で、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が7割を超え、多い傾向にある。
- ・配偶者の有無でみると、「正規社員」という回答が、「結婚していない」で50.0%と他に比べて回答割合が高い傾向になっている。



- ・男女の役割の固定についてみると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が「どちらかといえば賛成」で 56.5%と他に比べて回答割合が高い傾向になっている。

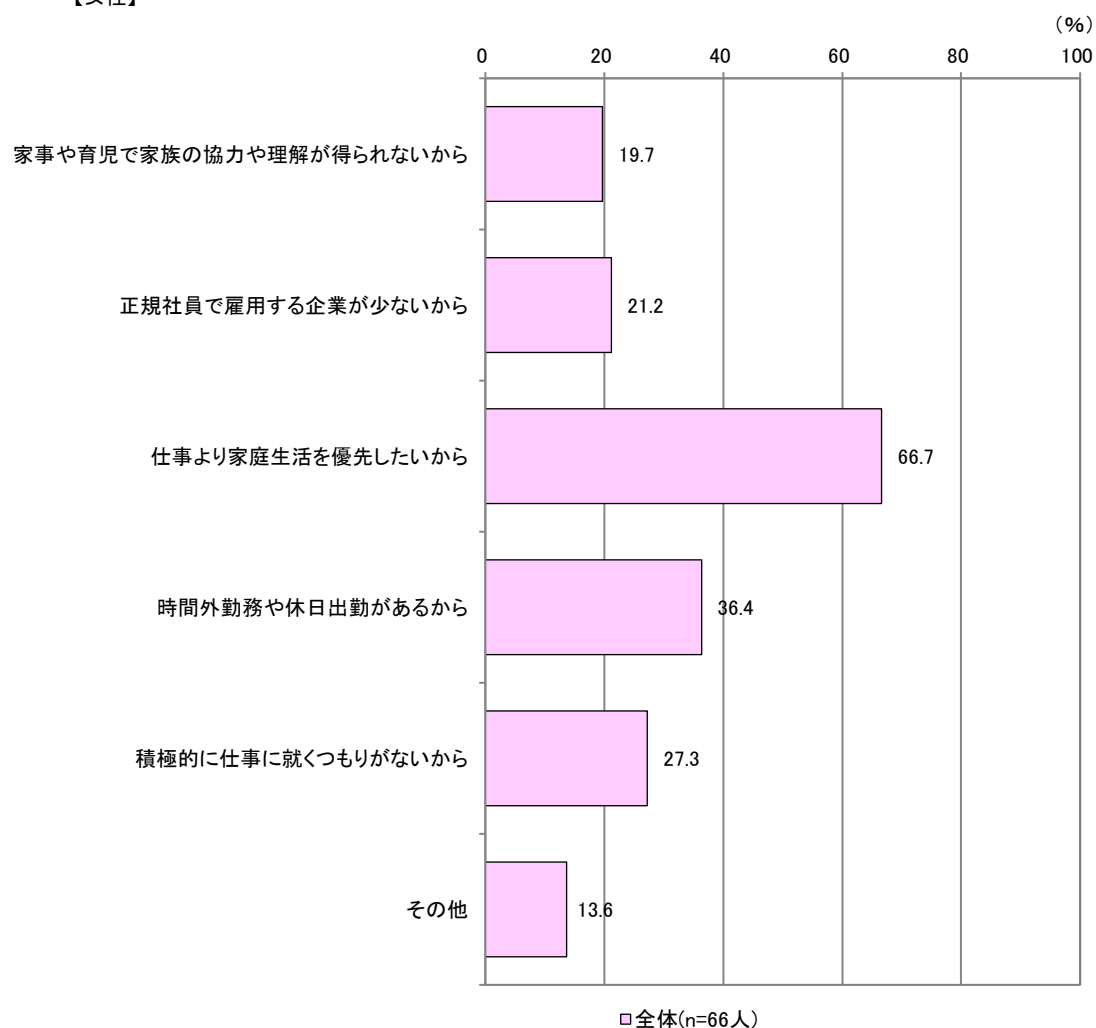
【男女の役割の固定について】



問 12 問 11 で「非正規社員」または「パート社員」を選ばれた方におたずねします。  
その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」(66.7%) が最も多い回答となっている。次いで、「時間外勤務や休日出勤があるから」(36.4%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(27.3%) の順で続いている。

【女性】

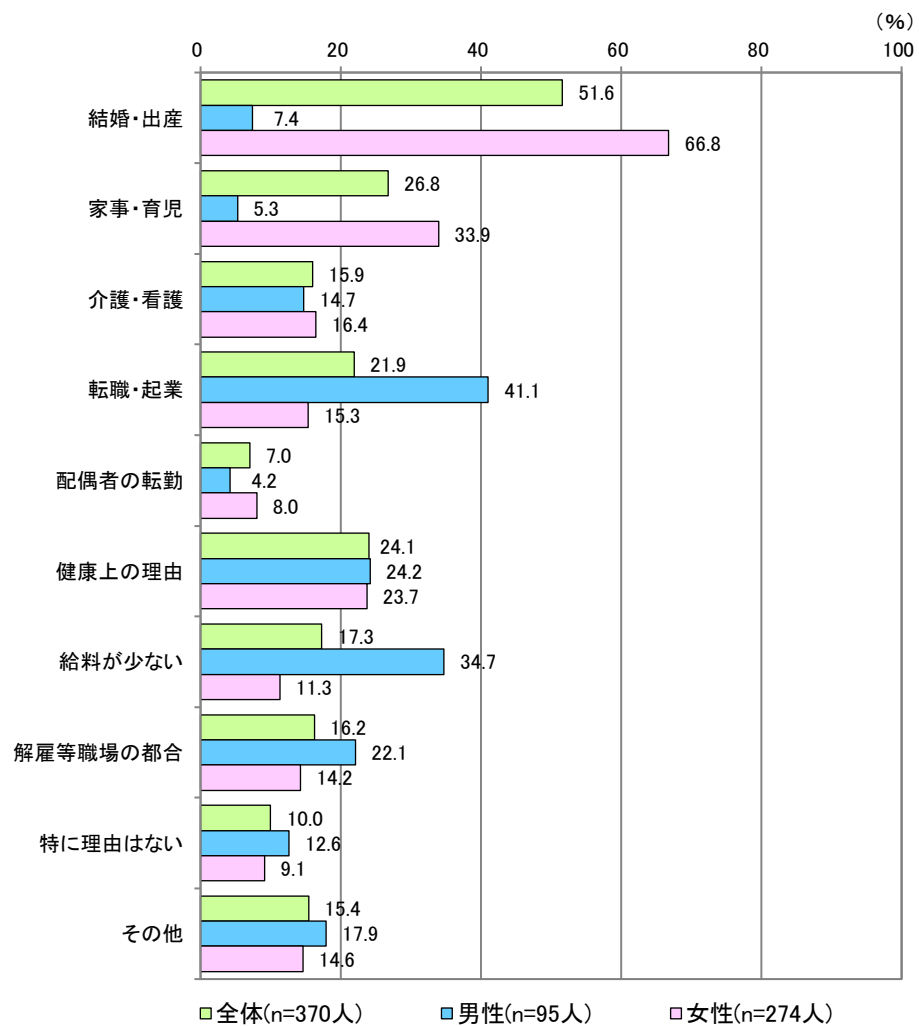


問 13 離職経験のある方におたずねします。

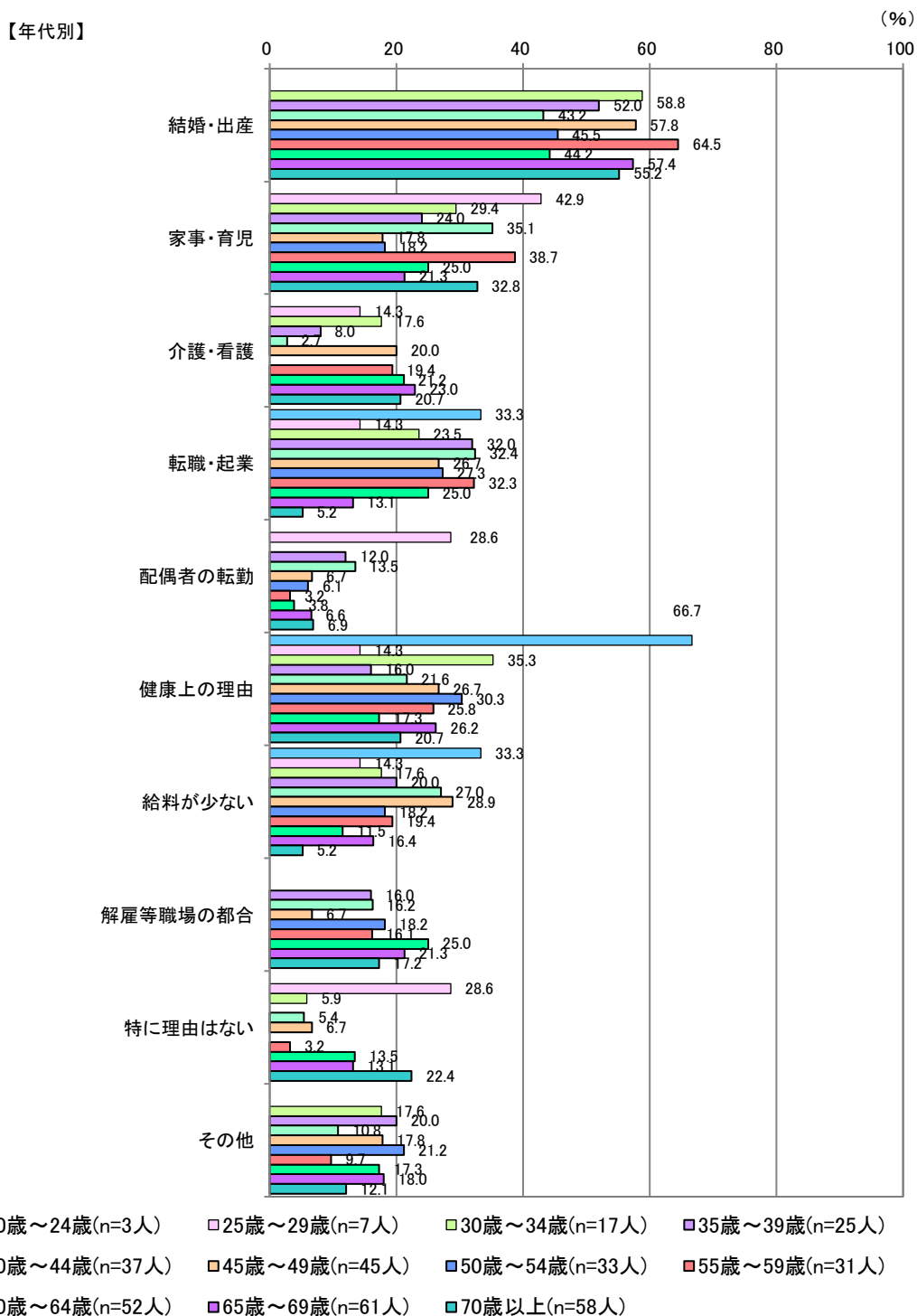
離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚・出産」(51.6%) が最も多い回答となっている。次いで、「家事・育児」(26.8%)、「健康上の理由」(24.1%) の順が続いている。
  - ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」(41.1%)、「給料が少ない」(34.7%)、「健康上の理由」(24.2%) の順となっている。女性は、「結婚・出産」(66.8%)、「家事・育児」(33.9%)、「健康上の理由」(23.7%) の順となっている。
- (※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

【性別】



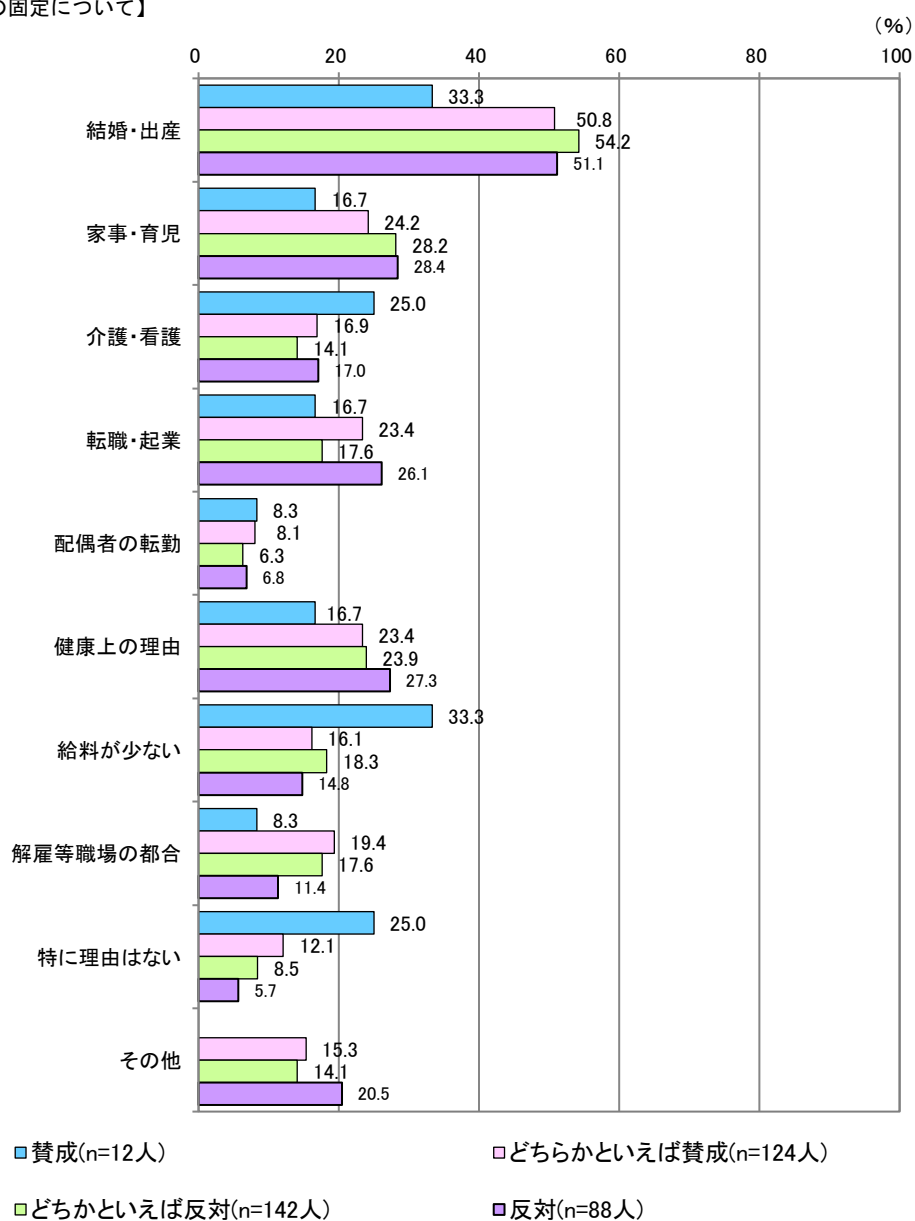
・年代別でみると、「結婚・出産」、「家事・育児」という回答では、年代による増減の波がみられる。





- ・男女の役割の固定についてみると、離職の原因の間での差は、項目ごとに一定の差はあるものの、その差はあまり大きくないといえる。

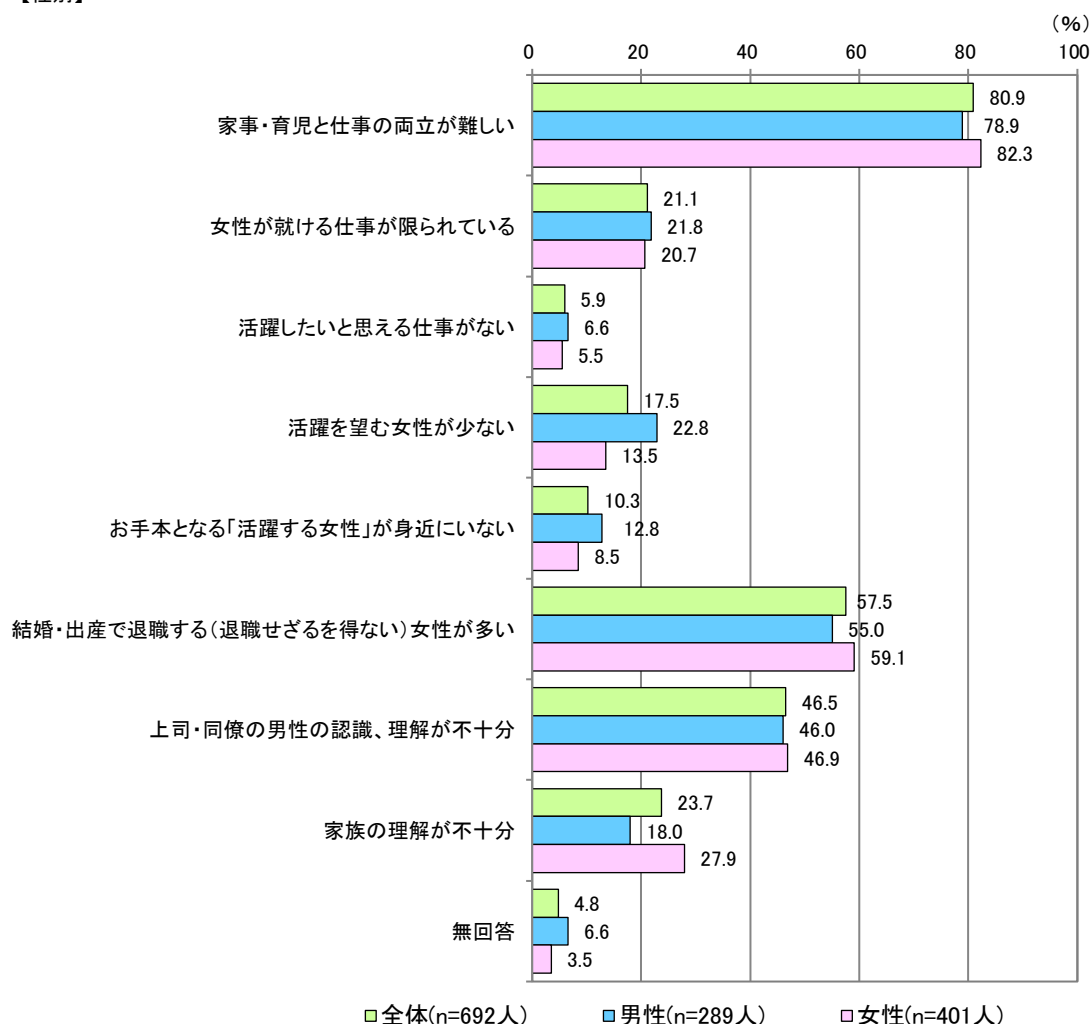
【男女の役割の固定について】



問 14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。  
該当するものを3つまでお選びください。

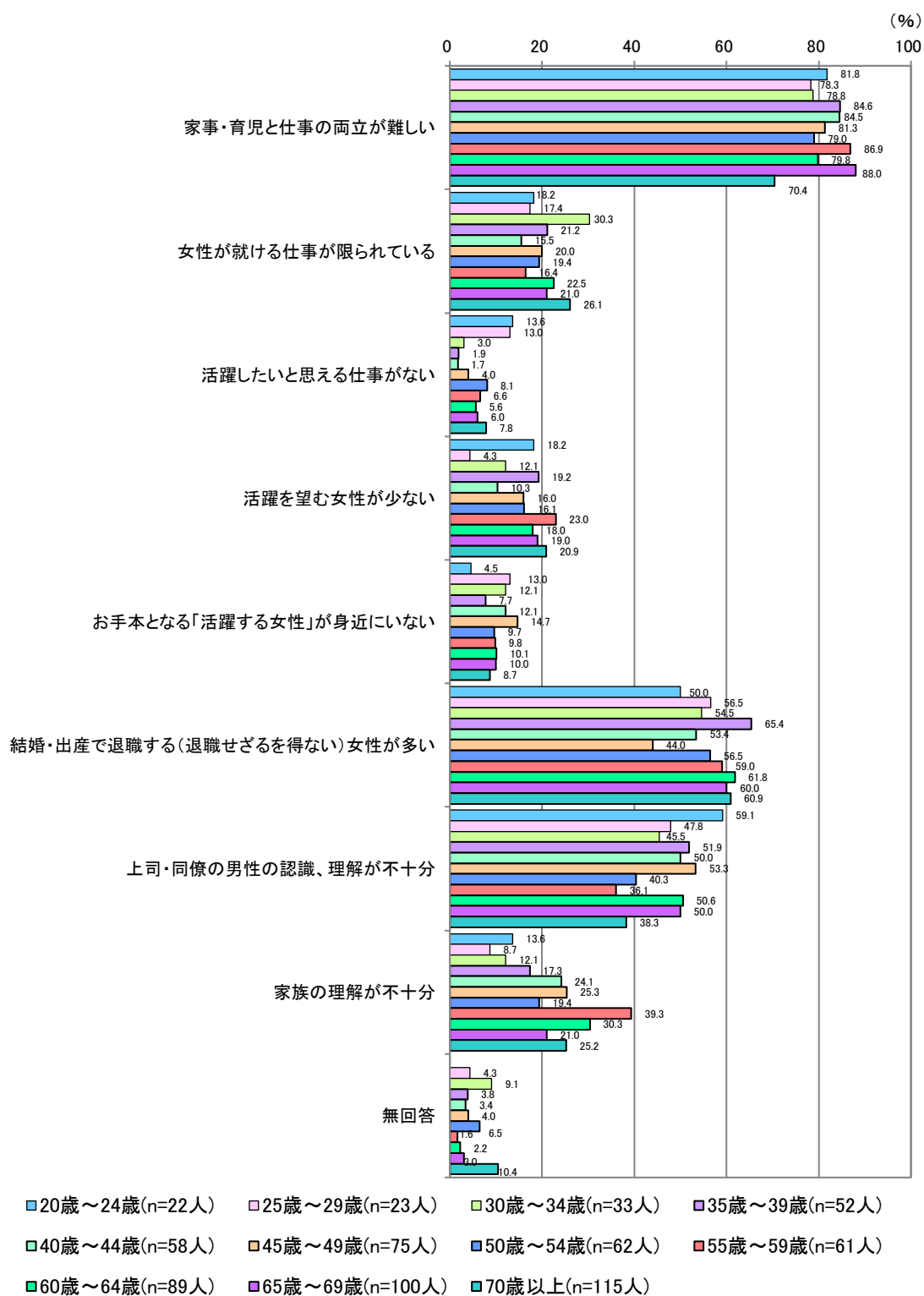
- ・全体でみると、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(80.9%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(57.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.5%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(78.9%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(55.0%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.0%)、「活躍を望む女性が少ない」(22.8%)の順となっている。女性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(82.3%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(59.1%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.9%)、「家族の理解が不十分」(27.9%)の順となっている。

【性別】

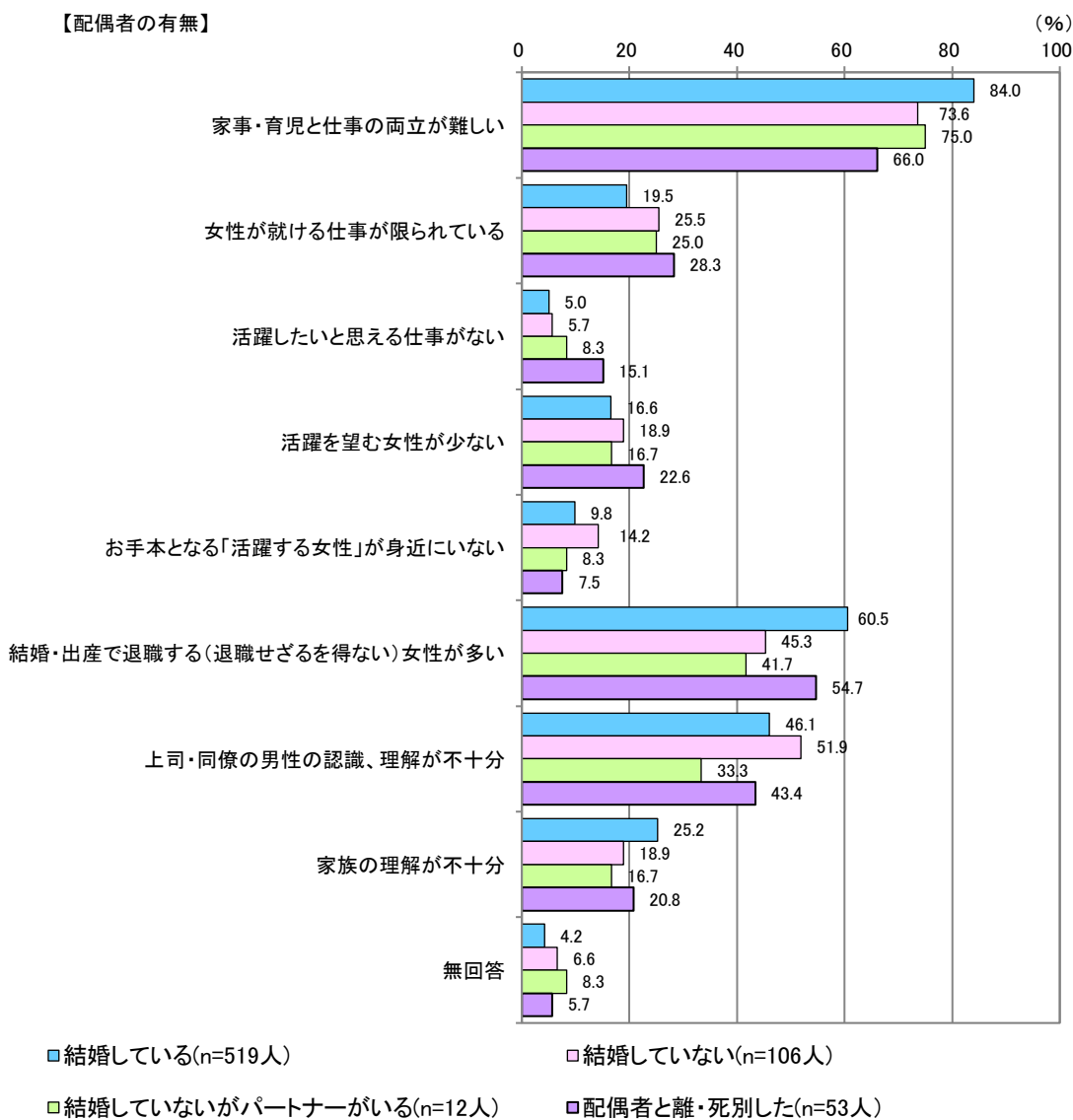


- ・年代別でみると、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」という回答では、45歳～49歳で他の年代に比べ回答割合がやや低くなっている。「家族の理解が不十分」という回答では、55歳～64歳までの年代で3割を超えている。

【年代別】



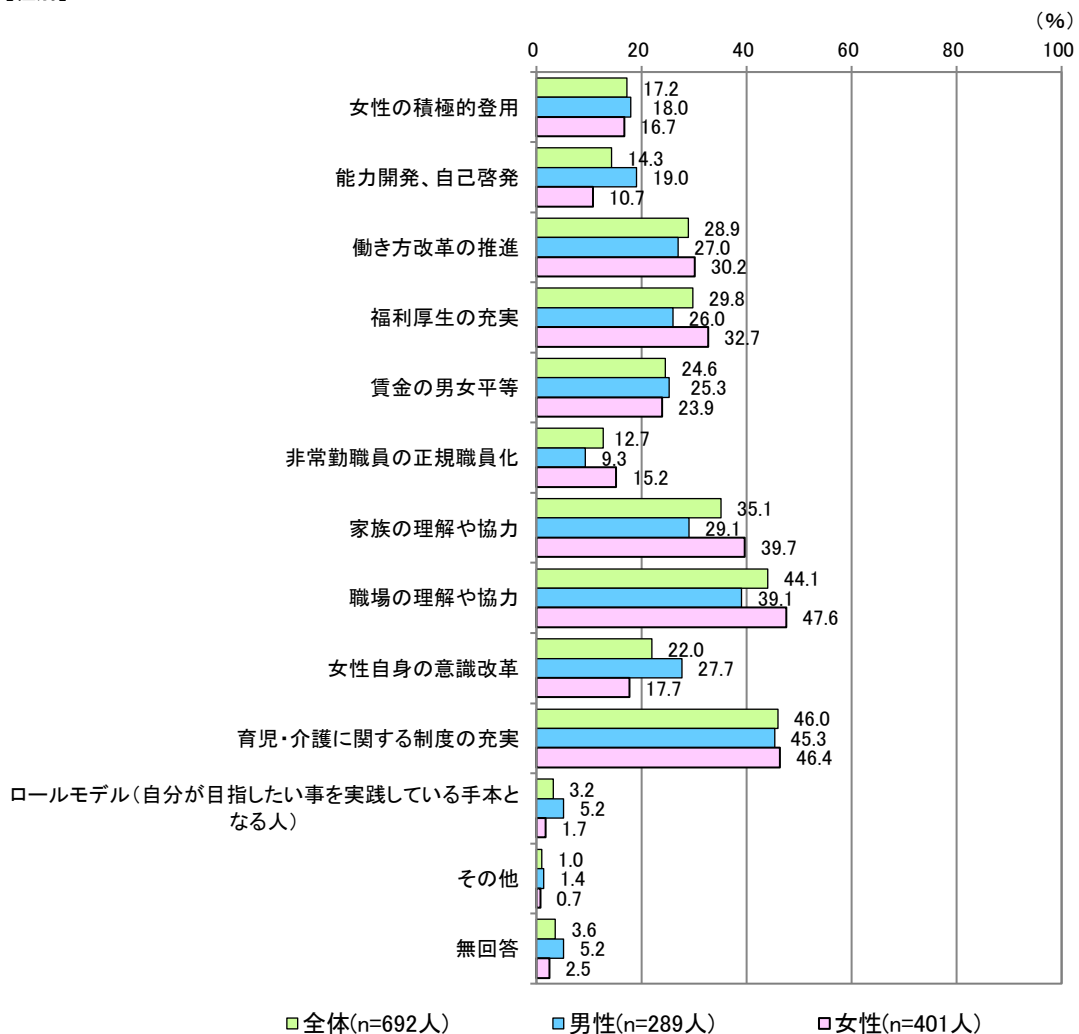
・配偶者の有無でみると、いずれも「家事・育児と仕事の両立が難しい」が6割を超え、最も多くなっている。次いで、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。一方、「結婚していない」では、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」が「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」よりもやや多くなっている。



問 15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。  
該当するものを3つまでお選びください。

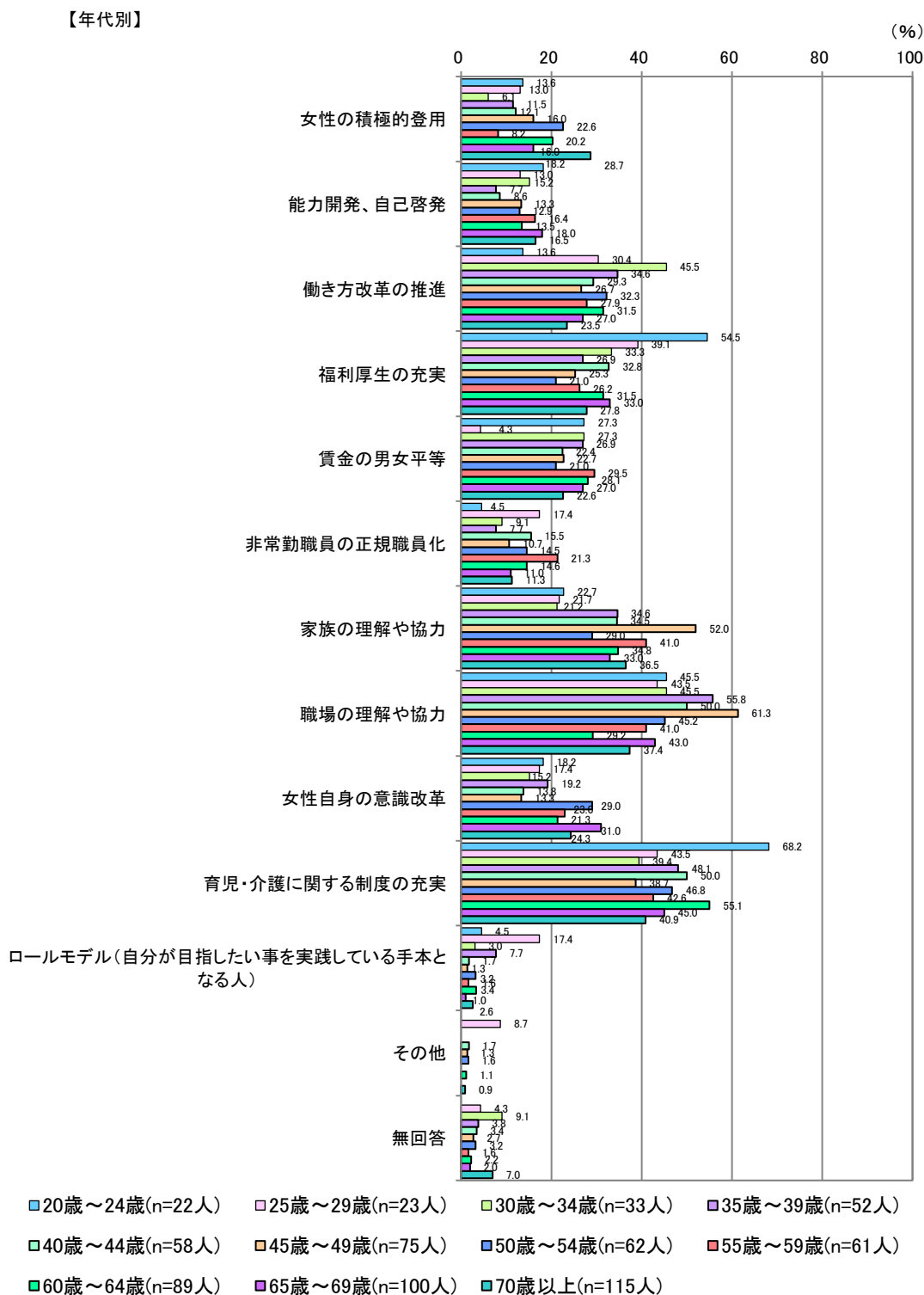
- ・全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」(46.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「職場の理解や協力」(44.1%)「家族の理解や協力」(35.1%)、「福利厚生」の充実」(29.8%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「育児・介護に関する制度の充実」(45.3%)、「職場の理解や協力」(39.1%)、「家族の理解や協力」(29.1%)の順となっている。女性は、「職場の理解や協力」(47.6%)、「育児・介護に関する制度の充実」(46.4%)、「家族の理解や協力」(39.7%)の順となっている。

【性別】



・年代別でみると、ほとんどの年代で、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、25歳～49歳では、「職場の理解や協力」が最も多いか、同率で最も多くなっている。

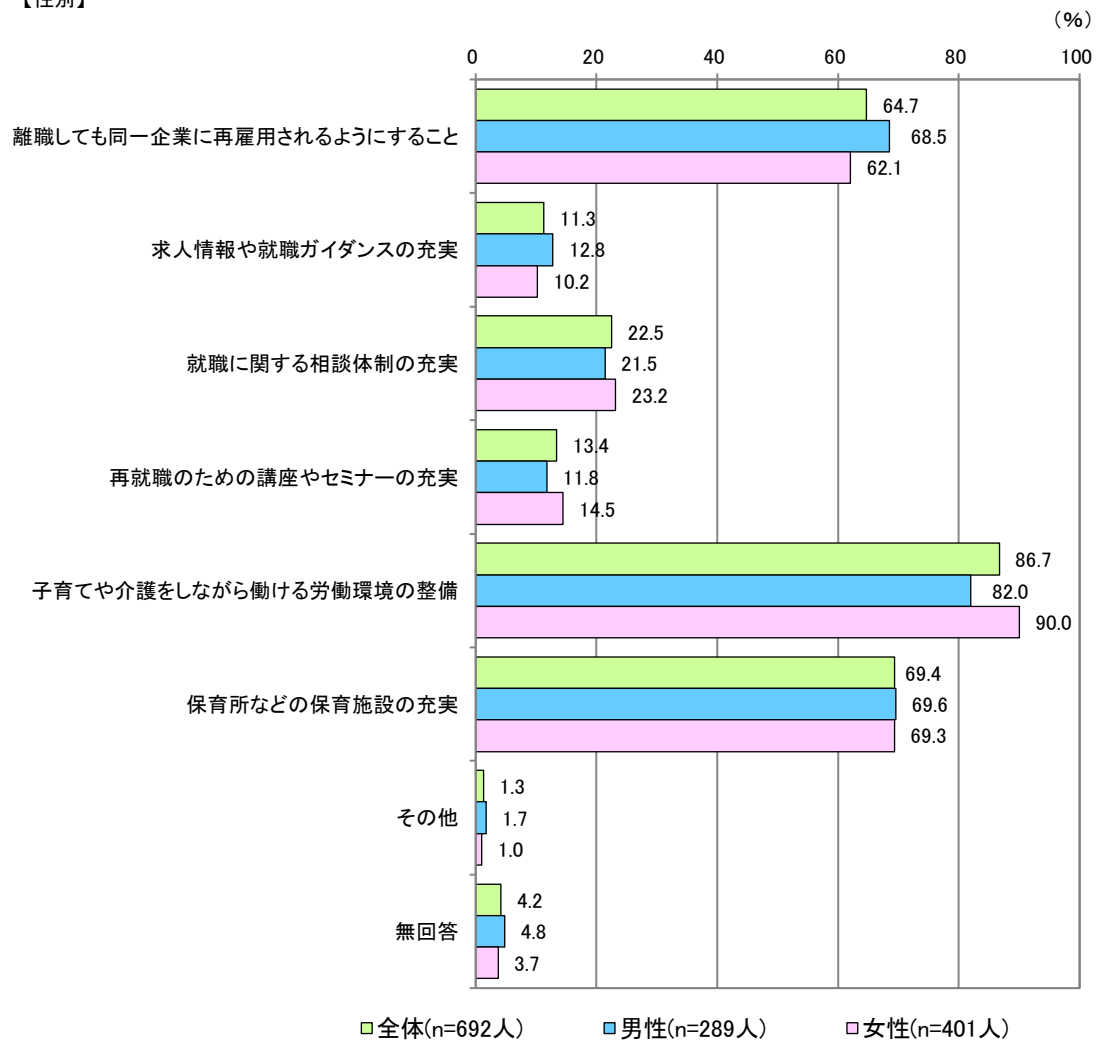
「働き方改革の推進」では、20歳～24歳で13.6%となっており、他の年代に比べ回答割合が低い傾向となっている。「育児・介護に関する制度の充実」では20歳～24歳で68.2%となっており、他の年代に比べ回答割合が高い傾向となっている。



問 16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(86.7%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(69.4%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(64.7%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」となっている。

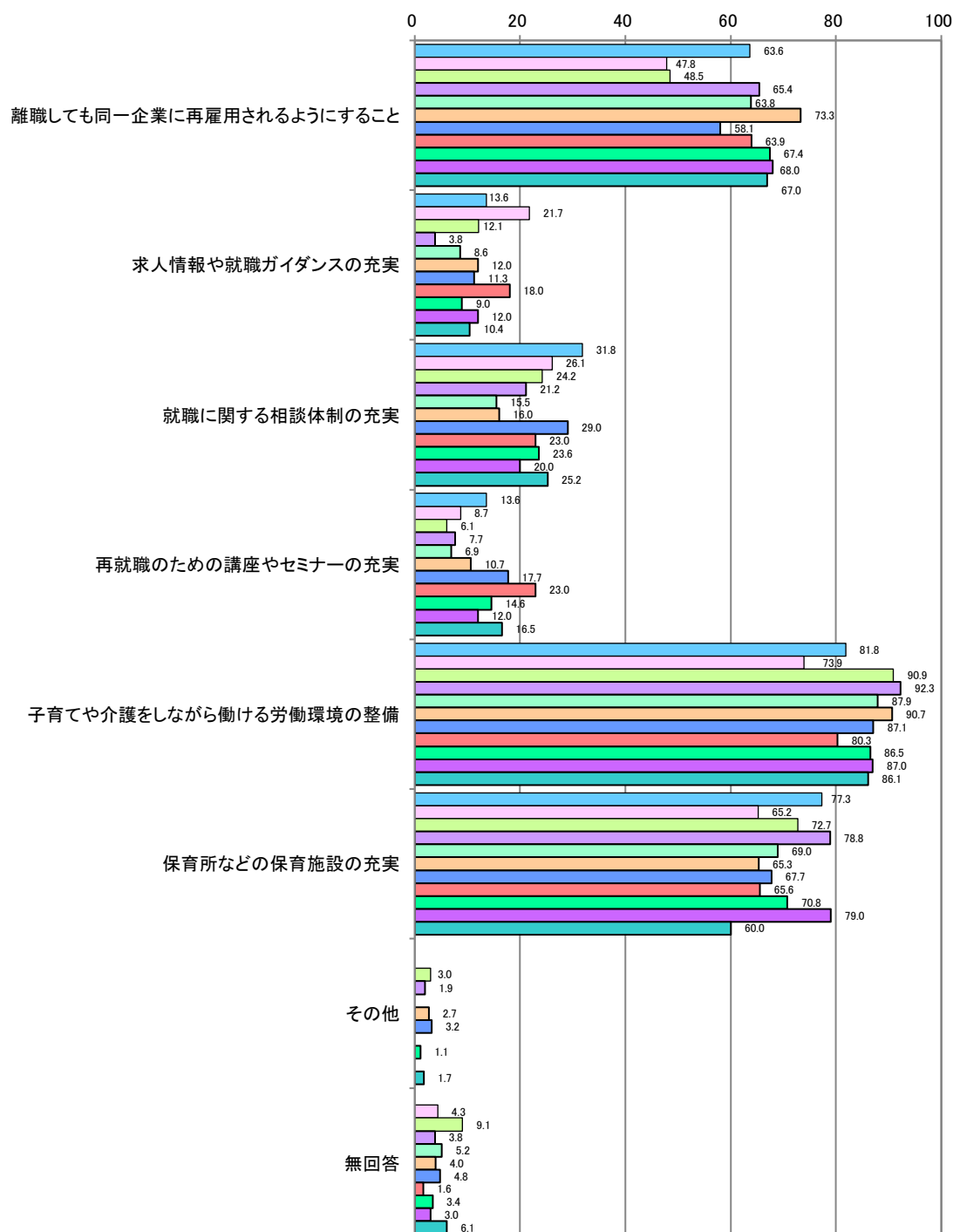
【性別】



- ・年代別でみると、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」という回答では、45歳～49歳、60歳以上で回答割合が約7割となっている。「保育所などの保育施設の充実」という回答では、20歳～24歳、30歳～39歳、60歳～69歳で7割を超えている。

【年代別】

(%)



- 20歳～24歳(n=22人)    ■ 25歳～29歳(n=23人)    ■ 30歳～34歳(n=33人)    ■ 35歳～39歳(n=52人)
- 40歳～44歳(n=58人)    ■ 45歳～49歳(n=75人)    ■ 50歳～54歳(n=62人)    ■ 55歳～59歳(n=61人)
- 60歳～64歳(n=89人)    ■ 65歳～69歳(n=100人)    ■ 70歳以上(n=115人)



---

## 仕事と生活の調和に関することについて

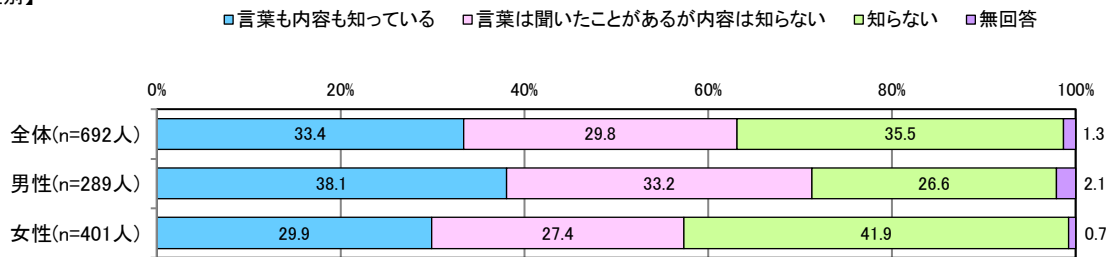
---



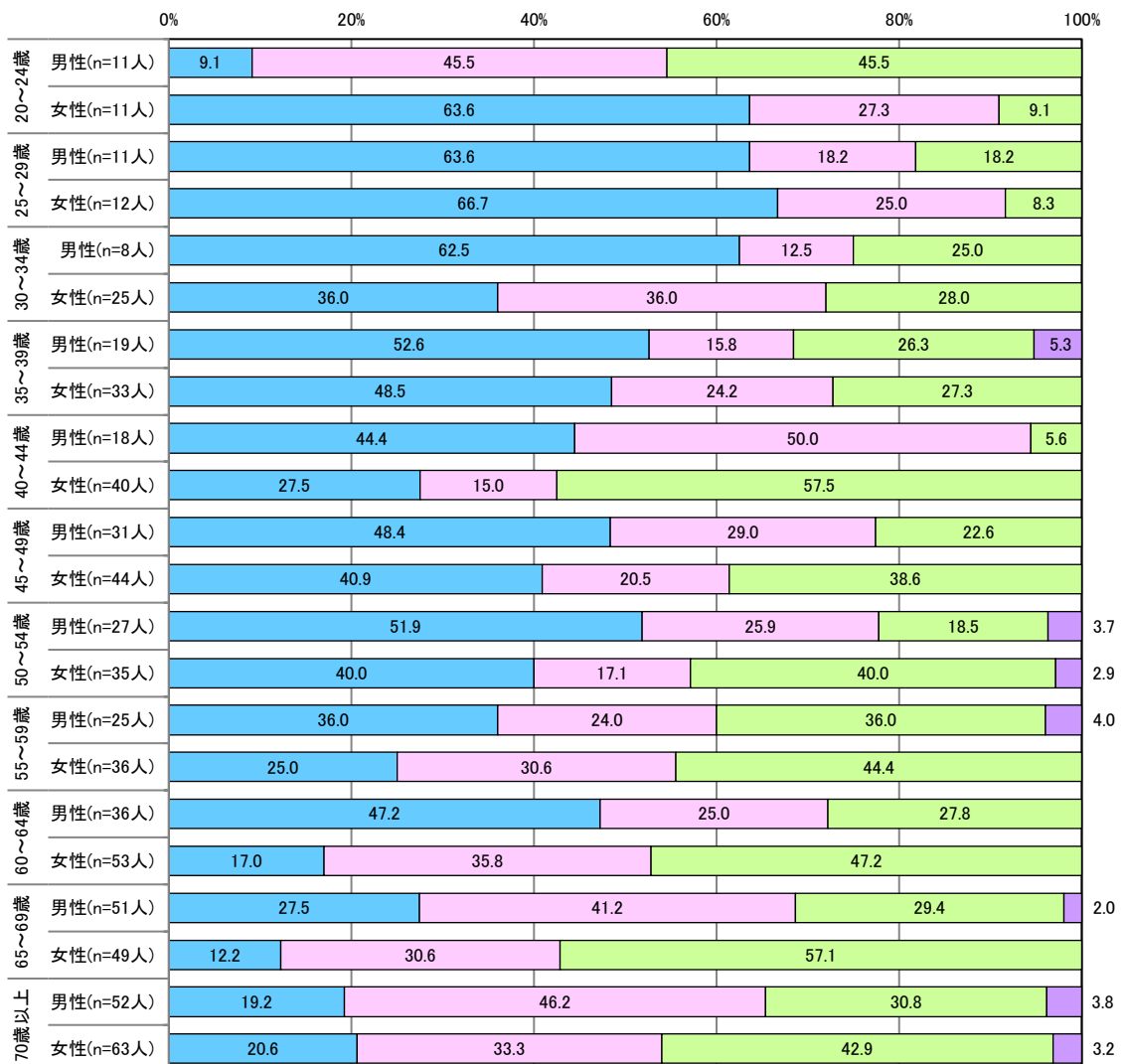
問 17 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、約4割（38.1%）であるのに対し、女性では「知らない」が約4割（41.9%）となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が38.1%、女性が29.9%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～34歳の男性、20歳～29歳の女性で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が6割を超えている。

【性別】



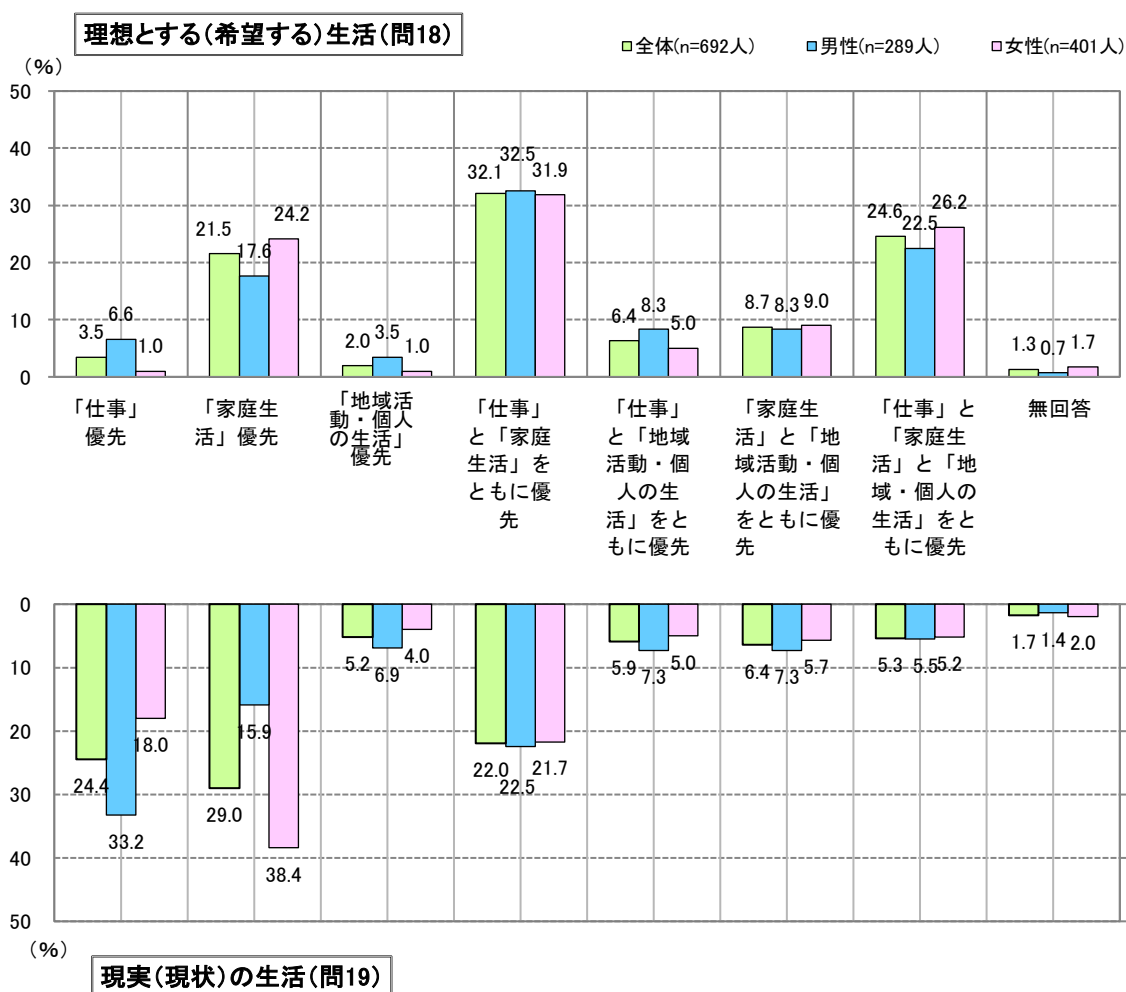
【世代別性別】



問 18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問 19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

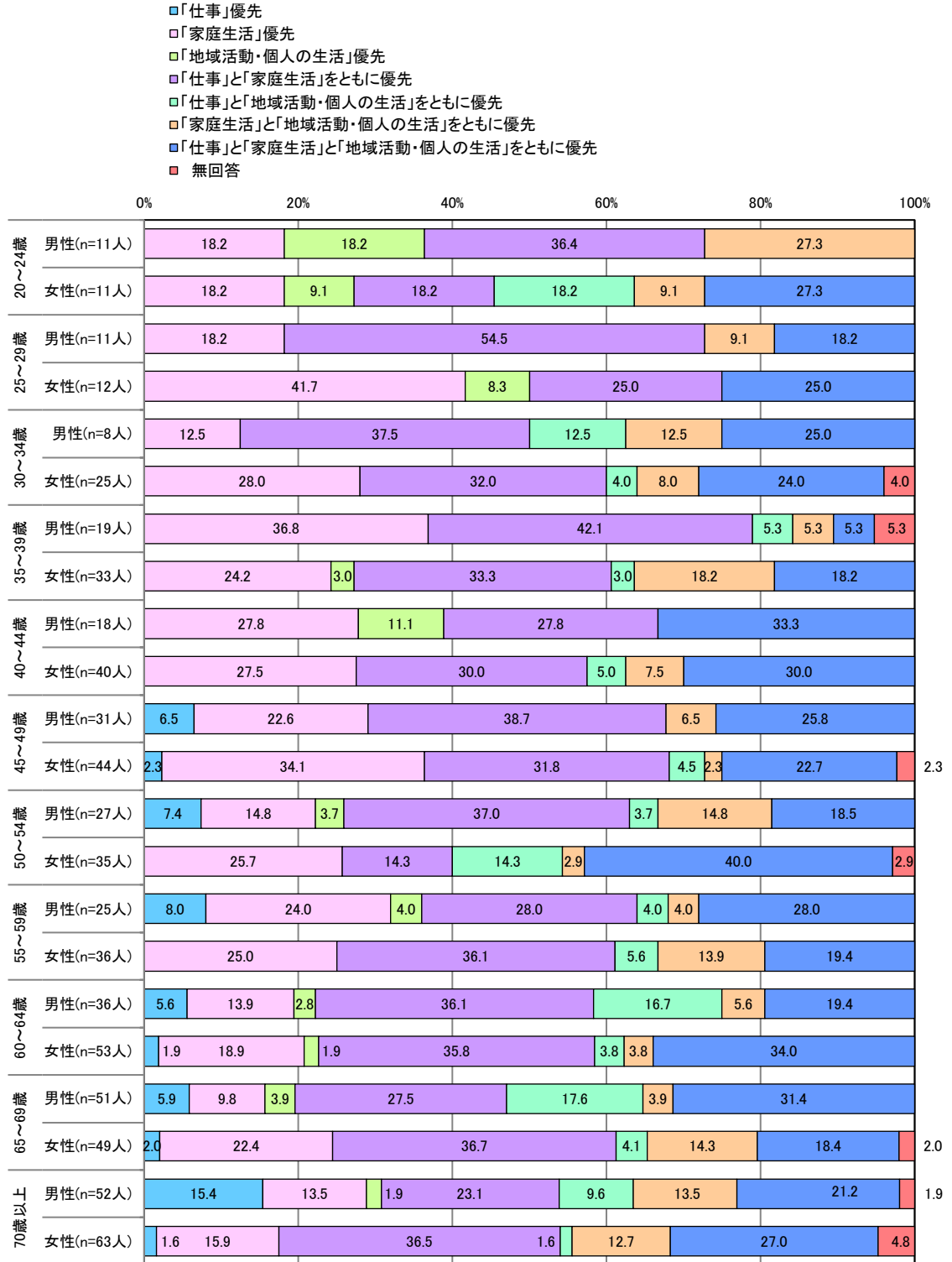
- ・全体で見ると、問 18 の理想とする生活については「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約3割（32.1%）となっている。次に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（24.6%）、「『家庭生活』優先」（21.5%）の順に続いている。
- ・一方、問 19 の現実の生活では、「『家庭生活』優先」（29.0%）という回答が最も多く、次いで、「『仕事』優先」（24.4%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（22.0%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では6番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては「『家庭生活』優先」以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は「『仕事』優先」、女性は「『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。



問 18 理想とする（希望する）生活 世代別性別

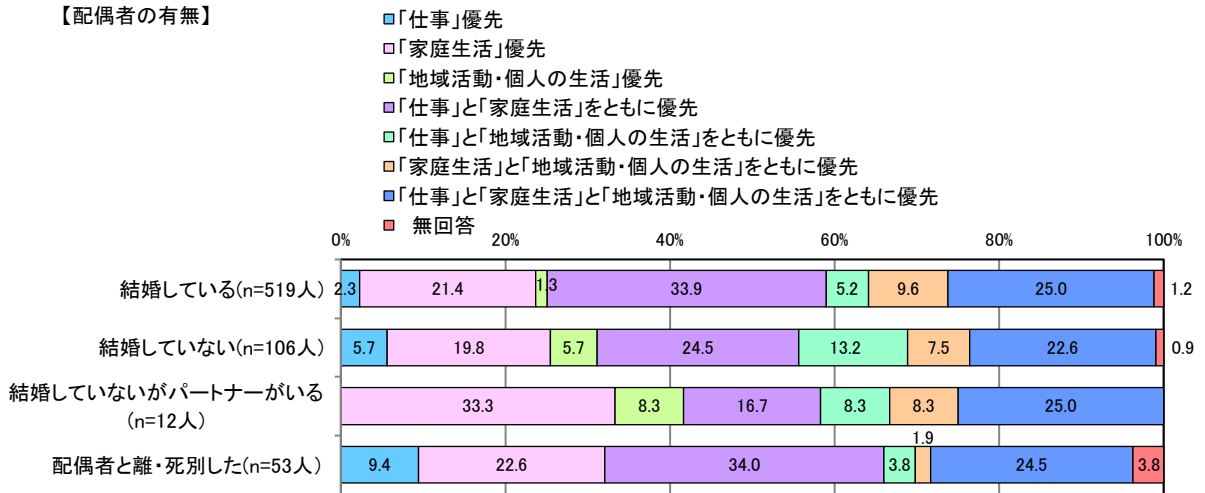
・世代別性別でみると、44歳以下の男女と50歳～59歳の女性では、「『仕事』優先」という回答が無い。ほとんどの年代では、男女ともに「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」という回答が最も多い。一方、25歳～29歳の女性、45歳～49歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。

【世代別性別】

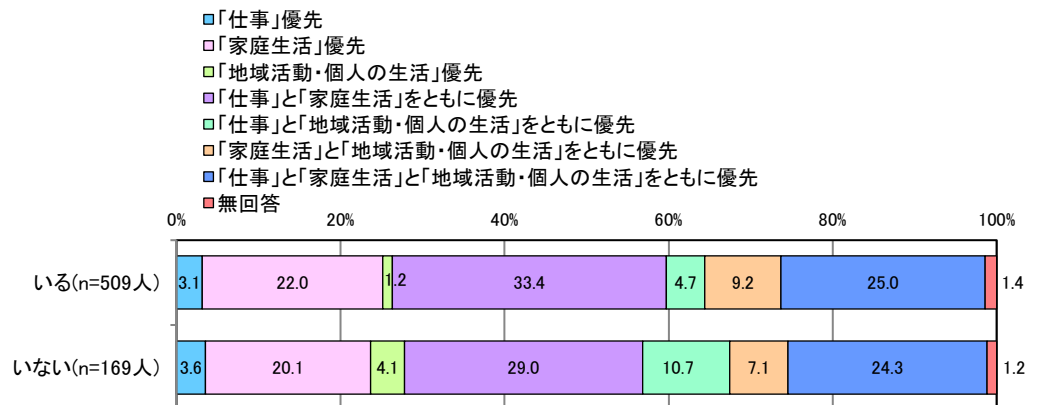


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.9%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.0%)、「『家庭生活』優先」(21.4%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(24.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(22.6%)、「『家庭生活』優先」が(19.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『家庭生活』優先」(33.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.0%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(16.7%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(34.0%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(24.5%)、「『家庭生活』優先」(22.6%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.4%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.0%)、「『家庭生活』優先」(22.0%)となっている。「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(29.0%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(24.3%)、「『家庭生活』優先」(20.1%)となっている。

【配偶者の有無】



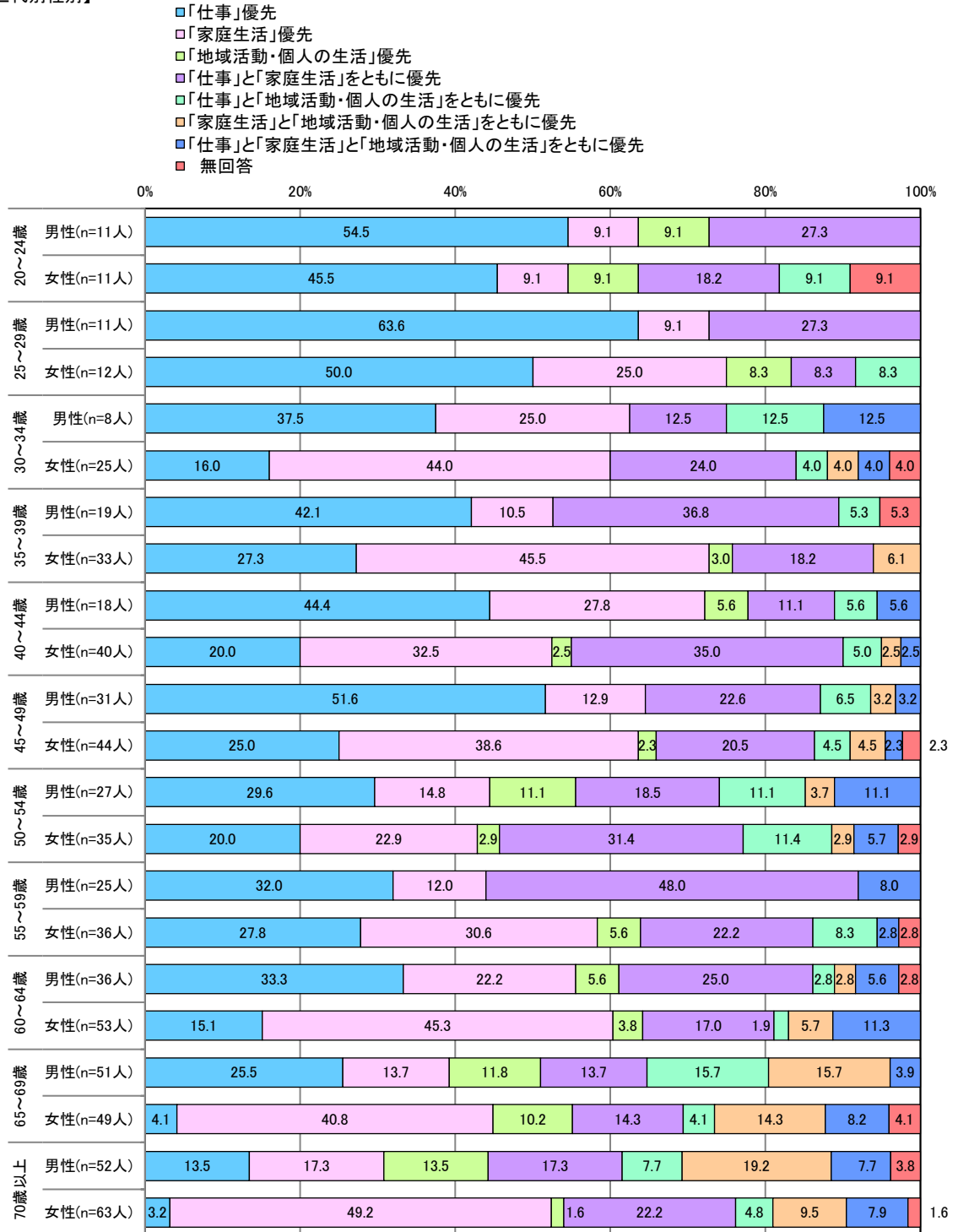
【子の有無】



問 19 現実（現状）の生活 世代別性別

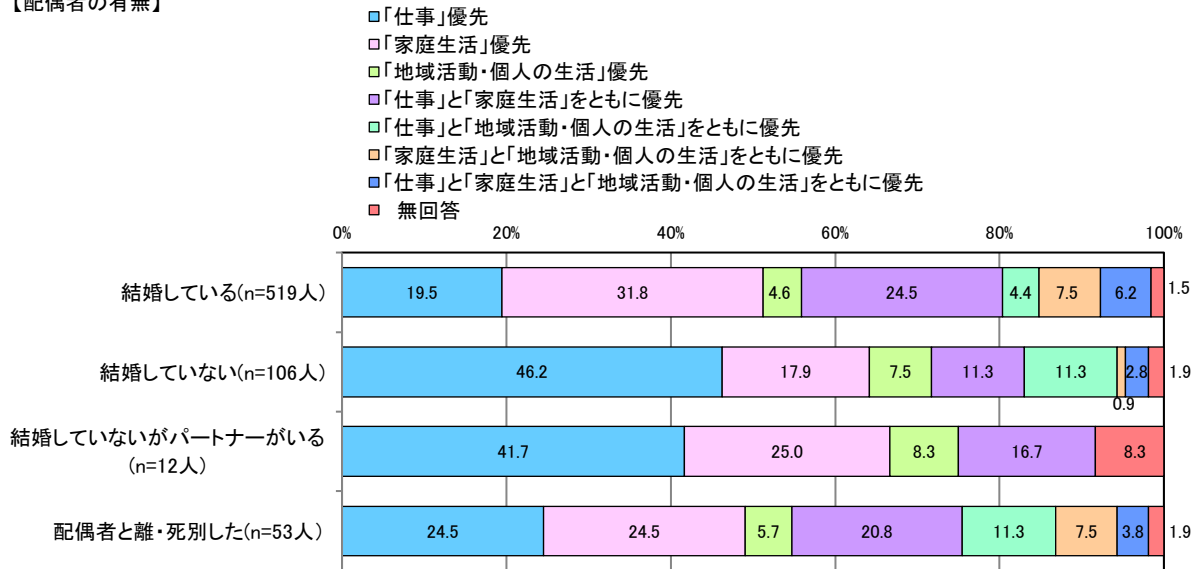
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の男女、35歳～49歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が4割を超え最も多くなっている。一方、30歳～39歳の女性、45歳～49歳の女性、55歳以上の女性で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65歳以上で増加している。

【世代別性別】

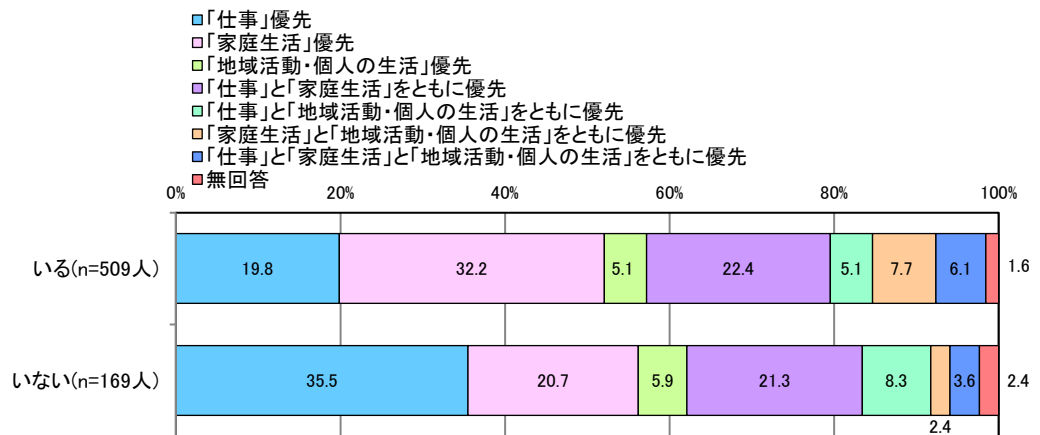


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」（31.8%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」（24.5%）、「『仕事』優先」（19.5%）となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」（46.2%）が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」（17.9%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（11.3%）と「『仕事』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（11.3%）が同じ回答割合となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」（41.7%）が最も多い回答となっている。次いで「『家庭生活』優先」（25.0%）、「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」（16.7%）となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』優先」（24.5%）と「『家庭生活』優先」（24.5%）と同率で最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（20.8%）となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」（32.2%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（22.4%）、「『仕事』優先」（19.8%）となっている。「いない」では、「『仕事』優先」（35.5%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（21.3%）、「『家庭生活』優先」（20.7%）となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】



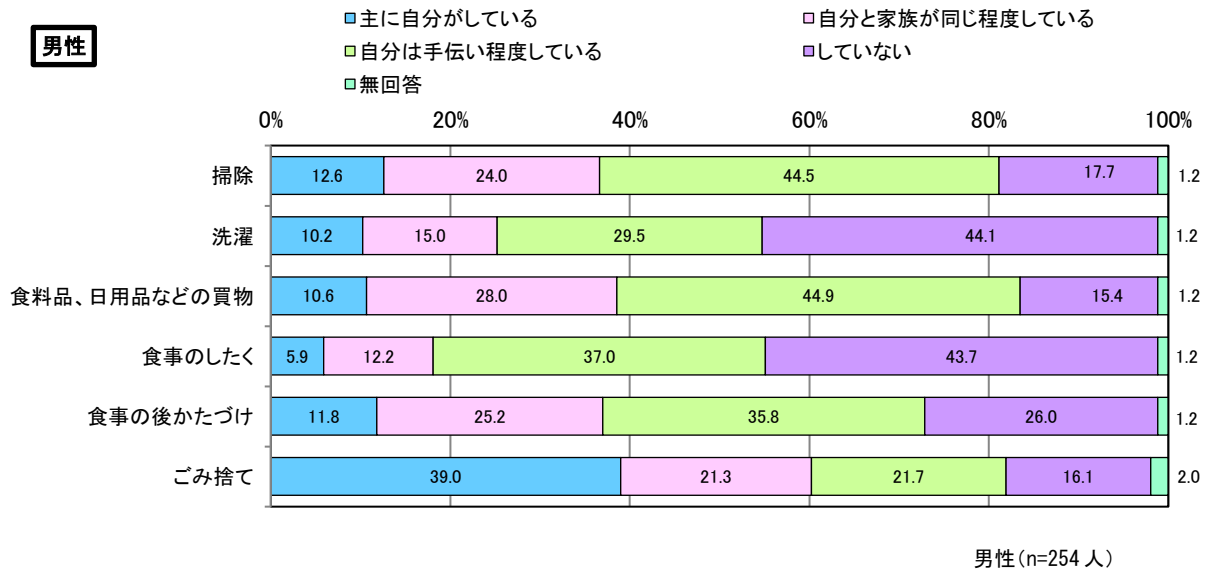


問 20 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。  
 (※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 615 人とする)

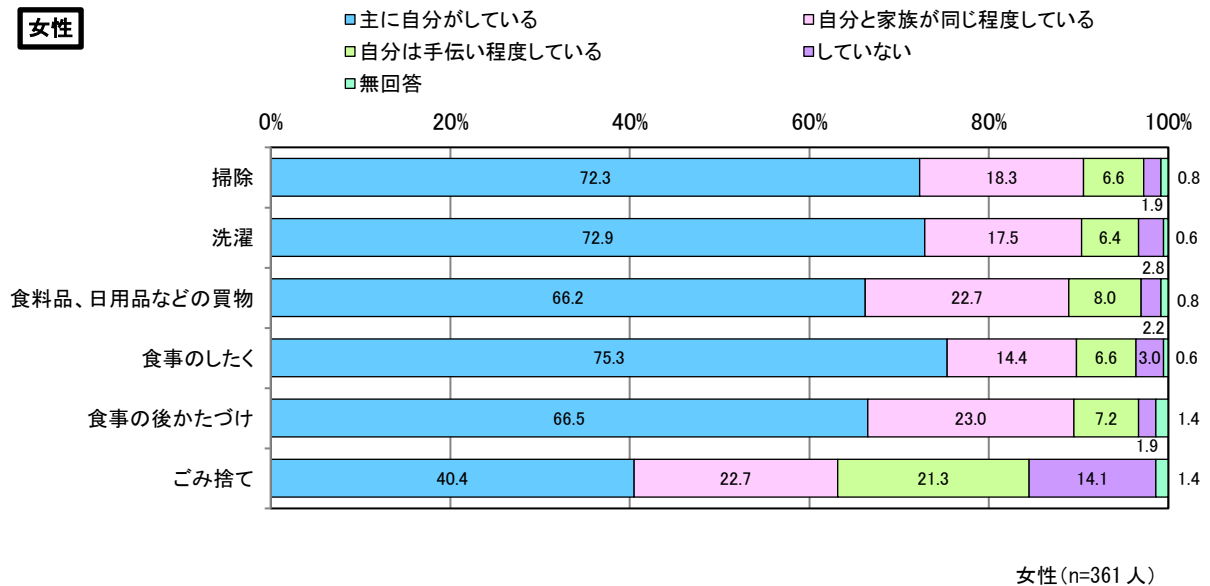
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約4割(39.0%)となっている。次いで、「掃除」(12.6%)、「食事の後かたづけ」(11.8%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割(75.3%)となっている。次いで、「洗濯」(72.9%)、「掃除」(72.3%)となっている。

【性別】

**男性**



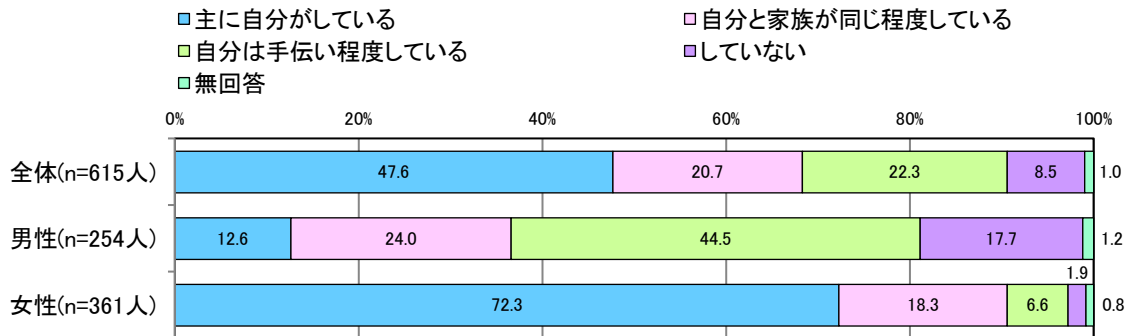
**女性**



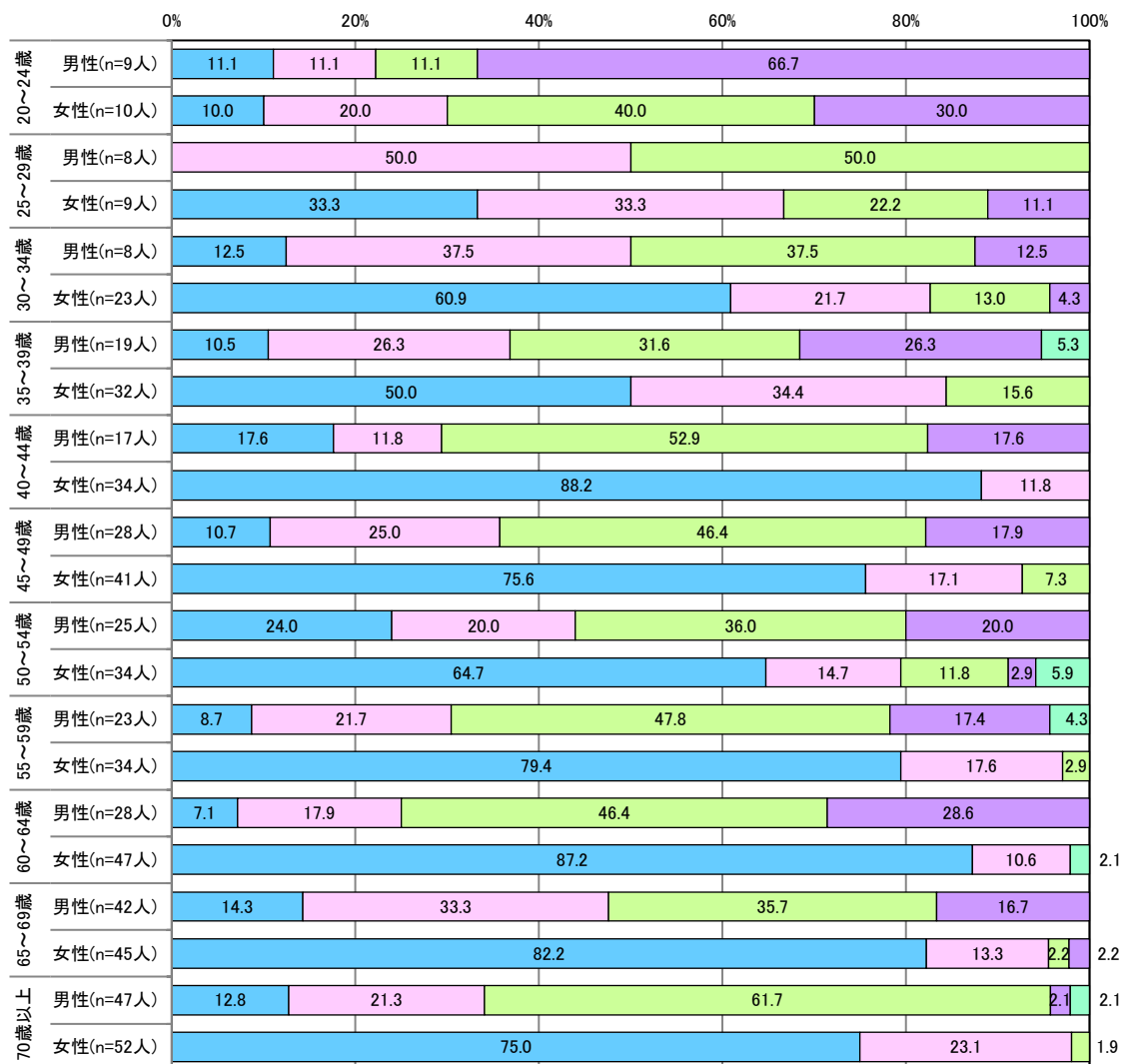
# 1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(44.5%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が最も多いのは、20歳～24歳の男性66.7%となっている。

【性別】

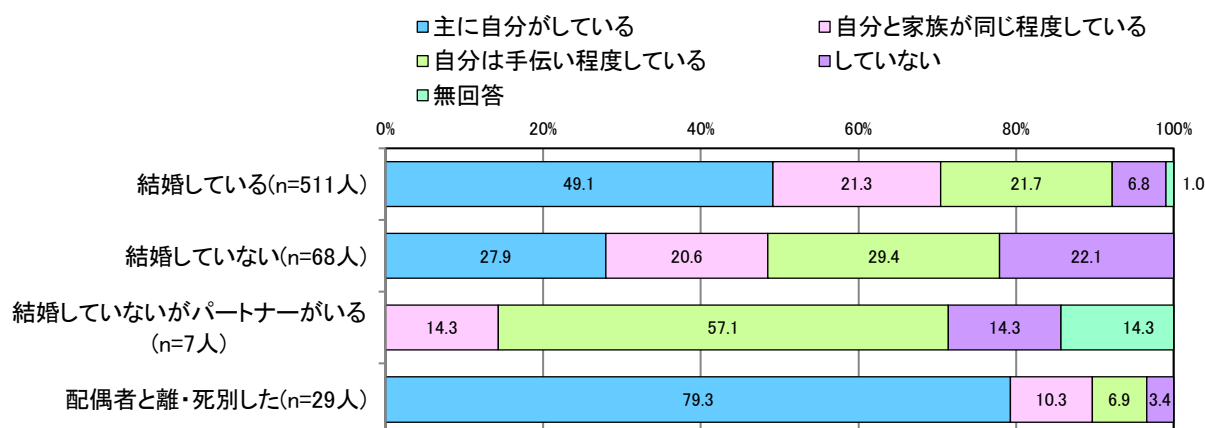


【世代別性別】

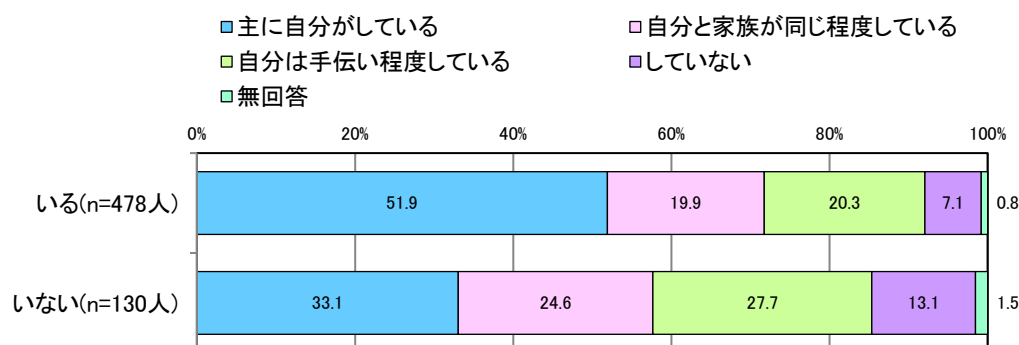


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(21.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(29.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(27.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(20.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分は手伝い程度している」(57.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(14.3%)と「していない」(14.3%)が同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(79.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(10.3%)、「自分は手伝い程度している」(6.9%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(51.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(20.3%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.9%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(33.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(27.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(24.6%)となっている。

【配偶者の有無】

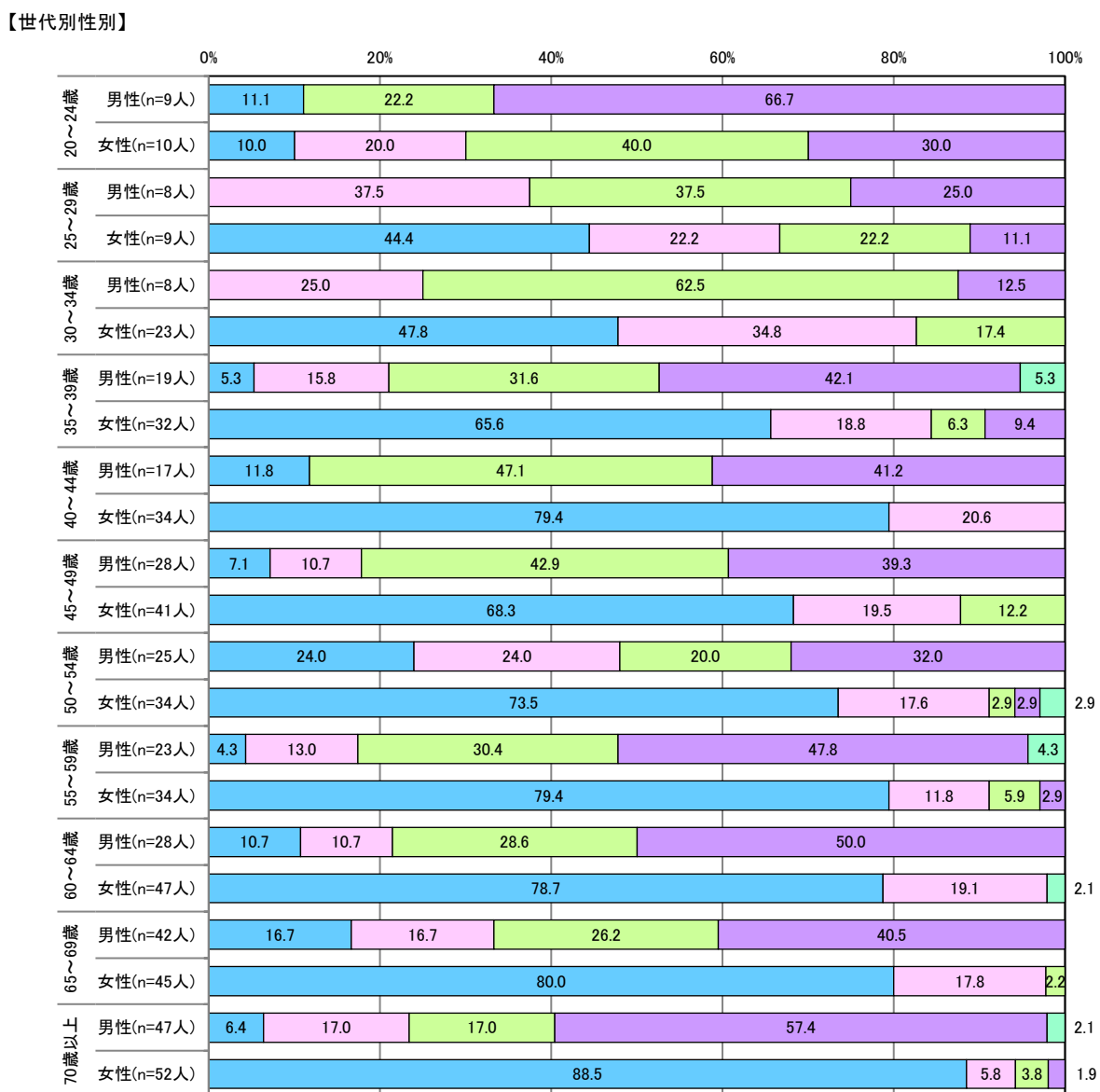
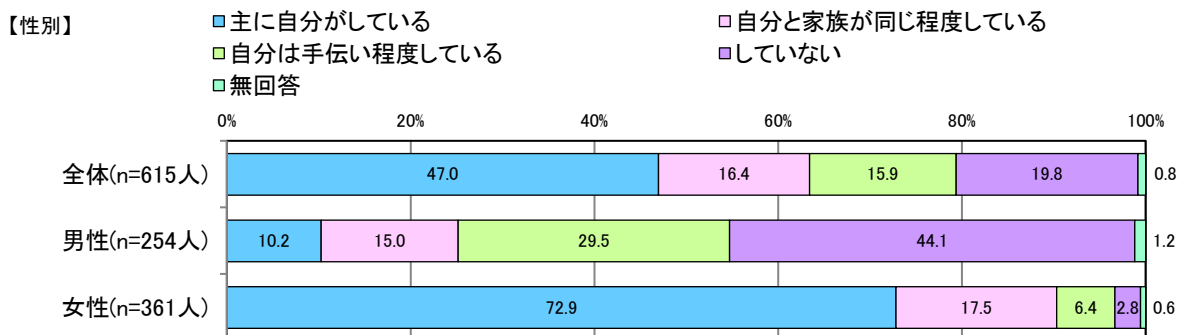


【子の有無】



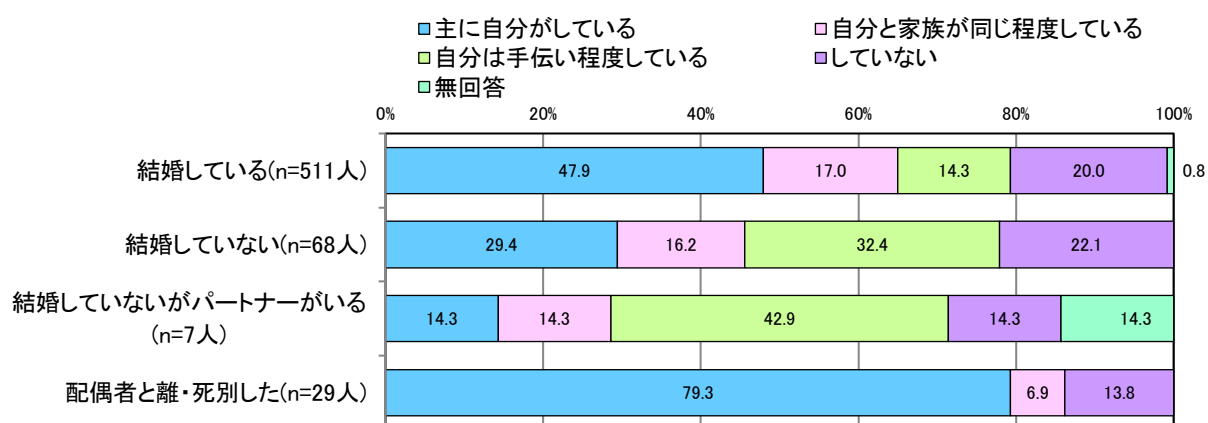
## 2 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.9%)という回答が最も多く、男性は「していない」(44.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳、60歳～64歳、70歳以上の男性では、「していない」という回答割合が5割以上となっている。

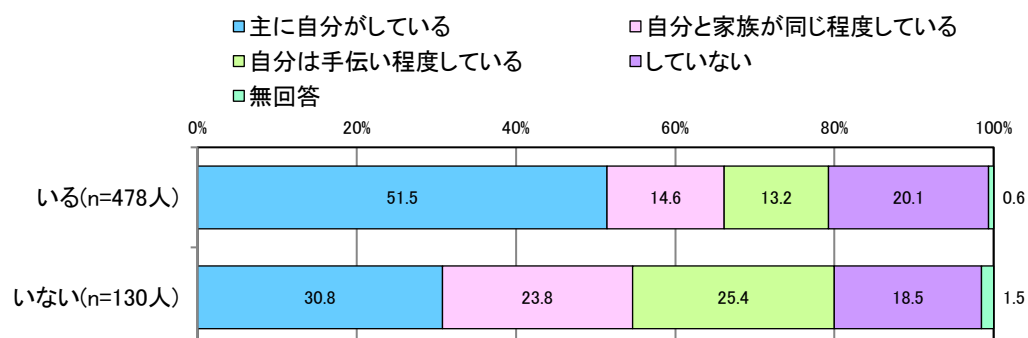


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(47.9%)という回答が最も多く、次いで「していない」(20.0%)、「自分は手伝い程度している」(17.0%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(32.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(29.4%)、「していない」(22.1%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分は手伝い程度している」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(14.3%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.3%)、「していない」(14.3%)が同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(79.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(13.8%)、「自分と家族が同じ程度している」(6.9%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(51.5%)という回答が最も多く、次いで「していない」(20.1%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.6%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(30.8%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(25.4%)、「自分と家族が同じ程度している」(23.8%)となっている。

【配偶者の有無】

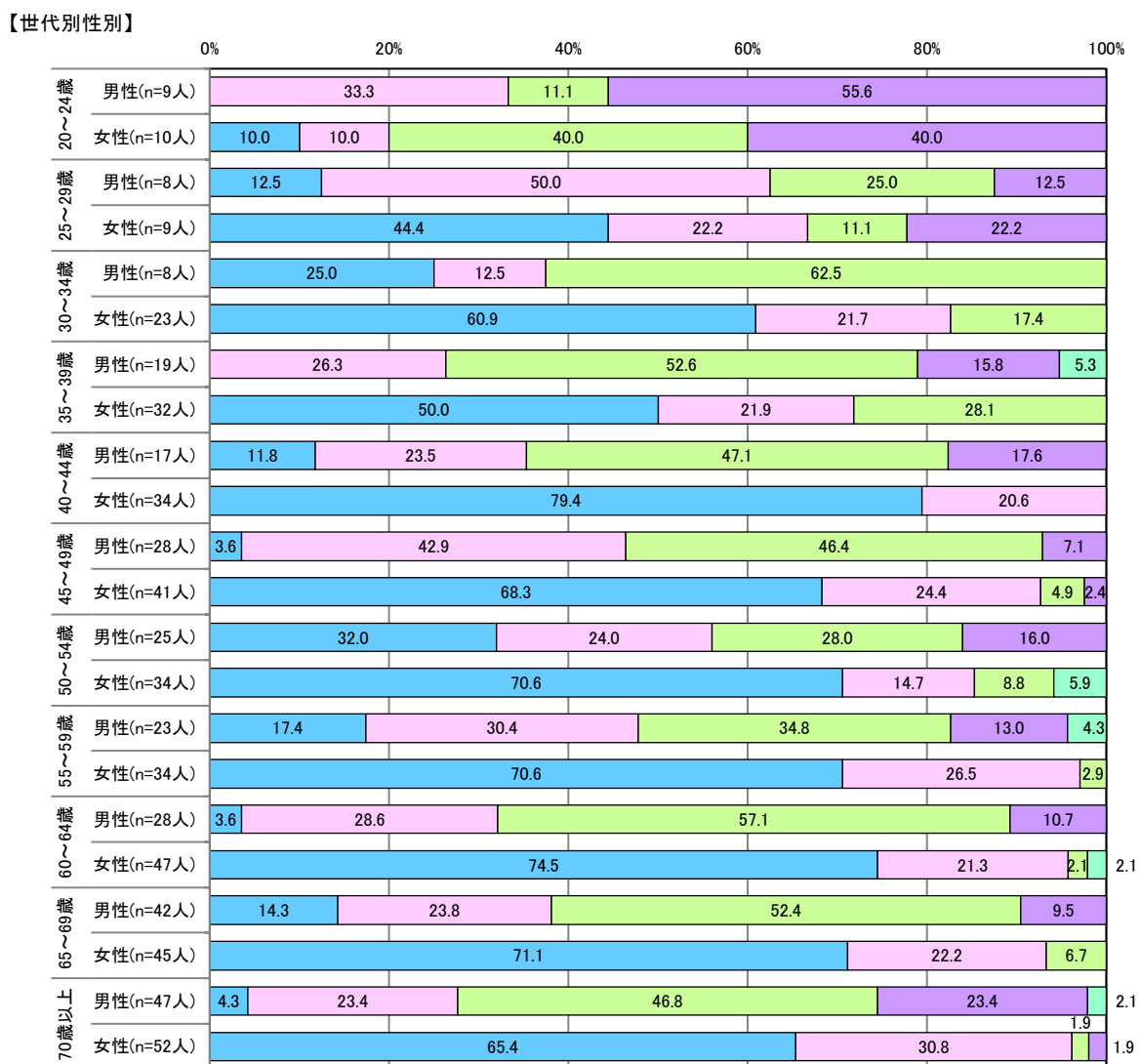
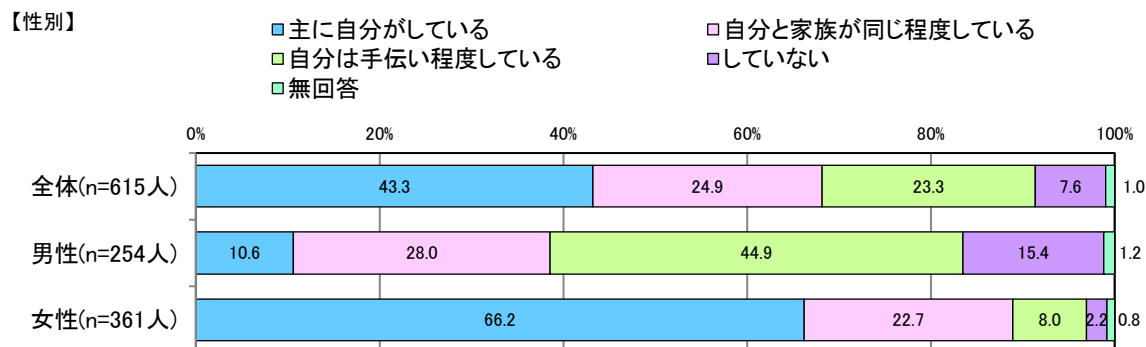


【子の有無】



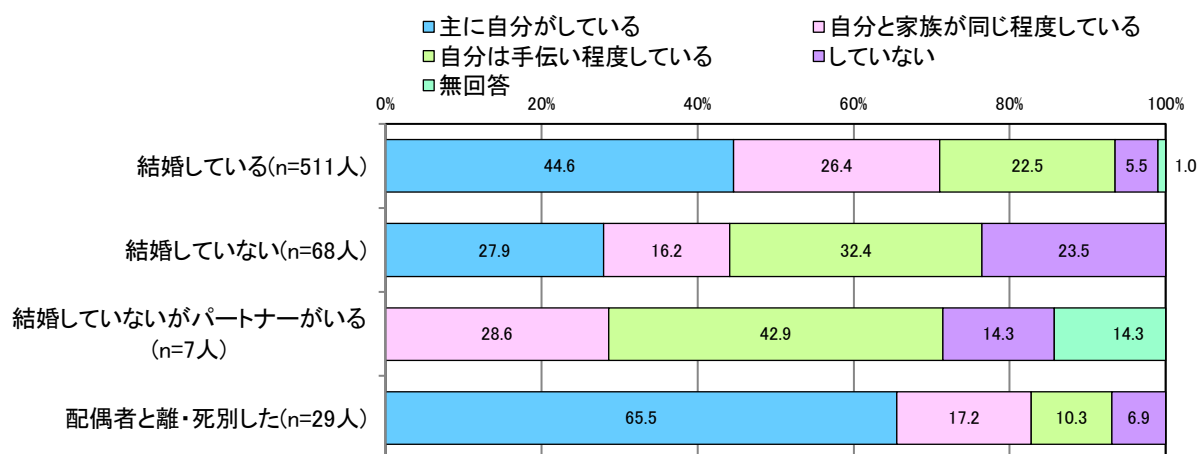
### 3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(44.9%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～49歳、55歳以上の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方25歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が4割以上と最も多くなっている。

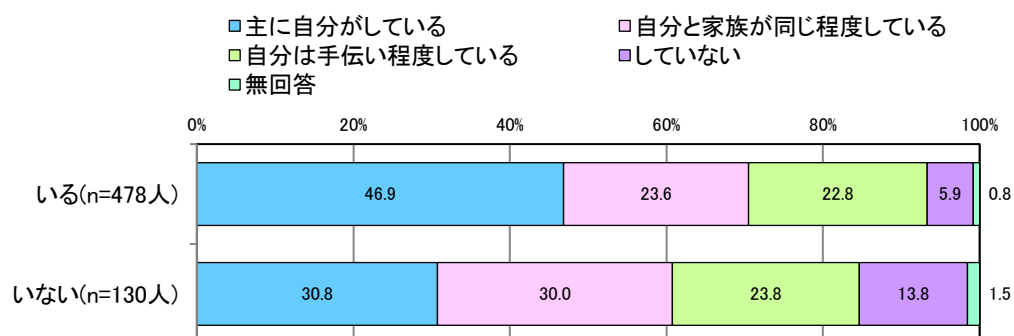


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(44.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.4%)、「自分は手伝い程度している」(22.5%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(32.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(27.9%)、「していない」(23.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分は手伝い程度している」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(65.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(17.2%)、「自分は手伝い程度している」(10.3%)で同じ回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.6%)、「自分は手伝い程度している」(22.8%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(30.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(30.0%)、「自分は手伝い程度している」(23.8%)となっている。

【配偶者の有無】



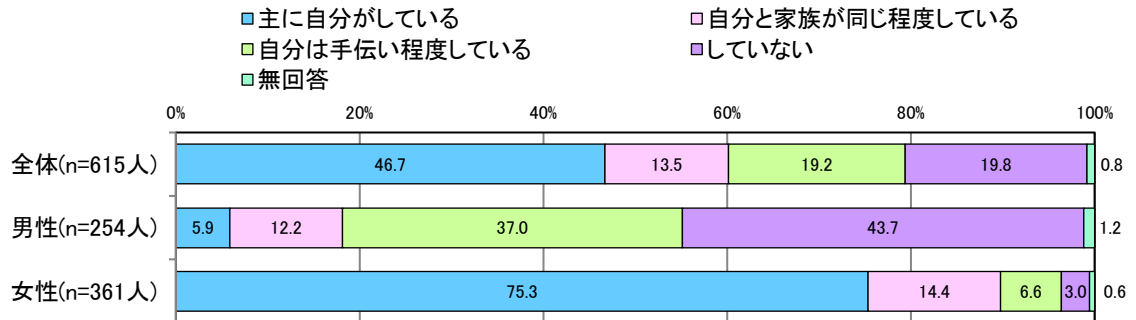
【子の有無】



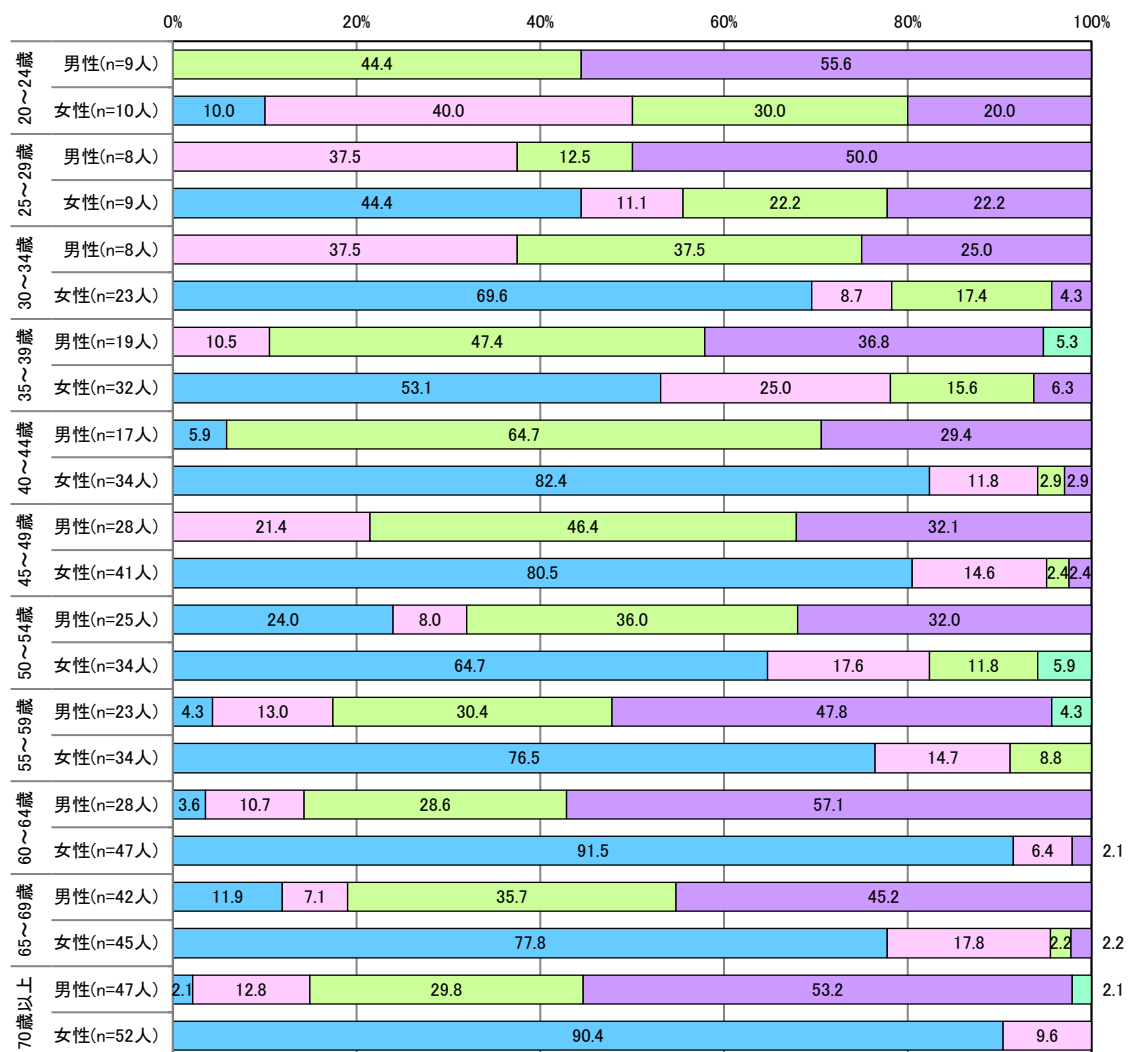
## 4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(75.3%) という回答が最も多く、男性は「していない」(43.7%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の男性を除く全ての年代で、「していない」という回答が最も多い。特に、20歳～29歳、60歳～64歳、70歳以上の男性では、5割を超えている。

### 【性別】



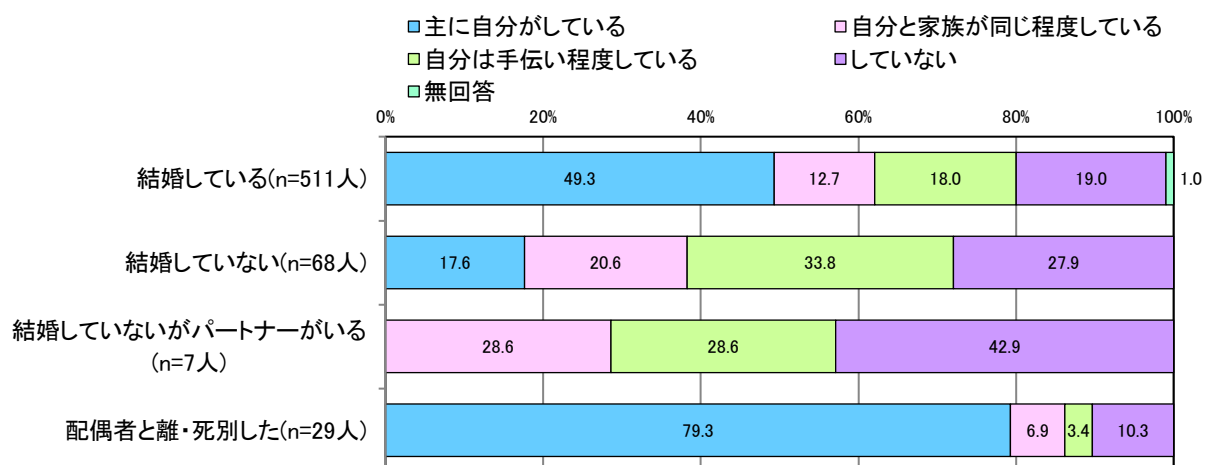
### 【世代別性別】



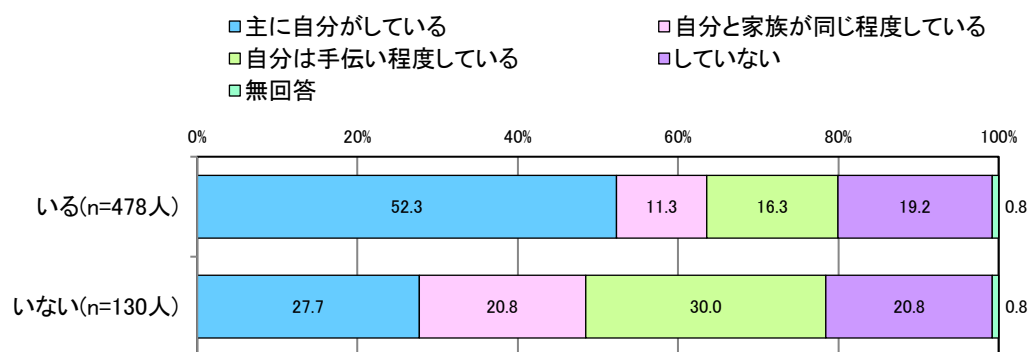


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(19.0%)、「自分は手伝い程度している」(18.0%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(33.8%)という回答が最も多く、次いで「していない」(27.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(20.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「していない」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)と「自分は手伝い程度している」(28.6%)が同率となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(79.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(10.3%)、「自分と家族が同じ程度している」(6.9%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(52.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(19.2%)、「自分は手伝い程度している」(16.3%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(30.0%)という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(27.7%)となっている。

【配偶者の有無】



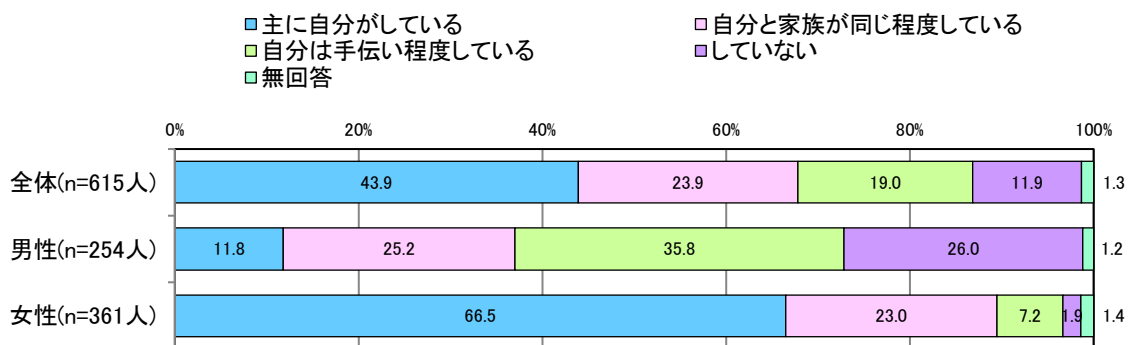
【子の有無】



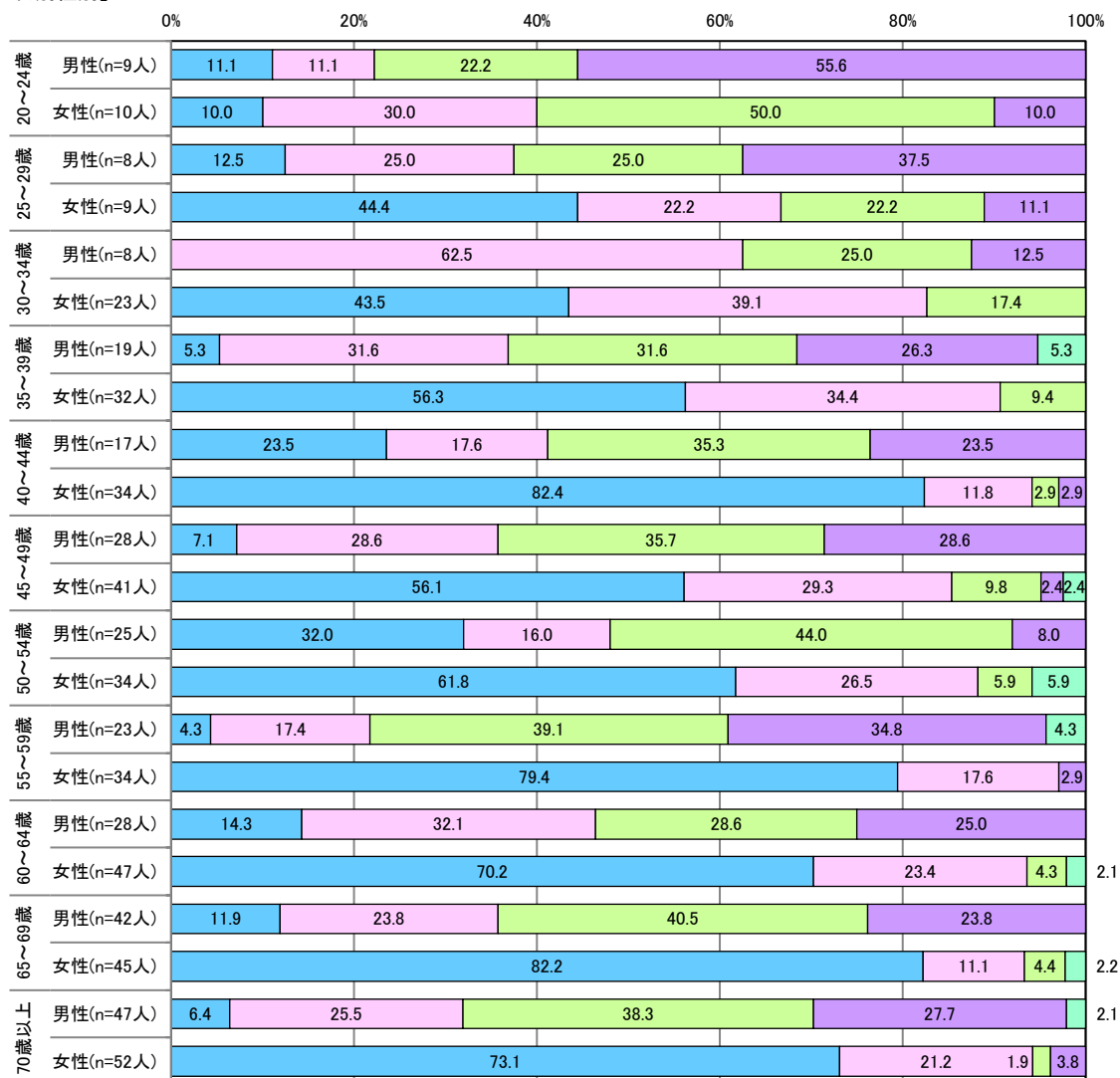
## 5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.5%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(35.8%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の男性で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】

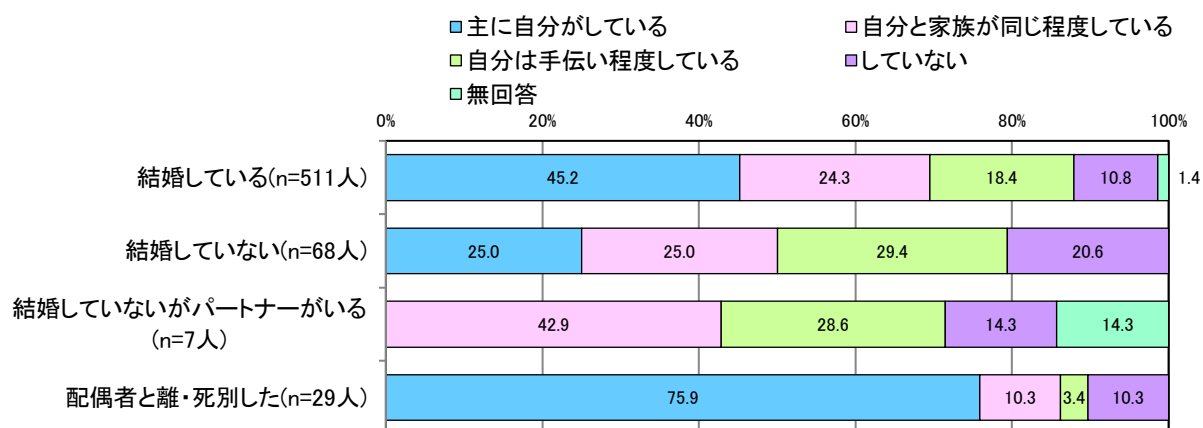


【世代別性別】

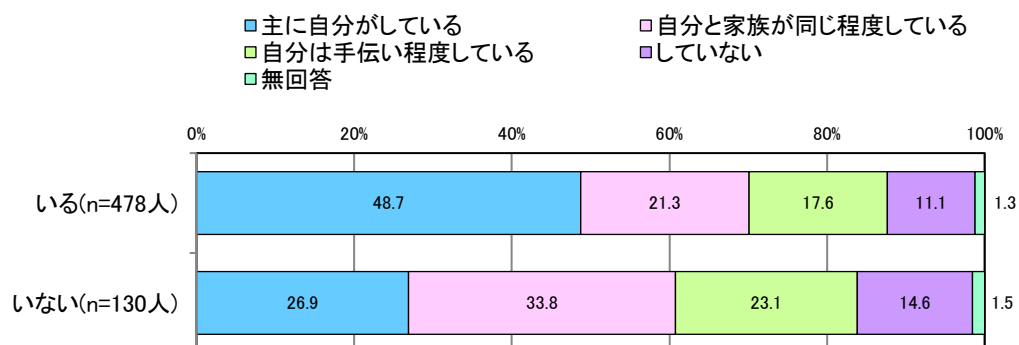


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(45.2%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.3%)、「自分は手伝い程度している」(18.4%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(29.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(25.0%)と「自分と家族が同じ程度している」(25.0%)が同率となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分と家族が同じ程度している」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(28.6%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(75.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(10.3%)と「していない」(10.3%)が同率となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(21.3%)、「自分は手伝い程度している」(17.6%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(33.8%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(26.9%)、「自分は手伝い程度している」(23.1%)となっている。

【配偶者の有無】

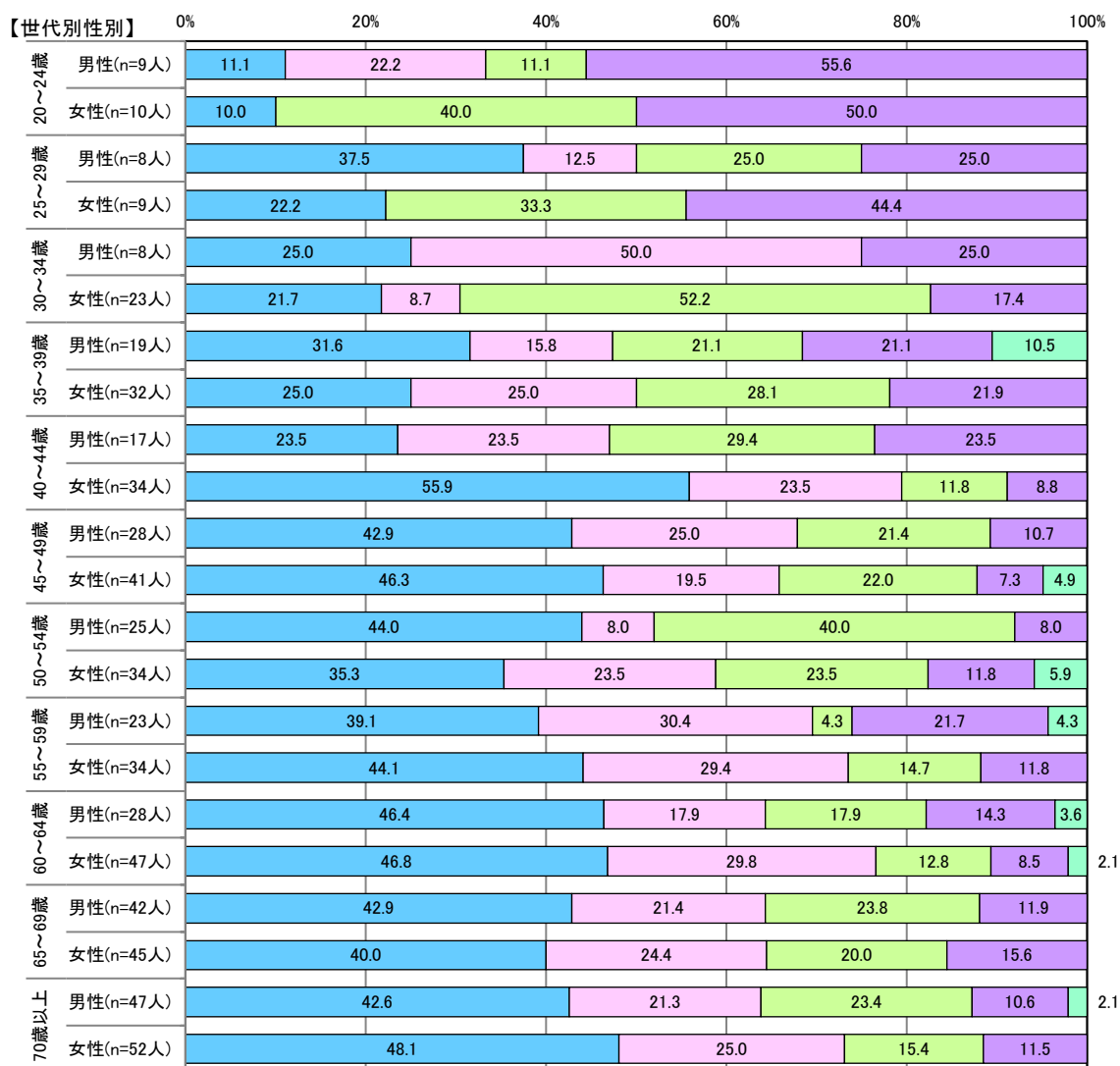
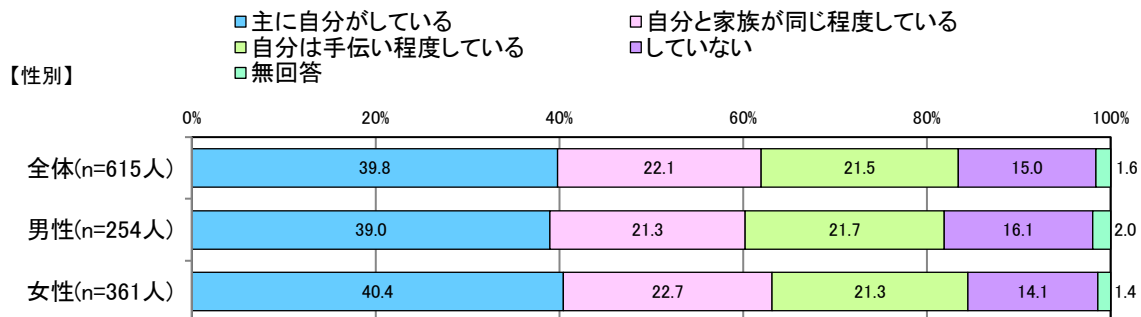


【子の有無】



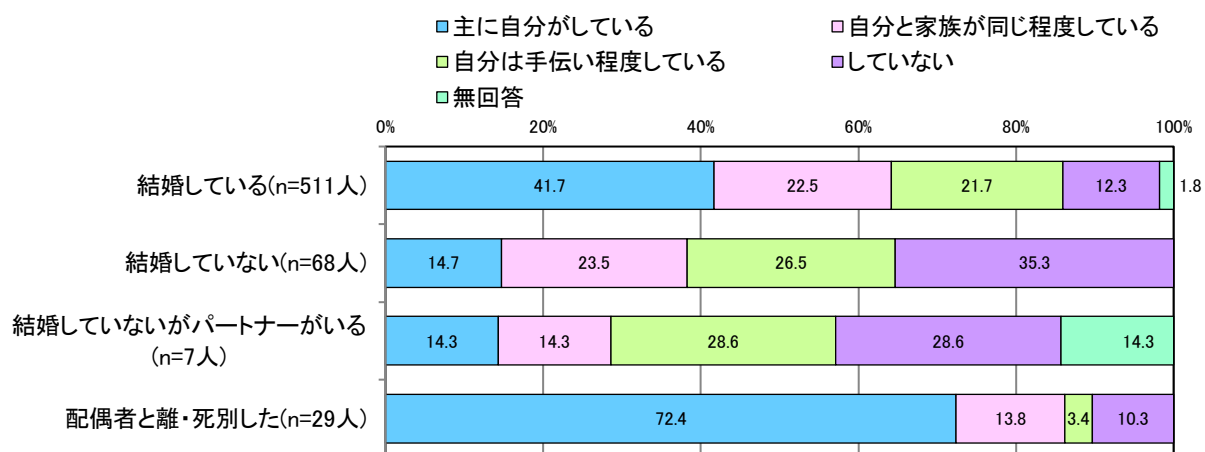
## 6 ごみ捨て

- 性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は40.4%、男性は39.0%となっている。
- 世代別性別で見ると、20歳～24歳の男性、30歳～34歳の男性、40歳～44歳の男性、20歳～39歳の女性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

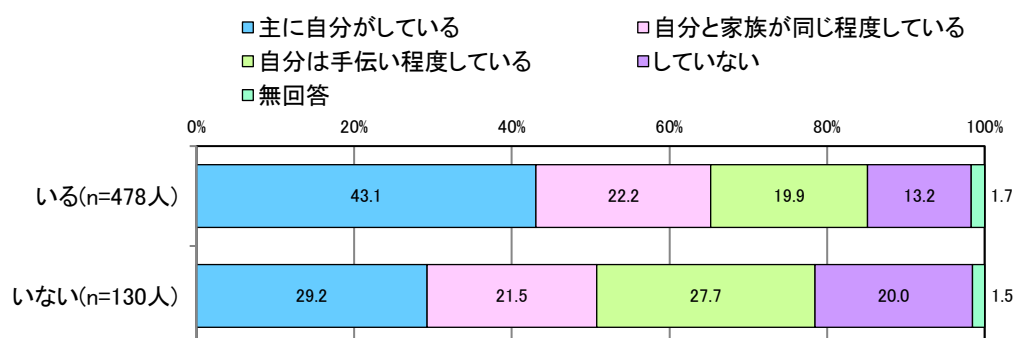


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(41.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.5%)、「自分は手伝い程度している」(21.7%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(35.3%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(26.5%)、「自分と家族が同じ程度している」(23.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、自分は手伝い程度している」(28.6%)と「していない」(28.6%)という回答が同率で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(72.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(13.8%)、「していない」(10.3%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(43.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.2%)、「自分は手伝い程度している」(19.9%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(29.2%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(27.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.5%)となっている。

【配偶者の有無】



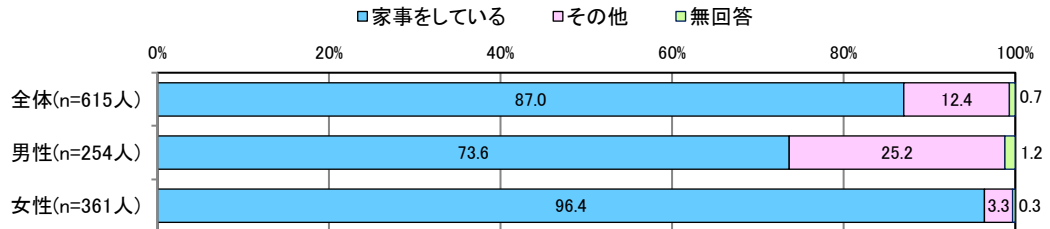
【子の有無】



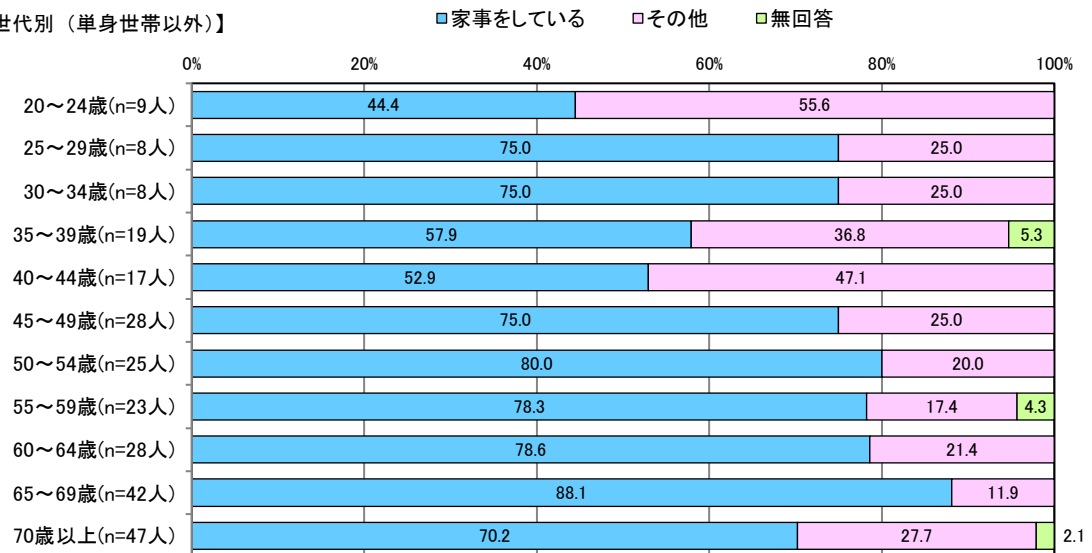
## <家事への参画度>

- ・問 20 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 87.0%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 73.6%、女性は 96.4%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2割低くなっている。

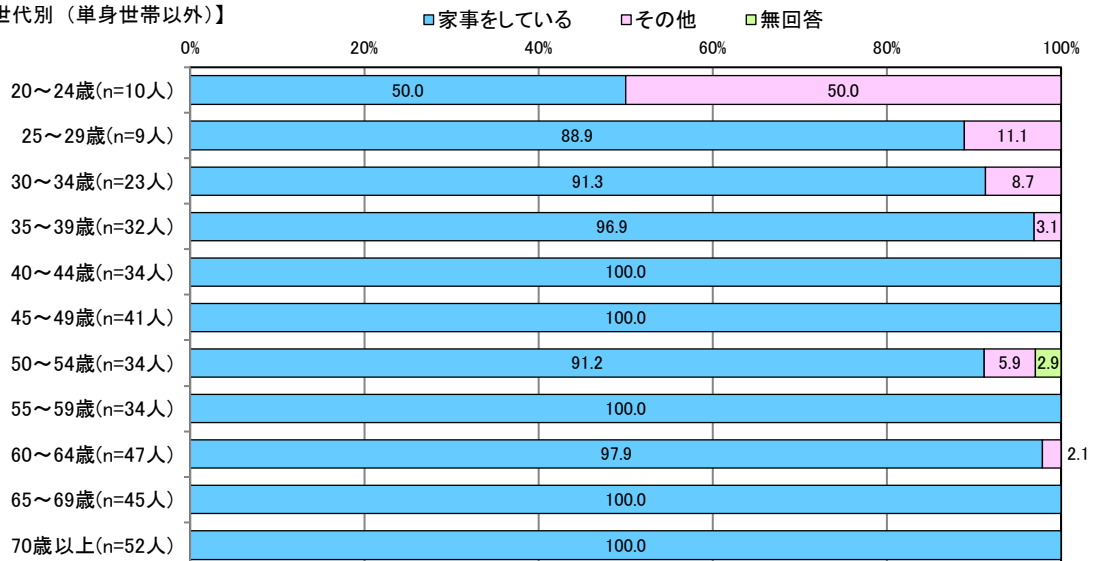
### 【性別】



### 【男性世代別（単身世帯以外）】



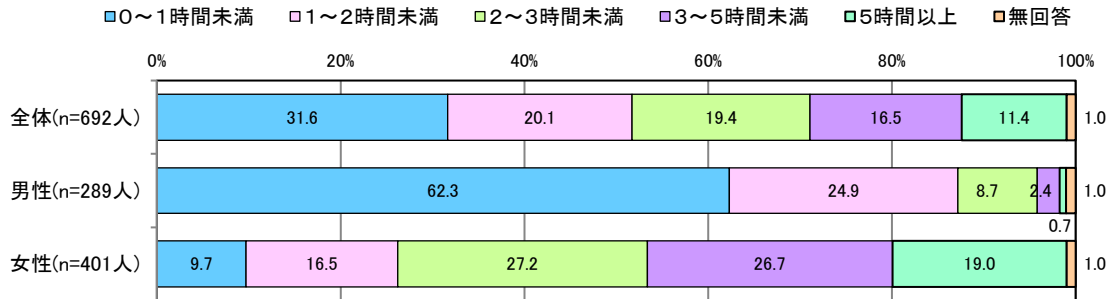
### 【女性世代別（単身世帯以外）】



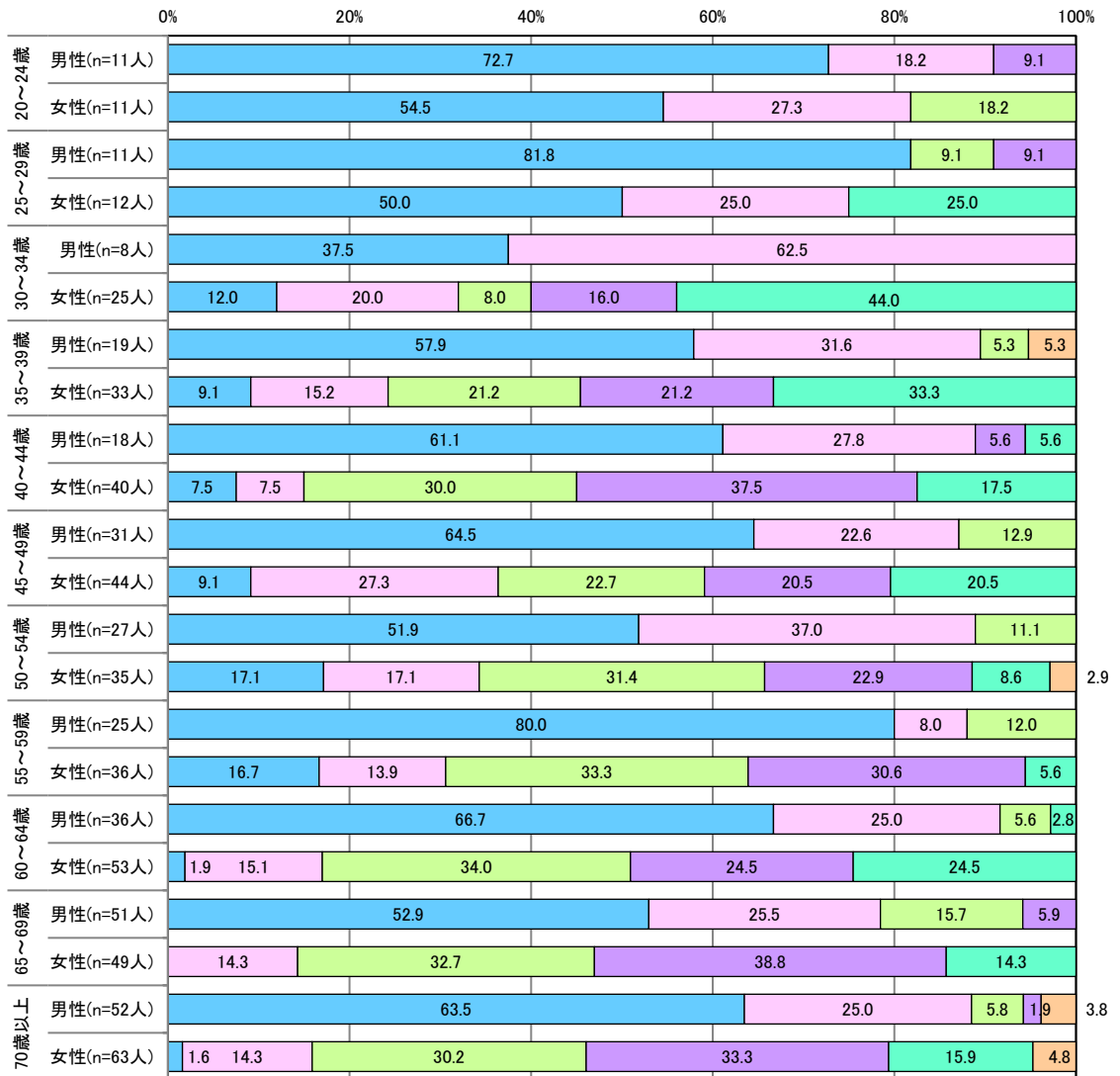
問 21 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。  
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（62.3%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は9.7%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳を除く全ての世代の男性で「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】

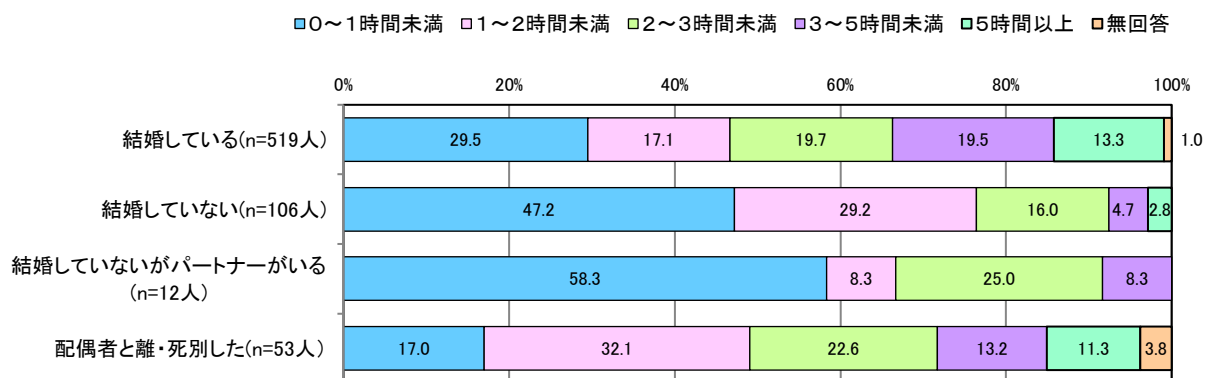


【世代別性別】

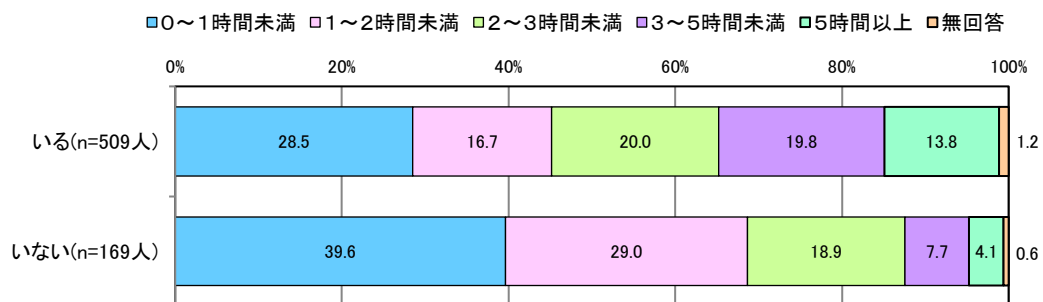


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(29.5%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(19.7%)、「3～5時間未満」(19.5%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(47.2%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(29.2%)、「2～3時間未満」(16.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「0～1時間未満」(58.3%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(25.0%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「1～2時間未満」(32.1%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(22.6%)、「0～1時間未満」(17.0%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「0～1時間未満」(28.5%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(20.0%)、「3～5時間未満」(19.8%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(39.6%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(29.0%)、「2～3時間未満」(18.9%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

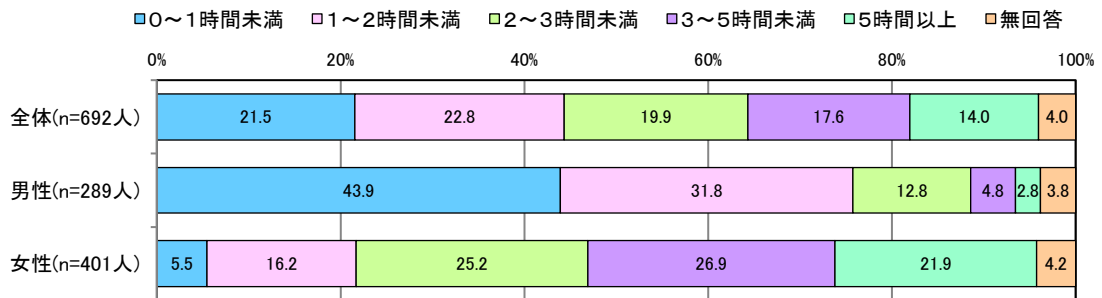




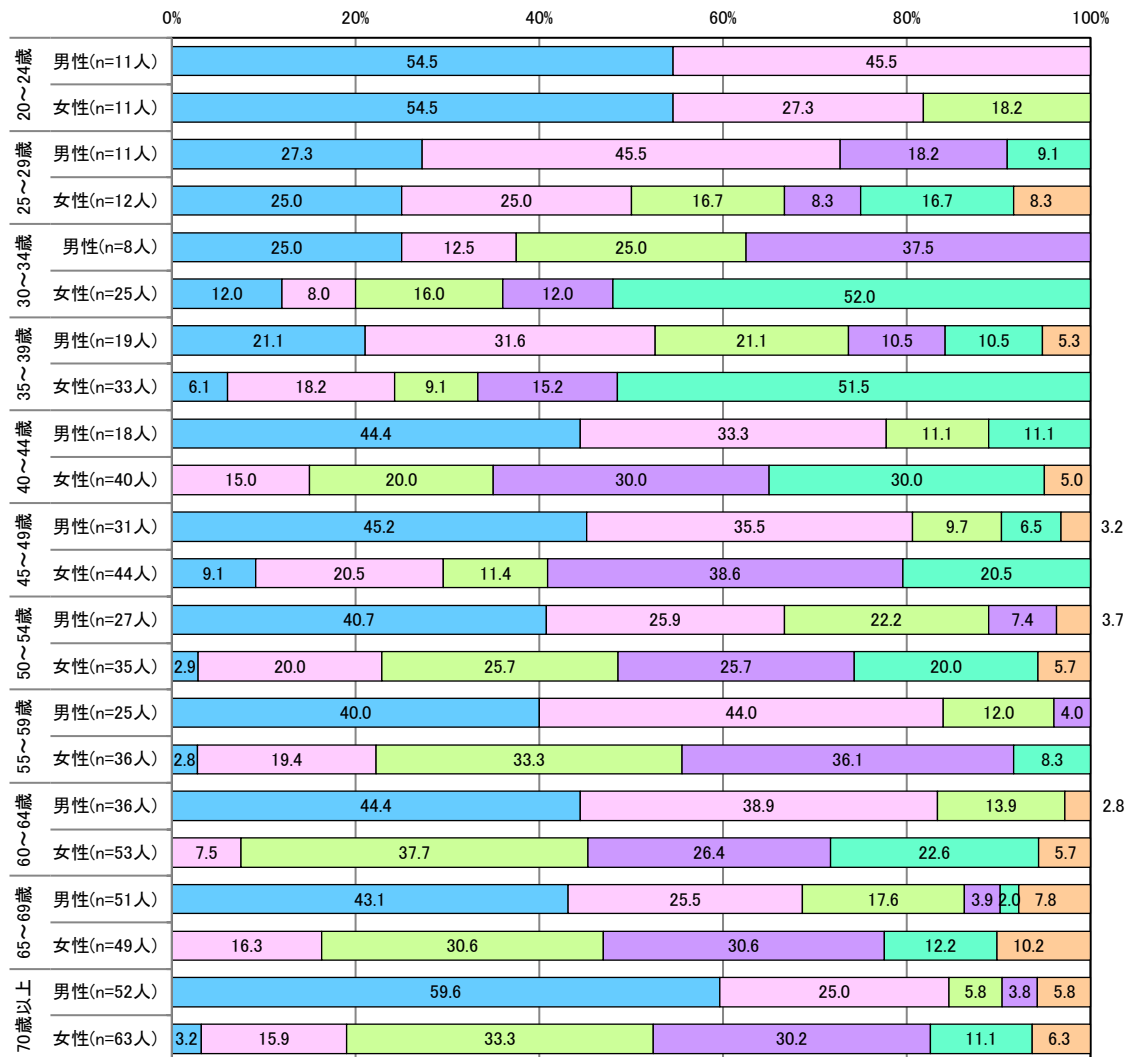
問 22 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。  
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（43.9%）という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では25歳～29歳、35歳～39歳、55歳～59歳では「1～2時間未満」が、30歳～34歳では「3～5時間未満」が、その他年代では「0～1時間未満」が最も多くなっている。一方、女性は35歳以上の年代で「0～1時間未満」の回答割合が、1割未満となっている。

【性別】

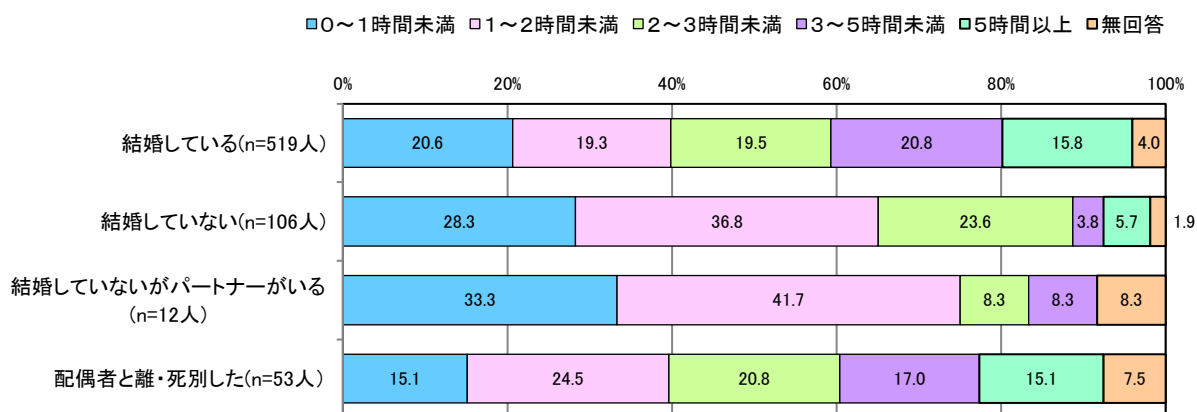


【世代別性別】

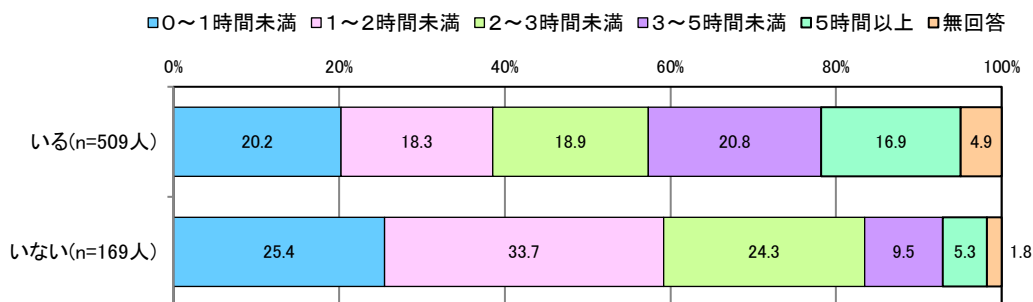


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「3～5時間未満」(20.8%)という回答が最も多く、次いで、「0～1時間未満」(20.6%)、「2～3時間未満」(19.5%)、「1～2時間未満」(19.3%)となっている。「結婚していない」では、「1～2時間未満」(36.8%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(28.3%)、「2～3時間未満」(23.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(41.7%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(33.3%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「1～2時間未満」(24.5%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(20.8%)、「3～5時間未満」(17.0%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「3～5時間未満」(20.8%)という回答が最も多く、次いで「0～1時間未満」(20.2%)、「2～3時間未満」(18.9%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(33.7%)という回答が最も多く、次いで、「0～1時間未満」(25.4%)、「2～3時間未満」(24.3%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

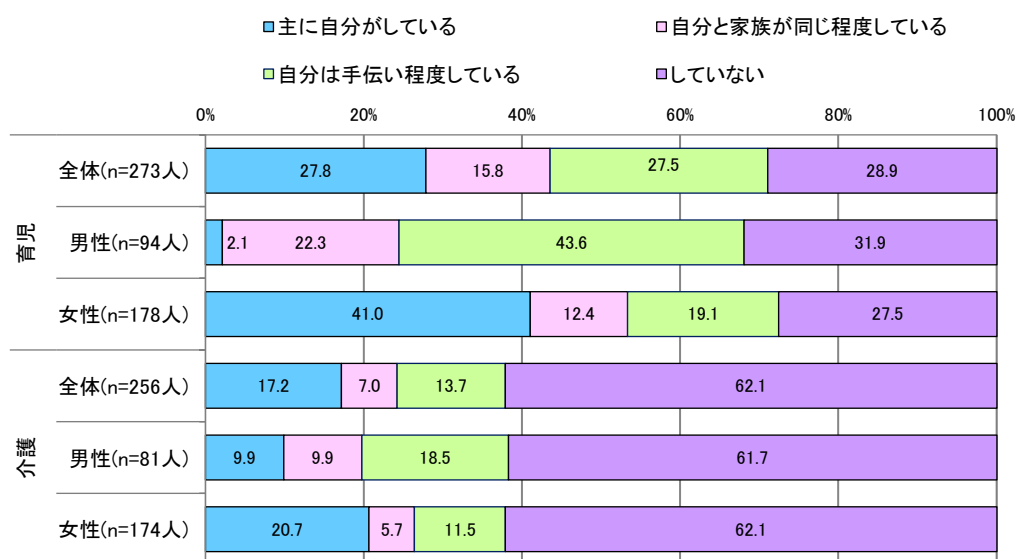


問 23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（41.0%）で、男性の回答2.1%と比べ大きな差がある。
- ・介護では、男性は、「自分は手伝い程度している」（18.5%）が約2割となっている。一方、女性は「自分が主にしている」（20.7%）が約2割となっている。また、男性の「自分が主にしている」（9.9%）は約1割となり、女性が男性より高い割合となっている。  
（※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

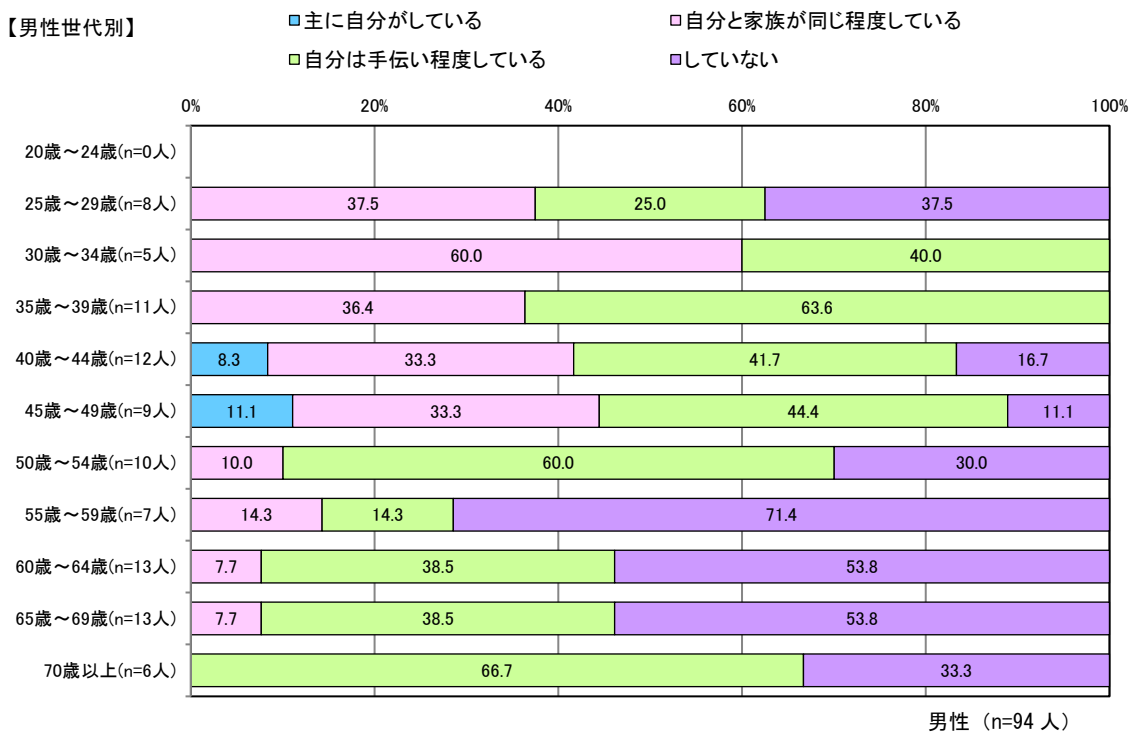
【全分野】



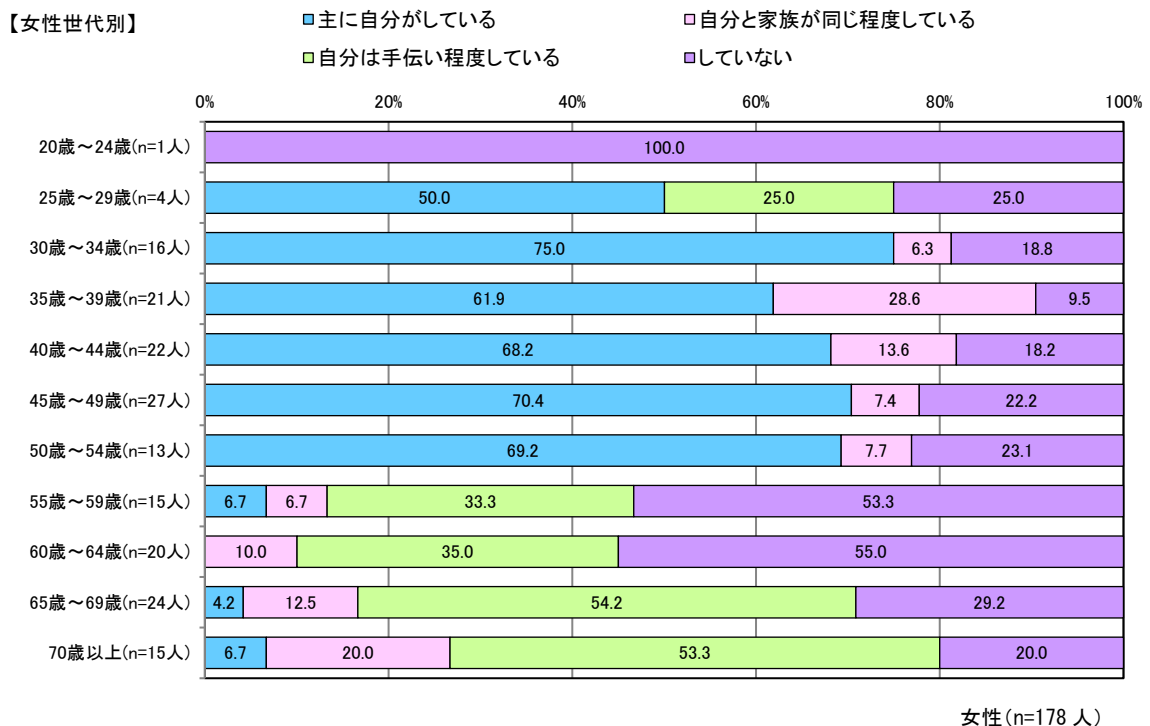
## 1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では30歳～34歳では、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が6割となっている。25歳～49歳では約4割となるものの、50歳以上では約1割となっている。特に、40歳代以外の年代の男性では、「主に自分がしている」という回答はなしとなっている。
- ・一方、女性では「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、30歳～54歳で、約8割から9割となっている。

【男性世代別】



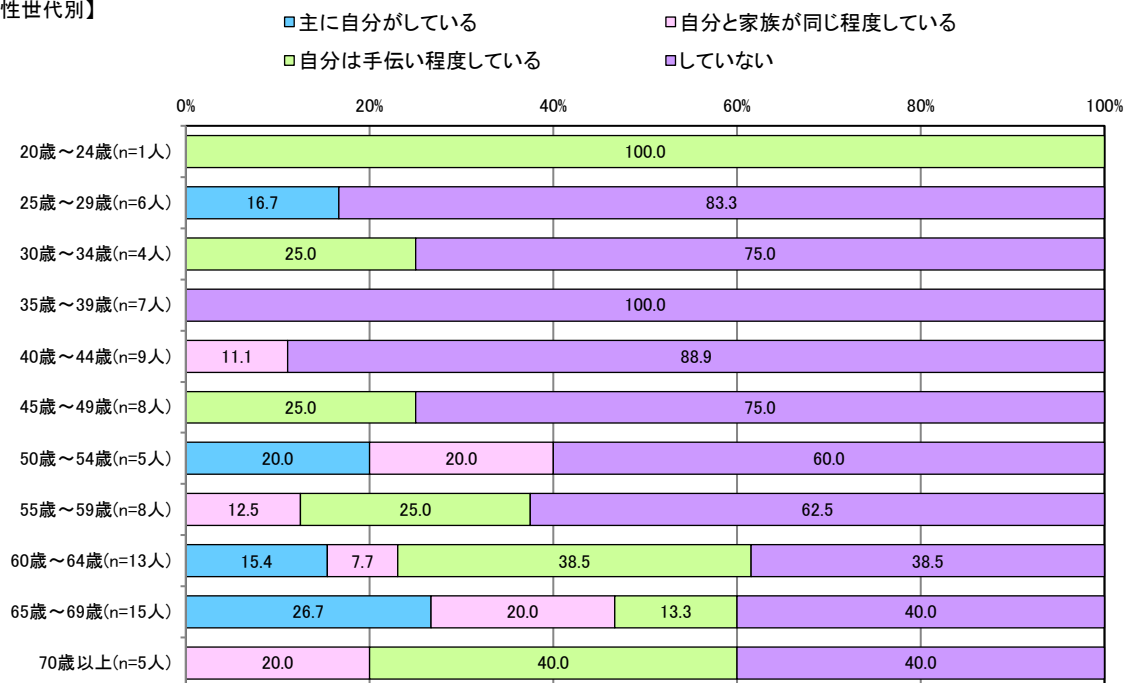
【女性世代別】



## 2 介護

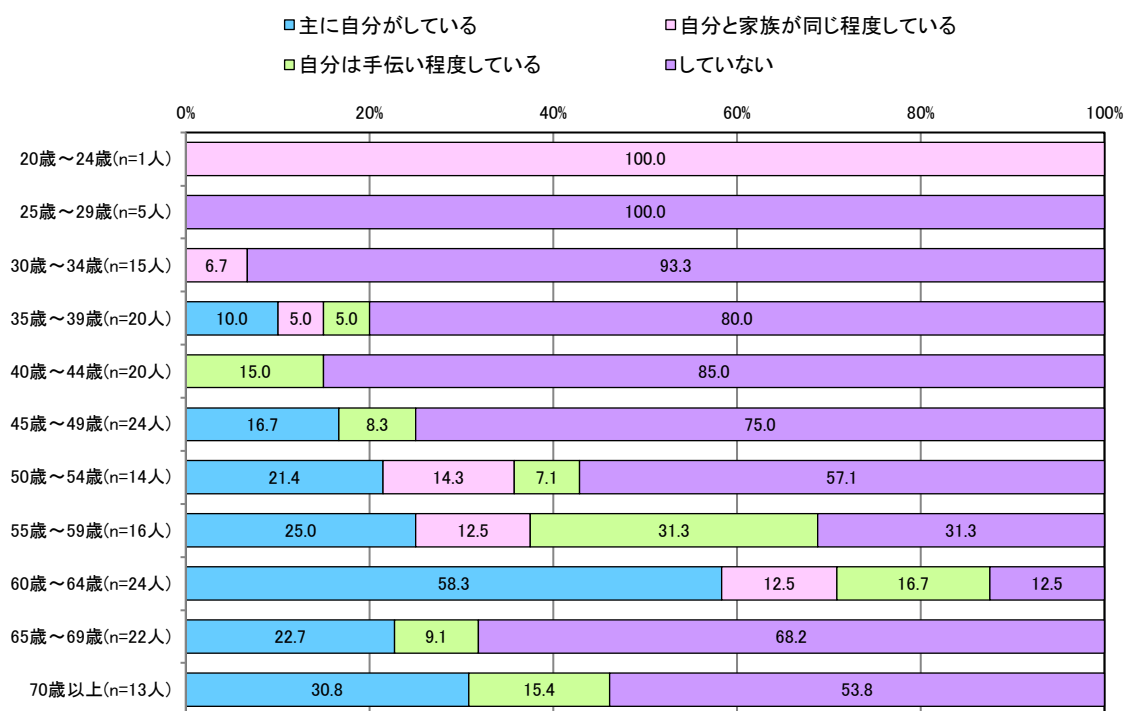
- ・性別でみると、男女とも50歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっている。一方、「主に自分がしている」という回答は、男性に比べ女性の方が多くなっている。特に、60歳～64歳の女性では58.3%と5割を超えている。

【男性世代別】



男性 (n=81人)

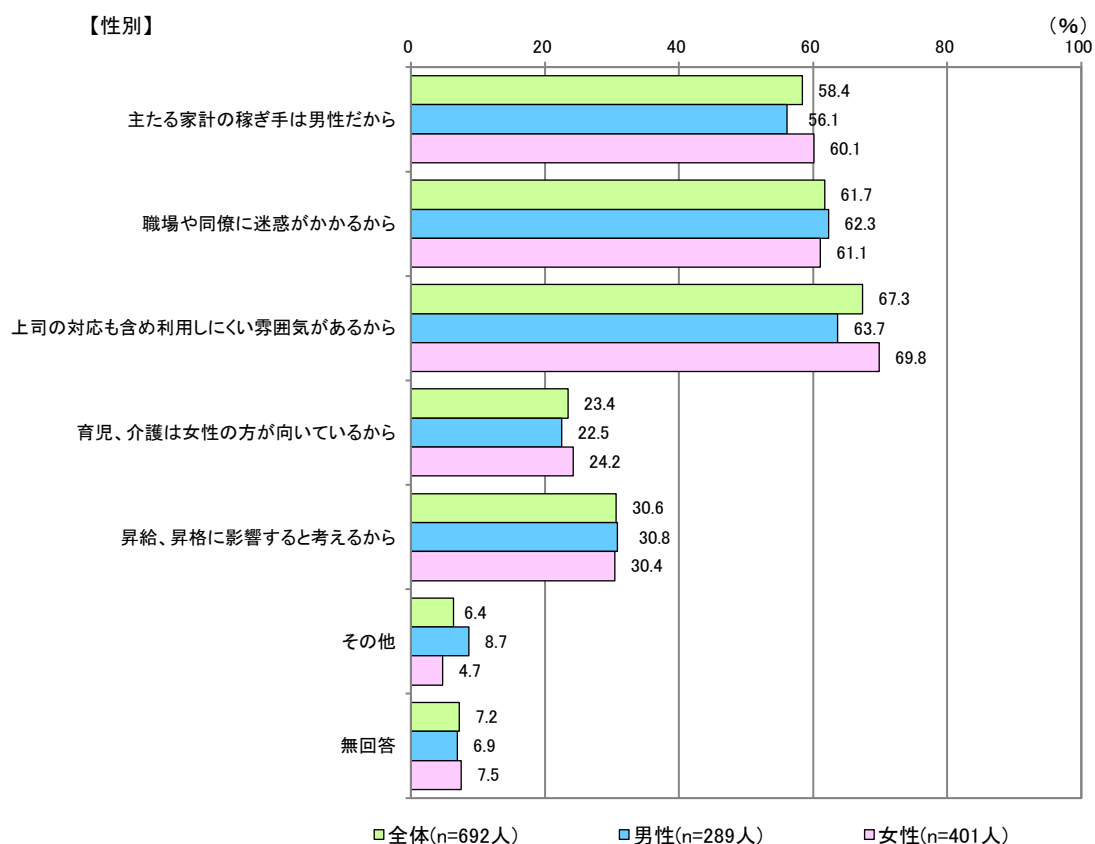
【女性世代別】



女性 (n=174人)

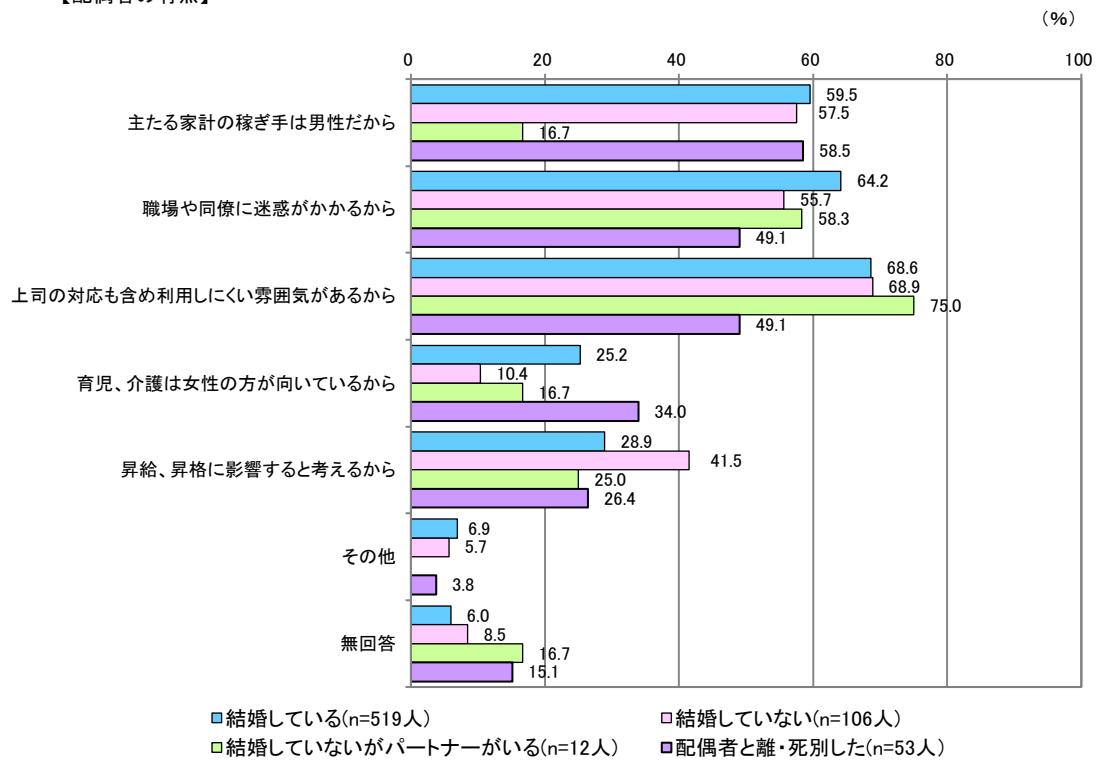
問 24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(67.3%)で、約7割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(61.7%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(58.4%)となっている。
- ・性別でみると、男性では「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(63.7%)、次いで「職場や同僚に迷惑がかかるから」(62.3%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(56.1%)となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(69.8%)が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(61.1%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(60.1%)となっている。

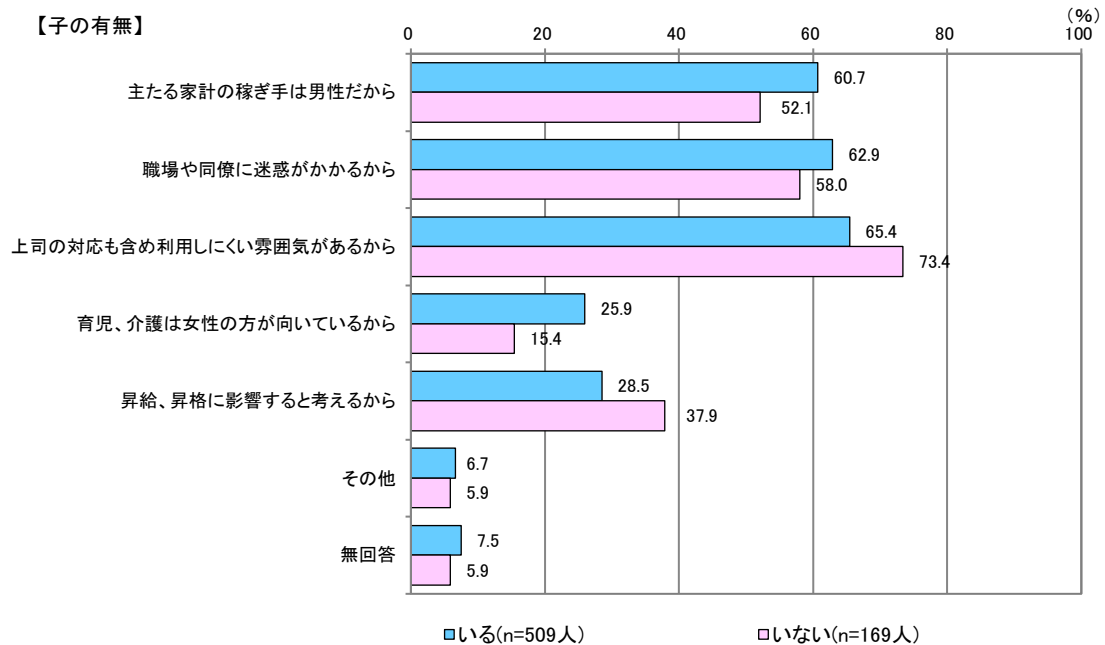


- ・配偶者の有無でみると、「職場や同僚に迷惑がかかるから」という回答が、「結婚している」で 64.2%となっており、他より回答割合がやや高い傾向となっている。また、「昇給、昇格に影響すると考えられるから」では、「結婚していない」で 41.5%とやや高い回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「昇給、昇格に影響すると考えるから」という回答では、「いない」が 37.9%となり、「いる」では 28.5%と意識に差がある。一方、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」では、「いる」が 60.7%と「いない」52.1%とよりやや高い回答割合となっている。

【配偶者の有無】

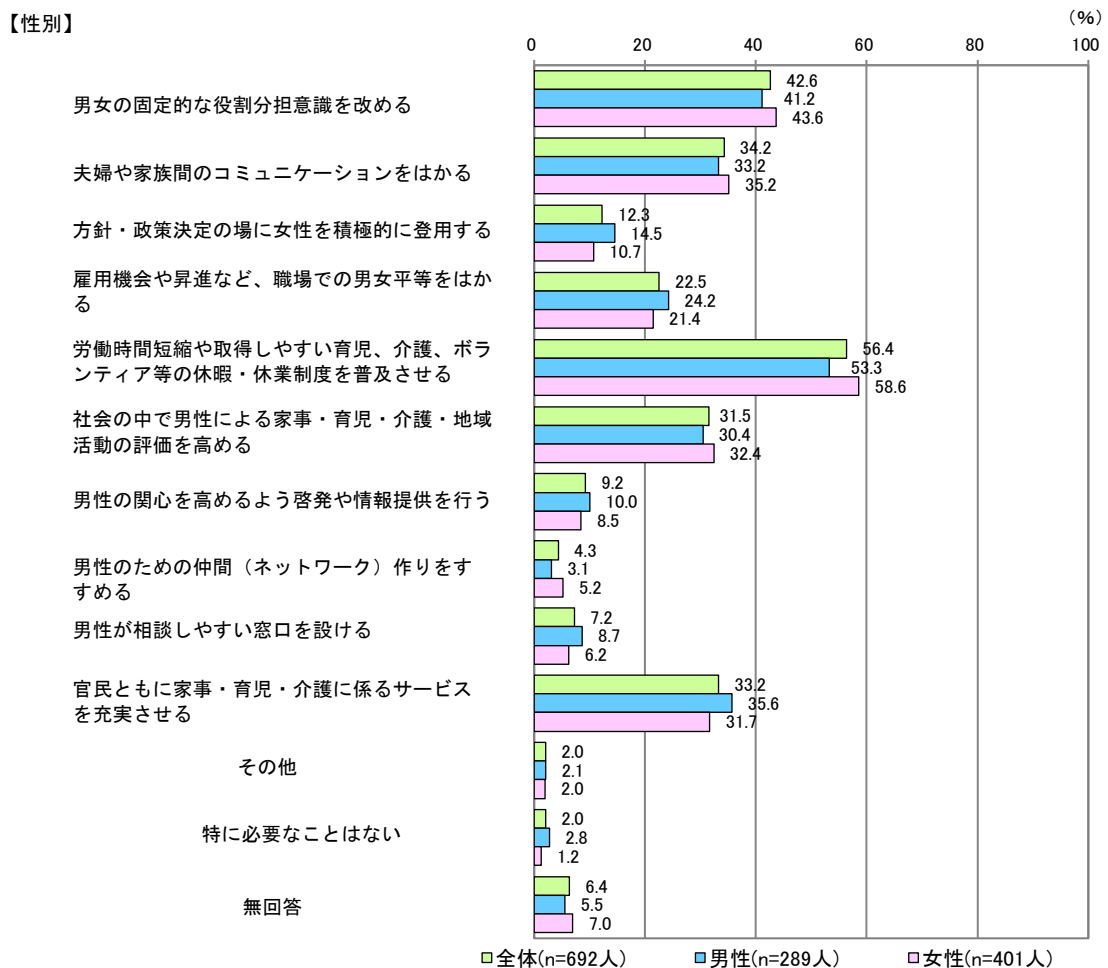


【子の有無】



問 25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

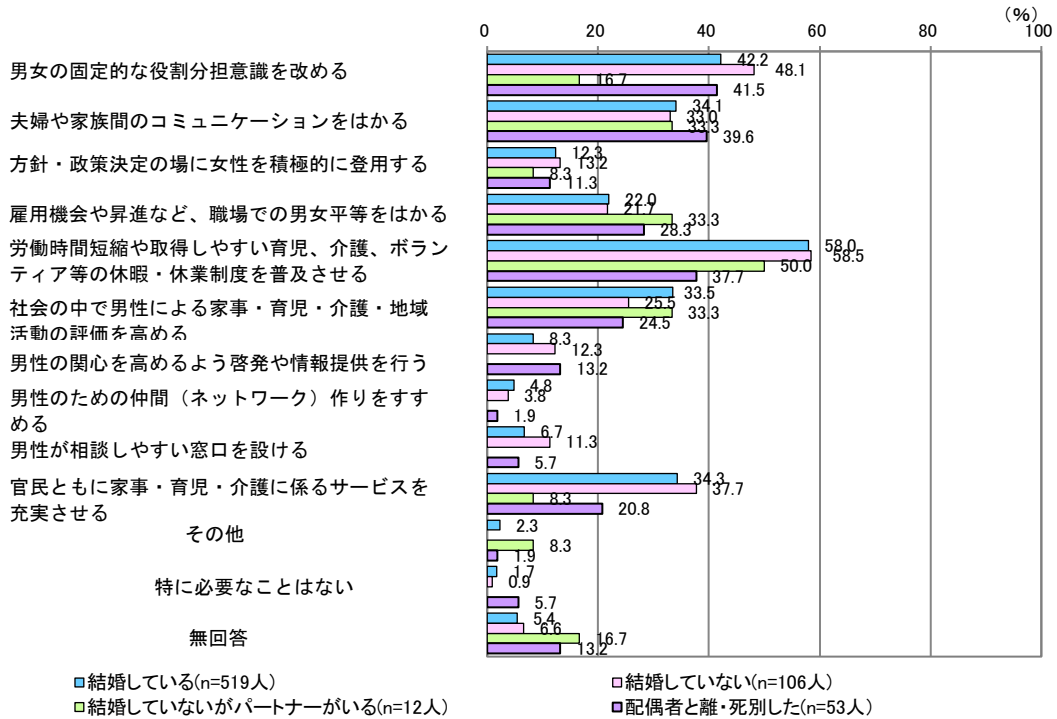
- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(56.4%)が最も多く、約6割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(42.6%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(34.2%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(33.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(31.5%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(53.3%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(41.2%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(35.6%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(33.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(30.4%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(58.6%)という回答が最も多い。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(43.6%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(35.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(32.4%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(31.7%)の順となっている。



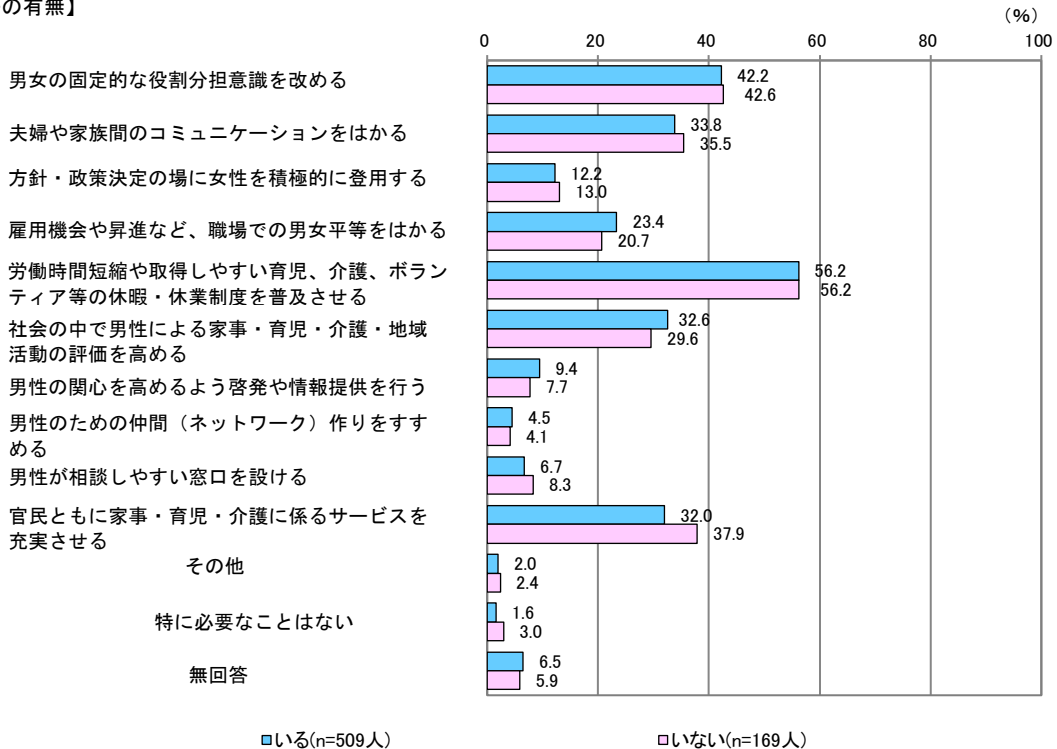


- ・配偶者の有無でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、「結婚している」で58.0%、「結婚していない」で58.5%と約6割と、高い回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」という回答では、「いる」では32.0%、「いない」では37.9%と意識にやや差がある。

【配偶者の有無】



【子の有無】





---

## 地域社会に関することについて

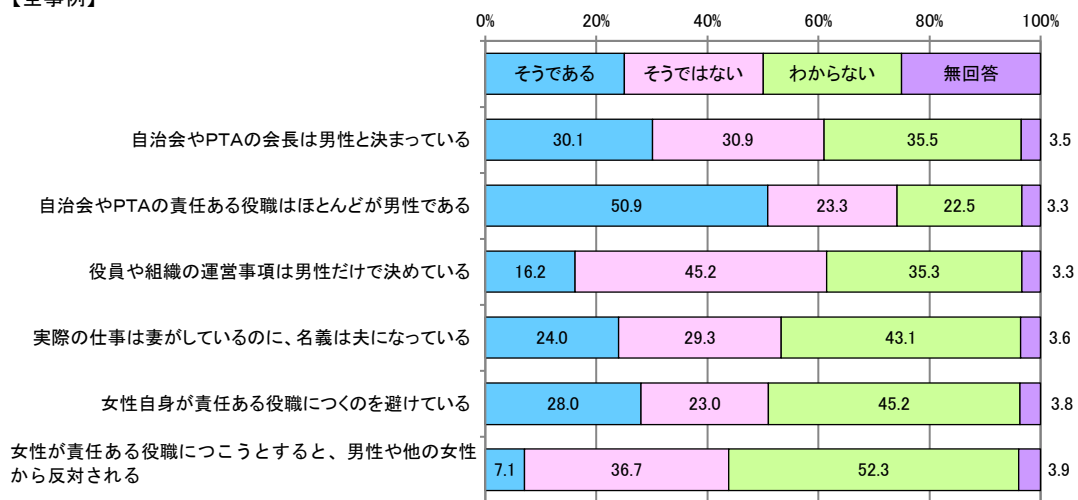
---



問 26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（50.9%）となっている。次いで「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（30.1%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（28.0%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（45.2%）が最も多く、約5割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（36.7%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（30.9%）と続いている。

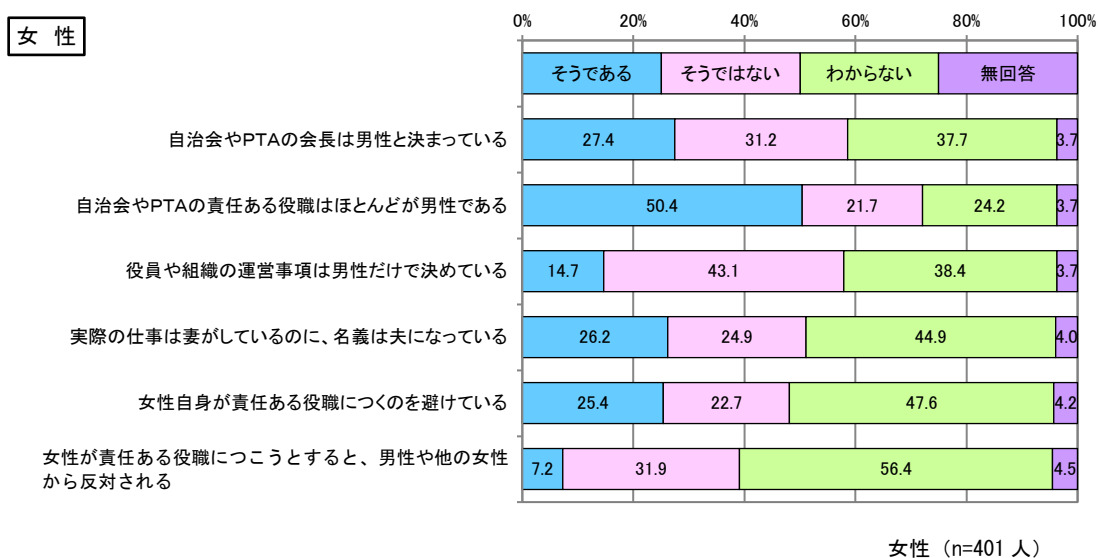
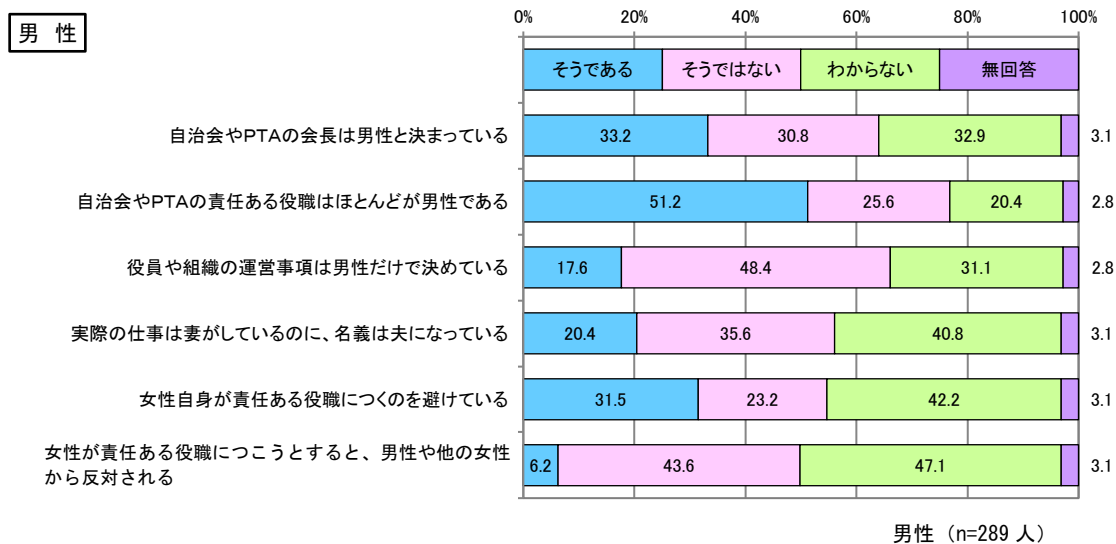
【全事例】



全体 (n=692 人)

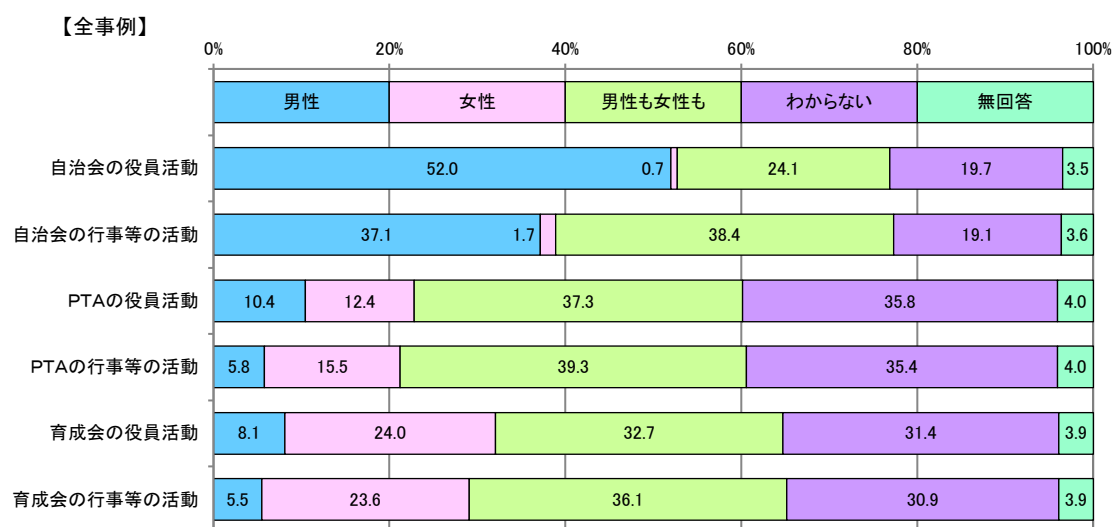
- 性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 26.2%が男性の 20.4%よりもやや高い。また、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」では、男性の回答割合 31.5%と女性の 25.4%よりもやや高くなっている。

【性別】



問 27 あなたが住んでいる地域では、次の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

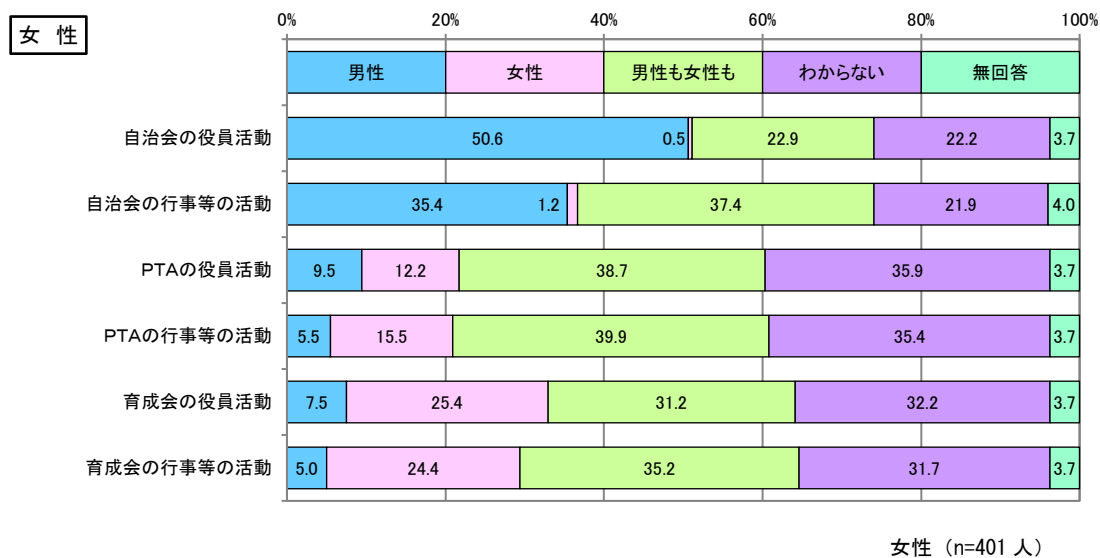
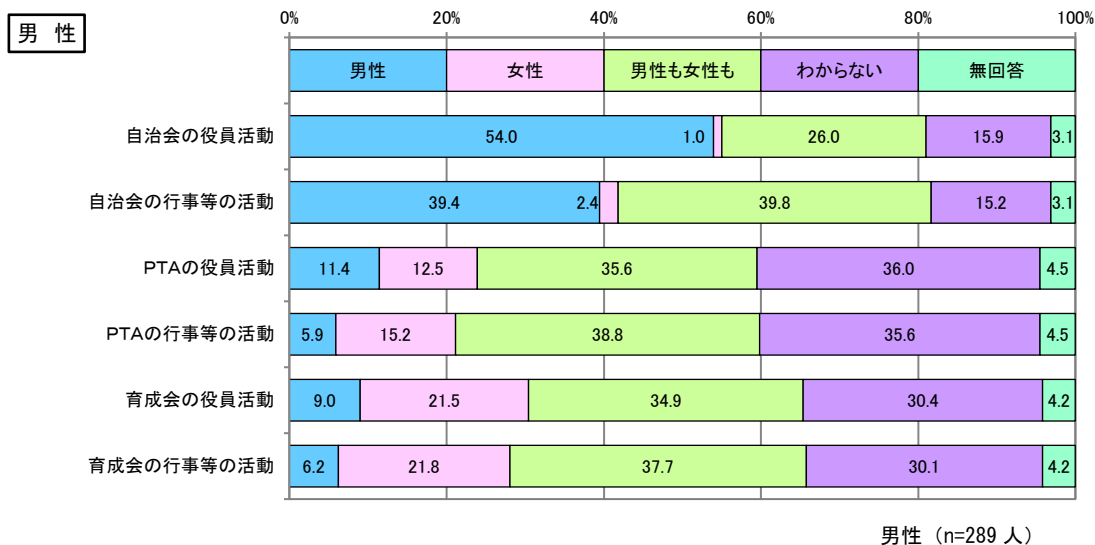
- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約5割（52.0%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（37.1%）、「PTAの役員活動」（10.4%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の役員活動」（24.0%）が最も多く、約2割となっている。次いで「育成会の行事等の活動」（23.6%）、「PTAの行事等の活動」（15.5%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「PTAの行事等の活動」（39.3%）が最も多く、約4割となっている。次に「自治会の行事等の活動」（38.4%）、「PTAの役員活動」（37.3%）、と続いている。



全体 (n=692 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

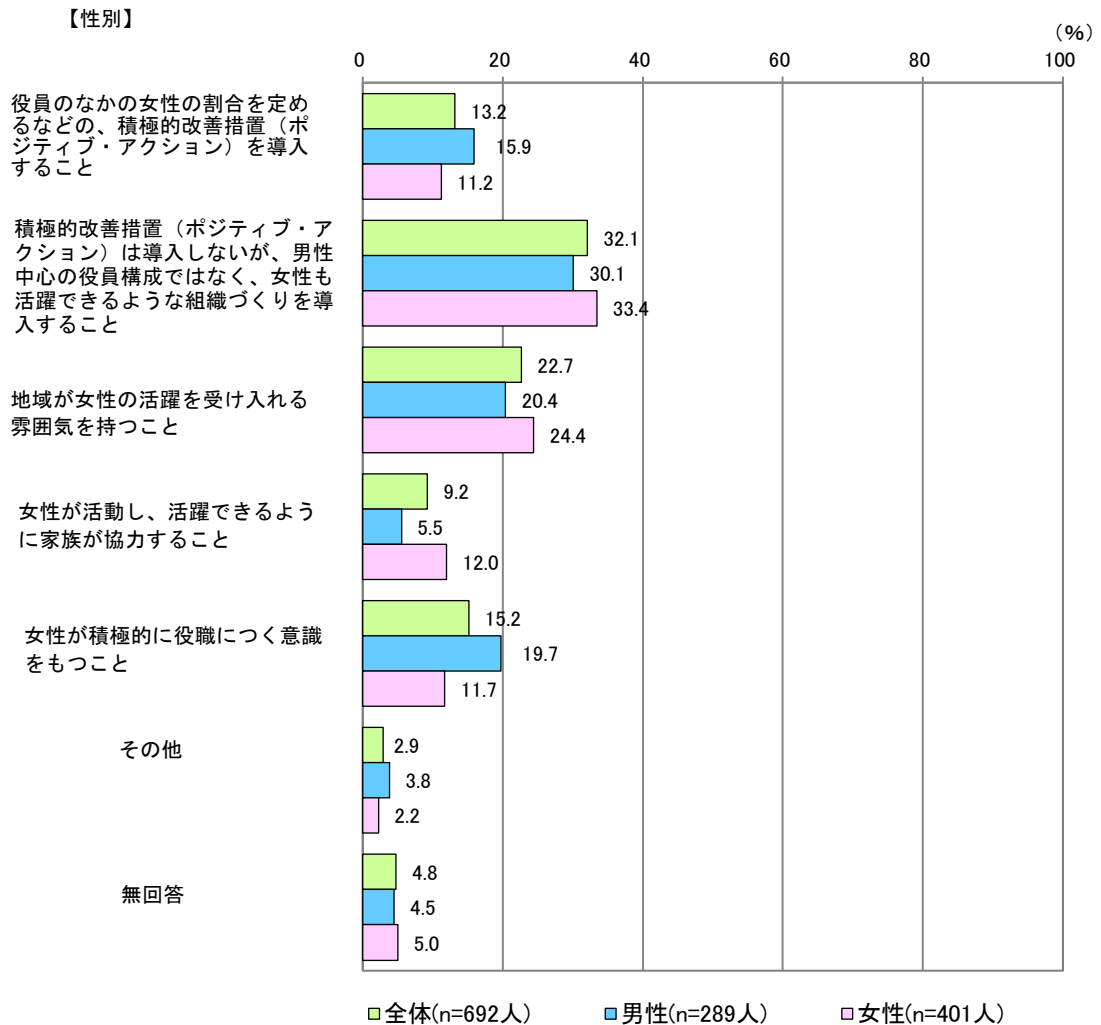
【性別】





問 28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。  
 あなたは、どうすればそれが可能になるとお思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（32.1%）が最も多く、約3割となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気をもつこと」（22.7%）、「女性が積極的に役職につく意識を持つこと」（15.2%）、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（13.2%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、次いで「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気をもつこと」となっている。





---

## 男女の人権に関することについて

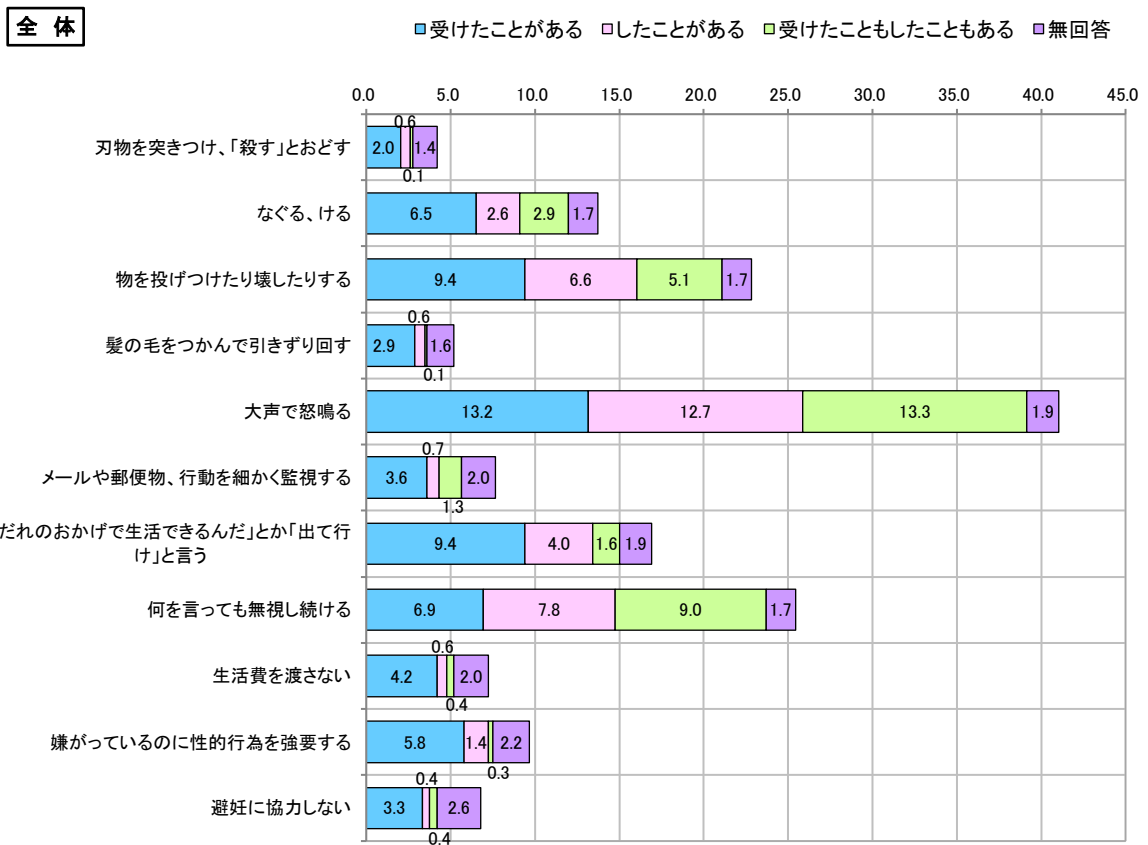
---



問 29 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- 全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.2%) が最も多くなっており、次いで「物を投げたり壊したりする」(9.4%) と『「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う』(9.4%) が同率で続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(12.7%) が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(7.8%)、「物を投げつけたり壊したりする」(6.6%) と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.3%) が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(9.0%)、「物を投げつけたり壊したりする」(5.1%) と続いている。

(%)



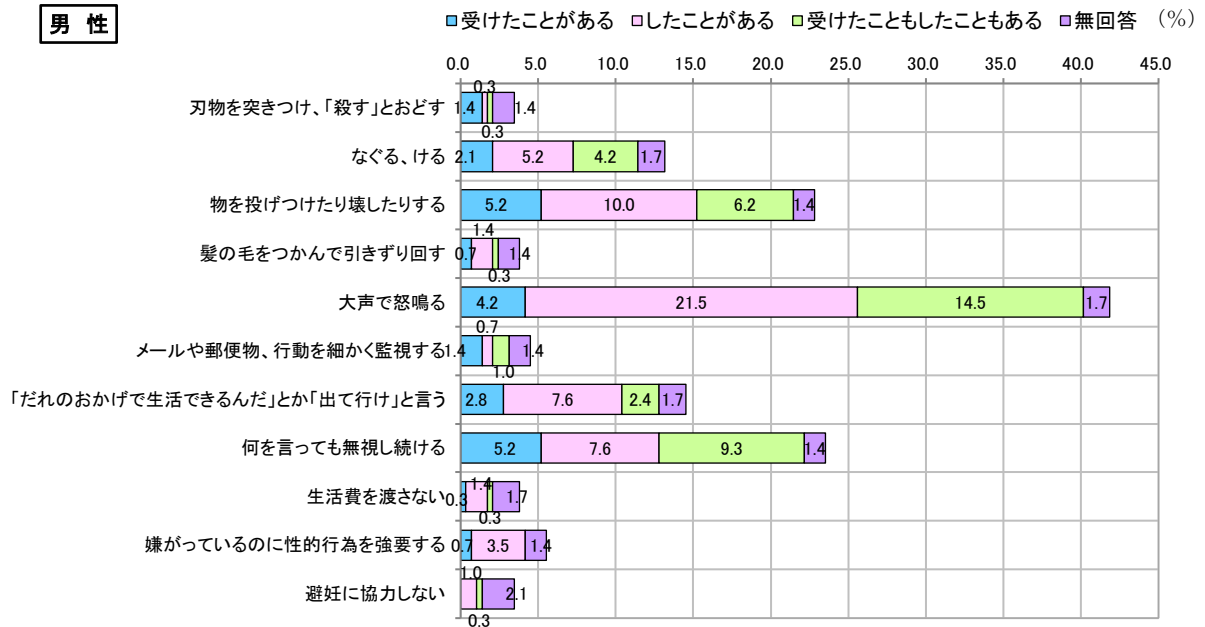
全体 (n=692 人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性よりも女性がやや多くなっている。

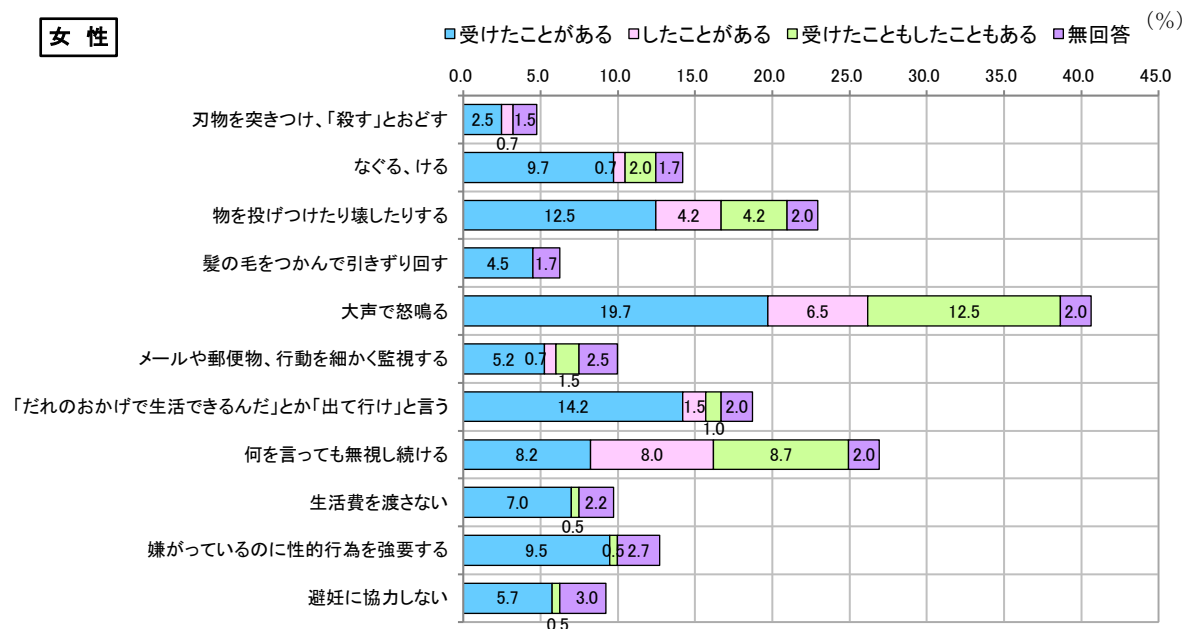
【性別】

**男性**



男性 (n=289 人)

**女性**



女性 (n=401 人)

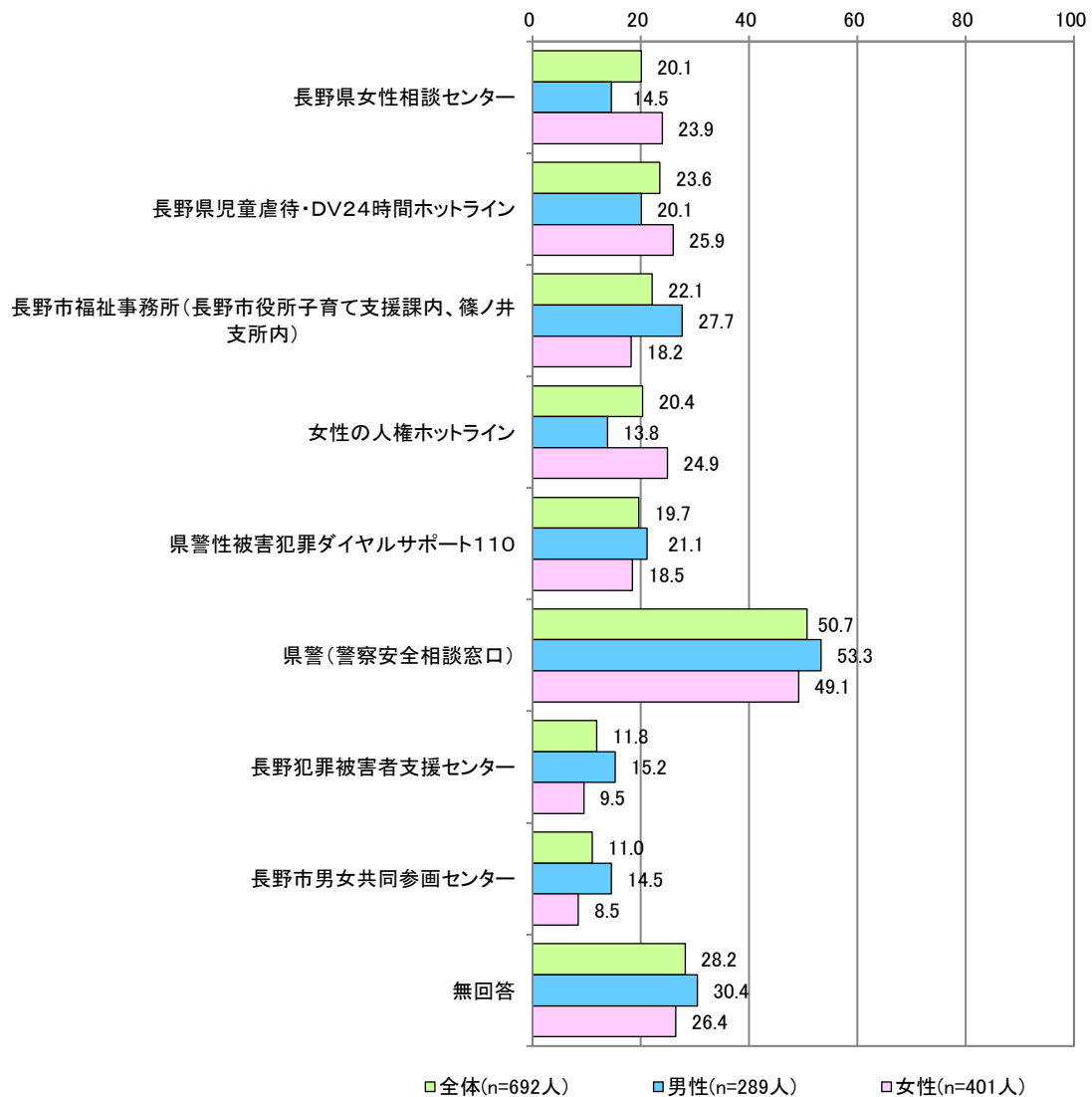
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 30 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（50.7%）で、約5割となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（23.6%）、「長野市福祉事務所」（22.1%）、「女性の人権ホットライン」（20.4%）、「長野県女性相談センター」（20.1%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（53.3%）が5割を超えて最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（27.7%）、「県警性被害犯罪ダイヤルサポート110」（21.1%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（49.1%）が最も多く、次に、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」（25.9%）、「女性の人権ホットライン」（24.9%）となっており、上位2番目と3番目が男性の回答とは認知度に差がある。

【性別】

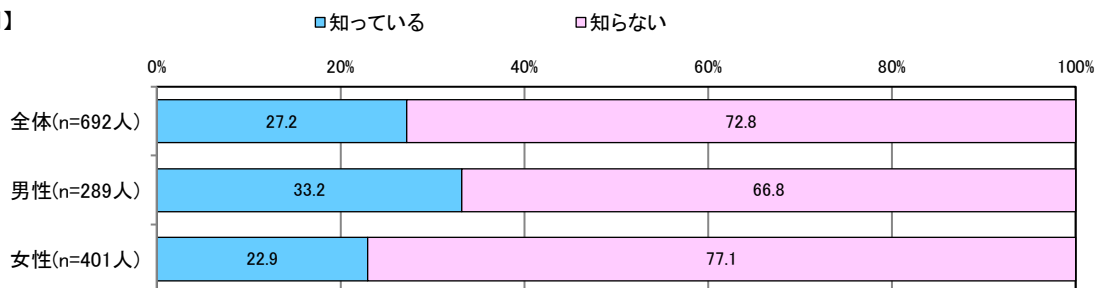
(%)



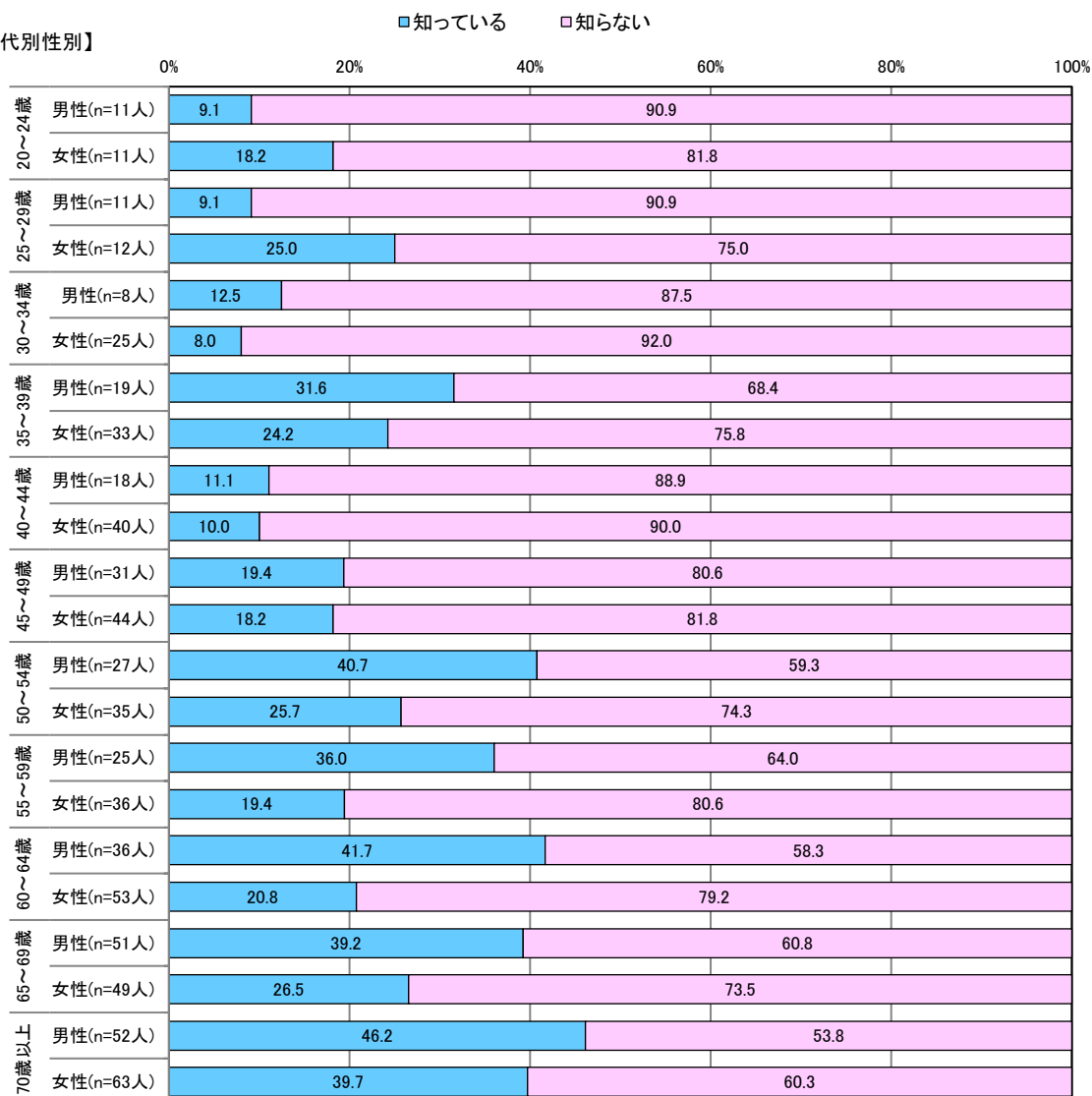
## <DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 30 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約3割（27.2%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」（33.2%）の方が「女性」（22.9%）よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、50歳以上の年代において認知度が約4割以上となっている。一方、女性は70歳以上の年代において認知度が約4割となっている。

【性別】



【世代別性別】

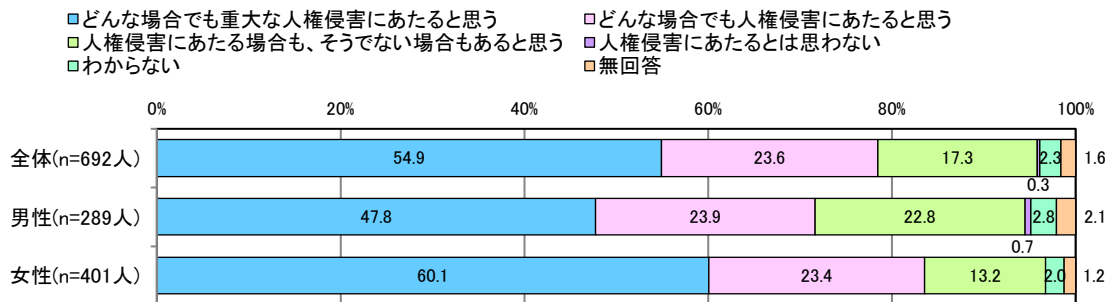




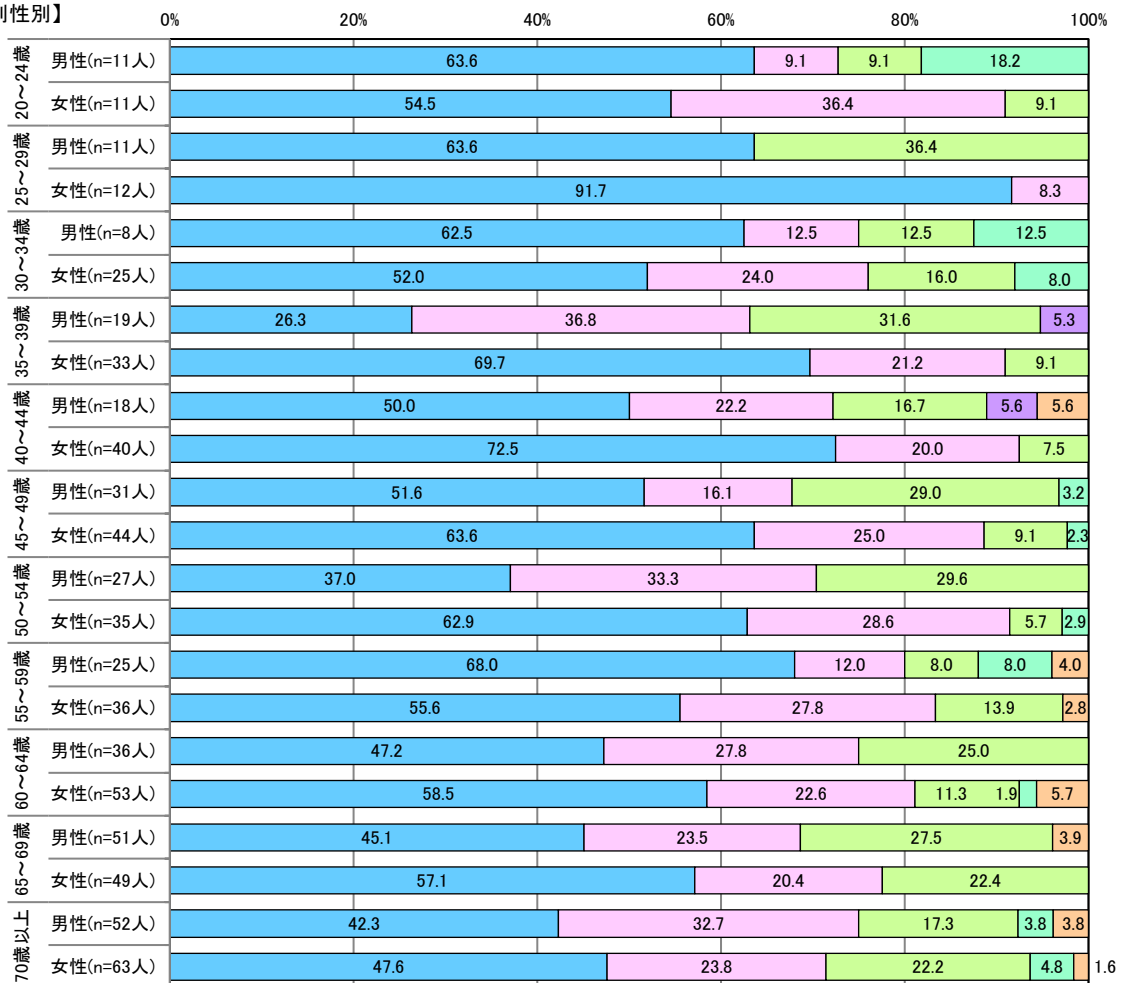
問 31 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのは  
 どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（54.9%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（23.6%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（17.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答で、35歳～39歳及び50歳～54歳の男性で4割に満たない。他の年代の男性では、4割を超えている。また、女性のいずれの年代も、4割を超えている。

【性別】



【世代別性別】





---

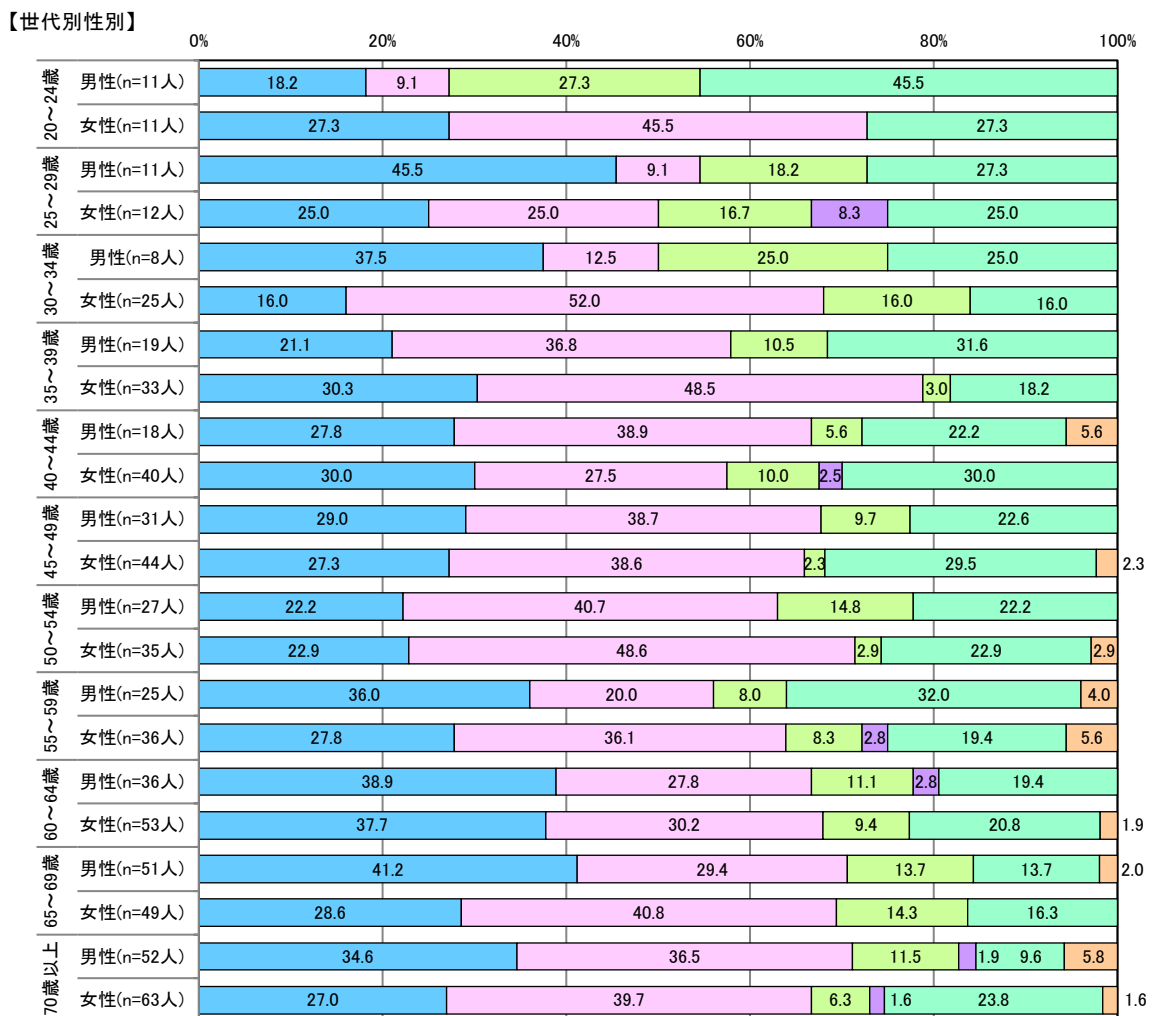
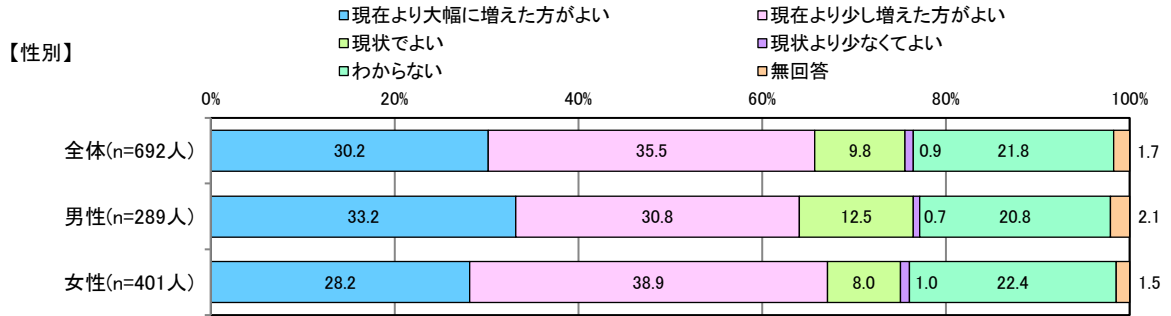
## 男女共同参画施策に関するについて

---



問 32 平成 31 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数（割合）は 7 人（20.0%）、また、住民自治協議会における女性役員の数（割合）は 492 人（17.9%）となっています。このことについて、あなたの考えに最も近いものを 1 つお選びください。

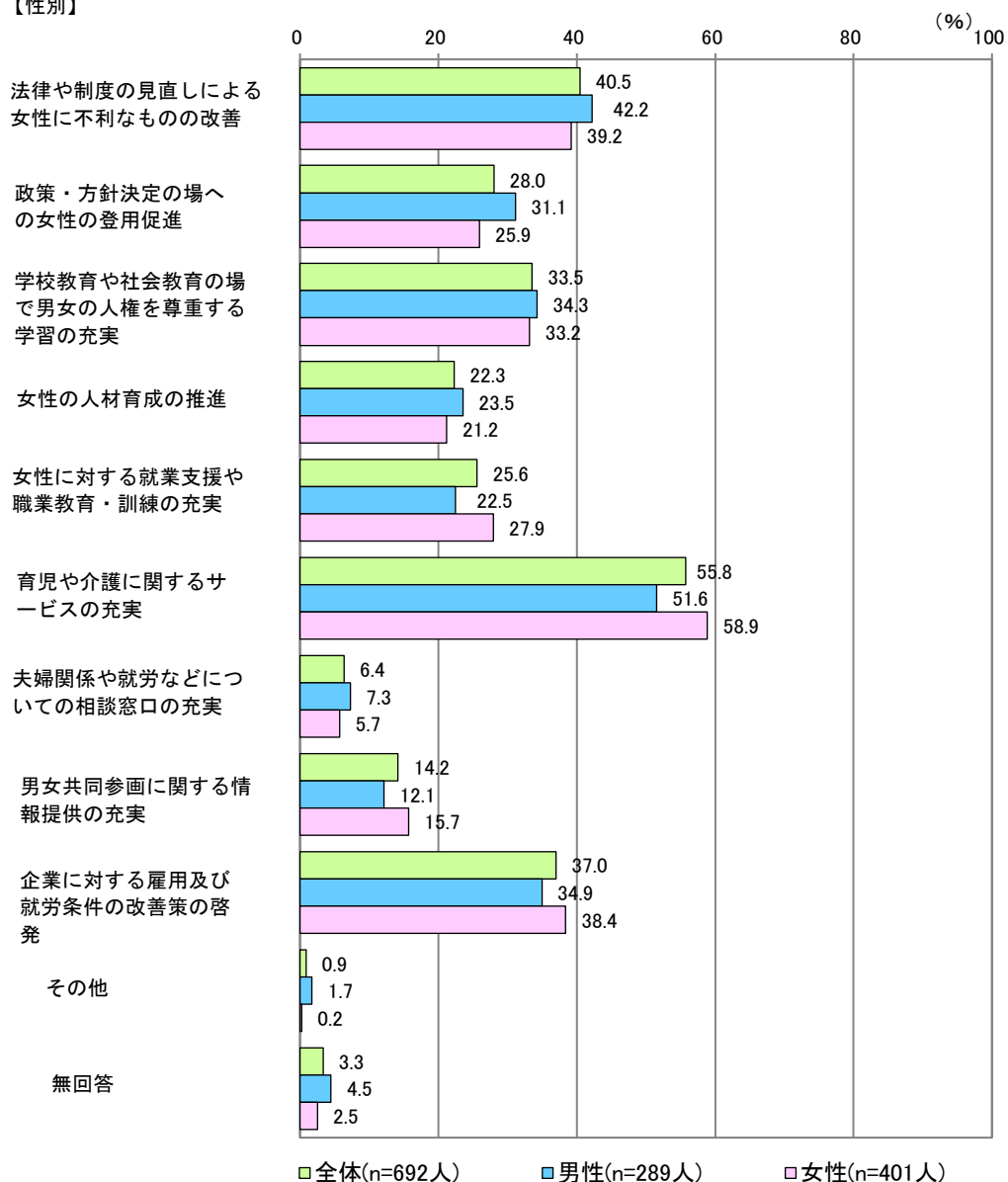
- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」（30.2%）及び「現在より少し増えた方がよい」（35.5%）という回答割合の合計は、約 7 割（65.7%）となっている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性 64.0%、女性 67.1%で、女性の方がやや高い。
- ・世代別性別でみると、35 歳～39 歳の女性で、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計が約 8 割となっている。



問 33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(55.8%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(40.5%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(37.0%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.6%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(42.2%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(34.9%)となる。女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(58.9%)という回答が最も多くなっており、男性よりも回答割合がやや高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(39.2%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(38.4%)の順となる。

【性別】



---

## 資 料

---





---

## 単純集計

---



「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	692	34.6%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	289	41.8%
②女性	401	57.9%
無回答	2	0.3%
合計	692	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	22	3.2%
②25歳～29歳	23	3.3%
③30歳～34歳	33	4.8%
④35歳～39歳	52	7.5%
⑤40歳～44歳	58	8.4%
⑥45歳～49歳	75	10.8%
⑦50歳～54歳	62	9.0%
⑧55歳～59歳	61	8.8%
⑨60歳～64歳	89	12.9%
⑩65歳～69歳	100	14.5%
⑪70歳以上	115	16.6%
無回答	2	0.3%
合計	692	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	20	2.9%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	21	3.0%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	12	1.7%
④会社役員・経営者	42	6.1%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	218	31.5%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	153	22.1%
⑦家事専業者	100	14.5%
⑧学生	7	1.0%
⑨無職	106	15.3%
⑩その他	11	1.6%
無回答	2	0.3%
合計	692	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	61	8.8%
②一世代世帯(夫婦のみ)	204	29.5%
③二世帯世帯(親と子)	341	49.3%
④三世帯世帯(親と子と孫)	70	10.1%
⑤その他	12	1.7%
無回答	4	0.6%
合計	692	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	519	75.0%
②結婚していない	106	15.3%
③結婚していないがパートナーがいる	12	1.7%
④配偶者と離・死別した	53	7.7%
無回答	2	0.3%
合計	692	100.0%

F 結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規社員)	235	44.3%
②いる(非正規(勤務時間は正規社員と同じ))	25	4.7%
③いる(非正規(パート))	92	17.3%
④いない	155	29.2%
⑤その他	22	4.1%
無回答	2	0.4%
合計	531	100.0%

G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	509	73.6%
②いない	169	24.4%
無回答	14	2.0%
合計	692	100.0%

一般的なことにおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。

それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	218	31.5%
②女性が優位	86	12.4%
③平等である	320	46.2%
④わからない	63	9.1%
無回答	5	0.7%
合計	692	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	104	15.0%
②女性が優位	24	3.5%
③平等である	318	46.0%
④わからない	236	34.1%
無回答	10	1.4%
合計	692	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	443	64.0%
②女性が優位	16	2.3%
③平等である	128	18.5%
④わからない	101	14.6%
無回答	4	0.6%
合計	692	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	382	55.2%
②女性が優位	35	5.1%
③平等である	172	24.9%
④わからない	90	13.0%
無回答	13	1.9%
合計	692	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	286	41.3%
②女性が優位	23	3.3%
③平等である	239	34.5%
④わからない	140	20.2%
無回答	4	0.6%
合計	692	100.0%

6 習慣・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	544	78.6%
②女性が優位	19	2.7%
③平等である	60	8.7%
④わからない	66	9.5%
無回答	3	0.4%
合計	692	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	531	76.7%
②女性が優位	3	0.4%
③平等である	70	10.1%
④わからない	83	12.0%
無回答	5	0.7%
合計	692	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	503	72.7%
②女性が優位	9	1.3%
③平等である	75	10.8%
④わからない	101	14.6%
無回答	4	0.6%
合計	692	100.0%

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	295	42.6%
②聞いたことがある	251	36.3%
③知らない	143	20.7%
無回答	3	0.4%
合計	692	100.0%

2 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	73	10.5%
②聞いたことがある	210	30.3%
③知らない	403	58.2%
無回答	6	0.9%
合計	692	100.0%

3 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	106	15.3%
②聞いたことがある	158	22.8%
③知らない	421	60.8%
無回答	7	1.0%
合計	692	100.0%

4 女性活躍推進法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	91	13.2%
②聞いたことがある	184	26.6%
③知らない	408	59.0%
無回答	9	1.3%
合計	692	100.0%

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	367	53.0%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	158	22.8%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	463	66.9%
④男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会	525	75.9%
⑤男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	454	65.6%
⑥その他	9	1.3%
無回答	7	1.0%
対象数	692	-

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	26	3.8%
②どちらかといえば賛成	227	32.8%
③どちらかといえば反対	259	37.4%
④反対	167	24.1%
無回答	13	1.9%
合計	692	100.0%

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうか考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚するまでは職業をもつ方がよい	12	1.7%
②子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	33	4.8%
③子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	348	50.3%
④子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	221	31.9%
⑤その他	64	9.2%
無回答	14	2.0%
合計	692	100.0%

**女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。**

問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうか考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	416	60.1%
②どちらかといえば必要だと思う	241	34.8%
③必要ないと思う	19	2.7%
無回答	16	2.3%
合計	692	100.0%

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことからについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

#### 1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	132	27.7%
②女性の方が優遇されている	5	1.0%
③平等である	226	47.4%
④わからない	77	16.1%
無回答	37	7.8%
合計	477	100.0%

## 2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	189	39.6%
②女性の方が優遇されている	12	2.5%
③平等である	153	32.1%
④わからない	85	17.8%
無回答	38	8.0%
合計	477	100.0%

## 3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	109	22.9%
②女性の方が優遇されている	53	11.1%
③平等である	218	45.7%
④わからない	59	12.4%
無回答	38	8.0%
合計	477	100.0%

## 4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	68	14.3%
②女性の方が優遇されている	14	2.9%
③平等である	287	60.2%
④わからない	70	14.7%
無回答	38	8.0%
合計	477	100.0%

## 5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	133	27.9%
②女性の方が優遇されている	8	1.7%
③平等である	218	45.7%
④わからない	77	16.1%
無回答	41	8.6%
合計	477	100.0%

### 問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①積極的に推進している	117	24.5%
②積極的とは言えないが推進している	241	50.5%
③推進しているとは言えない	75	15.7%
無回答	44	9.2%
合計	477	100.0%



問9 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	62	24.8%
②やや思う	97	38.8%
③あまり思わない	60	24.0%
④思わない	19	7.6%
無回答	12	4.8%
合計	250	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	51	20.4%
②やや思う	105	42.0%
③あまり思わない	58	23.2%
④思わない	26	10.4%
無回答	10	4.0%
合計	250	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	100	40.0%
②やや思う	95	38.0%
③あまり思わない	37	14.8%
④思わない	7	2.8%
無回答	11	4.4%
合計	250	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	75	30.0%
②やや思う	78	31.2%
③あまり思わない	63	25.2%
④思わない	22	8.8%
無回答	12	4.8%
合計	250	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	36	14.4%
②やや思う	49	19.6%
③あまり思わない	72	28.8%
④思わない	81	32.4%
無回答	12	4.8%
合計	250	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	18	7.2%
②やや思う	35	14.0%
③あまり思わない	60	24.0%
④思わない	122	48.8%
無回答	15	6.0%
合計	250	100.0%

問10 現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	195	28.2%
②まあ重要だと思う	286	41.3%
③重要だと思わない	97	14.0%
④わからない	41	5.9%
無回答	73	10.5%
合計	692	100.0%

2 女性職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	222	32.1%
②まあ重要だと思う	294	42.5%
③重要だと思わない	64	9.2%
④わからない	39	5.6%
無回答	73	10.5%
合計	692	100.0%

3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	341	49.3%
②まあ重要だと思う	189	27.3%
③重要だと思わない	40	5.8%
④わからない	49	7.1%
無回答	73	10.5%
合計	692	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	376	54.3%
②まあ重要だと思う	182	26.3%
③重要だと思わない	28	4.0%
④わからない	33	4.8%
無回答	73	10.5%
合計	692	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	413	59.7%
②まあ重要だと思う	164	23.7%
③重要だと思わない	28	4.0%
④わからない	15	2.2%
無回答	72	10.4%
合計	692	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	393	56.8%
②まあ重要だと思う	162	23.4%
③重要だと思わない	34	4.9%
④わからない	28	4.0%
無回答	75	10.8%
合計	692	100.0%

問11 離職されている女性の方におたずねします。

再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①正規社員	28	19.0%
②非正規社員	6	4.1%
③パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)	60	40.8%
無回答	53	36.1%
合計	147	100.0%

問12 問11で2または3を選ばれた方におたずねします。

その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児で家族の協力や理解が得られないから	13	19.7%
②正規社員で雇用する企業が少ないから	14	21.2%
③仕事より家庭生活を優先したいから	44	66.7%
④時間外勤務や休日出勤があるから	24	36.4%
⑤積極的に仕事に就くつもりがないから	18	27.3%
⑥その他	9	13.6%
無回答	1	1.5%
対象数	66	-

問13 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚・出産	191	51.6%
②家事・育児	99	26.8%
③介護・看護	59	15.9%
④転職・起業	81	21.9%
⑤配偶者の転勤	26	7.0%
⑥健康上の理由	89	24.1%
⑦給料が少ない	64	17.3%
⑧解雇等職場の都合	60	16.2%
⑨特に理由はない	37	10.0%
⑩その他	57	15.4%
対象数	370	-

問14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児と仕事の両立が難しい	560	80.9%
②女性が就ける仕事に限られている	146	21.1%
③活躍したいと思える仕事がない	41	5.9%
④活躍を望む女性が少ない	121	17.5%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	71	10.3%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	398	57.5%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	322	46.5%
⑧家族の理解が不十分	164	23.7%
無回答	33	4.8%
対象数	692	-

問15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	119	17.2%
②能力開発、自己啓発	99	14.3%
③働き方改革の推進	200	28.9%
④福利厚生の実施	206	29.8%
⑤賃金の男女平等	170	24.6%
⑥非常勤職員の正規職員化	88	12.7%
⑦家族の理解や協力	243	35.1%
⑧職場の理解や協力	305	44.1%
⑨女性自身の意識改革	152	22.0%
⑩育児・介護に関する制度の実施	318	46.0%
⑪ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	22	3.2%
⑫その他	7	1.0%
無回答	25	3.6%
対象数	692	-

問16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	448	64.7%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	78	11.3%
③就職に関する相談体制の充実	156	22.5%
④再就職のための講座やセミナーの充実	93	13.4%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	600	86.7%
⑥保育所などの保育施設の充実	480	69.4%
⑦その他	9	1.3%
無回答	29	4.2%
対象数	692	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問17 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	231	33.4%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	206	29.8%
③知らない	246	35.5%
無回答	9	1.3%
合計	692	100.0%

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	24	3.5%
②「家庭生活」優先	149	21.5%
③「地域活動・個人の生活」優先	14	2.0%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	222	32.1%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	44	6.4%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	60	8.7%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	170	24.6%
無回答	9	1.3%
合計	692	100.0%

問19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	169	24.4%
②「家庭生活」優先	201	29.0%
③「地域活動・個人の生活」優先	36	5.2%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	152	22.0%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	41	5.9%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	44	6.4%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	37	5.3%
無回答	12	1.7%
合計	692	100.0%

問20 あなたは次にあげる家事をしていますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	299	47.4%
②自分と家族が同じ程度している	134	21.2%
③自分は手伝い程度している	139	22.0%
④していない	52	8.2%
無回答	7	1.1%
合計	631	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	296	46.9%
②自分と家族が同じ程度している	104	16.5%
③自分は手伝い程度している	101	16.0%
④していない	124	19.7%
無回答	6	1.0%
合計	631	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	271	42.9%
②自分と家族が同じ程度している	159	25.2%
③自分は手伝い程度している	147	23.3%
④していない	47	7.4%
無回答	7	1.1%
合計	631	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	293	46.4%
②自分と家族が同じ程度している	87	13.8%
③自分は手伝い程度している	120	19.0%
④していない	125	19.8%
無回答	6	1.0%
合計	631	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	278	44.1%
②自分と家族が同じ程度している	150	23.8%
③自分は手伝い程度している	120	19.0%
④していない	74	11.7%
無回答	9	1.4%
合計	631	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	252	39.9%
②自分と家族が同じ程度している	140	22.2%
③自分は手伝い程度している	133	21.1%
④していない	95	15.1%
無回答	11	1.7%
合計	631	100.0%

問21 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。  
あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	219	31.6%
②1～2時間未満	139	20.1%
③2～3時間未満	134	19.4%
④3～5時間未満	114	16.5%
⑤5時間以上	79	11.4%
無回答	7	1.0%
合計	692	100.0%

問22 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。  
あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	149	21.5%
②1～2時間未満	158	22.8%
③2～3時間未満	138	19.9%
④3～5時間未満	122	17.6%
⑤5時間以上	97	14.0%
無回答	28	4.0%
合計	692	100.0%

問23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	76	27.8%
②自分と家族が同じ程度している	43	15.8%
③自分は手伝い程度している	75	27.5%
④していない	79	28.9%
合計	273	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	44	17.2%
②自分と家族が同じ程度している	18	7.0%
③自分は手伝い程度している	35	13.7%
④していない	159	62.1%
合計	256	100.0%

問24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。  
 主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	404	58.4%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	427	61.7%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	466	67.3%
④育児、介護は女性の方が向いているから	162	23.4%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	212	30.6%
⑥その他	44	6.4%
無回答	50	7.2%
対象数	692	-

問25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、  
 どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	295	42.6%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	237	34.2%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	85	12.3%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	156	22.5%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	390	56.4%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	218	31.5%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	64	9.2%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	30	4.3%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	50	7.2%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	230	33.2%
⑪その他	14	2.0%
⑫特に必要なことはない	14	2.0%
無回答	44	6.4%
対象数	692	-

**「地域社会」に関することでおたずねします。**

問26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において  
 次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	208	30.1%
②そうではない	214	30.9%
③わからない	246	35.5%
無回答	24	3.5%
合計	692	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	352	50.9%
②そうではない	161	23.3%
③わからない	156	22.5%
無回答	23	3.3%
合計	692	100.0%



3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	112	16.2%
②そうではない	313	45.2%
③わからない	244	35.3%
無回答	23	3.3%
合計	692	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	166	24.0%
②そうではない	203	29.3%
③わからない	298	43.1%
無回答	25	3.6%
合計	692	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくの避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	194	28.0%
②そうではない	159	23.0%
③わからない	313	45.2%
無回答	26	3.8%
合計	692	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	49	7.1%
②そうではない	254	36.7%
③わからない	362	52.3%
無回答	27	3.9%
合計	692	100.0%

問27 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	360	52.0%
②女性	5	0.7%
③男性も女性も	167	24.1%
④わからない	136	19.7%
無回答	24	3.5%
合計	692	100.0%

## 2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	257	37.1%
②女性	12	1.7%
③男性も女性も	266	38.4%
④わからない	132	19.1%
無回答	25	3.6%
合計	692	100.0%

## 3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	72	10.4%
②女性	86	12.4%
③男性も女性も	258	37.3%
④わからない	248	35.8%
無回答	28	4.0%
合計	692	100.0%

## 4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	40	5.8%
②女性	107	15.5%
③男性も女性も	272	39.3%
④わからない	245	35.4%
無回答	28	4.0%
合計	692	100.0%

## 5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	56	8.1%
②女性	166	24.0%
③男性も女性も	226	32.7%
④わからない	217	31.4%
無回答	27	3.9%
合計	692	100.0%

## 6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	38	5.5%
②女性	163	23.6%
③男性も女性も	250	36.1%
④わからない	214	30.9%
無回答	27	3.9%
合計	692	100.0%

問28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	91	13.2%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	222	32.1%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	157	22.7%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	64	9.2%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	105	15.2%
⑥その他	20	2.9%
無回答	33	4.8%
合計	692	100.0%

### 男女の「人権」に関することでおたずねします。

問29 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

#### 1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	14	2.0%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	663	95.8%
無回答	10	1.4%
合計	692	100.0%

#### 2 ながる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	45	6.5%
②したことがある	18	2.6%
③受けたこともしたこともある	20	2.9%
④受けたこともしたこともない	597	86.3%
無回答	12	1.7%
合計	692	100.0%

#### 3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	65	9.4%
②したことがある	46	6.6%
③受けたこともしたこともある	35	5.1%
④受けたこともしたこともない	534	77.2%
無回答	12	1.7%
合計	692	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.9%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	656	94.8%
無回答	11	1.6%
合計	692	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	91	13.2%
②したことがある	88	12.7%
③受けたこともしたこともある	92	13.3%
④受けたこともしたこともない	408	59.0%
無回答	13	1.9%
合計	692	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	25	3.6%
②したことがある	5	0.7%
③受けたこともしたこともある	9	1.3%
④受けたこともしたこともない	639	92.3%
無回答	14	2.0%
合計	692	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	65	9.4%
②したことがある	28	4.0%
③受けたこともしたこともある	11	1.6%
④受けたこともしたこともない	575	83.1%
無回答	13	1.9%
合計	692	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	48	6.9%
②したことがある	54	7.8%
③受けたこともしたこともある	62	9.0%
④受けたこともしたこともない	516	74.6%
無回答	12	1.7%
合計	692	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	29	4.2%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	642	92.8%
無回答	14	2.0%
合計	692	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	40	5.8%
②したことがある	10	1.4%
③受けたこともしたこともある	2	0.3%
④受けたこともしたこともない	625	90.3%
無回答	15	2.2%
合計	692	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	23	3.3%
②したことがある	3	0.4%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	645	93.2%
無回答	18	2.6%
合計	692	100.0%

問30 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	139	20.1%
②長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	163	23.6%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	153	22.1%
④女性の人権ホットライン	141	20.4%
⑤県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	136	19.7%
⑥県警(警察安全相談窓口)	351	50.7%
⑦長野犯罪被害者支援センター	82	11.8%
⑧長野市男女共同参画センター	76	11.0%
無回答	195	28.2%
対象数	692	-

問31 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	380	54.9%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	163	23.6%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	120	17.3%
④人権侵害にあたるとは思わない	2	0.3%
⑤わからない	16	2.3%
無回答	11	1.6%
合計	692	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問32 平成30年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は7人(17.9%)、平成30年4月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は417人(16%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	209	30.2%
②現在より少し増えた方がよい	246	35.5%
③現状でよい	68	9.8%
④現状より少なくてよい	6	0.9%
⑤わからない	151	21.8%
無回答	12	1.7%
合計	692	100.0%

問33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。

特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	280	40.5%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	194	28.0%
③学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	232	33.5%
④女性の人材育成の推進	154	22.3%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	177	25.6%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	386	55.8%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	44	6.4%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	98	14.2%
⑨企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発	256	37.0%
⑩その他	6	0.9%
無回答	23	3.3%
対象数	692	-

問34 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	105	15.2%
②文章回答無し	587	84.8%
合計	692	100.0%

---

## 調査票

---







一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 習慣・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
3 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	
4 女性活躍推進法	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 5 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 6 その他 ( )

問3

次ページもございます

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問4

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 2 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 4 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 5 その他 ( )

問5

**女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。**

問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 必要だと思う
- 2 どちらかといえば必要だと思う
- 3 必要ないと思う

問6

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。  
あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	わからない		問7
1 賃金	1	2	3	4	→	
2 昇進や昇格	1	2	3	4	→	
3 仕事の内容	1	2	3	4	→	
4 研修の機会や内容	1	2	3	4	→	
5 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	→	

問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。  
あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 積極的に推進している
- 2 積極的とは言えないが推進している
- 3 推進しているとは言えない

問8

**問 9** 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そう 思う	やや 思う	あまり 思わない	思わない		問 9
1 あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	→	
2 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	→	
3 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	→	
4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	→	
5 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	→	
6 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	→	

**問 10** 職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。  
女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	とても 重要だ と思う	まあ重 要だ と思う	重要だ と思わ ない	わから ない		問 10
1 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4	→	
2 女性職員の採用拡大	1	2	3	4	→	
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善	1	2	3	4	→	
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4	→	
5 出産や育児等による休業がハンディと ならないような人事制度の導入	1	2	3	4	→	
6 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4	→	

**問 11** 離職されている女性の方におたずねします。  
再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

- 1 正規社員
- 2 非正規社員
- 3 パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）

問 11

**問 12** 問 11で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。  
その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

- 1 家事や育児で家族の協力や理解が得られないから
- 2 正規社員で雇用する企業が少ないから
- 3 仕事より家庭生活を優先したいから
- 4 時間外勤務や休日出勤があるから
- 5 積極的に仕事に就くつもりがないから
- 6 その他（ )

問 12

**問 13 離職経験のある方におたずねします。**

**離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。**

- |          |            |           |
|----------|------------|-----------|
| 1 結婚・出産  | 2 家事・育児    | 3 介護・看護   |
| 4 転職・起業  | 5 配偶者の転勤   | 6 健康上の理由  |
| 7 給料が少ない | 8 解雇等職場の都合 | 9 特に理由はない |
| 10 その他   | 〔 〕        |           |

問 13

**問 14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。  
該当するものを3つまでお選びください。**

- 1 家事・育児と仕事の両立が難しい
- 2 女性が就ける仕事に限られている
- 3 活躍したいと思える仕事がない
- 4 活躍を望む女性が少ない
- 5 お手本となる「活躍する女性」が身近にいない
- 6 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い
- 7 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分
- 8 家族の理解が不十分

問 14

**問 15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。  
該当するものを3つまでお選びください。**

- |                                   |             |               |
|-----------------------------------|-------------|---------------|
| 1 女性の積極的登用                        | 2 能力開発、自己啓発 | 3 働き方改革の推進    |
| 4 福利厚生の実施                         | 5 賃金の男女平等   | 6 非常勤職員の正規職員化 |
| 7 家族の理解や協力                        | 8 職場の理解や協力  | 9 女性自身の意識改革   |
| 10 育児・介護に関する制度の実施                 |             |               |
| 11 ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） |             |               |
| 12 その他                            | 〔 〕         |               |

問 15

**問 16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思えますか。該当するものを3つまでお選びください。**

- 1 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること
- 2 求人情報や就職ガイダンスの実施
- 3 就職に関する相談体制の実施
- 4 再就職のための講座やセミナーの実施
- 5 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備
- 6 保育所などの保育施設の実施
- 7 その他

問 16

**「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することにおたずねします。**

**問 17 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。  
次の中から1つお選びください。**

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問 17

次ページもごさいます

**問 18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。**

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

<b>問 18</b>

**問 19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。**

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

<b>問 19</b>

**問 20 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。**

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない		<b>問 20</b>
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

**問 21 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。あてはまる番号を1つお選びください。**

- 1 0～1時間未満
- 2 1～2時間未満
- 3 2～3時間未満
- 4 3～5時間未満
- 5 5時間以上

<b>問 21</b>

次ページもございます

問 22 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。  
あてはまる番号を1つお選びください。

- 1 0～1時間未満
- 2 1～2時間未満
- 3 2～3時間未満
- 4 3～5時間未満
- 5 5時間以上

問 22

問 23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分手 伝い程度 している	していない		問 23
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2 介護	1	2	3	4	→	

問 24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。  
主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
- 4 育児、介護は女性の方が向いているから
- 5 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 6 その他（具体的に

)

問 24

問 25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。  
次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

)

問 25

次ページもございます

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問 26
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問 27 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性	女性	男性も女性も	わからない		問 27
1 自治会の役員活動	1	2	3	4	→	
2 自治会の行事等の活動	1	2	3	4	→	
3 PTAの役員活動	1	2	3	4	→	
4 PTAの行事等の活動	1	2	3	4	→	
5 育成会の役員活動	1	2	3	4	→	
6 育成会の行事等の活動	1	2	3	4	→	

問 28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になるとお考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
- 4 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 5 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 6 その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

問 28

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう



**男女の「人権」に関することでおたずねします。**

**問 29** 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV※<sup>2</sup>（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。

次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けた ことがある	したこ とがある	受けたこと もしたこと もある	受けたこと もしたこと もない		問 29
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

**問 30** あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（警察安全相談窓口）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 30	

次ページもごさいます

問 31 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。  
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 31

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 32 平成 31 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は7人(20.0%)、また、住民自治協議会における女性役員の数(割合)は492人(17.9%)となっています。  
このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 32

問 33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。  
特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発
- 10 その他(具体的に )

問 33

問 34 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入漏れ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ10月24日(木)までにポストへご投函ください。



令和元年 1 2 月発行

発行 長 野 市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : [jinken-danjo@city.nagano.lg.jp](mailto:jinken-danjo@city.nagano.lg.jp)

集計 協同組合長野シーアイ開発センター